

## 序章

# 対照研究・対照言語学の目的、方法論の現状と展望

## ——日タイ対照研究を例に——

### 1. はじめに—対照研究の目的—

対照言語学(Contrastive Linguistics)は定義づけが難しい学問領域である。研究の枠組みが一様ではないばかりでなく、対照する対象言語が多岐にわたり、かつ文化の領域にまで言及せざるを得ない背景があるからで、その結果、個別的な、特定言語を比較対照したという表層的な部分的事実のみしか残されかねず、本来目指すはずの当該言語、対象言語の本質に迫る、体系的な対照研究の記述が困難なことに拠っている。さらに複数言語（多くが二言語）を対照させる際に、いずれの言語に軸足を置き、対照させるのか、という設定が必ずしも明確ではなく、持続的な研究が担保されがたい環境もあげられよう。このように当初の目的関心が最終的なゴールからはしばしば逸脱してしまう恐れも生じかねず、当該言語としての母語と対照言語としての異言語に精通する視野は、自ずと制約を受けざるを得ない。対照研究において一定の評価が直ちに得られにくい所以でもある。

そもそも「対照する（させる）」前に「比較する（させる）」「対比する（させる）」という行為は何を意味するのだろうか。そこにどのような認識が内在しているのだろうか。

ここで、各種研究書、言語学辞典類による対照研究の定義を瞥見する。

対照言語学は、複数の言語を比較するという点では、比較言語学とよく似た特徴を持っている。比較言語学とは、そもそもの出発点である印欧比較文法に見られるように、比較の対象を系統関係にあるとみられる言語に限定し、対象言語の異同をもとに共通の祖語の再構築をめざす、通時的な言語研究の方法である。これに対し、対照言語学は比較の対象となる言語を特定せず、異なる言語をくらべるだけでなく、同一言語の古い時代の体系と現在の体系、あるいは同一言語のいくつかの方言を比べることも可能である。(生越直樹「対照言語学の展望」<sup>1)</sup>)

しばしば混同される比較言語学の知見をも吸収しつつ、さらに言語類型論などの隣接領域については次のように示唆している。

また、対照言語学は、言語を比較し、言語の普遍性について考察するという点では、言語類型論 (typology) とも近い関係にある。言語類型論は、系統関係や地域的隣接による影響がないと想定される多くの言語の普遍的特性を明らかにするとともに、言語間の違いを説明できる何らかの法則・原理を見出そうとする。(同上)

対照研究と言語類型論の研究の相互貢献については後述するが、対照研究が大枠の原則、原理を拠り所とする以上、当然の認識的發展ともいえよう。ただし、

従来は、対照言語学が外国語教育など応用分野への貢献を目指すのに対し、言語類型論は言語理論面への貢献をめざす点で、方向性が異なると見られてきた。しかし、前述のように近年の対照研究は、単に言語間の個別的な移動について論じるのではなく、言語の普遍性と多様性の追求を背景とした研究になりつつある。(同上)

として、対照研究と言語類型論の研究が以前に比べてその境界を緩やかにしていると述べている。この境界を明らかにする意味でも対照研究に託された課題は小さくない。

この他にも大同小異ではあるが、主要な定義をあげれば次のようである。

言語の比較・対照にはいくつかの縫合がある。対照言語学は多くの場合、二つの言語の共時態からある側面を取り上げて比べ、互いの相違を明らかにすることを目標とする。(大堀壽夫、『日本語文法事典』<sup>2)</sup>)

「二言語の共時態のある側面」とは関係節でもヴォイスでもよい。なお、言語類型論との相違点を指摘してはいるものの、対照言語学は人間の言語の一般的傾向に照らして個別言語の特徴を考察することはないとして、類型論的研究とは距離を置いている。さらに

対照言語学では、教育・学習への応用がしばしば意図される。(略) また対照研究では、二三の言語に集中し、かつ質量共に十分なデータが利用可能なため、意味論や語用論についても、精度の高い分析が可能である。この意味で、対照言語学と言語類型論は、目的や方法を異にしながらも、相互に貢献できる分野といえる。(同上)

と述べつつ、言語習得、中間言語研究にも寄与する点を強調する。次のようにとくに対照文法に絞った定義も存在する。一種の教育文法の性格から意義付けしたものであろう<sup>3)</sup>。

二つの言語の構造を比較する研究。対照文法は、各言語の体系の間関係を逐一明確にする。その目的は、外国語学習者が犯す誤りを説明し、教師がその誤りを修正するのに手助けとなる。(中島平三他訳『オックスフォード言語学辞典』)

次も対照言語学、対照研究ではなく、「対照文法」という見出しで述べた定義である。応用言語学には外国語教育学も含まれるのが一般であることから、言語習得、翻訳といった実践的な言語接近にも寄与する立場をとっている。

応用言語学の一部門で、歴史的な系統関係とは関係なく、二つ(以上)の言語を比較対照して、その異同を明らかにし、かつ食い違う点を手がかりとして、各言語の分析をさらに深めようとするもの。言語の特質は対照によって初めて明らかになることが多い。歴史的な系統関係にある言語を比較して系統関係を明らかにし、共通基語を仮定するものを伝統的に「比較文法」「比較言語学」と呼んできたので、それとの混同

を避けるために「対照」を用いる。研究成果は語学教育・翻訳などに利用することができる。(国広哲弥、松村明編『日本文法大辞典』<sup>4)</sup>)

また、語法に限定せず、方法論、研究分野として大きく「言語構造」と「言語行動」に分けられるとし、対照研究の射程を広くとっている。次も教育的見地を重視した見方である。

2つ以上の言語ないし方言の間に見られる、特定の構造の相違点・類似点を研究する言語学の分野の一つ。主に外国語教育の視点から導入され始めた(誤用の研究など、言語教育や第2言語習得研究との「関連性が強かった」)。(略)加えて、一般言語学、言語類型論、個別の言語理論を視野に入れた研究方法も多くなっている。その研究対象は、音韻論、携帯統語論に限らず、意味、談話なども範囲に含まれる。対象となる言語の一つは分析者の母語である場合が多い。(齋藤純男他編『明解言語学辞典』<sup>5)</sup>)

なお、対照語用論(contrastive pragmatics)に関しては、談話現象の他言語との比較対照を対照談話分析と称して主として会話分析なども近年多彩である。謝罪の研究、拒絶、感謝などの言語行為の比較対照などにも拡張される。

さまざまな言語を話す人たちが、どのような言語行動を行っているかを研究する応用言語学の一分野。異文化語用論(cross-cultural pragmatics)とも言う。ポライトネスの研究(Brown and Levinson 1987)、コミュニケーション能力をより多角的に説明する研究(Canale and Swain 1980, Bachman 1990)に附随して、注目が集められている。多様な対人関係や文脈において発話行為、特に依頼、謝罪、断り等の言語行動をどのように行うかを比較する研究が盛んである。(小池生夫編『応用言語学辞典』<sup>6)</sup>)

対照語用論は「対照言語行為論」をも展望する。外国語教育との接点を見出す試みに焦点を当てた記述も見られる。言語教育の実際の現場から生まれる可能性を示唆している。

異なる二つの言語を比べることにより、両言語が示す特徴の相違点および共通点を記述・説明することを目的とする言語学の分野。対照される言語の一つが、外国語として学習される言語である場合には、外国語教育に資する知見を与えることが期待される。名称は似ているが、「比較言語学」では共通の祖語に遡ることが確実な諸言語を比較し、諸言語の歴史を解明することが目的とされるのに対し、対照言語学では、比較される言語の系統は同じであっても異なってもよい。対照言語学によって、それぞれの言語の特性が明らかになる以外にも、見出された相違点や共通点の由来を合理的に説明しようとする試みにより、言語の一般的な性質への解明にもつながる成果もたらされうる。

(町田健執筆、『日本語学研究辞典』明治書院<sup>7)</sup>)

として、一般言語学への貢献も期待する。こうして概観すれば、具体的かつ相互の連携にはなお課題を残しながらも、研究と教学を結ぶ有力な分野であるといえよう。それだけにさま

ざまな試行実践が今後も蓄積されていくものと思われる。

## 2. 教学の現場からの問題提起—母語話者と非母語話者との研究の連携—

以上、対照言語学研究の定義を確認したわけだが、実際の研究の状況はさらに錯綜している感がある。以下、誤解を恐れずに、私的な一つのケーススタディとして述べたい。

筆者は比較的長きにわたって多くの外国人留学生の修士論文、博士論文の指導とともに論文執筆に立ち会う機会に恵まれたが、そこで痛感したのは方法論の錯綜と、そこから抽出される成果の不透明さ、不確実性であった。熱帯の砂漠で砂金を集め、わずかな純金を得る作業にも似た徒勞を感じつつも、ひたすら忍耐のうえにもたらされる成果にもたとえられる。外国人研究者の立場としてその研究の鋭い思考発想を備えた母語話者でない限り、公正な対照言語学的な視点の獲得にはいたらない現状がある。こうして“対照という呪縛”から解放されないのは、方法論、体系性、精度の不確定さである。

そして外側からの評価もさまざまであることは、この研究領域が個別（言語）的な傾向をまぬがれない事情とも不可分であるように思われる。つまり当該言語単体の研究の深化が十分に煮詰まらないうちに対照研究に「移行」してしまうことに、重大な視点の欠落も生じかねない危険をはらんでいる。

言語学界の対照研究に対する見解も必ずしも一律であるわけではなく、研究者の言語観によると同時に、対照研究がいわば副次的所産とする意義づけにも拠るところが大きい。だが、一方で研究のシェアを考えれば決して小さくない損失であるといわねばならない。研究の多くを教学の現場から救い上げる研究者がいる一方で、研究そのものの深化を進める研究者もあり、ときに“水と油”の状況をも呈する。加えて日本の学術界では欧米のように度量の大きい学術交流がまだまだ熟していないことが手枷足枷となっている。昨今、日本の国連での発信力の弱さが国際的な批判に晒されるといった悲しい報道を目にするが、こうした現状にも学術界のあり方が影を落としていると思うのは筆者の杞憂であろうか。

対照研究は常に外界からの刺激に充ちていなければならない。研究が環境と体験に大きく左右される学問である、ということを感じずにはいられない。そして絶えず発想、思考の修正を意図し、この方法が言語研究にも還流していく、これがあるべき姿であろう。その意味では日常として外国人学習者に接する日本語教育の現場にたつ教師ほど、研究の環境に恵まれているといえるし、同時にその資質、方法論を問われている、ともいえよう。

近年目立った傾向の一つに、学会、研究会での発表者に多くの留学生、外国人研究者が占めているという現実がある。数量的な比較を試みる必要があるが、多くの言語系の学会、研究会でむしろ日本人研究者の発信力が低い、少ないという実感を少なからず耳にすることがある。くわえて、言語系の大学院に進学する若き学徒も外国人留学生が圧倒的に多い。国内の多くの大学でも、そうした現状は一定の推移をたどっているように思われる。この事実は日本語が国際語として成長し続けていることの明確な証左ではあろうが、裏を返せば、日本人の言語研究力が停滞の域にある、ということでもある。とくに対照研究の学会、

たとえば日中言語対照学会の学術誌には多くの論文が外国人研究者によって書かれている、という現実をみても首肯されるだろう。

対照研究は複数の言語体系の比較を通して、その異同から母語と対象とする言語の特徴（普遍性と個性）を明らかにすることで、外国語教育にも大きく寄与することが期待されたが、対照研究の成果が外国語学習者の言語習得や誤用の背景、中間言語研究などと必ずしも方向性が一致することがなく、研究の成果も学習上の問題点を解明するにはなお多くの課題が残されていることも事実である。にもかかわらず対照研究の寄せられる期待はその方法論の陶冶、改善によってはなお重要なものがあることは疑いない。

とくに近年はコミュニケーション能力の養成を重視する傾向から、対照研究においても談話分析、言語行動などの分野にも関心が拡大している。これは社会言語学研究の近年の際立った特徴の一つであり、(共生社会)を標榜する現代、国際化の動きとあいまってコミュニケーションストラテジーの相違点、言語文化摩擦を解明する上で重要な視点をもたらすと考えられているからである。以上の点から見ても対照研究は動的な外国語教育と附漢文の関係にあり、今後ますます重視されていく課題であるが、そこには上述したような研究者の相互の問題が残されている。研究者間の連携について生越(2005)はさらに

対照研究には、分析方法の確立など、今後取り組むべき課題が残されている。(略)  
また、日本語に関する対照研究の多くが外国人留学生によってなされている点も今後の課題の一つである。対照研究の進展のためには、日本語母語話者側と非母語話者側の双方向から研究を進めることが望ましい。今後は日本語母語話者による研究も活発に行われることを望みたい<sup>9)</sup>。(傍点、引用者)

として、研究者間の連携のありかたを提起している点はきわめて重要である。

言語研究ではバイリンガルの志向性をもつ外国人研究者ほど有利ということであろうが、母語の感性、直観力、内省力をいかした研究は母語話者にとって有利な条件を築いていく可能性もまた無限に大きい。ただその抽斗のもうけ方、中身の入れ方、出し方に問題があるということだろう。場合によっては、外国人研究者は対象言語への傾注が大きいかわりに、母語への内省が後手にまわるという陥穽もしばしば生じることもある。

では、どのようにすれば対照研究が一般言語学の不備を補い、また他の研究領域と競合しながら新しい地平を築くことができるのだろうか。

以下では、対照研究のひとつのモデルケースとして、これまでの研究を省察しながら私見を述べてみたい。もとより、日本語とタイ語の対照研究の体験から得られた知見にすぎず、個人的な内省も含まれることをお断りしておきたい。

### 3. 対照研究の多様性と自立化への志向

対照研究のあるべき姿を定義することは困難であると述べた。それはまず母語の内省、体系化が研究者の中で必要とされ、そのうえで対象言語との「すり合わせ」が日常的に一

—マクロ的にもミクロ的にも—なされなければならないからである。つまり、二重、三重の手間、労苦、時間を必要とする。労多くして益少なし、と言われる所以だが、それでも言語間の研究の補完に貢献してきた成果は否定できない。よく言われるように、言語の個別性と普遍性、あるいは異質性と同質性をもとめる対照研究が、その過程で、言語の本質的な考察に至ることも当然期待されてよい。臨床的な研究と基礎的な研究との往還をうながす指向性こそ、対照研究のあるべき姿ではないだろうか。

対照研究の目的ないし意義については、前述したような指向性がみられるが、筆者自身は通常当該二言語を比較、対照させることによって、各々の言語の個別的特徴および両言語に共通する普遍性を検証する、とひとまず定義づける。そして、その関心の延伸には、類似点、相違点を整理しながら、言語習得に寄与したいとする教育的な見地にも連なっていく。ところが、その方法論となると必ずしも一様であるとはいえず、例えば日本語母語話者であればどうしても思考（記述）言語が日本語である制約から、日本語をベースに分析、考察を進めていくのが常で、「日タイ語対照研究」のように「日」が対象言語「タイ」に先立つことは免れない。両言語はけっして等価なものではなく、いずれかを優先させざるを得ない。反対にタイ語を母語話者とするものは、「タイ日対照研究」となるわけだが、タイ語を母語としながらも研究対象が日本語学、日本語教育を主務とする立場にあつては、日本人の場合と等しく「日タイ語」のように「日」が先立ってしまう。言語の対照比較の場合、双方の視点を均等にスライドさせるわけにはいかないのが現実である<sup>9)</sup>。

では、日本語を母語とする者が、「日タイ対照研究」を行う場合の制約、メリット、デメリットをどのように考えればいいのだろうか。まず日本語の特徴からタイ語母語話者の気づかない、或いは視野の外に置かれた性格、言語現象を再論するという方法があげられる。これには、現在の日本語学の隆盛が、外国人、とりわけ留学生の研究によってその幅と深さを増してきたことが何よりの証明となっている。また、対象言語をどのように修得してきたか、というプロセス、言語環境、内省習慣の傾向に依っても一定の相違を生み出していることは事実であろう。

世界には8千もの言語があるとされる。その中で特定の二言語を抽出し、比較、対照させることの経験的な意味はどこにあるのだろうか。——これは対照言語学研究に携わる者の、もっとも基本的、かつ本質的な問いでもあろう。繰り返すように、対照研究は対照する言語母体（母語）と対照される言語（対象言語）とが存在する。前者はほぼ内省が可能であるが、後者はネイティブチェックを要する。そしてこの二種類の言語は仮に完璧なバイリンガル話者がいたとしても、完全に〈対等〉、〈等価〉ではないこともまた使用する範囲から言っても自明のことであろう。この点を再確認しておく必要がある。

母語についても十分に内省が出来、文法的な判断性を常に意識し、維持しているわけではない。まして現在進行形の対象言語に対しては、部分的な理解、関心にとどまることが多く、検証にも相応の“ムラ”が生ずることは否めない。こうしたバランス上のリスクを背負いながら、対照研究という体系が存在する、とするならば、そこには多くの例証にも

とづく蓄積が必要になることは言うまでもない。

したがって、研究者は大まかな、一般的とされる項目に沿って、あるいは他の二言語対照研究の成果を援用しつつ、必要最低限の、最大公約数的な見通し、仮説を提示し、摩擦の解決の糸口を提供することを目的とせざるを得ない。つまり、対照研究は、その研究に向かう主体の体験的な研究に負うところがきわめて大きいといえよう<sup>10)</sup>。

#### 4. 〈継続〉と〈開拓〉、〈伝統〉と〈革新〉

指導学生の研究対象が指導教授の研究の対象に倣うことは、それが健全でもあり、指導がやりやすい、目が届きやすいという安全性の担保から必ずしも排除することはできない。ばかりか奨励される傾向すら一般にみられる。たとえば、時期は異なれど主題であれば主題を複数の学生が同一のテーマに従うといったケースである。某大学では指導教授が語彙交流を専門とすれば、その延伸、または域内の研究から脱皮することは容易ではない。とりわけ、昨今では論文がインターネット上に登録されるとあって、方法論や研究の精度がこれまで以上に注視されている状況があるが、それでも網の目をくぐった、たとえば客観的な外部査読をくぐり抜けた論考がないわけではない。

こうした背景から、指導学生には指導教員の専門外の領域は安全策のために敬遠されることも見られるようである。確かに、指導教員の専門領域でなければ、時間的な精査の程度にもよるが、リスクがともなうことは否定できない。その結果、指導教授の専門領域を継承し、あるいは踏まえた関連、発展研究が指向されることになる。

考えてみれば、これは、むしろ、研究の進展、多様な方法論による継続的發展には必要なことであろう。一人の研究者がその当該領域のすべてに通暁していると自負していても、また別の角度から光を当てればまったく違った世界が見えてくることは珍しいことではない。その意味では基礎研究の発展にもつながっていく作業である。そうした継続的な研究、発展的継続は研究には欠かせないものの、一方ではそのままでは新しい領域の開拓にはつながらないという視野狭窄の陥穽をも産み落とす。せっかく新しい展望を抱いて研究に着手しようとしても、安全策を期するためから、従来の研究の域を出ようとしないう研究の継承では、指導する側もされる側にとっても必ずしも好ましいことではないだろう。

その若き日に、筆者は歴史学を学ぶ際によく言われた教訓が記憶に刻まれている。すなわち、〈伝統〉と〈革新〉と言われる構図において、〈革新〉は〈伝統〉から生まれるという精神性にならえば、〈継続的研究〉から〈開拓的研究〉が生まれることが期待される。研究の連鎖といってもよいが、新しい研究がまったく意外な視点から生まれることもあれば、これまでの研究の中から紡がれることもある。その瞬間は指導する側と指導を受ける側との絶えざる研鑽の共鳴であろう。だが、その時間、機会を確保することは、なかなか困難である。毎年生産される膨大な博士論文から一冊の研究書にまとめられるかどうかは、その研究がひとえに新しい展望をもつかどうかにかかっている。指導学生にとっては、その課題となる対象が、持続可能な対象であるかどうか、ある一定の研究者の今後の研究生

命を決定することも考えられる。とくに対照研究がその場限りの研究に終わることなく、また表層的な比較検証にとどまらず、将来もなお持続し得るための研究を導かなければならない。研究の対象によっては、研究の方向性をも規定しかねないことを自他ともに肝に銘じたい。ここでも、臨床的研究と基礎的研究における競合と調和が問われている<sup>11)</sup>。

## 5. 対照言語学研究の視界

現状を見据えた、将来の対照言語学の視界はどのようにあるべきだろうか。この問題提起について結論をいえば、「研究と教育の分水嶺」にあるとあってよいだろう。つまり研究と教育の両輪のうえに運転する主体としての語学研究が存在する、との見解を再度確認しておきたい。応用言語学のなかに、外国語教育が内在することを考慮すれば、対照言語学も隣接する領域として再認識することが必要ではないだろうか。

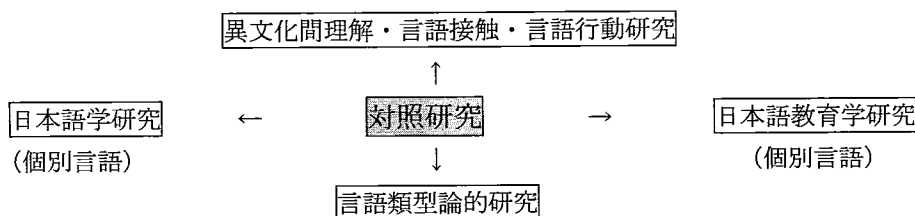


図1 対照研究をとりまく研究領域・環境

また、こうした取り組みがややもすれば試行錯誤の積み重ねで得られる方法論であることから、とかく体系化を絶対指標化する学問研究からの異端視をふまえつつ、以下のようにも記したことがある（多少の語句は変更した）<sup>12)</sup>。

対照研究は教育面においては母語別教材の開発という実践的な目標がある。その国の学習者にどのような効率的な教材が必要となるのか、それは両言語を熟知していなければ近づくことが出来ない。このように考えてくると、対照研究は日本語学研究と日本語教育の中間に位置しているといえよう。（中略）また、対照研究は異言語接触の伴走者でもあるので、当然ながら背景としては異文化間理解の研究、言語行動研究、言語類型論的研究にもつながるものである。

ここ数年、言語類型論、認知言語学の手法を取り入れた研究が、対照言語学の領域にまで影響を与えていることは、新しい方向性を示唆していると同時に、その評価自体をめぐってはまだ一定の成果を得ていないことから、補完的な作業もまた重要視されている。その意味でも、研究の現状を探っておくことは必要不可欠な前提であろう。

また、研究の対象は誤用分析、第二言語習得過程における中間言語の観察において、対照研究とリンクする場合がすくなくない。一定のテーマで外国人学習者にスピーチをして





(5) ? duan-nâa wísawakɔɔn ca maa càak yìpùn.

来月 エンジニア FUT 来る から 日本

(6) ? phrùŋ-níi nák-rɔɔŋ daŋ ca maa càak kaoríi.

明日 歌手 有名な FUT 来る から 韓国

のように言うのはむしろ不自然であるとされる。これはタイ語の構文的な特徴で、/mii/の慣用的な用法、伝達的な機能を表す。「予定がある」のと同じように、「(そういう) ことがあった」という過去の事態の存在をもあらわす。主語は話し手でもあり聞き手でもある。

(7) mûa-waan-níi mii khray maa càak sámnákŋaan-yàŋ rǔu?

昨日 ある 誰 来る から 本社 Q

昨日、本社から誰か来たの？ (⇒本社から誰か来た人がいたの?)

次に、日本語のアスペクト補助動詞「テアル」と「テオク」について、しばしば対応する/wáy/について例を挙げてみよう。

(8) phǒm chǔu Kimura càak bɔɔrisát thiiphiiee nát wáy tɔɔn 10 moɔŋ.

私 名乗る 木村 から 会社 TPA 約束する -- 頃 10 時

TPA (から) の木村です。10時に面会の約束です。

これは日本語では「10時に約束しておいた」という意味である。「約束する」という意味の動詞の/nát/は一般に/wáy/を伴うが、日本語では「約束する」に「ておく」がむしろ含意されており、わざわざ「約束しておく」という必要はない。(9)「予約する」も同様である。

(9) mii tóŋ wâaŋ máŋ khráp?

ある 卓 空き Q MPP

空席、ありますか。

——mây sâap cɔɔŋ wáy rǔu-plàaw?

NEG 知る 予約する - Q

予約されましたか。(?予約しておきましたか/予約してありますか)

mây dâŋ cɔɔŋ wáy khráp.

NEG PST 予約する - MPP

いいえ、予約してありません (??予約しておきませんでした)

/cɔɔŋ/「予約する」も/wáy/を共起成分とする動詞だが、「テアル」にも「テオク」にも対応することに注意しなければならない。だが、応答文では「予約しておかなかった」よりは「予約していない」のほうが自然である。日本語では「忘れる」は「テアル、テオク」と併用されることはまずないが、タイ語では次のように「忘れてある」「忘れておく」のようにいうことがあり、動詞の内包する意味と/wáy/の使用範囲についての分析が必要である。

(10) pay luum nánjsúu phaasáa-Yiipùn wáy nay hōŋrian sĩa léew.

行く 忘れる 本 日本語 -- に 教室 てしまう PERF

教室に日本語の本を忘れてしまった。(＊忘れておいてしまった)

(10)では/wáy/を省いた場合、むしろ非文法的な文になってしまう。「日本語を忘れる」のような場合は/wáy/は使用しないが、「どこかに忘れたままにしておいた」のような場合は、「忘れる」状態の残存であることから/wáy/は必須共起成分となる。つまり/wáy/ は単純に「テオク」「テアル」に対応するのではなく、当該動詞のもつ動作行為の継続性という時間的な「幅」を賦与されていることに注意しなければならない。日本語の「テイル」「テアル」「テオク」に対応するタイ語表現の精査はなお多くの課題を残しているといえよう。

さらに使役を表す助動詞/thamhây/が前文の原因や理由をあらわし、後文の結果を引き起こす場合に用いられることがある。擬似的な複文と意義付けられるだろう。

(11) thoo pay kōo mây khōy ráp sáay

電話する 行く も NEG あまり 取る 線

thamhây tōŋ nāŋ théksii maa ʔeɛŋ bōy-bōy.

-- [義] 座る タクシー 来る 自分で 屢々

電話してもあまり出ないし(結局/それで)自分でよくタクシーで来ることになる。

(12) sèetthakit mây dii thamhây kaan-sōŋ-òok loŋ.

経済 NEG いい CAUS 輸出 減る

不景気のせいで、輸出が減ってしまった。

(13) sawàtdikaan khōŋ bōrisàt nán mây khōy dii

福利厚生 の 会社 あの NEG あまり いい

thamhây phanŋknaan laa ʔòok bōy.

CAUS 社員 辞める 出る よく

あの会社の福利厚生はあまりよくないので、社員がよく辞めていく(ハメニナル)。

(14) khrūaŋcàk sia lăay-tua thamhây phálit sīŋkháa mây than.

機械 壊れる 幾-CL CAUS 生産する 製品 NEG 間に合う

機械が何台も壊れたので、製品の生産が間に合わなくなった。

それぞれの後文では「(結局は) てしまう」「(結果は) 羽目になる」といったマイナスの事態をもたらす。つまり、日本語では自動詞的に「来た」「減った」「辞めた」「間に合わない」というところを、タイ語ではむしろ「来させる」「減らせる」「辞めさせる」「間に合わなくさせる」のように、「せいで」に対置されるような被害意識を強く表すことになる。これは言外の発想の違いが形式化、機能化(文法化)をうながした例である。と同時に、タイ語の使役において負荷的な事態生起という特徴がうかがわれる。本書では、こうした現象についても、対照研究の見地から具体的な考察を試みている。

## 7. 言語文化・言語行動の比較対照—バスの乗降場面を例に—

対照研究といえ、文法現象、音声などに限定されることが多いが、あらゆる言語行動を観察してみれば、そこに潜む言語文化にも多くの個別的、普遍的な特徴が見出される。言語の外在的な要素が内在的な現象を規定することもあれば、その逆のケースもあるように、言語活動は絶えず、環境との相互作用（interaction）の過程で生じる。大きなテーマとしては、謝罪、感謝などの場面、和解、修復のストラテジーなどがこれまでの研究でも取り組まれているが、さらに身近な場面にも注視してみたい。

ここでは身近なバスの乗降についてみてみよう。以下の記述は、筆者の体験も合わせながら、チュラロンコーン大学文学部東洋言語学科で編集された『らくらくタイ語聴き取り練習帳』（2013）のコラムを参考にした。

バスの乗降では、(1)「乗るとき」、(2)「乗っているとき」、(3)「降りるとき」のように三種の時間帯、空間が考えられる。「乗るとき」は日本のように整列乗車をするのではないが、かといって全く勝手に待っているわけではない。バスが来れば自然に列ができるといった、つまり「型にはまらない緩やかな秩序」である。したがって押し合ったり排除したりするトラブルもない。バスの車内には、僧侶用の優先席がある。通常は乗降口の近くにある。戒律によって、僧侶は女性に触れてはならず女性も僧侶の隣席に座してはならない。横に空席があってもすぐに移動することになる。車掌は僧侶から運賃を請求することもない。近くや隣席に座っている乗客が僧侶から運賃を受け取り、代わりに払うという光景が見られる。ここには戒律によって、「人を介する」といった秩序が顕著に見られる。

次に「乗っているとき」で目につくのは席の譲り合いである。譲り方、相手や立っている乗客に対する配慮などにも言語文化の異同が観察される。声のかけ方、立ち上がるタイミング、など、また座っている人が立っている人の荷物を持ってあげるような光景も珍しくない。また、子どもにも女性と同じように座らせる意識が高く、また親と離れている場合は、隣席の乗客が子どもの相手をしているのもよく見かける光景である。込み合う車内で培われた智慧、相互扶助のマナーである。

降車の場面についても、タイでは次の停車を知らせるアナウンスはないので、車掌自ら知らせることもあれば、乗客が確認する場合もある。運転手にあらかじめ降車のバス停を伝えておけば停まってくれることもある。また、バスが完全に停まらない前から降車ドアが開くことがある。減速が十分ではなく、まだ動いているときに降車する乗客もいるが、左方から車輛が来たりするので注意が必要である。また、日本のようにバス停の前まで到達しなければ1メートルでも手前に停まることはない秩序、ルール大国であるが、タイでは渋滞を避けるため、バス停の前で、またときには歩道側の車線まで移動せず、ドアが空く場合がある。こうした身近な行為に見られる柔軟性、融通性は、言語行動にも反映されることも少なくない。このように、言語行動の観察においては、〈入口〉、〈最中〉、〈出口〉において、それぞれの行動の流れに注目する必要がある。言語の観察は言語の内在的特徴とともに、こうした表層の文化にも十分注意を払いながら進めていく必要がある。つまり、

ある特定の情景を文章における文脈、テキスト的な実現体としてとらえることになる。

さて、こうした日常的な言語文化、言語行動の対照研究と隣接して、最近では「言語景観」(language landscape) 学からの観察も言語文化の比較に有意な示唆を与えている。写真はバンコク市内で見かけた某旅行会社の広告(2015年8月撮影)だが、東南アジアではほぼ普及したかに見える日本語の“三大形容詞”、すなわち「SUGOI」「OISHII」「KAWAII」のなかで「SUGOI」をタイ語化した文字が大きく書かれている。下方にあるエアコンと比較しても巨大な看板であることがわかる。左の大きな文字は日本語の「すごい」をタイ文字で表したもの(音標文字は sùrkóoy!)。男性は日本の着物を着て両手の親指を立てるサインを出している。いかにも多文化、多言語社会の象徴シーンでもあるが、こうした文化の柔軟性への理解も対照研究にはきわめて重要な示唆を与えてはいないだろうか。



言語景観は、特定の領域あるいは地域の公共的かつ商業的、安全性にかかわる言語の可視性と顕著性についての学問研究であるが、グローバル化の進行にしたがって、2000年代から世界中で様々な研究が行われてきた。国、自治体、交通機関などが「言語サービス」として多言語による道路標識、街区表示板、地下鉄案内板、避難標識を設置するようになったことは言語の国際化にとって必然的な要請でもある。コミュニティ内の情報交換のた

めと同時に、商業広告を媒体にした言語受容は今後も多方面で加速化することを考えれば、対照研究、対照言語学研究に占める言語景観の研究も今後の課題となろう。

## 8. 言語データの扱いと研究者の言語的内省

日本語学の研究では書き言葉コーパス、また青空文庫、日中・中日コーパス（中国・北京日本学センター）を使用することが多いが、対象言語となるとその使用は（ハードの面でもソフトの面でも）限られている。もうひとつは研究者自ら対訳作品を丹念に比較対照させ、分類を行っていきやり方である。これは時間的にも相応の非能率さがともなうが、それだけ著者の目配りの効いたデータが得られることは確かであろう。研究者がこうした言語事実を地道に拾い集めることは非常に根気のいる作業であるが、筆者はこうした調査手法が、ひいては研究者の身の丈にあった成果を担保するようにも思える。所詮、膨大なコーパスは限られた個人の研究では扱いかねる領域であって、言語情報を過信する陥穽がここにも露呈しているといえよう。

現在、参照可能なタイ語大量コーパスには二種類がある。一つはチュラーロンコーン大学文学部言語学科の Thai Concordance プログラムによるタイ語の実用例を収集したコーパス (<http://ling.arts.chula.ac.th/ThaiConc/>) で新聞や雑誌、小説等から 1400 万語前後をおさめている。もう一つは Thai National Corpus(<http://ling.arts.chula.ac.th/TNCL/>)で略称 TNC、8000 万語をおさめる。いずれもタイ語研究の電子化コーパスである。これらの開発の恩恵ははかりしれないが、一方で、そのソフト面の開発が重要である。昨今は言語の如何を問わず、若い研究者でコーパスを金科玉条の如く信奉して研究を進めるケースが往々にしてある。懸念されるのはそこに思考分析がどのくらい内在しているかであって、結果的に言語データの処理に多くの時間を取られ、独自の研究手法に依る思考経緯が疎かにされかねない。言語データと記述言語のほどよい距離感覚、緊張関係こそが研究の確かな継続となるはずである。利用できるところは利用する。そういう考えは確かに理に合っているが、その作業で多くのエネルギーを費やしてしまうケースが少なくない。つまり言語データ倒れというもので、その蓄積された量によって研究の質を問うこと自体、偏向と言わざるを得ない。こうした訓練は若い研究者であればあるほど肝に銘じておくべきではないだろうか。紙の辞書を使ったこともない研究者が電子辞書だけで済ますといったことが身近に観察される昨今、地道な研究の重要さをいまいちど認識させる努力が必要であろう。実際、若い院生時代に地道な研究手法を身に付けなかったがために、その後の研究に行き詰ったというケースを、筆者は数多く検分して来た。タイ語研究においても近年大量のコーパスを用いた研究が出始めているが、最終的にはコーパスを補完する、研究者自らが用例を丹念に集め、吟味する思考力と観察力を養い、そのうえにデータ収集という作業がはじめて意味をもつことを確認しておきたい。これは基礎的な研究だけでなく対照研究においてより自覚的に、より尖鋭に認識されるべき姿勢ではないだろうか。

## 9. 日本語とタイ語の対照研究の現状

田中(2004)では冒頭に日本語とタイ語の対照研究の概説とともにその傾向にふれたが、補説をかねつつ近年の動向を述べてみたい。恐らく日タイ対照研究の最初の学術論文は「支那語と泰語に見る古音研究」(後藤朝太郎、『言語研究』第12号、日本言語学会1943.3)であろうか。後藤は前年に『佛印・泰・支那 言語の交流』(大東出版社1942)を著わし、第一章東南亜細亜言語の文化の中で第五節「泰語と支那語の交流」について述べているが、「(一) 単語について」があるのみである。

泰國の言葉のうちに支那語の性質を多分に含んであるのみならずその単語でさへ酷似してゐるものがあつたり又支那語の方に亡んでなくなつてゐる言葉がそのまゝ泰に残つてゐたりするのは何と云つてもその發祥の地がもと雲南と云ふ支那内地の山中にゐたと云ふ事に争ふことの出來ぬゆかりを持つてゐる。この事は特にこゝに特筆しておくべき事であると思ふ。(95頁、表記は原文のまま)

戦時下の大東亜共栄圏下の言語交流の一環として、東南アジア諸語への関心は近代日本が遭遇した未曾有の言語文化接触の一大機会であつたわけだが、戦争は一方で対照比較の現場をも招来した。だが所詮音韻学からの対照は当時の研究の常套的方法論ではあつても、本格的な対照研究の登場は戦後、それも1980年代以降を俟たねばならなかつた。

近年の日本語とタイ語の対照研究の動向は、今村忍編『日本語とタイ語の対照研究—2009年までの動向—』(2011)によって、およそを知ることが出来る。また、この動向分析は外国での日本語学研究の傾向を精査するうえでも寄与するところが大きいように思われる。

領域別にみれば、語彙・語構成、文法、言語行動、言語文化、さらに昨今しばしば言われるところの上述の「言語景観」の比較対照にも及んでいる。以下、語彙研究、語構成研究、語法研究(統語論)、意味論、言語文化論について概観する。音声学的研究については筆者の専門研究外でもあり、また時間的制約もあつて、本書巻末に文献目録を挙げた以外は割愛することとした。

本書の巻末に文献目録を収録したが、これによつても実に多様な研究が展開されていることがわかる。とりわけ高橋清子の文法現象を広くあつかった一連の研究は、分析に用いられた詳細な言語データとともにタイ言語学の先端を涉獵した顕著な成果として、まず筆頭に指を屈しなければならない。以下、ごく簡単に研究全般の傾向をみてみたい。

まず、主題に関する論文が多く見られることは、この方面での研究の進展を大きく促すものであろう。本書でもその多様性、多層性についての試論も行ったが、タイ語の主題研究には日本語学からの知見が多く貢献できることが期待される。「タイは、タイでは、タイには」といった主語と主題の立て方には、自ずと展開される文内容に一定の特徴が観察される。いわゆる二重主語構文(「象は鼻が長い」)なども比較対照が望まれる。基本構文では存在・所有、出現・発生文の研究、移動事象研究に顕著な成果が見られる。日本語研究の成果をも取り入れながら、詳細な記述研究から語用論的研究への展開が俟たれる。

アспектに関する考察も盛んであるが、タイ語母語話者の内省が不十分であることから、大量のコーパス言語学からの照射のほか、タイ語の/ŋéw/と中国語の“了”の対照研究からの知見も反映させていく試みも期待される。日本語の「シテイル」に関しても「シテイタ」「シテイナイ」「シテイナカッタ」などの分布についても、対照研究が求められる。過去時制をあらわす/dây/もさまざまなヴァリエントが観察されることから使用の制約をめぐる研究が望まれる。前述したように日本語の「シテオク」「シテアル」とタイ語の/wáy/は未訳出の分布も含めて調査分析が必要である。日本語の「シテシマウ」と/sĩa léew/などのタイ語の対応表現とともに今後の研究が期待される。

本動詞と補助動詞の関係で言えば、授受表現の対照が比較的多く見られた。スイリラックなど(2011)によれば、「サセル」と「シテモラウ」の関係性がタイ語ではより柔軟な現象として立ち現れることが明らかにされている。またこれに関連してタイ語の使役表現、さらに他機能への転移についての論究が期待される。接続詞のように用いられる/thamhây/は文の単位をどう考えるか、の問題提起でもあった。タイ語の態の研究では受動表現のほうに重きが置かれがちだが、使役表現についての議論があってこそ実り多いものとなる。

結果構文については近年研究が進んでいる。これは例えば動詞/né?nam/「紹介する」が単なる行為なのか、/né?nam hây rúucák kan/「紹介して互いに知り合わせる」状況までを言い含める全体を実質的な意味とするのか、といった観点の対照である。「知らせる」という行為も「知る」という結果的意味を内包していることからタイ語ではこれも使役助動詞の/hây/を用いた複合的な語構成となり、/cêŋ hây sâap/のように表される。前項動詞である/cêŋ/だけでは完結した意味をなさない。屢々/taay/「死ぬ」という動詞によって例証されるが、死に至らしめる手段はさまざまに日本語の複合動詞「殴り殺す」、「打ち殺す」「射ち殺す」「刺し殺す」などが想起されるが、タイ語では手段の事態が前置される。つまり、「撃って殺す」といった分析的な表現を好む傾向がある。

(15) kháv yìŋ nók taay hâa-tua.

彼 撃つ 鳥 死ぬ 5CL

彼は鳥を5羽撃ち殺した。

一方で否定/yìŋ mây taay/「撃っても死ななかった」の状況も生じる。また「探す」という行為も必ずしも「見つかる」結果を保証しない。従って「探して見つかる」という一連のプロセスを/hâa cœ/という複合動詞で表すことがあり、否定表現は二つの動詞の間に否定辞を置き、/hâa mây cœ/「(探しても) 見つからない」のように表すのが普通である。同様に/khùt/「掘る」という動詞も「掘り当てる」「出土する」という結果を内包する場合は複合動詞/khùt phóp/のように表し、否定は/khùt mây phóp/「出土しない」のように表す。

結果構文では様々な言語との対照が行われている現在、上原聡、テープカンチャナ(2009)の研究などを出発点として、さらなる研究の深化が期待される。将来的には中国語の可能補語、程度補語、結果補語などの研究も吸収しながら、コロケーションを重視した動詞用



法辞典などの工具書（例えば『漢語動詞結果補語搭配辞典』（王硯農他、北京語言学院出版社 1987）などを参考にした辞典）の開発も期待されることである。

同時に結果構文でいえば結果副詞と様態副詞の研究も重要である。日本語で「ゆっくり話す」はタイ語では/phûut cháa-cháa/ もしくは/phûut háy cháa-cháa/のように表されるが、同じ様態修飾にしても/hây/を用いた後者には「努力してそうなるように」という言外の意味が込められるという。一方、「綺麗に舞う」「綺麗に掃除する」は同じ「綺麗に」でも前者は様態修飾で/yàaŋ/などを用いて表し、後者は使役助動詞/hây/を用いて表されることから、こうした副詞修飾の研究も進められることを期待したい。

補助動詞、形式語について、たとえば終結をあらわす/sèt/, /mòt/, /còp/などと日本語の「キル」「ヌク」「トオス」「ツクス」などといった補助動詞との対照もより精確な研究がもとめられる。さらに動詞連続句についても移動動詞/pay/, /maa/の基本動詞のほか話者の心理的な用法の意味拡張もふくめてさらなる検証が必要である。

モダリティについては語用論的な用法もふくめてほとんど手つかずの状態であるが、最近の「ダロウ」に対応する/khoŋ/についてのキエットコプチャイ(2011)の研究なども参照しながら、対訳など翻訳の方面からのアプローチも有力であろう。推量表現、意志表現、許可許容、当為表現、様態・比況など対照研究の課題は山積している。

このほか、語彙的研究では指示詞、自称詞、類別詞の研究が散見されたが、なお多くの問題が残されているが、その研究の動向は巻末に掲げた文献目録を参照されたい。

次に複文の研究ではピヤトーン(2014 など)の一連の研究があげられる。とりわけ、原因理由文の主要節について対照を試みている。こうした手法は逆接構文などもふくめ、あらためて複文研究、文の単位という問題を再検証する意味でも数多くのヒントをあたえてくれるだろう。又、限定表現ではアッカラチャイ(2011)をはじめとした研究があるが、さらに射程をひろげて「限定」の本質、発話意図をめぐる比較も重要になろう。連体修飾構造の研究も日本語学の成果からさらに関係節、トコロ性としての/thái/をめぐる考察が深められることを期待したい。

今後は単文の世界では存在・所有構文、複文では逆接の構文、重文ではゼロ標識の複文、並列表現、など多くが残されている。語用論では、感嘆語、接続語、などの記述研究も合わせて多くの課題が残されている。最後に、文末小辞について最近の成果をあげておきたい。従来は日本語の「ネ」「ヨ」に対応するタイ語の文末小辞に限られていた感があるが、ここ数年、高橋(2015)、スニサー(2017)に代表される大規模コーパスを使用した詳細な分類が行われている。それぞれの意味記述はまだ不十分であるが、今後、研究が深化されていくことを望みたい。

言語文化の領域では認知言語学の領域から「意味拡張」に関心が持たれている。身体語彙、味覚語彙などがそのケーススタディとなるが、ここ数年、宮本マラシー(2010 など)の成果が際立っている。一連の研究は、語意論でもあり、言語文化論でもあり、記号論でもある。キーワードの語彙の背景にひそむ文化、精神性をどうとらえ、コミュニケーション

理解に寄与させるか、大きな課題であるが、こうした手法は多言語の対照研究にも大きな示唆となろう。このほか、スタラー(2013)、セックサン(2014)などによる慣用句研究も統語的側面もふくめ、研究の継続がのぞまれる。単著では研究書といえるものは皆無である。資料集としては、『タイ語慣用句拾遺』(田中寛編 2013)があるが、収録された慣用句、諺など広範囲にわたり、定義づけをめぐっても今後の研究がのぞまれる。

## 10. 本研究の概要

本書は文法現象のすべてを網羅したわけではなく、紙幅、時間的關係から取り上げることの出来なかった項目、領域はすくなくない。まず序章では対照研究をどうとらえるか、という、現状と展望を試論した。解説は対照研究と日本語教育に重心を置いているので、やや偏った感はいない。同時に最近の日タイ対照研究の動向を概観し、合わせて本論集の要約を記した。次の本論は大きくは4部に分かれ、それぞれ二本を収めた。

第1部は主題をめぐる考察を二本収録した。日本語の「ハ」をはじめとする主題、主部の重層性については古くて新しい問題であり、議論も多く蓄積されているが、日タイ対照研究により新しい視点が生まれることを期待したい。

第2部はタイ語の動詞構文の研究として、二本の論文を収録した。まず存在・所有、出現にまつわる動詞構文の記述的研究である。タイ語の存在文、所有文、出現文について考察を行った。タイ語の基本後文のなかでも二つの動詞/*mii*/と/*yuu*/によって表される構文的特徴を観察し、さらに<報告>、<伝達>という立場から発生構文の諸特徴、成立条件を記述した。存在動詞には「並ぶ」「建つ」「流れる」など周辺に多様な動詞が分布する。こうした動態的な視点からも分析を行った。次に移動動詞については、/*pay*/と/*maa*/のダイクシス的性格に基づきながら、いわゆる方向範疇についての議論を検証した。すなわち空間的移動のほか、時間的継続、及び心理的拡張について諸例の意味分析である。日本語との対照により、移動の方向性、移動動詞の本質的な意味を検証をも示唆した。

第3部はタイ語のヴォイスのうち使役表現をとりあげた。大きくは/*hây*/と/*thamhây*/の用法であるが、前半では/*hây*/の個々の用法について使役の実質的な意味を検討し、後半では心理・感情の使役とともに接続詞のように用いられる/*thamhây*/の諸相について記述した。

第4部では複文と談話構造の一現象をとりあげた。複文の内包する領域のなかでとくに条件表現をとりあげたのは、この構文が日本語でもタイ語でも多くの形式を有し、かつ時間節との交渉がみられることから、複文研究の中軸に位置すると考えたからである。また、本節では接続マーカを用いない条件表現についても考察を試みた。談話構造ではタイ語に頻繁にみられる重ね言葉、反復形式をとりあげた。研究ノートの域を超えるものではないが、今後の研究の出発点としたい。

附章として、タイ語の慣用句について、/*taa*/「目」に関する慣用句、成語をとりあげ、言語文化の一端を論じた。また、数種のテキストを例に、異文化理解と外国語教育の連携、さらに躍進著しい中国におけるタイ語学研究的動向などをおさめた。

巻末にはここ数年のタイ語、および日タイ対照研究関連研究論文目録を掲げた。このなかには言語研究を始めとして、言語文化、異文化理解、教授法に関する論考もおさめた。また、『タイ国バンコク日本文化センター日本語教育紀要』、および『日タイ言語文化研究』に掲載された論文リストもおさめた。これらの資料から現在の日タイ対照研究の動向が浮かび上がると同時に、多くの研究成果から日本語とタイ語の対照研究への新しい視点が得られることを期待したい。ただ、今回、日本国内の成果のみ収集したため、タイ国内、海外の研究者の研究成果（英語文論文、タイ語文論文）については今後の課題としたい。

### おわりに—発話機能対照分析への視界—

タイ語研究の現況についてタイ語学の研究者は次のように述べている（飛田良文主幹『日本語学研究辞典』明治書店、2009）。

タイ語の言語学的研究は主として、系統論目的の比較言語学的研究が先行して発達した。それに対してタイ語自体の共時論、特に文法的、辞書的研究にはまだまだ開拓の余地がある。また、そのためにも（日本語学専攻タイ人留学生に人気のある）日タイ対照研究はもっと専門家の参入が必要であろう。（三谷恭之執筆）

ここでいう専門家の参入とは何を意味するのだろうか。タイ語の研究者であろうか。その一方で「特に文法的、辞書的研究にはまだまだ開拓の余地がある」という現状の是正こそが必要ではないだろうか。タイ語文法の記述研究をはじめ、取り組むべき課題は山積している。日本語学や他言語研究者とのネットワーク作りも欠かせない。国立国語研究所での共同研究の成果なども広く内外の研究教学の場に共有、還元されることを期待したい。

新しい対照研究の視界として、いくつかの方法論を挙げておきたい。ひとつは言語類型論的研究、もうひとつは認知言語学、認知意味論からの研究である。前者は一定の語順に照らし合わせて、どのような特徴をもつかを体系的な記述に向かわせるもので、大きくは主語、主題の位置、修飾語と被修飾語との配列構造、などに重点を置いた比較言語学の範疇に属する。また後者は、例えば補助動詞では同じ<開始>をあらわすにしても「始める」「出す」「かかる」のように人間が認知する環境を重視する立場である。本研究ではこれらの成果を一部援用している。同時に、統語論、意味論と談話、テキスト論との境界を明らかにするという試みでもある。もとより浅学の身ではすべての研究領域を網羅することは土台不可能である。言語現象を素描しただけの成果に終わっている箇所も少なくない。今後はそれらを時間の許す限り丁寧に実例を検分しながら精査していかなければならない。

Iwasaki & Priyaa(2009)により、ほぼタイ語文法の概観が提示されたが、なお収録されていない文法項目も少なくない。より整備された参照文法の解説書が求められる。一方、日本で出版されたグループジャマシイ編『日本語文型辞典』のタイ語版も出され、対照比較の資料としても多くの示唆を与えるものだが、訳例にはなお検討すべき項目も少なくない。今後、タイ語の良質な文法書とその邦訳、また、各種辞典——たとえば慣用語辞典、

複合動詞辞典、さらに高度な上級者向けの文型辞典、基本語辞典などの開発が望まれている。形態論的に類似現象も多く見られる中国語との比較も重要である。日中対照研究の最近の目覚ましい成果を吸収するとともに、中タイ対照研究もあわせて期待される。

プラシャント・パルデシ、桐生和幸編『有対動詞の通言語的研究——日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』（くろしお出版、2015）は動詞の〈他動性〉と談話のインタラクション（前景化、背景化）から新たな類型論研究を目指す議論であるが、文脈依存の環境を視野に入れつつ、中間言語分析、誤答分析、第二言語習得などの外国語教育への貢献が期待されているように、今後はさらに多言語（複数言語）からの分析も有力視されよう。

だが、それだけで十分とはいえない。構造主義的言語理論、生成文法、認知意味論などによるアプローチのほかに、発話操作理論の言語学に基づく研究に注目したい。すなわち、相互作用という主体と対象の生きたインタラクションを重視する言語、言語行動の観察である。文法は発話という現場、現実の環境から生まれるという視点こそが、対照研究の出発点ともいえるのではないだろうか<sup>13)</sup>。

一国の文化の水準はその国の国語辞典の充実に象徴される、とはしばしば指摘されるところであるが、筆者は同時に文法書の整備も大きく関わる要件であると常々思っている。それは言語の内省・省察と理論的記述が事態・事象をより正確に観察・把握し、さらに誤解や摩擦を少なくするための表現を豊かにし、社会に発信する力を持つと同時に人間と人間を結び付け、コミュニケーションを円滑にするものだからである。したがって言語の研究と教育は人間の思索のもっとも根源的な営為であり、精神の醸成に寄与するものでなければならない。

タイの言語文化に関心を持ち始めて四十数年が経つ。そこで感じられることはタイ人の精神風土として実用的な研究を好む傾向が極めて強いことである。これは長い歳月に培われた文化風土、国民的な気質、関心によるところが大きく、現実的な観察指向が中枢にあることを意味しようが、一方、緻密な語法研究はそれほど関心を持たれない。それでもここ数年、地道な研究成果が相互に浸透し、いくつかの貴重な成果が出始めている。グローバル化のひとつの益するところであろう。

本書は言語内事実と同時に、言語外事実にも目を向けているのも、社会言語学、言語文化研究に携わるより多くの研究者の連携を望んでいるからにはかならない。

筆者は2012年に日タイ言語文化研究会を発足させ、タイ人帰国留学生若手研究者の育成などに微力ながら取り組んできたが、現地でのかかえもつ教務の多忙さとあいまって、研究会の組織化はなかなか確保されず、博士論文を書いてもその先の研究がほとんど進まないという事態も珍しくない。いまなお参照文法のような文法書が整備されていないことも研究の進展を妨げているようである。現状ではさらに新しい言語研究を継続し、展開することには多くの困難があるが、タイ人に対する日本語教育の現場の中で、教育文法の整備・研究とともに、対照研究の裾野が広がって行くことを期待したい。

注

- 1) 日本語文法学会編『日本語文法事典』、大修館書店 2014 p.387
- 2) 国広哲弥、松村明編『日本文法大辞典』、明治書院 1971 p.417
- 3) 中島平三他編『オックスフォード言語学辞典』、朝倉書店 2009 p.218
- 4) 国広哲弥、松村明編『日本文法大辞典』、明治書院 1971 p.417
- 5) 齋藤純男他編『明解言語学辞典』、三省堂 2015 p.244
- 6) 小池生夫編『応用言語学辞典』、研究社 2003 p.315
- 7) 飛田良文編『日本学研究辞典』、明治書院 1998 p.9
- 8) 日本語教育学会編『日本語教育辞典』、大修館書店 2005 p.697
- 9) 高橋 (2017) のように「中日対照」を用いているのは、著者が中国語学研究者であり、中国語研究の立場から日本語との対照比較を指向することの意思表示でもあろう。
- 10) シリーズ言語科学の一冊 (第四巻) として生越直樹編『対照言語学』(東京大学出版会 2002) がこれまでまとまった論集となっているが、その目次は以下のようなもので、現状と展望が収録されている。

序 対照言語学の展望

I 方法論

1 言語類型論と対照研究 (柴谷方良)

II 構文の多様性

2 日本語とスペイン語の使役性の比較 (上田博人)

3 日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方 (生越直樹)

4 概念化と構文拡張 (武本雅嗣)

III 意味の広がり

5 テンス・アスペクトの比較対照 (井上優・生越直樹・木村英樹)

6 「も」と“也”(楊凱榮)

7 時間から空間へ (定延利之)

8 指示詞の歴史的・対照言語学的研究 (金水勉・岡崎友子・曹美庚)

9 所謂「逆条件」のカテゴリー化をめぐる (藤井聖子)

10 「来る」と「行く」の到着するところ (中澤恒子)

ちなみに、他のシリーズは①「文法理論：レキシコンと統語」、②「認知言語学Ⅰ：事象構造」、③「認知言語学Ⅱ：カテゴリー化」、⑤「日本語学と言語教育」となっており、言語学研究の主流が窺われる。

- 11) 言語対照〈外から見る日本語〉(くろしお出版) 全 11 巻は以下の通り。1-6 巻は〈論文集〉、7-11 巻は〈個人研究書〉となっている。最近、論文集として第 7 巻松本曜[編] (2017) 『移動表現の類型論』が刊行されている。

第 1 巻 定延利之・中川正之[編]『音声文法の対照』2006

第 2 巻 中川正之・定延利之[編]『言語に現れる「世間」と「世界」』2006

第 3 巻 西光義弘・水口志乃扶[編]『類別詞の対照』2004

第 4 巻 西光義弘[編]『自動詞・他動詞の対照』2007

第5巻 益岡隆志[編]『主題の対照』2004

第6巻 益岡隆志[編]『条件表現の対照』2006

〈個人研究書〉

第7巻 井上優『日本語・韓国語・中国語のテンスとアスペクト』

第8巻 澤田浩子『属性叙述における構文類型—日本語・中国語対照研究』

第9巻 鄭聖汝『韓日使役構文の類型論的研究—形式と意味の相関関係の機能論的アプローチ』

第10巻 ティン・エイ・エイ・コ『ビルマ語の語彙と構文の特質—日本語との対照の観点から』

第11巻 和佐敦子『スペイン語と日本語のモダリティ—叙法とモダリティの接点』

12) 田中(2009)では応用言語学の一形態として対照研究を位置づけている。

13) フランス・ドルヌ、小林康夫(2005)は日仏対照研究の入門書でもあるが、対照研究の新しい視点を示唆している。また、インタラクションの実相については定延利之(2016)等の一連の研究が重要である。「環境とのインタラクションに根ざした文法」(大東文化大学語学教育研究所講演会、2017.10.26)から多くの啓発を受けたことも記しておきたい。

参考文献 (一部、本文中に挙げたものを省略した)

池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論』大修館書店

今村忍(2011)『日本語とタイ語の対照研究—2009年度までの動向—』大阪大学

生越直樹編(2002)『対照言語学』東京大学出版会

小野尚之(2004)「移動と変化の言語表現：認知類型論の視点から」、佐藤滋・堀江薫・中村渉編『対照言語学の新展開』ひつじ書房

影山太郎(2004)「存在・所有の軽動詞構文と意味編入」、影山太郎・岸本秀樹編『日本語の分析と言語類型—柴谷方良教授還暦記念論文集』くろしお出版

庄司博史、P・バックハウス・F・クルマス(編)(2009)『日本の言語景観』三元社

定延利之(2016)『コミュニケーションへの言語的接近』ひつじ書房

高橋弥守彦(2017)『中日対照言語学概論—その発想と表現』日本僑報社

田中寛(2004)『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房

——(2009)「“応用日本語学”とは何か—日本語と日本語教育の統合を目指して—」、『外国語学研究』10 187-196 大東文化大学大学院外国語学研究科

バルデシ・プラシャント、桐生和幸、ナロック・ハイコ編(2015)『有対動詞の通言語的研究—日本語と諸言語の対照から見えてくるもの—』くろしお出版

フランス・ドルヌ、小林康夫(2005)『日本語の森を歩いて—フランス語から見た日本語学』、講談社現代新書

村尾誠一(2014)「比較する、対照する、対比するということ」、『日本研究教育年報』18 73-80 東京外国語大学日本専攻

附①：タイ語学研究の主な工具書（文法研究書、辞書類）

文法書(1)では英文、日本語で書かれた主要なものを挙げた。文法書(2)ではタイ語で書かれたものを挙げた。タイ語学文法書、タイ語辞典は手元の版のものを挙げた。

《主たるタイ語学文法書(1)》刊行順

Udom Warotamasikkhadit (1963) THAI SYNTAX: AN OUTLINE

The College of Education Prasarnmitr Bangkok, Thailand

Richard B. Noss (1964) Thai Reference Grammar

Foreign Service Institute Washington, D.C.

David Smyth (2002) Thai An Essential Grammar Routledge London and New York

三上直光『タイ語の基礎』白水社 2002

Shoichi Iwasaki and Preeya Ingkaphirom (2005) A Reference Grammar of Thai

Cambridge University Press

《主たるタイ語学文法書(2)》順不同

ลักษณะภาษาไทย ไทย ๑๐๔ ปรีชา ทิชนพงษ์ ปรีชาจารย์・เทิชนาปน 『タイ語の姿 タイ 108』

สำนักพิมพ์โอเดียนสโตร์ 1979

หลักภาษาไทย สุวิวงศ์ พงศ์ไพบูลย์ สเติวออน・ปนไพบูรณ์ 『タイ語基礎』

สำนักพิมพ์โอเดียนสโตร์ 1980

ภาษาศาสตร์ภาษาไทย จนดา งามสุทธิ จ็องดา・นงามสูต 『言語学とタイ語』

สำนักพิมพ์โอเดียนสโตร์ 1981

ไวยากรณ์ไทย สมชาย ลำดวน สุมชาयी・ลามดอาน 『タイ語文法』

วังบูรพา กรุงเทพมหานคร 1983

คำไทย บุญยงค์ เกตเทศ บุนยอน・เคะสะเทอ 『タイ語の単語』

สำนักพิมพ์โอเดียนสโตร์ 1989

วากยสัมพันธ์ สมทรง บุรุษพัฒน์ “Syntax” Somsong Burusphat

บริษัทสหธรรมิก จำกัด 1993

หลักภาษาไทย กำชัย ทองหล่อ คามไชย์・ตอนโร 『タイ語基礎』

บริษัท รวมสาส์น จำกัด 1997 ISBN 974-246-228-3

ระบบคำภาษาไทย สุนันท์ อัญชลินกุล สานัน・อันชาลีรูนคูน 『タイ語の語順』

โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย 2004 ISBN 974-13-2525-8

ภาษาศาสตร์ภาษาไทย เรื่องเดช บันเชื่อนชาติย์ ลูแอนเดอ・บันชูเอันคัต 『タイ言語学』

สถาบันวิจัยภาษาและวัฒนธรรมเพื่อพัฒนาชนบท มหาวิทยาลัยมหิดล 1998

หน่วยคำภาษาไทย ดิเรกชัย มัททนะสิน เดิเรกไชย์・มาฮัตตานิสิน 『タイ語の語単位』

ภาควิชาภาษาไทย คณะมนุษยศาสตร์ มหาวิทยาลัยเชียงใหม่ 1981

โครงสร้างภาษาไทย:ระบบไวยากรณ์ The Structure of Thai วิจิตรนั ภาณุพงศ์ วิจิเชน・เปอร์น

ポン『タイ語の構造 文法体系』

ภาควิชาภาษาศาสตร์ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย 1981

หลักภาษาไทย (อักษรวิธี วชิวิภาค วากยสัมพันธ์ ฉันทลักษณ์ พระยาอุปกิตศิลปสาร

เพลย์วแพกิตต์สอินราปาศัน 『タイ語の基礎』 正字法・品詞論・統辞論・詩形論

บริษัทสำนักพิมพ์ ไทยวัฒนาพานิช จำกัด พ.ศ.๒๕๓๓ (1990) ISBN974-07-6306-5

ลักษณะภาษาไทย บรรจบ พันธุเมธา บันจ็อ ๊ปป·ปันทอูเมธา 『タイ語の姿』

พิมพ์ที่โรงพิมพ์มหาวิทยาลัยรามคำแหง พ.ศ.๒๕๒๐ (1977) ISBN 不明

ไวยากรณ์ไทย นววรรณ พันธุเมธา นาฟวอน·ปันทอูเมธา 『タイ語文法』 ISBN974-9993-27-6

โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย พิมพ์ครั้งที่๔ พ.ศ.๒๕๕๑

การใช้ภาษา พ.นววรรณ นาฟวอน·ปันทอูเมธา 『言葉の使い方』

บริษัท การพิมพ์สตรีสาร จำกัด พ.ศ.๒๕๒๐ (1977)

การใช้ภาษา๒ พ.นววรรณ นาฟวอน·ปันทอูเมธา 『言葉の使い方 2』

บริษัท การพิมพ์สตรีสาร จำกัด พ.ศ.๒๕๒๗ (1984)

การใช้คำที่มีความหมายใกล้เคียงกัน วรรณ แก้วแพรง วันนา·เคอเพล็ก 『近似語の用法』

ไอ.เอส.พรีนติ้ง เฮ้าส์ พ.ศ.๒๕๒๔ (1981)

《タイ語雑誌・主要大学紀要（一部）》 順不同

主要大学の学術紀要雑誌では言語研究の他に文学、言語文化を含むのが一般的である。  
一部英語で書かれた論文も含まれている。

○Studies in Linguistics ISBN 974 - 564 - 996 - 1

อักษรศาสตร์นิพนธ์ คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

○Journal of Language and Culture ISBN 0125-6424

ภาษาและวัฒนธรรม สถาบันวิจัยภาษาและวัฒนธรรมเพื่อพัฒนาชนบท มหาวิทยาลัยมหิดล

○Journal of Thai Language and Literature

วารสารภาษาและวรรณคดีไทย คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

○Language and Linguistics ISSN 0857-1406

ภาษาและภาษาศาสตร์ สาขาวิชาภาษาศาสตร์ คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์

○Journal of Language and Literature in Thai ISSN 0857-037X

วารสาร ภาษาและวรรณคดีไทย ศูนย์ภาษาและวรรณคดีไทย คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

《辞書（一部）》 順不同

富田竹二郎 (1987) 『タイ日辞典』、養徳社

松山納編 (1996) 『日タイ辞典』 大学書林

広州外国語学院編 (1987) 『泰漢辞典』 泰国南美有限公司／香港商務印書館聯合出版

มานิต มานิตเจริญ พจนานุกรมไทย สมบูรณ์-ทันสมัยที่สุด รวมสารสิน พิมพ์ครั้งที่๖ 1977

ฉบับราชบัณฑิตยสถาน พจนานุกรม 1982

Mary R.Hass (1964) Thai-English Syudent's Dictionary STANFORD UNIVERSITY  
PRESS, CALIFORNIA



## 附②：日タイ対照研究に用いる参考例文資料

日タイ対照研究の言語データとしては、各種タイ語学習書のほか、日本語書籍のタイ語訳、タイ語書籍の日本語訳、さらに次の各種日本語学習辞典の収録例文などが挙げられる。

- พจนานุกรมการใช้คำภาษาไทย อธิบายการใช้คำและวลีที่มักใช้กันสับสน  
แปลโดย ผ.ศ.ปราณี จงสุจิตธรรม 1997 泰日經濟技術振興協會  
『日本語学習使い分け辞典』廣瀬政宜他編 Japan Times 1988
- พจนานุกรมภาษาพูด ญี่ปุ่น-ไทย  
แปลโดย ผ.ศ.ปราณี จงสุจิตธรรม 2000 泰日經濟技術振興協會  
『日タイ口語辞典』エドワード・G. サイデンステッカー、松本道弘編『最新日米口語辞典』朝日出版社 1991
- พจนานุกรมคำญี่ปุ่นหลากหลายความหมาย คำกริยา  
แปลโดย ผ.ศ.ปราณี จงสุจิตธรรม 泰日經濟技術振興協會 2014  
森山新編『日本語多義語学習辞典動詞編』ALC Press Inc. 2008
- พจนานุกรมญี่ปุ่น-ไทย ขึ้นพื้นฐาน 1989  
กาญจนา ประสพเนตร รอมสาส์น 國際交流基金  
望月孝逸他編『日タイ語基本語用例辞典』國際交流基金、凡人社 1998
- พจนานุกรมไวยากรณ์ภาษาญี่ปุ่นเบื้องต้น ผู้แปล ประภา แสงทองสุข วันชัย สีสพัทธ์กุล  
พิมพ์ที่ บริษัท อมโนการพิมพ์ จำกัด พ.ศ. ๒๕๔๒  
A Dictionary of Basic Japanese Grammar The Japan Times 1986  
Seiichi Makino Michio Tsui
- กฎแจสุ 500 รูปประโยคภาษาญี่ปุ่นชั้นกลางและชั้นสูง  
ผู้แปล วิวรรณ วชิรดิถิก สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม 2002  
友松悦子、宮本淳、和栗雅子『どんな時どう使う日本語表現文型 500 中上級』アルク 1996
- พจนานุกรมรูปประโยคภาษาญี่ปุ่น  
ผู้แปล บุษบา บรรจงมณี ปราณี จงสุจิตธรรม ประภา แสงทองสุข วันชัย สีสพัทธ์กุล  
くろしお出版 2012  
グループジャマシイ編『教師と学生のための日本語文型辞典』くろしお出版 1998

附：タイ語の IPA 音声表記

タイ語の母音・重母音（短母音/長母音）

	前舌母音	中舌母音	後舌母音	二重母音	三重母音
広母音	ɛ/ɛɛ	a/aa	ɔ/ɔɔ	ai,/aai, ɔi/ɔɔi, ao/ao	
半狭母音	e/ee	ə/əə	o/oo	oi/ooi, eo/eeo, əi/əə	
狭母音	i/ii	u/uuu	u/uu	a/iaa, ua/uuua, ua/uua	iao, wai, uai

\*ただし、本書用例では重母音は ai→ay, iao→iaw, ao→aaw のように表記する。

タイ語の子音

調音法\調音位置	唇音	歯音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門
無気閉鎖音	p	t	c	k	? 声門閉鎖音
帯気閉鎖音	ph	th	ch	kh	
有声閉鎖音	b	d			
鼻音	m	n		ŋ	
摩擦音	f	s			h
流音		r, l			
接近音	w	y			

タイ語の5声調

aa 中平調(平声)    àa 低平調(低声)    âa 下降調(下声)    áa 高平調(高声)    äa 上昇調(上声)  
 ia, iia            ày, àay            âw, âaw            úay            iaw

タイ語の基本語順

主語 (S) | 動詞 (V) | 目的語 (O) | 補語 (C)

kháw rian phaasāa-thay

彼 学ぶ タイ語 : 彼は | タイ語を | 勉強する

被修飾語 | 修飾語 [ | 数詞 | 類別詞 | 指示詞]

bāan yà

家 大きい : 大きい | 家

kra?pāw yà [sǒɔŋ bay nán]

靴 大きい 2 CL その : [その | 二 | つの]大きい | 靴

グロス略記一覧

本書ではタイ語例文はタイ文字を用いずに国際音標文字 (IPA) で表記した。タイ語の IPA 表記はおおむね田中(2004)にしたがう。またグロスの略記号は以下の通り。

Abbreviations

略語	職能	略語	職能
COPU	繫動詞	Q	文末疑問辞
FUT	未来時制	FPP/MPP	女性/男性文末丁寧辞
PST	過去時制	[終]	終助詞、文末小辞
PERF	完了	[願]*	希望願望の助辞
CAUS:	使役態形態素	[義]*	義務の助辞
PASS	受動態形態素	[経]*	経験の助辞
REL	関係代名詞	[可]*	可能の助辞
COMP	引用節マーカー	[推]*	推量の助辞
CONJ	接続語	[経]*	経験の助辞
NEG	否定辞	[意]*	意志の助辞
CL	類別詞	[禁]*	禁止の助辞
PRO	人称詞*	[当]*	当為の助辞

\*PRO は一人称、二人称、三人称人称代名詞。

\*[終]はタイ語の文中、文末の小辞。なお、アスペクト表示 (ASP)、前置詞群 (PREP) は適宜、日本語の対応訳をほどこした。

\*AUX 助動詞は〈義務〉「なければならない」、〈希望・願望〉「たい」、〈経験〉「たことがある」、〈推量〉「だろう、かもしれない、にちがいない、はずだ」、〈意志〉「つもりだ」、〈可能〉「ことができる」、〈当為〉「べきだ」、などを示す。



## 第 I 部

### タイ語の主題と主語、題目語の諸問題

เขาเป็นเสือเงียบ

kháw pen sǔa ṅáp

彼は沈黙する虎である  
(能ある鷹は爪を隠す)

第I部 タイ語の主題と主語、題目語の諸問題〈第1章〉

タイ語の主題提示機能の諸相

—名詞主語句を中心に—

【キーワード】 主題提示 名詞 情報の優先度 文脈と場面 時空間の設定

1. はじめに—主語と主題、題目—

主語が主題的役割を果たすという言語的事象は、情報の優先的提示と大きく関わる。題目を提示して解説を施すのは、認識を知識・情報に置き換え、伝達するための不可欠の手段であり、主語、主題の認定、設定は情報管理のうえでも最重要の対応となる。本節ではそれらの文頭に位置する名詞語句が、タイ語において後続の内容叙述にどのような意味的な関係を及ぼすのか、題目提示の実態について若干の観察を行う。

議論する前に、まず身近な公共標示例（車輦内、駅構内等）の日英文を見てみよう<sup>1)</sup>。英文の斜体部分は日本語の「は」の領域（[]で示す）に対応する領域を示している。

① [かけ込み乗車は]危ないのでおやめください。

For your safety *do not rush for your train.*

② [携帯電話は] マナーモードなどに切り替えてください。

Please switch *your mobile phone* to silent mode.

③ [不審物や持ち主の分からないお荷物は] 直ちに乗務員までお知らせください。

Please notify the train crew immediately *if you find any suspicious items or un-attended baggage.*

④ [駅構内でまたは車内で不審なものを発見した場合は]、

直ちにお近くの駅係員または乗務員にお知らせください。

Please inform the staff or train crew immediately *if you notice any suspicious unclaimed object or persons in the station or on the train.*

⑤ [優先席付近では]、[混雑時には] 携帯電話の電源をお切りください。

*When crowded* please turn off your mobile phone *in this vicinity.*

⑥ [みだりに車外に出ると] 危険です。

*Getting off the train between station* is dangerous.

①の場合は、英語の日本語直訳では「安全のために、(あなたの) 電車に駆け込まないでください」とあり、「かけ込み乗車は」というフレーズに対応する成分は見当たらない。英語ではまず「あなたの安全のために」というのが主題優先的な情報となっている。

②の場合も、「あなたの携帯電話をサイレントモードに切り替えてください」のように、まず切り替えるという動作行為が優先的な情報とされる。

③の場合は、「もし不審物や持ち主の分からないお荷物を見つけたら」という条件節が文の後半に述べられている。②と同様に情報の優先度に異同が見られる。

④の場合は、「場合は」のトキ節が if 条件節で表されるケースで、しかも情報の優先性により後方に位置することも少なくない。

⑤の場合は、二カ所の「は」は「には」、「では」による句構造で、英語では文頭と文末に分散配置されている。

⑥の場合は、日本語の条件節が英語では動名詞を主語に立てた題目文「駅間の車輛から出るのは危険です」になっている（日本語の「みだりに」は訳出されていない）。

こうして考えると、情報の優先性が当該言語の特徴を決定しているといえよう<sup>2)</sup>。

一口に主語、主題といっても表現の内実は当該言語の特徴によって更に複雑であろう。一般に日本語の「は」は〈衆目一致注意喚起〉の場の共有を主務とし、均質的な〈情報の網掛け〉が行われるが、これは日本文化の集団主義的特性と密接な関係があるようにも思われる。従って他言語において習性、文化背景としての主題、命題を考えるにあたって、母語と同様の視点で考えることには種々の限界が生じざるをえない。

本章では文頭に位置する名詞語句（人物、事物、場所語句など）をサンプル的に取り上げ、日本語の「は」を手掛かりにしながら、〔題目：解説〕という構造がタイ語においてどのように発現、展開されているのかを考察する。

## 2. 名詞句主語文の概要

名詞語句が題目提示的に文頭に位置する文を、ここでは仮に名詞句主語文と名付けるが、これには日本語で格助詞をともなう「会社では」（場所格）、「部屋には」（存在格）、「弟には」（与格）、「日本からは」（起点格）、「目的地までは」（終点格）などを含む。

最初に挙げるべきは名詞述語文の構造である。人名詞のほか場所名詞、事態名詞などが主部に立つ。(1)は繫動詞/pen/用いて属性（民族や職業、地位、性格など）を表す。(2)は繫動詞/khuu/で人物・事物の一致、(3)は/pen/も/khuu/も用いない、ゼロ表示のもの。また(3),(6)のように関係代名詞/thii/をともなう比較的長い連体修飾構造を有する名詞の後には僅かなポーズが見られる。以下、タイ語、日本語ともに主部相当成分を□で示す<sup>3)</sup>。

(1) [kháw] pen ʔaacaan thii maa càak yìipùn.

PRO COPU 先生 REL 来る から 日本

〔彼は〕 日本から来た先生です。

(2) [ʔaahāan-thay phǒm chǒp] khuu tǒm-khāa-kà

タイ料理 PRO 好き COPU 料理名

〔私の好きな料理は〕 トムカーガイです。

(3) [rooŋreem thii phǒm phák] sūay māk.



- ホテル REL PRO 泊る 綺麗 大変  
 [私が泊ったホテルは] 大変きれいでした。
- (4) [sǎmmanaa múa-waan-ní] dii rǔu-plàaw?  
 セミナー 昨日 良い Q  
 [昨日のセミナーは] よかったですか？
- (5) [khrúaŋcak ní] phá?lit chíŋ-ŋaan dáy chûa-mooŋ lá? nùŋ-phan chíŋ.  
 機械 この 生産する 部品 [可] 時間 あたり 千 CL  
 [この機械は] 一時間に部品を1,000個作れます。
- (6) [rooŋŋaan thîi chon-burii] kamlaŋ kò-sáaŋ yùu.  
 工場 REL チョンブリ まさに 建設する ている  
 [チョンブリの工場は] 建設中です。

動作主体は人間であるが、(6)では「チョンブリの工場」となっている。擬似的な主語というべきであろう。次の(7),(8)のように指示詞/ní/の併用は主部明示の有力な成分となる。わずかにポーズを置くことで注目的な表示となり得る。

- (7) [khǒŋ lót ní], cháŋ pen sǐŋkháa tua-yàaŋ máy dáy.  
 もの ロットこの 使う COPU 製品 サンプル NEG [可]  
 [このロットの製品は] サンプルとしては使えません。
- (8) [khǒŋ-thîi-ra?lúk ní], ca mǒp-hây lúuk-kháa khon-lá? nùŋ chíut.  
 記念品 この FUT 渡す 顧客 人-あたり 1 セット  
 [この記念品は] お客さんに1セットずつお渡します。

このように主格・主部表示はこれを具体的に示すマーカーがなく、〈音調〉ないし〈小ポーズ〉と後述文との意味関係にゆだねられる場合も少なくない。以下、時間的設定、場所・空間的設定、事物・、事態などの名詞句が主語となる用例を検証していく。

### 3. 名詞句主語文(1)—時間的設定について—

時間と場所の設定は事態伝達の際の大きな道具立てである。性格的には時間副詞が前触的に置かれ、注目表示的な性格を有しているといえよう。ほぼ文頭に位置するが、(11)のように文の後方に位置するケースも少なくない。英語などと同様の現象である。

- (9) [duan-ní] yòot-kháay máy-khóy dii.  
 今月 売り上げ NEG-あまり 良い  
 [今月は] 売り上げがあまりよくなかった。
- (10) [ra?wàaŋ kaan-sadeŋ] karunaa pit muuuthúu dáy khráp.  
 間 こと演じる てください 閉める 携帯 一緒に MPP  
 [上演中は] 携帯電話の電源をお切りください。

(11) *phûa khwaam-plòtphay thúk-khon tōj suam mùak niraphay*

ために 安全 各人 [義] かぶる 帽子 安全

[*khaná? pathibátkaan*].

時 作業する

[作業中は] 安全のためにならず安全帽をかぶること。

(12)のように「最近」は日本語では「は」の附加が任意であるが、対比的な環境を表わす場合は、日本語では「去年は寒かったが今年は暖かい」のように「は」が必須となる。

(12) [*diaw-níi khon cháy thoorasàp-muuuthūu mâak khūn*].

最近 人 使う 携帯電話 多い なる

[最近 (は) ] 携帯電話を使う人が増えた。

(13) [*pii-níi raaydáy lót loj kùap khŕŭj*].

今年 収入 減る なる 凡そ 半分

[今年は] 収入が半分近く減った。

(14) [*thəəm-níi phôn-kaan-rian khǒŋ kháw leew loj*].

学期-この 学業成績 の 彼 悪い なる

[今学期 (は) ] 彼の成績は悪くなった。

(15) [*wan-níi nùay nít-nòy*].

今日 疲れる 少し

[今日は] 少し疲れている。

(16) [*wan-ʔaathít pòʔkati tham aray?*]

日曜日 いつも する 何

[日曜日は] いつも何をしていますか。

ただ、時間名詞が限定的な事情を表すとき、題目を特化する前置詞/*sāmrap*/を文頭に用いることがある。これは日本語では「については」のようなニュアンスがある。

(17) [*sāmrap wan-ʔaathít tham khwaam-saʔaat bâaŋ sák pháa bâaŋ*].

にとって 日曜日 する 掃除 たり 洗う 服 たり

[日曜日には] 掃除したり洗濯したりします。

#### 4. 名詞句主語文(2)—場所・空間的設定について—

事態の対象的把握の根幹として、場所が時間的要素と共にフォーカスされることはきわめて自然な認知的現象である。日本語では存在場所や時間を表す場合は「には」が用いられるほか、場所の取り立ては「では」と「は」があるが、これらの判別はいささか面倒である。この点はタイ語でも同様の感がある。例えば

(18) ハバロフスクでは 西の風 風力4 にわか雪 28ヘクトパスカル -14度

(気象通報 2017.12.14 16:03)

のように「では」が場所の提示機能として用いられ、「は」と峻別される。タイ語の場合は運動・存在場所の明示する前置詞が文頭に置かれることが多い。(19),(20)の文は、日本語では「ここ{は/で/では}両替ができます」「この部屋{は/で/では}煙草が吸えます」のように「は」「で」「では」三種類の言い方が可能である。

(19) [thîi-nîi] lâək ɲən dâi.

ここ 両替 お金 [能]

[ここ (で) は] 両替ができます。

(20) [hôn-nîi] sùup buʔrii dâi.

部屋-この 吸う 煙草 [可]

[この部屋は] 煙草が吸えます。

(20)は(21)のように場所名詞句を後方に移動させ補語(副詞)成分として表すことも可能であるが、ややぎこちない印象を与えるようである。

(21) sùup burii thîi [hôn-nîi dâi] (20')

吸う 煙草 で 部屋-この [可]

[この部屋で]煙草を吸えます。

同時に(19),(20)は対比的な取り立て用法で、他の場所との使途性格、機能の峻別を意図したものである。同様の例を続けて挙げる。

(22) [thanõn sǎay-nîi] weelaa mii ʔubàttihèet, rót ca tit than-thii.

道路 CL-この とき ある 事故 車 FUT 渋滞する すぐ

[この道路は] 事故があつたらすぐ渋滞になる。

(23) [bõõrisàt-nîi] thúk-khon thamɲaan dūay khwaamtâɲcay sàʔmǎõ.

会社-この 各人 働く で 熱心さ いつも

[この会社は] 全員がいつも一生懸命に働いている。

(24) [muaɲ-thay] phõm rúcàc khêe kruɲthèep kàp chiaɲmây sǎɲ-hèɲ thawnán.

タイ PRO 知る だけ バンコク と チェンマイ 二か所 だけ

[タイ (で) は] 僕はバンコクとチェンマイの二か所しか知らない。

(25) [bõõrisàt phõm] ɲan-duan chán-tôn raw-raaw hòk-phan bàat.

会社 PRO 月給 初段階 だいたい 6千 バーツ

[私の会社は] 初任給がだいたい6千バーツです。

(26) [hôn] tit ʔeɛ rúu-plàaw?

部屋 付く エアコン Q

[部屋 (に) は] エアコンがついていますか。

(27) [khâŋ-nay] hâam thàay.

中 禁ずる 撮影する

[中は] 撮影禁止です。

こうした名詞語句は、後続内容がほぼ属性的、規定的な意味を持っていることを表している。多くの例では、発話の発端を表し、聞き手に対しては新情報の提示確認を意味している。この場合、後続内容に続く前にわずかながらポーズが認められる。

一方、場所詞の前に、つまり文頭に場所を指し示す前置詞/thii/が置かれると、「(場所では)」のように場所本位の機能ないし特徴を述べる言い方になる。

(28) [thii roonŋăŋ nii] chăay chá?phó? năŋ thay.

で 映画館 この 上映する だけ 映画 タイ

[この映画館 (で) は] タイの映画しか上映しない。

(29) [thii kruŋthêep] rôt tit mâak.

で バンコク 車 渋滞する 大変

[バンコク (で) は] 車の渋滞がひどい。

(30) [thii bâan phôm] mûa-khuun-nii náam mây lăy.

で 家 PRO 昨夜 水 NEG 流れる

[私の家では] 昨夜断水した。

(31) [thii muaj-thay] khâaw-săan phœŋ mǎy?

で タイ 米 高い Q

[タイは?タイで?タイでは] お米が高いですか。

(32) [thii yîpùn duan-meessăayon] aa?kàat mây nêe-nœn baan-thii kôo năaw

で 日本 四月 気候 NEG 確かな 時々 も 寒い

baan-thii kôo òp?un.

時々 も 暖かい

[日本の四月は] 寒かったり暖かかったりして天気不定。

(31)は日本語では<N1のN2は>「タイのコメは」のように表すこともある。なお、タイ人の日本語の発話では「タイで」「タイでは」のような日本語になることも多いが、やや不自然に聞こえる。非母語話者にとって、「で」「では」「は」の使用は簡単ではない。(32)では「日本では四月は」のように場所名詞句と時間名詞句が連続し、二重主語的な提示となっていることに注意したい。また、(33)では「京都では」のように「で」が必須になる。

(33) [thii-nii] thàay rûup dâŋ mǎy?

ここ 写す 写真 [可] Q

[ここでは] 写真を撮ってもよいですか。

(34) [thii kiawtoo nă] pay thátsanaacœn bânŋ súuw khœŋ bânŋ phóp phúan bânŋ.

で 京都 [間] 行く 見物 たり 買う 物 たり 会う 友達 たり  
 [京都では] 見物したり、買物したり、友達に会ったりしました。

(35)の場合は/sɔɔy-nâa/が主格化したものだが、主題化との認識からはむしろ「次の路地は」のように表すケースが多いことが予想される。

(35) [sɔɔy nâa] líaw sáay khâw pay khâ  
 ソイ 次の 曲がる 左 入る 行く FPP  
 [次の路地を] 左折してください。 cf: #次のソイは左折してください。

### 5. 名詞句主語文(3)—人物・事物的設定について—

人物が主語になる場合だが、口語では特に感情をあらわす場合、/nii/や/niã/を添えることがある<sup>4)</sup>。日本語では「って」「ったら」などの言い方に属する。

(36) [khâw niã] khêe rûaŋ lék-lék nóoy-nóoy dùatróon léew  
 彼 ー だけ 話 ちょっとした 激怒する PREF  
 [あの人はね] よくちょっとしたことですぐ怒るのよね。

(37) khun nii sîa maara?yâat! thâam aa?yú phûuyin  
 あなた ー 喪う 礼儀 訊く 年齢 女性  
 [あなたって] 本当に失礼ね。女性に歳を訊くなんて。

所有表現は人物主語表示のなかでも最も頻出度が高いものであるが、(39)のような主語の領域が定めにくい、やや複雑な構造がある点にも注意しなければならない。

(38) [dichán] mii sit thîi ca rúu khâ  
 PRO ある 権利 REL FUT 知る FPP  
 [私には] 知る権利がある。

(39) khon mây mii khray mây yàak pra?sòp khwaam-sâmnrèt khâ.  
 人 NEG ある 誰 NEG [願] 出遭う 成功 FPP  
 [成功したくない人は] 誰もいない。

(40)が属性的な関係を表しているのに対し、(41)は題目提示で、後続文とはやや距離がある。「についていえば」のようなニュアンスがあり、前述のように/sâmnráp/を用いて明示することがある。

(40) [phûu-cátkaan roonŋaan] pen khon khêmŋuat máak.  
 長 工場 COPU 人 厳しい 大変  
 [工場長は] 大変厳しい人だ。

(41) [phanákŋaan thîi aayú? hâa-sip pii khûn-pay], mii thánmòt sip khon.  
 従業員 REL 年齢 50 歳 以上 ある 全部で 10 人

[50歳以上の従業員は] 全部で10人います。

次は物一般が主格に立つ場合である。

(42) [kày-yàaŋ thii-nii] mii chúu mâak thiidiaw khâ.

焼き鳥 ここ ある 名前 大変 実に FPP

[ここの焼き鳥は] とくに有名だ。

(43) [rót-krabà? khân-nii] banthúk dâi mây kœn sãam tan.

トラック CLこの 運ぶ [可] NEG 超える 3 トン

[この小型トラックは] 最大3トン積載可能です。

(44) [rót khun-wiray] còt yùu thii-noon.

車 ウライさん 停める ている あそこ

[ウライさんの車は] どこに停めてありますか。

(42)-(44)は一般的な主語明示で、属性的な意味関係を表しているが、(45)(46)は聞き手に対して、限定された事情を取り出し、それについてのより詳しい事情を求めている。後続内容の前に、ややポーズが置かれるのが自然である。

(45) [phõnlamáay thay] dichán chõp ńó? mâak thii-sùt.

果物 タイ PRO 好きだ ランブータン 大変 一番

[タイの果物は] ランブータンが一番好きだ。

(46) [phûak khõŋ-kin] chõp aray?

仲間 食べ物 好きだ 何

[食べ物では] 何が好きですか。

連体修飾構造を含む長い名詞句も日本語と同様の語順で示される。日本語では特に口語の場合、「は」が無助詞化する場合が多い。

(47) [sĩŋkháa thii sàŋ], thaaŋ-raw sòŋ pay phit thii khrap.

商品 REL 注文する 当方 送る 行く 間違う 場所 MPP

[ご注文の製品は]、違う所に発送してしまいました。

(48) [sĩŋkháa thii tham phit bèeŋ], khun ca ráp-phit-chõp yanŋay?

商品 REL 作る 間違う 型 PRO FUT 責任をとる どう

[規格外の製品は]、どう責任をとりますか。

(49) [ʔèkkasãan thii thaaŋ-nii khõŋ pay mûa-wan-kòŋ]

書類 REL 方向-この 請う 行く 先日

dâyrap riap?róy léew khrap wan-nii

受け取る 確かに PREF MPP 今日

[先日お願いしてあった書類]、今日確かに受け取りました。

(50) [ráan thîi raw pay dūay-kan múa-wan-kòon] chúu ráan aray ná?

店 REL PRO 行く 一緒に この間 名前 店 何 [終]

[このあいだ一緒に行ったあの店]、何という店でしたか。

(51)ではタイ語では焦点となる/tóʔ/「机」が文中に位置しているが、日本語では「は」で取り立てるのが自然である。

(51) thîj hây [tóʔ] yùu troŋnân lêʔ ná khráp.

捨てる CAUS 机 いる そこ 強調 [終] MPP

[机は] そのままにしておいて下さい。

物一般の名詞語句が主格に立つ文例は非常に多く、また多様である。一般に修飾句をともなった比較的長い名詞語句は、題目的な意味を伝達しやすい。

(52) [dòk-máay sūay dòk-níi] sāmrap khun.

花 美しい CLこの ための あなた

[この綺麗な花は] あなたのためのものです。

(53) [naalikaá thîi phôm hây kháw] pen khǒŋ khun-phôw phôm.

時計 REL PRO あげる PRO COPU もの 父 PRO

[僕が彼にあげた時計は] 僕の父のものだ。

(54) [sàʔtsem-thîi-raʔlúk] ʔʔòk waaj camnàay léew.

記念切手 出る 置く 販売する PERF

[記念切手が] 発売されました。

(54)はいわゆる出現文の範疇に属し、日本語では受身文で表される傾向がある。

## 6. 名詞主語文(4)—事象・事態の設定に関して—

最後に、文頭に予定された行事などをはじめ、出来事や事態的な意味を表す名詞語句が来た場合を見てみよう。後続内容との意味的な関係では上述と大筋では変わらないものの、より題目提示的な意図が強まるように思われる。

(55) [kaan prachum] ca lǎk kii-mooŋ?

こと 会議 FUT 終わる 何時

[会議は] 何時に終わりますか。

(56) [kaan-prachum khráp-nâa] khun tǒŋ triam ʔèkkasāan hây dii kwàa níi

会議 次回 PRO [義] 準備する 書類 CAUS いい より これ

[次回の会議は] 書類をもっとちゃんと準備しなければなりませんよ。

(57) [kaan-prachum khráp-tǒw-pay] pen wan-phút nâa kǒw-léew-kan.

会議 次回 COPU 水曜日 次 ましょう

[今回の会議は] 来週の水曜日にしましょう。

(58) [khâa khruâaŋ-bin càak tookiaw thũŋ kruŋthêep] thâwray?

代金 飛行機 から 東京 まで バンコク 幾ら

[東京からバンコクまでの航空運賃は] いくらですか。

(59) [ŋaan] mii panhãa aray rũur-plàaw?

仕事 ある 問題 何 Q

[仕事(について) は] 何か問題があるんですか。

(60) [ráan sii-fúut sɔɔy sãam-sip] dii mǎy khá?

店 海鮮料理 ソイ 30 良い Q FPP

[ソイ3の海鮮料理は] いかがですか。

(61) [kaan-bãan] sèt môt léew.

宿題 終わる 全部 PERF

[宿題は] 全部終わりましたか。

(62) [khɔɔnsâet phrũŋ-nũ] ca rôm sa?dɛɛŋ kii-mooŋ khá?

コンサート 明日 FUT 始まる 演じる 何時 FPP

[明日のコンサート]、開演は何時ですか。

(63) [khwaam-phayaayaam] pen thũi yɔɔm-ráp kan.

努力 COPU REL 受け入れる 互いに

[努力が] 認められた。

(63)は上述(54)の例と同じように、出現文の範疇に属して受身文に訳されることがある。次の例は引用節のなかに、文の主題的な要素が含まれている場合である。

(64) pen thũi klàaw kan wãa [khon-yiipùn chɔɔp thamŋaan.]

COPU REL 話す 互いに と 日本人 好き 働く

[日本人は働くのが好きだ]と言われている。

(65) khâwcaŋ kan wãa [phônkaan lúaktan] ca ?òk maa taam thũi khâat wáy.

理解する 互いに COMP 結果 選挙 FUT 出る 来る 従う REL 予想する ておく

[選挙の結果は] 予想した通りになると理解されている。

次のように述部が名詞化の手続きによらず、動詞句をそのまま提示するのが可能なため、タイ人は「?趣味は運動します」のように表すことが多い。これはタイ語では動詞句も文中の位置に拠って名詞的に用いられるからである。文末に/ná/を用いることもある。

(66) [ŋaan-adirèek] khuu ?òk-kamlaŋkaay khâ

趣味 COPU 運動する FPP

[趣味は] 運動することです。

(67) [kham-phũut khɔɔŋ khon ná]



言葉-話す の 人 [終]

yàa pay sàycay rǔuu ʔaw maa khít mâak ca dii kwàa ná khá

[禁] 行く 気にする か 持つ 来る 考える 大変 FUT いい より [終] FPP

[人の言うことなんて]、いちいち気にしなくてもいいですよ。

(68) [rúan pay-ráp lúuk chán] waan hây phúan pay-ráp theen léew khá

話 出迎える 子 PRO 頼む CAUS 友達 出迎える 代わりに PREF FPP

[子供のお迎えは] お友達に頼んだので。

また、次例では/thii/を用いた慣用的な評価成分となっている。(70)では「誘ってくださったことに」という文副詞的な成分になっている。

(69) [thii-nêe-nêe] khuuu mây-chây khon-thay khá.

確かなこと COPU NEG タイ人 FPP

タイ人じゃない[ことは確かだ]。=[確かなことは]タイ人じゃない(ことだ)。

(70) [thii karunaa chuan] tée chán mây wáan pay mây dâw khá

REL て下さる 誘う CONJ NEG 暇な 行く NEG [可] FPP

[折角ですが] その日はちょっと都合が悪くて行けないんです。

## 7. まとめ—暫定的報告にかえて—

以上、タイ語の名詞主語文の概略をサンプル的に見てきた。ただ、本章では例文を列記しておよその特徴を見たに過ぎず、原理的な構造やタイ語の語順について、またタイ語の主題の構造、伝達的な特徴については多くの不透明な部分を残している<sup>5)</sup>。より用例を収集しながら分析を行う必要がある。その一つが所有、存在に関わる文である。本章の考察では出現文にも言及したが、合わせて消失、変化にまつわる文の考察も今後の課題である。なお、タイ語における文単位の主題的用法については、次章で詳しく述べることにする。

### 注

- 1) いずれも東上線車輦内で採取を行った(2017年12月)。
- 2) 情報の優先度は構文的な特徴とも密接にかかわっている。次の英語の例ではとにかく寒いことを相手に伝えたい感情が時間・空間的な情報よりも先にあらわされている。  
It was fifteen below [(on) the day I left].  
[私が出発した日は] マイナス15度でした。(NHK『ラジオ英会話』2018.2.7)
- 3) 本文中の用例は、各種タイ語学習書から採取した。なお、タイ語の名詞述語文の分類にあたってはさらにそれぞれの下位分類を課題としなければならない。
- 4) Amara(2000)は会話文における/nii/、/ni/をとりあげ、その指示力の強さ、内的外的な方向性の含意について述べているが、/ni/の主格表示の作用についてはほとんど触れていない。

- 5) 日本語の主題に関わる用法の考察もタイ語との対照比較においていくつかの示唆を持つ。たとえば、想起・連想を表す日本語の「X というと」「X といえば」は大枠では「は」の周縁にある主題提示の言い方だが、タイ語では次のような慣用的な形式に対応する。直訳では「について言う時は」の意味。

múa phûut-thǔŋ ..... ca núk-thǔŋ pay .....

～といえば、～を連想する（思い浮かべる、思い出す、…）。

múa phûut-thǔŋ ..... mǎay-khwaam-wáa .....

～といえば、～を意味する（～のことだ、～の意味だ）。

並列形式の「X といい Y といい」はタイ語では無条件の形式/mây-wáa ca pen X rǔu Y/にほぼ対応するが、これも主題提示のひとつと考えられるだろう。

mây-wáa ca pen lúuksāaw rǔu lúuk-chaay, .....

によらず FUT COUP 娘 か 息子

娘といい息子といい、（娘か息子であるかを問わず）……

mây-wáa ca pen khunna?phâap rǔu lúatlaay, .....

によらず FUT COPU 品質 か 模様

質といい柄といい、……

こうした事象の一端については次章でいささか詳しく述べる。

## 参考文献

- 佐藤雄一(2013)「名詞述語文「AはBだ」の種類と使用比率」、『国立国際研究』30 161-176
- 竹林一志(2004)『現代日本語における主部の本質と諸相』、くろしお出版
- 田中寛(2004)『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法5』第9巻とりたて、第10巻主題 くろしお出版
- 丹羽哲也(2006)『日本語の題目文』和泉書院
- 野田尚史(1996)『新日本語文法選書1「は」と「が」』くろしお出版
- 堀川智也(2012)『日本語の「主題」』ひつじ書房
- 益岡隆志・野田尚史・沼田善子編(1995)『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 益岡隆志編(2005)『主題の対照』くろしお出版
- 三上章(1960)『象は鼻が長い』くろしお出版
- Amara Prasithratsint(2000) What part of speech is nfi “this” in Thai  
*Grammatical Analysis Morphology, Syntax, and Semantics Studies in Honor of Stanley Starosta*, Edited by Videia P.De Guzman and Byron Bender 129-140  
 Universty of Hawaii Press, Honolulu
- Nawawaan Phanthumetha(1982) *Waiyakorn Thai* Bangkok Rungreuangarn
- Upakitsilpasaan(1968) *Lak Paasaa Thai* Bangkok Thai Watthanapanich

第I部 タイ語の主題と主語、題目語の諸問題〈第2章〉

タイ語における主題と主語についての一考察

【キーワード】 主題 主語 提題 題目と解説 トピック (話題)

1. はじめに

これまで筆者は日タイ語の対照研究という角度から、タイ語の統語的特徴の記述を遅々として進めてきたが、個々の文法現象の観察にとどまり、相互の連関は必ずしも明瞭とは言えず、タイ語の文構造の体系的解明にはなお多くの課題を残したままであった。〈点〉としての特有の現象を究明する作業にとどまり、それらの〈点〉と〈点〉を結んで〈線〉となし、さらに〈面〉へと発展させることの困難さは対照研究に共通した大きなハードルでもあるのだが、本章であつかう主題もさまざまな形態的特徴をもち、体系化することの困難さがあることは言うまでもない。したがって本考察も主題にかかわる研究ノート、もしくは導入の一領域でしかない。しかも日本語との対照、観察で得られたささやかな知見であることをお断りしておきたい。いずれ大量のデータから総括的なタイ語の主題、主語に関する研究がなされるときのための予備調査、試論になれば、と願っている。

そもそも主題という概念は言語によってそれぞれの特色があり、それは構文的特徴に大なり小なり反映される。文論のなかでも主題が、文の骨格となる格、ヴォイスの上位概念にあるのは、それが文の命題をまず上位決定するという大きな要素を有するからであろう。こうした背景から主題の研究は主部と述部の認定から品詞分類と体系化、類型論、普遍性と多様な議論の中核として、多くの言語でも絶えず議論されてきた。日本の言語学でも国語学史、言語学史の系譜の中で大きな領域を占めてきたことは周知の事実である。

主題は伝達すべき情報の焦点となる要素であり、事態はその「配下」(「勢力下」)において認識される。これは日本語では「ハ」による〈衆目喚起:「場」の共有〉に相当する現象と見なしてよい。ここで、主題にまつわる概念を列記してみよう。

**主題:** 「父と娘との葛藤を主題とした小説」、あるいは映画の「主題歌」、「主題曲」、などと用いるように、中心となる題目、問題を意味する。ある一定の文脈、場面において中心、核となる事柄である。トピック、テーマとも重なる。

**命題:** 論証すべきもの、肯定命題、仮言命題、同一命題、定言命題、同一否定命題、選言命題、単称・全称命題など、論理学にも独自の解釈があるが、言語学では一般にモダリティ(「言表態度」もしくは「心的姿勢」)に対する概念として記述や分析の対象となる文法研究のための素材(言表事態)をさすことが多い。

**提題:** 論証によって真偽が確定されるべき命題。主張、定立、テーゼ、論題で、焦点

となっているものを情報の新旧にもとづいて提示するもので、ある一定の内容の前提的な表示ともなる。文の「卓立」、整合性とも関わる。同時にコミュニケーションの立場から優先的な情報の管理ということが念頭に置かれる。

**題目**：伝統的な国語学、言語学では X という言及すべき対象があり、それを題目と見なしてそれについての Y という解説が等価的に導かれる。この相関が意味的な関係を形成し、ひとつの完結した叙述世界を提示する。その意味では提題と似て非なるもので、提題が動的であるのに対し、題目は既存の、静態的な性格が付与される。なお、注意すべきは提題も題目も適切な英訳語がないことである。このほかにも<話題>、<題材>といった概念も加わることになる。

このように、主題の周縁には混沌とした言語世界を切り取るための装置としてさまざまな概念が設定され、記述されていくのだが、当該言語の統語的特徴によって、おのずとその概念も考察のアプローチも異なってくる。当然ながら対照研究のなかでも最も錯綜して多様性に満ちた言語現象といわねばならない。

文の成分の解釈は発話意図、表現意図によって、文脈によって変移する。ここでは文小論の角度から佐久間まゆみの解説を少し長くなるが、引用する(中村明他編『日本語文章・文体・表現辞典』朝倉書店 2011、「主題」の項)。

文章・談話の中で述べようとする、または、述べられた最も中心的な事柄、最も重要な考えや主張のことである。それを具体化したものを「話題」、その元になる材料を「題材」という。(82頁)

このように述べ、土部弘『文章表現の機構』(くろしお出版 1973)と平井昌夫『何でもわかる文章の百科事典』(三省堂 1984)の主要な主張を要約している。

土部(1973)は、「文章作品の主要な意味内容を表す」「主題(テーマ)」「話題(トピック)」「題目(サブジェクト)」という三事項には、[ (題目) 話題 | 主題 ] という関連性があると規定した。また、「題材」の中心が「話題」であるという。

平井(1984)は、「主題(theme)」「主張(assertion)」「話題(topic)」「モチーフ(motif)」などをまとめて、「中心思想(central idea)」とよぶが、「中心となる考え」という意味だという。「主題がさらに具体化される」と、「話題」になり、その実際の材料・素材が「題材」で、「表現内容のあらわれ」だと規定している。(同頁)

一方、文芸や表現論における「主題」の解釈があり、中心文といった概念とも抵触する。日本語学における文の構造においては、次のように規定している。

近年、構文論では文の「主題」「主語」「主格」を区別して、「談話の主題」に言及するようになった。「文の主題」とは、「話題」「小主題」「トピック」など、係助詞の「ハ」を伴う名詞句を指すが、日本語には、他にも様々な「提題表現」があり、未解決の課

題も少なくない。(同頁)

つまり、大きくは主題、次に主部、主語というように、文という単位は{主題[主部(主語)]・{述部(述語)}}という層状をなし、焦点化が構成されるわけで、そのとらえかたは言語の形態によって一様でないことは明らかである。タイ語の場合も多種多様な現象の記述は容易ではないが、日本語との対照からいくつかの重要な知見を得ることは期待されてよい。さらに佐久間は「提題表現」とは「ハ」以外にも「とは」「なんか」「なんて」「としては」「といえば」「なら」「ときたら」などを指している。さらに砂川有里子(2005)の解説なども援用しつつ、以下のように述べている。

「談話の主題(discourse topic)」を「文の主題の複合」や「談話の主題の階層構造」とする立場もあるが、文段の「中心文」や「文章の主題」と同様に、話題の統括機能から話段の「多重構造」の観点から解明する必要がある。(同頁)

こうした背景から主題の研究にあたってはマクロ的(俯瞰的な考察)に見ると同時にミクロ的な視点(個別的な考察)が必要で、これまでの主題論、提題論の遺産を継承しつつ、より機能的な側面からの解明を促している。

ちなみに日本語教育では次のような「ハ」の導入の流れが見られるが、こうした「ハ(ガ)」の意味機能はけっして一律的に解釈されるものではない。また、教授場面でも峻別する指導はほとんど工夫されていないのが現状であろう。

- (1) a. あの人はタイ人です。(人物の一致不一致)
- b. これはICレコーダーです。ここは会議室です。(事物/場所の一致不一致)
- c. 郵便局はあそこにある。/あそこに郵便局がある。(所在/存在表現)
- d. 「クール」は日本語で何ですか。(題目、解説)
- e. 旅行は面白かったです。(題目、解説)
- f. 朝御飯はパンとサラダを食べました。(題目、解説)
- g. 口で言うのは易しいが行うのは難しい。(取り立て、対比)

このように主題のとらえ方によってさまざまなフォーカスが生じるが、本章では最も基本的な構造において、つまり日本語の「ハ」に相応するものとして、タイ語の成分を観察することを出発点とする。そこから見えてくるものについてはさらに精査が必要なことは言うまでもないが、まずはラフなデッサンからということから始めたい。したがって、以下ではタイ語の主題、あるいは主題や題目と見なされる事象についての記述的散論ないし試論にとどまる。主部がどういう位置に立ち、述部に対してどういうふるまいをするかという観点からの一考察である。こうした記述的研究は必ずしもタイ語学研究でも進んでいる状況とはいえ、研究のアプローチも定かではないが、以下では用例にあらわれたいくつかの事象を手掛かりに考えてみたい。

## 2. 動詞句の主題提示機能(1)

前章では人物、事物、場所、事態などの名詞や時間名詞が主題となったケースを概観したが<sup>2)</sup>、本章では主題となる主部が主に文レベルのものを扱う。

タイ語では前文全体が節となって、後文の主文に対する主題的な機能を担う現象がしばしば観察される。主題を表示する特定のマーカーを有する場合と有しない場合とがあり、この点は母語の干渉を生み出し、言語習得（ここでは日本語習得）に誤用の影響をもたらす背景ともなり得る。以下では、無標のケースに応じて観察する。

## 2.1 無標動詞句による主題提示

まず、動詞句がはだかの形、つまり動詞文全体が擬似的な名詞句のような性格に転じて主題的な機能を呈するケースをみてみよう。

動詞句が直接文頭におかれる場合、解説部分の前には通常短いポーズが置かれる。(2)では「行く／今」の語順であるが、意味的には複文構造の前件を指示し、「今行くことは」ないし「今行っても」という、主節をみちびく従属節（または逆条件節）になりうる。前章と同様、タイ語、日本語ともに主題成分の範囲を[]で括ってあらわす<sup>3)</sup>。

(2) [pay tɔɔn-nii] yaŋ ca than mǎy?

行く 今 まだ FUT 間に合う Q

[今から {行ったら/行っても}] 間に合いますか。

(3) [pay tɔɔn-nii] khít wāa khəŋ mǎy than léew láʔ.

行く 今 思う COMP [推] NEG 間に合う PERF 強調

[今から {行ったのでは/行っても}] 間に合わないだろうと思います。

(4)は複数の選択肢のなかで言及されるであろう、「海へ行く」という行為を提示している。主部を条件節に見立てて「[海へ行ったら] どうですか」とも解釈される。一種の提案の道具立てであり、(5)の「ここに預ける」という行為の提示、提案文をなしている。

(4) [pay thalee] dii mǎy khá?

行く 海 良い Q FPP

[海へ行くのは] どうですか?

(5) [fǎak thiiinii] plòtphay.

預ける ここ 安全だ

[ここに預けたほうが] 安全です。 cf. 預けるのが安全です。

(6)は「歯を治療する」という動詞句が名詞句化して「歯を治療すること」ないし「歯の治療」という擬似的な名詞句となっている。これは、タイ人日本語学習者には「\*歯の治療をします、も、会社の～」のように単文二文構成の述べ方になるケースが多い。

(6) [tham fan] kǎw rúam yùu nay khāa-ráksǎa-phayaabaan khǎŋ bǔorisát.

する 歯 も 含む ている 中 医療保険代 の 会社

[歯の治療も] 会社の医療保険に含まれています。

(7)は[千パーツ以上の買物をすれば]のように条件節として解釈されることもある。

(7) [súuu sǐŋkháa nùŋ-phan-bàat khûn-pay], ca dâay sǔan-lót hâa pəəʔsen.

買う 商品 千パーツ 以上 FUT [可] 割引する 5 %

[千パーツ以上の買物は]、5%の割引きになる。

(8)も「あなたは生産管理の仕事を何年ぐらいしてきて／何年になりますか」のように題目、解説を分割することが可能である。

(8) [khun thamŋaan dâaŋ khûapkhum kaan-phalít maa] kii-pii læw?

PRO 働く 方面 管理する こと・生産する 来る 何年 PERF

[生産管理の仕事は] 何年ぐらいになりますか。

⇔ あなたは生産管理の仕事を何年ぐらいしてきましたか。

(9)では主文に認識のモダリティ助動詞が置かれており、あたかも文の統合的な機能としての機能を賦与され、主部と述部の境界をより明瞭にしている。

(9) [àan phaasǎa-thay] khon ca nǎay.

読む タイ語 [推] FUT 易しい

[タイ語を読むのは] 易しいでしょう。

(10)も広義の構造において二重主語文の範疇に属する。

(10) [khǎw phûut phaasǎa-thay] kəŋ mâak.

PRO 話す タイ語 上手 大変

[彼はタイ語を話すのが] 上手だ。cf. 彼は上手にタイ語を話す。

(11) [khun tham yàaŋnǐi] kôo thâw kàp wâa khun mây dâay rák khǎw læw.

PRO する このように も 等しいと COMP PRO NEG [可] 愛する PRO 全く

[あなたがこんなことをするとは] 彼女を愛していないというのに等しい。

(11)は日本語の「とは」「なんて」に相応する言い方である。/kôo/は中国語の「就」「才」に似た働きがあり、前文内容を受けて統括するような述べ方になっている。(12)の/taam/は動詞「従う」「沿う」などの実質的な意味が文法化して「～によれば」という節構造を導くが、一種の主題提示（「タイの伝統では」）を担うものと見なされるだろう。

(12) [taam praʔphenii thay] dèk tōŋ chûa faŋ phûu-yàay

従う 伝統 タイ 子供 [義] 信じる 聞く 大人

[タイの伝統 {によれば／では} ]、子は大人の言うことを聞かねばならない。

## 2.2 疑問節による主題提示

補文節の一種である疑問節が主部にあらわれた場合をみてみよう。

(13) [khăw chûu aray] kôo mây sâap.

PRO 名乗る 何 も NEG 存じる

[彼の名前は何と言うか(は)] 存じません。

(14) mây sâap wâa [khăw ca maa rûu-plàaw].

NEG 知る COMP PRO FUT 来る Q

[あの人は来るかどうか(は)] 分かりません。

(15) pròot sùupduu hây nêe-chát wâa [rúuŋ nán pen khwaam-cij rûu].

下さい 調べる CAUS 確かな COMP 話 その COPU 真実 Q

[その話は本当か(どうか)(を)] 確かめてください。

(16) yaŋ mây mii khray bòok dâi wâa [naayók-rátthamontriïi khon tòo-pay]

まだ NEG ある 誰 言う [可] COMP 首相 人 次の

khuu khray.

COPU 誰

[次の首相は誰かということと言える人は] まだ誰もいません。

(16)では引用節内が主部となっている。いずれも主題的機能を担った例である。

日本語では間接疑問文全体が主題となり、それが主文と相関関係にあることを意味する構造として、「X かどうかは Y かどうか {にかかっている/による/次第だ}」、または「X (疑問詞) かは Y かどうか {にかかっている/による/次第だ}」があるが、これもタイ語では(17)のように前件を/khûm yùu kàp wâa/「による」で受けて表すことが出来る。

(17) [ŋaan-níi ca samrèt rûu mây] khûm yùu kàp wâa khray ca

仕事・この FUT 成功する Q NEG 抛る ている と COMP 誰 FUT

pen khon-rápphitchôp.

COPU 責任者

[この仕事が成功するかどうかは] 誰が責任者になるかということにかかっている。

## 3. 動詞文の主題提示機能(2)

### 3.1 有標の形式的な名詞による主題提示

事態を取り立てて提示する場合、事態を文頭に提示して、話し手と聞き手の共有の中心情報とする際に、/rúuŋ/が文頭に来る場合が多い。日本語では「話」「件」という意味に相当する。まず、単独の名詞としてあらわれる場合は、実質的な話の内容である。

(18) [rúuŋ-nán pen khwaam-cij rûu] pròot sùupduu hây nêe-chát.

話-その COPU 真実 Q 下さい 調べる CAUS 確かな



[その話は] 本当ですか、確かめてください。

(19) [rúaŋ ní] phǒm ca càtkaan eej.

話 この PRO FUT 措置する 自分で

[この件は] 私がやっておきます。

一方、/rúaŋ/ があとに名詞句や文を続けるとき、実質的な意味は薄れ、「に関して」「については」「の件は」といった主題提示の機能を担うことになる。(23)のように/rúaŋ thîi/の形をとることもある。

(20) [rúaŋ sòŋ khon pay òp?rom thîi yîpùn] samnákŋaan-yàt tòk-loŋ léew ná.

件 送る 人 行く 研修する で 日本 本社 了解する PERF [終]

[社員を日本に研修に行かせる件(は)], 本社はOKとってくれたよ。

(21) [rúaŋ bay-sa?nèe-raakhaa], phǒm ca tham raay-la-yiat maa màt khráp.

件 見積書 PRO FUT 作る 詳細な 来る 新しい MPP

[見積書の件(は)については] もっと詳しく作ります。

(22) [rúaŋ khûm ra?bòp màt], yaŋ màt sèt ?iik rûu?

件 なる 段階 新しい まだ NEG 終わる あと Q

[新しいシステムへの切り替え(は)については] まだ終わっていないのですか。

(23) [rúaŋ thîi kháw lâw múa-kii], phǒm màt chûa læy.

件 REL PRO 語る さっき PRO NEG 信じる 全く

[彼がさっき言ったこと(は)] 私は全く信じていない。

(24)のように/khêe/が形式副詞「だけ」相応成分として文頭に位置するとき、日本語の「〜ぐらいで (は)」のように程度を条件的主題として提示することになる。

(24) [khêe ?òkhák] róngŋhâŋ thammay?

だけ 失恋する 泣く 何故

[失恋したぐらいで] 泣いてどうする。cf. 失恋しただけでどうして泣くの？

### 3.2 原因理由と結果—接続詞のように用いられる/thamhây/—

動詞句が比較的大きな主題句となって、前件と後件との因果関係をあらわすことがある。その場合、本来使役の意味をもつ助動詞が接続詞的な機能を担って、後件をみちびくことになる。これを結果招来の/thamhây/と称する<sup>4)</sup>。

(25) [sètthakit màt dii] thamhây kaan-sòŋ-òk lót loŋ.

経済 NEG いい CAUS 輸出 減る なる

[不景気で]輸出が減ってしまった。(直訳：不景気が輸出を減らせてしまった)

(26) [sawàtdikaan khòŋ boorisát nán màt-khòy dii]

福利厚生 の 会社 その NEG-あまり いい

thamhày phanáknaan laa-ʔòok pay.

CAUS 社員 辞める 行く

[あの会社の福利厚生はあまりよくないので] 社員はよく辞めていく。

(直訳：あの会社の福利厚生はあまりよくないことが社員をよく辞めて行かせる)

(27) [phôo taamcay lúuk] thamhây lúuk sǎa dèk ʔaw-têe cay tua-eeŋ.

父親 甘やかす 子供 CAUS 子供 駄目な 子供 ばかり 心 自身

[父親が子供のいいなりになると] 子供はだめになり、わがままになる。

なお、次のような使役助動詞/hây/も同様の機能を担うものと解される。主題提示部分の後には短いポーズがおかれる。

(28) [khun maa sǎay lǎay-khráŋ yàaŋ-ní] hây aʔphay mây-dây.

PRO 来る 遅い 何回も こんなに CAUS 許す NEG-[可]

[あなたがこのように何回も遅れて来るのは] 許せない。

#### 4. 動詞文の主題提示機能 (3)

##### 4.1 目的表現と主題提示 (1)

ここでは目的表現が主題的に述べられるケースをみてみよう。動詞文が主題の位置に定位するとき、しばしば目的内容を意図することがある。日本語の「のに」「には」「ためには」などの文に相当する<sup>9)</sup>。タイ人日本語学習者の中には以下のタイ語の母語干渉から「ホテルへ行くのは」「帰宅するのは」などの言い方になることが多い。

(29) [pay rooŋrɛɛm] thâwray?

行く ホテル 幾ら

[ホテルへ行くの(には)／には] 幾らですか。⇔ ホテルへは幾らで行きますか。

(30) [thúk-wan klàp báan] sǎa weelaa sǒŋ chûamoŋ kwàa.

毎日 帰る 家 かかる 時間 2 時間 以上

[毎日帰宅するのに] 2時間以上かかります。

(30)の例では主部と述部は以下のように示される。

(31) **主部** thúk-wan klàp báan 「毎日帰宅すること」 : 習慣的事態

**述部** sǎa weelaa sǒŋ chûamoŋ kwàa 「2時間かかる」 : 想定的事態。

日本語では上記主部は複文範疇の目的節であらわされるのが、タイ語では主題として置かれているのが特徴的である。次も日本語では目的構文(「にも」と見なされるものである。

(32) [tháj kin tháj thiaw] sǎa ɲən mâak.

も 食べる も 遊ぶ かかる お金 払山

[食事をするにも遊ぶにも] お金がかかる。

これも主部と述部は次のように示される。

- (33) **主部** tháj kin tháj tháiw 「食べるのも遊ぶのも」 : 命題的事態  
**述部** sǎa nɛn máak 「たくさんお金がかかる」 : 解説的事態

/thájA(lé?)B/で「AもBも」という副詞節をなすが、ここでは動詞/kin/「食べる」、/tháiw/「遊ぶ」がそれぞれ「食べること」「遊ぶこと」という名詞的な扱いになっている。

- (34) [pay nakhoonphanóm] cɔɔŋ tua thii-nǎy?  
 行く ナコンパノム 予約する 切符 どこ  
 [ナコンパノムへ行く {のに/には}] どこで予約しますか。

これも主部と述部は次のように示される。

- (35) **主部** pay nakhoonphanóm 「ナコンパノムへ行く (こと)」 : 題目的事態  
**述部** cɔɔŋ tua thii-nǎy 「どこで予約するか」 : 展開的事態

比較的出現頻度の高い移動や移送にまつわる文例にあらわれる主題、主部の諸相をみてみよう。主部を明示する手段として終助詞/ná/を間投助詞的に主部のあとに置くことがある。次の例では「[競技場へはですね]」といった題目提示的な言い方である。

- (36) [sanāamkilaa ná] pay thaang-nǎy?  
 競技場 [終] 行く どちら  
 [競技場へは] どちらのほうへ行きますか。

あるいは、次のように主部動詞を繰り返す言い方もある。「動物園へ行きますが、どうやって行きますか」が文字通りの訳である。

- (37) [pay sǎan-sát] pay yaŋŋay?  
 行く 動物園 行く どう  
 [動物園へ行くには] どうやって行きますか。
- (38) [pay sǐŋkhapoo dooy khruaŋ-bin] cháŋ weelaa raw sǔɔŋ-chúamooŋ.  
 行く シンガポール で 飛行機 使う 時間 大体 2時間  
 [シンガポールへ行くのには] 飛行機で2時間ぐらいかかります。
- (39) [cáak thiiŋi pay thonburii] pay dūay rúa ná rew thiiisút.  
 から ここ 行く トンブリ 行く で 船 [終] 速い 一番  
 [ここからトンブリに行く(の)には] 船で行くのが一番速いです。

動詞句がそのまま前文としておかれ、主題的な機能を呈する場合、前後の意味関係から目的を意図することがある。次は移送の場合である。(40)は「[航空便で送るには]いくらかかりますか」のようにも解釈される。

(40) [sòŋ pòotsakáat pay yîpùn] thâwray?

送る 葉書 行く 日本 いくら

[葉書を日本へ送るのに] いくらかかりますか。

日本語の「ためには」「ようには」「には」のように目的をあらわす事態が文頭に提示される場合、前置詞の/phûa/,/phûa thîi ca/を用いる。

(41) [phûa thîi ca dâi mây sîa-thîaw] khun khuan-ca thoorasàp maa

ため REL FUT [可] NEG 無駄足 PRO [当] 電話する 来る

nát ?aw-wáy kòon.

約束する ておく まず

[無駄足にならぬようにするためには]まず貴方は電話で会う約束をしておくべきだ。

前置詞を用いる代わりに文中に thîi-ca を用いるケースがある。

(42) khâw kèe kæn-pay [thîi ca thamŋaan tò-pay].

PRO 老いた 過ぎる REL FUT 働く 続ける

彼は [今後仕事を続けるには] 歳をとり過ぎている。

#### 4.2 目的表現と主題提示—/nay-kaan/の用法—

「ことにおいて」のように比較的フォーマルな言い方として、/nay-kaan/を文頭において目的事態を明示することもある。

(43) phaahaná? praphêet day ca sa?dùak thîisùt [nay-kaan dæn-thaan

乗物 種類 どの FUT 便利 一番 中 こと 旅行する

càak krupthêep thūŋ chianmây].

から バンコク まで チェンマイ

[バンコクからチェンマイへ行くのに] 何が一番便利ですか。

(44) [nay-kaan thoo phâa-mâay khwaam-yaaw 1 méet nîi] cháŋ weelaa 2 wan.

中 こと 織る 絹 長さ 1 ね この 使う 時間 2 日

[この絹を1メートル織るのに] 二日かかる。

/nay-kaan/は文字通り「～において」という事態や行為の内容をあらわす機能辞の一種で、文中にも置かれるが、この場合、上記例の「には」「のには」の目的提示に対して「のに」に対応する傾向がある。

(45) khon-yîpùn cháŋ ta?kiap [nay-kaan rápprathaan ?aahāan].

日本人 使う 箸 中-こと 食べる 料理

日本人は [ご飯を食べるのに] 箸を使う。

## 5. 「ことは」「のは」に対応するタイ語表現

### 5.1 名詞化接辞/kaan-/動詞句による主題提示

/kaan-/はタイ語の名詞化接辞で、動詞句を名詞句化する。名詞句化された内容の範囲を明示するために、指示詞/nán/または間投助詞/ná/を主題表示として添えることが多い。

(46) [kaan phûut nán] n̄ây t̄è [kaan kraʔtham nán] yâak.

こと 話す それ 易しい CONJ こと 行う それ 難しい

[言うことは] 易しいが、[行うことは] 難しい。

(47) [kaan rian ʔaksɔ̄n Ȳipùn ná] yâak m̄yʔ

こと 学ぶ 文字 日本 [終] 難しい Q

[日本の文字を学ぶのは] 難しいですか。

(48a)(48b)のように/kaan-/句全体が主部となって、前述の/thamhây/を用いて可能結果を導きながら、一種の条件文の趣をなすことがある<sup>6)</sup>。

(48) a. [kaan rian phaas̄a-t̄ān-prath̄èet] ca thamhây k̄è loj cháa d̄ây.

こと 学ぶ 外国語 FUT CAUS 老いる なる 遅い [可]

[外国語を勉強すると]、老化を遅くすることができる。

b. [kaan thaan l̄aw ȳān ph̄ō-m̄óʔ] thamhây khlaay khwaam-khriat d̄ây b̄ān.

こと 飲む 酒 適当に CAUS 解消する ストレス [可] 幾らか

[適度にお酒を飲むことで]、ストレスを多少は解消することができる。

### 5.2 /thii/による主題提示

「残念なことに (は)」などの文副詞があたかも話題の提示のように用いられることがあるが、タイ語では/thii/を用いて「とても残念なことは」のような言い方に対応する。この/thii/は「Xであること」のような名詞化の働きをする<sup>7)</sup>。

(49) [thii síacay m̄aak] khuuu m̄ây mii khray kh̄awcay ph̄om

REL 残念 大変 COPU NEG ある 誰 分かる PRO

[とても残念なことは/とても残念なことには] 誰も僕を信用してくれないことだ。

/thii/は「XのはYからだ」のように、前文で結果を、後文で説明をほどこす言い方がある。同じく/thii/は名詞化標識として機能する。後文では/k̄ō phr̄óʔ-w̄aa/、/pen phr̄óʔ-w̄aa/で前文を受けることになる。

(50) [thii thaan kh̄aw k̄ōn] k̄ō phr̄óʔ-w̄aa h̄īw.

REL 食べる 御飯 先に も なぜなら 腹が空く

[先に食事をしたのは] お腹が空いていたからだ。

(51) [thii kh̄aw s̄ōp t̄ok] pen phr̄óʔ-w̄aa m̄ây d̄ây duu n̄āns̄úu.

REL PRO 試験 落ちる COPU なぜなら NEG PAS 見る 本  
 [彼が試験に落ちたのは] 勉強しなかったからだ。

/thii/はまた、次の例のように後置されて、「昨日電話をかけてきたのは」のように人を名詞化する言い方もある。日本語では倒置文の様相を呈する。(52)(53)(54)は後方配置、(55)は前方配置の例であるが、前者のほうがむしろ口語的である。

(52) chây khun rǔu-plàaw khá [thii thoo maa múa-waanní].

そうだ PRO Q FPP REL 電話する 来る 昨日

[昨日電話してきたのは] あなたですか。

(53) khun khon-diaw thâwnán [thii phǒm rák sùt hǔacay].

PRO 一人だけ たった REL PRO 愛する 一番 心

[僕が心底愛しているのは] あなた一人だけです。

(54) cam wáy thii wáa tua-eej thaw-nán [thii ca phǔng dáy].

覚える ておく REL COMP 自身 だけ REL FUT 頼る [可]

[頼れるのは] 自分だけだということを覚えておこう。

(55) [thii phǒm phúut] faj ?òok mǎy khráp?

REL PRO 話す 聞く 出る Q MPP

[私の話すこと(が)]、聞いて分かりますか。

## 6. 選択指示文における主題提示

### 6.1 平叙文における選択指示文

比較文において、提示される事態が主題の性格をつよく持ち出すことがある。これは比較する対象を話し手、聞き手ともに共有の情報として提示するためで、動詞句がそのまま比較対象として述べられる。次の例は「車で行く」と「汽車で行く」ことを比較した文である。(57)のように形容詞も同様の機能を呈する。「暑いのが寒いよりいい」のようにこれも名詞化された句と考えられる。

(56) [dǎn pay] dii kwàa nǎj rǒtthéksii.

歩く 行く いい より 乗る タクシー

[歩いて行ったほうが] タクシーで行くよりもいい。

(57) [róon] dii kwàa nǎaw

暑い 良い より 寒い

[暑いほうが] 寒いよりいい。

(58) [kan wáy] dii kwàa kêe.

予防する ておく 良い より 治す

[予防は] 治療にまさる。[諺] (「予防することが治療することよりもいい」)

(59) [ʔàan léʔ khǎan] nǎay kwàa phúut.

読む と 書く 易しい より 話す

[読み書きのほうが] 話すのより易しい。

(60) [súuu thii yìipùn] pheej kwàa súuu thii muaŋ-thay læay-thâw.

買う で 日本 高い より 買う で タイ 何倍も

[日本で買う方が] タイで買うよりも何倍も高い。

(57)の「暑い」「寒い」の形容詞が名詞的な成分であったように、いずれも動詞句は無標のはだかのままで名詞句としての機能を有する。(58)は動詞がそれぞれ「予防」「治療」のように名詞として、(59)も「読む(こと)と書く(こと)」が「読み書き」「会話」のように名詞に転じている。これはタイ語の品詞が文中で決定されることを意味している。(61)では実際は「生のまま食べたなら栄養がある」のように条件・帰結文になっているが、「生のまま食べる」ことを比較対象として持ち出したものである。

(61) [phàk] [thaa thaan sòt-sòt] ca mii khunkháa thaan ʔaahāan mâak kwàa.

野菜 もし 食べる 生の FUT ある 価値 食べる 料理 大変 より

[野菜は] [生のまま食べたほうが] 栄養がある。

比較に準ずる言い方もあげておく。(62),(63)は日本語の「XはYほどZではない」に準ずる。否定辞/mây/以下は副詞句的な成分であるが、結果としてそれぞれ「彼女は走る」、「僕はお金がある」が主部として提示され、否定辞/mây/以下は述部的な構造を呈する。

(62) [khāw wīŋ] mây rew thāw dichān.

PRO 走る NEG 速い 等しい PRO

[彼女は走るのが] 私ほど速くない。

(63) [phǒm mii ɣən] mây mâak thāw nǒŋsāao.

PRO ある お金 NEG 沢山 等しい 妹

[僕は] 妹ほど金を持っていない。僕の所持金は妹ほど多くない。

⇨ 僕はお金を持っているが、妹ほど多くない。

(64) [pay rôt] mây rew mǔan pay rôt-fay.

行く 車 NEG 速い 同じ 行く 汽車

[車で行くのは] 汽車で行くよりは速くない。

## 6.2 質問文における比較選択文

比較質問文では(65)名詞句の比較「XとYとでは」は次のように<X kàp Y>であらわされる。(66)の動詞文もそのまま提示されることが多い。

(65) [aahāan-thay kàp aahāan-ciin] khun chōp yàaŋ-nāy mâak kwàa kan?

タイ料理 と 中華料理 PRO 好き どれ 大変 より 互いに

[タイ料理と中華料理とでは] どちらが好きですか。

(66) [pay rǒtmee kàp dǎen pay] yàaŋ-nǎy ca rew kwàa khráp?

行く バス と 歩く 行く      どちら FUT 速い より MPP

[バスで行くのと歩いて行くのと (では) ] どちらが速いですか?

「～の間では」という比較範囲を明示したいときには文頭に/raʔwàaŋ/を置くことがあるが、名詞句、動詞句いずれの比較対象句も前掲される。前提句「X と Y とでは」のような構文と対照されるが、タイ語では動詞句にはそれぞれ/kaan-/を冠する必要がある。同じく動詞句を比較した(66)と比べた場合、(68)はフォーマルな印象を与える。

(67) [raʔwàaŋ rǒt-máy kàp rǒt-cháy-léew] yàaŋ-nǎy pen thǐi

間            新車      と      中古車                      どちら      COPU REL

tǒŋkaan mâak kwàa kan ná?

要る      多い      より      互いに [終]

[新車と中古車とでは] どちらが必要がありますか。

(68)[raʔwàaŋ kaan thátsanaacǒn kàp kaan súu khǒŋ]

間            こと      見物する                      と      こと      買う      物

yàaŋ-nǎy saʔnùk kwàa kan?

どちら      楽しい      より      互いに

[見物するのと買物するのとでは] どちらがより楽しいですか。

## 7. 前置詞/sǎmràp/を用いた主題表示

タイ語の顕著な前置詞である/sǎmràp/が文頭に位置した場合、主題提示の機能を強く担うことが多い。まず、名詞句に前接する場合である。資格、立場を強調する特徴があり、おおむね日本語の「にとって (は)」に対応する。なお「にとって」は後述再掲する。

(69) [sǎmràp khǎw] lúuk léʔ phanrayaa sǎmkhan thǐisùt.

にとって PRO      子供 と 妻                      重要な      一番

[彼にとっては] 子供と妻が一番大切だ。

(70) [sǎmràp khon-yǐipùn] kaan-ʔòk-sǎaŋ phaasǎa-thay yáak mâak

にとって      日本人                      発音                      タイ語                      難しい      大変

[日本人にとっては]タイ語の発音はとても難しい。

(71) ʔaahǎan-yǐipùn cùut pay [sǎmràp khon-thay]

日本料理                      薄い      過ぎる      にとって      タイ人

[タイ人にとっては]日本料理は味が薄すぎる。

(71)のように/sǎmràp/以下が後方に置かれることがあるが、意味上は変化がない。(71),(72)は、日本語のいわゆる二重主語文に相当する。また、文頭において/sǎmràp … léew/の形式になることも少なくない。



(72) [sǎmràp dichán léew] nɛn mây chây sɨŋ thîi sǎmkhan thîisùt nay chiiwít.

にとって PRO PERF お金 NEG そう もの REL 重要な 一番 中 人生

[私にとっては] お金は人生で一番大切なものではない。

なお、(73)の文も十分に主題を明示するが、

(73) [ŋaən thaleen khàaw phrûŋnîi] chûay triam tua-yàaŋ sɨŋkháa pay yóʔ-yéʔ ná.

行事 会見 ニュース 明日 て下さい 準備する サンプル 商品 行く 沢山 [終]

[明日の記者会見は]、商品のサンプルを沢山用意して行ってください。

(74) のように文頭に/sǎmràp/「については」が置かれることが少なくない。

(74) sǎmràp ŋaən thaleen khàaw phrûŋnîi chûay triam tua-yàaŋ sɨŋkháa

にとって 行事 会見 ニュース 明日 て下さい 準備する サンプル 商品

pay yóʔ-yéʔ ná.

行く 多い [終]

次のように/sǎmràp/の後に動詞文が続くこともあるが、その場合は名詞化接辞の/kaan-/を前接する必要がある。前掲/phúua/と同様に「ためには」という適合目的をあらわす。

(75) [sǎmràp kaan phátthanaa prathêet léew], kaan sùksǎa sǎmkhan thîisùt.

にとって こと 発展する 国家 PERF こと 教育する 重要な 一番

[国を発展させるためには]、教育することが一番重要である。

なお、/sǎmràp/には使用限定をあらわす用法があるが、この場合は後方に置かれるのが普通で、名詞主語文とともに用いられる。

(76) [mîit nîi] cháy sǎmràp pòok phõnlamáay thâw-nán.

ナイフ-この 使う 用の 剥く 果物 だけ

このナイフは果物を剥くのにだけ使います。(果物用のナイフ)

## 8. 主題提示用法とそれに対応するタイ語表現

タイ語の主題、主語の本質、構造を考える際に、本節では日本語の主題提示用法を参考に対照させてみたい。主題と主題提示とはいくつかの点で異なる。一つは婉曲的な提示である。もう一つは関連的な発想に依拠するもので、連想的、文脈的な提示といってよいものである。以下、日本語に対応するタイ語表現の構文的特徴を考察してみたい<sup>8)</sup>。

### 8.1 判断の立場、評価の基準

#### (1) 「N にとって」

主体の存在、主張の立場をあらわす。タイ語では一般に前置詞/sǎmràp/で表される。「からみて」/duu càak … léew/も同様の意味を表す。

(77) a. [現代人にとって]、ゴミをどう処理するかは大きな問題です。[表]

[sǎmràp phǎu-khon nay pàtcuban] ca càtkaan kàp kha?yá yàaŋray  
 にとって 人 の 現代 FUT 処理する と ゴミ どう  
 pen panhǎa yà  
 COPU 問題 大きい

b. 車は[わたしにとって]、作家にとってのペンのようなものだ。[表]

[sǎmràp chán] rǒtyon pen siŋ thǐi priap dǎy  
 にとって PRO 車 COPU もの REL 比べる [可]  
 raaw kàp pàakkaa sǎmràp nàkkhǎan  
 まるで と ペン にとって 作家

c. [あの態度からみて]、… [文]

[duu càak thǎa-thaaj nán léew], …  
 見る から 様子 あの PREF

(2) 「Nとして(は)」

資格、立場を表す言い方で、準主題化、補足主題化というべき形式である。日本語では「は」の有無があるが、タイ語では/sǎmràp/で表される。

(78) a. 問題については、[私としては]、特に意見はありません。[表]

[sǎmràp chán] mây mii khwaam-khít-hěn pen phí?sèet  
 にとって PRO NEG ある 意見 COPU 特別な  
 kiaw kàp panhǎa ní  
 関する と 問題 この

b. [工場管理者として]、彼は今回の自己の責任をとって辞職した。[表]

[nay thaa?ná phǎu-duulee roŋjaan] kháw laa-?òòk  
 で 地位 管理者 工場 PRO 退職する  
 phúaa sa?dæŋ khwaam-rápphitchôp tǒo ?ubàttihèet khráŋ-ní  
 ために 表す 責任 に 事故 今回

(3) 「Nについては」「Nに関しては」

タイ語では文頭に/kiaw kàp/を用いて表される。/rúuaŋ/をとともなう点に注意したい。日本語では「につきましては」「に関しましては」の丁寧形があるが、タイ語にはその区別がない。音調や声の高低、表情などによって表される。

(79) a. [地震災害に関しては]、…… [文]

[kiaw kàp rúuaŋ phay-phí?bàti càak phèendinwǎy nán] ……  
 関する と 話 災害 から 地震 それ

b. [その点につきましては]、… [文]

[kiaw kàp rúaŋ-ní] ……

関する と 話-この

## 8.2 話題、取り立て、連想

(1) 「N/S とは」 「N/S なんて」

題目提示の「とは」は /thūi riak wâa/, /kham wâa/ など で表されるが、定義以外では意外性などを表す場合は、対象をそのまま差し出すことで、主題提示となる。

(80) a. 私にとって[家族とは]一体何なのだろうか。 [文]

sămràp chán [kham wâa khrôp khura] khuu aray kan nê ná

にとって PRO 語 COMP 家族 COPU 何 合う 確かな [終]

b. [全員そろって授業をさぼるとは]、… [文]

[dòt rian kan mòt thúk-khon læy] …

さぼる 勉強 合う 全部 各人 全く

言及する対象について、軽視軽蔑の意識で取りたてていう場合、タイ語ではとくに対応する形式はないが、主部の末尾に疑念を表す /rǎə/ を用いて、「…真面目に働くのか」のように、間接疑問文の構文で表すこともある。

(81) a. [そんな馬鹿げた話なんて] だれも信じませんよ。 [文]

[rúaŋ baa-bəə aray yàaŋ-nán] mây mii khray chúa ròk

話 馬鹿な 何 そのような NEG ある 誰 信じる 全然

b. [こんな安い給料で真面目に働くなんて] 馬鹿らしい。 [文]

[ŋən-duan thùuk-thùuk yàaŋ-ní yàŋ kha?yǎn thamŋaan ?iik rǎə] ŋəu cingcin

月給 安い ように まだ 真面目に 働く あと Q 馬鹿な 本当に

(2) 「N/S ということは」 「N というものは」 「N/S というのは」

定義づけを行うもので、タイ語では一般に /rúaŋ/ を文頭に置いて表す。また「というのは」を意味する /ことだ/ という形式は /kham wâa … mǎay thǔŋ/ で表される。

(82) a. [社会を変える {ということは / というのは} ] [表]

[rúaŋ kaan plian-pleeŋ sǎŋkhom] ……

話 こと 変える 社会

b. [外国で一人で暮らす大変さ {というのは / というのは} ] [表]

[rúaŋ khwaam-lambàak nay kaan-cháy-chiiwít khon-diaw nay tàaŋ-pra?thêet]

話 困難さ で 暮らし 一人 で 外国

c. [十五夜というのは] 満月の出る夜のことだ。[文]

[kham wâa khuuun-sip-hâa-khâm] mǎay-thǔŋ khuuun-wan phrǎ?can tem duan  
 語 COMP 十五夜 意味する 夜 月 満つ 円

(3) 「N/S といえ

ば」「N/S といったら」「N/S というと」など  
 瞬間的な想起、一時的な言及を意図するもので、/phûut thǔŋ/などが用いられる。直訳では「～に至って言えば」という意味である。

(83) a. [川口さんといえば]、何処に行ったのか姿が見えませ

[phûut-thǔŋ khun-khaawaanuchi] mây rúu wâa pay nǎy  
 話す-至る 川口さん NEG 知る COMP 行く どこ  
 mây hǎn tua læy ná  
 NEG 見える 身体 全然 終

b. [あの学生の真面目さといったら]、教師の方が頭が下がる。[表]

[phûut-thǔŋ khwaam-?awciŋ-?awcaŋ khǒŋ nák-rian khon-nán]  
 話す-至る 真面目さ の 学生 CL-その  
 fâay khruu tǒŋ kôm hǔa hây  
 側 教師 [義] 下げる 頭 あげる

c. [海外旅行といえば]、来年みんなでタイ旅行へ行く話が出ています。[表]

[phûut-thǔŋ kaan-dǎen-thaŋ pay-thǎaw tàŋ-pra?thêet]  
 話す-至る 旅行 旅行する 外国  
 miŋ kaan-phûut kan rúan pii-nâa ca pay muaŋ-thay kan thúk-khon  
 ある こと-話す 合う 話 来年 FUT 行く タイ 合う 全員

連想の「というと」は/thǔi-wâa/、対比の「はというと」は/súan/などで表される。

(84) a. [林さんというと]、前にここの受付をしていた林さんのことですか。[表]

[khun-haayaachi thǎi wâa] khuu khun-haayaachi thǎi  
 林さん REL COMP COPU 林さん REL  
 khǎy thamŋaan yùu fâay tǒn-ráp khǒŋ thǎi-nǐi chǎy-mǎy?  
 [経] 働く いる 側 迎える の ここ Q

b. [北海道というと]広い草原や牛の群れを思い出

[mǎa phûut-thǔŋ hòokkaydool] ca núk-thǔŋ thǒŋthǔŋ  
 時 言及する 北海道 FUT 思い出す 草原  
 an kwâaŋ-yàŋ lé? fǔuŋ wua  
 CL 広大な と 群れ-牛

c. 父も母ものんびり過ごしています。[わたしはというと]毎日馬か牛のようにただ忙しく働いています。[表]

thán phòw lé? mēe yūu yàaŋ sabaay  
 も 父 と 母 いる ように 快適に  
 [sùan chán] dāy tēe thamŋaan yūŋ thúk-wan  
 側 PRO [可] だけ 働く 忙しい 毎日  
 raaw kàp maa kàp khwaay  
 まるで と 馬 と 水牛

(4) 「N/S って」

日本語の「って」には「佐川さん[って]いう人」、「すぐ来る[って]」などさまざまな意味機能があるが、ここでは「というのは」の口語体で、タイ語では終助詞/ná/を日本語の間投助詞のように用いて主題化する。「というのはね」というように、若干のポーズが置かれるのが普通である。一般に主題部分は長く、受ける成分は形容詞などの評価をあらわす比較的短い傾向がある。述部に/pen rúaŋ (thii)/もよく用いられる。主部には名詞そのものの場合と、/kaan/, /khwaam/を形容詞、動詞句に冠して名詞句として用いる場合がある。

(85) a. [若いって]、すばらしい。

[khwaamnùm khwaamsāaw ná] pen rúaŋ dii wí?sèet [表]  
 若さ(男性) 若さ(女性) 終 COPU 話 いい 特別に

b. [都会で一人で暮らす(の) って]、大変です。=[都会での一人暮らしというのは]、

[kaan-cháy-chiiwít khon-diaw nay muaŋ-yàw ná]  
 こと・使う・生命 一人だけ で 都会 終  
 yâak lambàak [表]  
 難しい 困る

c. [反対する(の) って]、勇気のいることです。[文]

[kaan-khát-kháan ná] pen rúaŋ thii tōŋ cháw khwaam-klâahāan  
 こと・反対する [終] COPU 話 REL[義] 使う 勇気

/thii bòk wāa/, /thii phūut wāa/は直訳すれば「とされていることは」という意味で文の冒頭に用いる。主題の範囲を指示詞/nán/で区切って示す点が特徴的である。(86)のように会話文を引用する場合も同様である。

(86) [「レターパックで現金送れ」は] すべて詐欺です。(公共表示)

[thii bòk wāa “hây sōŋ ŋen dūay sōŋ còtmāy ?èekkasāan” nán]  
 REL 言う COMP CAUS 送る 金 で 封筒 手紙 書類 それ  
 pen kaan lōo-kluaŋ tháŋmòt  
 COPU こと 騙す 総て

(5) 「N にかけては」

とくに秀でた技量や分野などを取りたてて強調する言い方で、「～について言えば」という意味である。タイ語では文頭の/nay rúaŋ/に名詞化の/kaan/,/khwaam/を続けて表される。前者は具体的な行為対象、後者は抽象的な能力などが関心事となる。

(87) a. [あの方は事務処理にかけては] すばらしい能力を持っています。[表]

[nay rúaŋ kaan càtkaan thu?rá-kaan]

中 話 こと 処理する 事務

thân phûu-nán mii khwaam-săamâat pen lóat

PRO 人-あの ある 能力 COPU 抜群の

b. [忍耐力にかけては]人より優れているという自信がある。[文]

[nay rúaŋ khwaam-?òtthon] chán măncaŋ wâa mii mâak kwàa khon-?úuun

中 話 忍耐力 私 自信がある COMP ある 多い より 他人

(6) 「Nときたら」/?ây/……

日本語の「奴」に相当する/?ây/を文頭に用いて表す。不満や非難を表す。「といえは」などの条件形後置詞に似て非なる用法で、より詳細な対応例を見る必要があるが、ここでは数例を挙げるにとどめた。また、/nâ/を用いて表すことも多い。「ときたひには」のように蔑視、軽蔑の意味を強調した言い方も同様である。

(88) a. [うちの子ときたら] テレビの前から動かないんです。[表]

[?ây lûuk chán] mây yoom kha?yàp tua càak nâ cœ thiiwii lœy lá?

奴 子 PRO NEG 認める 動く 身 から 前 画面 TV 全然 強調

b. [あそこの家の中ときたら]、散らかし放題で、…… [文]

[khâaŋ-nay bâan nán] khǒŋ rakè?rakà? pay mòt,...

中 家 その もの 散らかった すぎる 総て

c. [うちの女房ときたひには]、… [文]

[phanrayaa khǒŋ phôm nâ] …

女房 の PRO [終]

なお、次のように/thâa/条件節、/phró?…cuŋ/原因理由・帰結節で表されることもある。

(89) a. [新鮮な刺身ときたら]、… [文]

[thâa pen saachimi sòt-sòt lá?-kôŋ] …

もし COPU 刺身 新鮮な なら

b. [働き者で気立てがいいときたら]、… [文]

[phró? pen khon kha?yân-khănkhên] lé? ní?săy dii] …cuŋ…

から COPU 人 勤勉な と 性格 いい それで

このほか、主題提示の特殊用法で、とくにきわだった事象を話題にする言い方として、「一国の首相ともなれば」のような「ともなると」「ともなれば」などの用法もあるが、また別途詳細な対応例を検証することにしたい。

## 9. おわりに

主題は文法研究のなかでも非常に重要なテーマでありながら、そもそも主題とは何かという概念の定義をめぐる問題があり、また言語別に見ても多様な設定が可能であることから、研究は不自然な現象的、部分的、表面的にならざるをえない。タイ語においてもおそらくは語順が文法機能を決定するという特徴によって主題概念が確立しておらず、管見の限りでは精緻な研究が進んでいるとはいえない。タイ語の伝統文法や種々の参照文法にも主題や主部についての明確な記述がないことは大きな問題点の一つである。主題の研究にあたっては文の定義、とりわけ単文、複文の境界も思量しなければならない。

ここで、一つの例として<題目解説>型と<副詞修飾>型との相関を考えてみたい。

- (90) a. 万全に準備する.      ⇔      準備は万全だ.  
       b. ゆっくり(と)話す.      ⇔      話すのが遅い.  
           <副詞修飾>型                      <題目解説>型

これは語順と意味の関係でもあるのだが、「準備は万全だ」は「万全に準備する」、「ゆっくり(と)話す」は「話すのが遅い」という内容と実質的には変わらないが、何を重点に述べるのか、という語順、情報優先の問題がある。形式が異なる以上、そこには何がしかの意味の異同を認めなければならない。(90a)「は」「が」を用いた倍は<結果態>、つまり話し手によって何らかの判断なり評価が下される場面であり、(90b)の副詞的な用法では<現象態>、すなわち臨時的、あるいは部分的に切り取られた一場面の提示とみなされる。

同様の例を示してさらに説明を加えたい。

- (91) a. phûut thay kèn  
       話す タイ語 上手だ                      : タイ語を上手に話す。  
       b. phûut thay pen nítnòoy  
       話す タイ語 COPU 少し                      : タイ語を少し話せる。  
       c. phûut thay chát.  
       話す タイ語 はっきり                      : タイ語を明瞭に話す。  
       d. yùu muaŋ-thay naan léew.  
       いる タイ                      長い PERF                      : タイに長く住んでいる。

これらの/kèn/, /nítnòoy/, /chát/, /naan(léew)/はそれぞれ「上手な」「少し」「はっきり」「長くなった」という形容詞(相当語)が文末に置かれて副詞的(「上手に」「少し」「はっきりと」「長く」)のように用いられているが、むしろ(91)のような解釈が妥当で、動詞句と形容詞

の間には僅かながらポーズ（停頓）が認められる。

- (91') a. *phút thay // kèn* : タイ語を話すのが // 上手です。  
 b. *phút thay // pen nít nõy* : タイ語を話せる (の) が // 少しだ。  
 c. *phút thay // chát.* : タイ語を話すのが // はっきりしている。  
 d. *yùu muaṅ-thay // naan léew* : タイに {住んで / 住むのが} // 長くなった。

前件を言い継ぐところで、わずかなポーズ（息継ぎ）があり、後文の「(それは) いかがですか」に重心が置かれる。日本語では「住んで」「住むのは」の双方の訳が可能である。次は明らかに前文が主題的な機能を呈している。

(92) [*yùu muaṅ-thay*] *pen yàaṅṅay?*

いる タイ COPU いかが

[タイに住んで] いかがですか。cf. タイに住むのは / いかがですか。

中国語の分析的な可能補語表現に類似した(93)のタイ語可能・不可能表現もまた、題目解説型の構造とみなしうる。動詞連語構造によって一次的行為「聞く」ことが二次的行為「分かる」ことに対する主題的な機能を担っている。言いかえれば前句の「聞いて」は「聞くことが」という潜在的に主題を言い含めているのである。

(93) a. *faṅ // rúu-rúuṅ*

聞く 知る-話 : 聞いて // 分かる。

b. *faṅ // mây rúu-rúuṅ*

聞く NEG 知る-話 : 聞いて (も) // 分からない。

主題の考察は一方で文をどうとらえるか、という文論に立脚して文単位が定位され、意味的な関係をもたらす。明確な接続成分がなくても、意味的な関係が定位するという場合、一文（単文）か二文（複文）かの決定が意識づけられる。明示的な接続成分がない代わりに、次的文と二次的文との連関、連携を支持する非言い切りとしてのポーズが接続の意味を持つ。こうした<意合法>的構成もまた、文の発話意図を決定する重要な要素である。

本稿ではタイ語の主部、主題、主語の態様を瞥見した。主題をどうとらえるかによって、文構造を再認識し、また細部の文法現象も明らかにされる。タイ人に対する日本語教育、外国人に対するタイ語教育にとっても重要な意味をもつ。主題、主語に関する議論は単に当該言語の文構造の特色（言語内事実）を解明するのみならず、人間のコミュニケーション活動のあり方、情報提示の回路（言語外事実）を検証する意味においても、また相互の発想の異同を知るためにも重要不可欠な作業である。それだけに主題の対照は多くの議論を残しているといえるし、龐大な蓄積のある日本語の主語・主題研究から対照研究に取り組むことには大きな意義がある。同時に、日タイ対照研究の成果も日本語の主語、主題研究に寄与することが期待される。



注

- 1) 日本語文法では近年、益岡隆志編(2005)、丹羽哲也(2006)、庵功雄(2007)、堀川智也(2012)などがあげられる。益岡編(2005)は日本語と複数言語との対照比較を通して、主題の本質的な意味機能に迫っている。こうした研究は類型論的研究と相俟ってその後もいくつかの成果に発展、継承されている。
- 2) すなわち、人物、事物の一致不一致や説明文で、次のような日本語文に対応するタイ語の主題文をアツカッタ。
- 3) 本文中の用例はいちいち出典を記さないが、各種タイ語学習書から採取した。
- 4) こうした/thamhây/の複文中における機能については第3部第2章を参照。
- 5) タイ語の目的表現については、田中(2004: 615-)を参照。このほか、「までには」「ほどには」などに対応する/(con)kwàa/,/con/の用法についても検討する必要がある。
- 6) こうした擬似的ともいえる条件文については田中(2006a,2006b)を参照。
- 7) 関係代名詞/thi/の諸相については、ピヤトーン(2013)を参照。
- 8) 以下の用例の出所は以下の通りである。

〈略称[表]〉

『どんな時どう使う日本語表現文型 500 中上級』友松悦子、宮本淳、和栗雅子 アルク 1996

บุญแจ่ม 500 รูปประโยคภาษาญี่ปุ่นชั้นกลางและชั้นสูง

ผู้แปล วีรวรรณ วิจิตรดิถ สำนักรพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม 2002

〈略称[文]〉

『教師と学生のための日本語文型辞典』グループジャマシイ編 くろしお出版 1998

พจนานุกรมรูปประโยคภาษาญี่ปุ่น

ผู้แปล บุญบา บรรจงมณี ปราณี จงสุจิตรธรรม ประภา แสงทองสุข วันชัย สิลพัทธ์กุล くろしお出版 2012

参考文献

- 青木伶子(1992)『現代語助詞「は」の構文論的研究』笠間書院
- 浅利誠(2008)『日本語と日本思想』岩波書店
- 庵功雄(2007)『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版
- 加藤周一(2007)『日本文化の時間と空間』岩波書店
- 佐藤雄一(2011)「引用形式「って」における主題提示用法」、『共立国際研究』28 23-36
- 佐藤雄一(2012)「「といえは」の主題提示用法」、『共立国際研究』29 33-55
- 砂川有里子(2005)『文法と談話の接点 日本語の談話における主題展開機能の研究』くろしお出版
- 田中寛(2004a)「接続詞のように使われる thamhây について——「使役」と「因果関係」——」『指向』第3号、大東文化大学大学院外国語学研究所日本語学専攻
- 田中寛(2004b)『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房

- 田中寛(2006a)「タイ語条件表現——条件節と時間節における文の叙述——」『大東文化大学紀要』(人文科学編) 第44号
- 田中寛(2006b)「タイ語の条件表現をめぐって——日本語とタイ語の対照研究——」 益岡隆志編(2006)『条件表現の対照』くろしお出版所収
- 田中寛(2010)「タイ語の *hây* の多機能的な意味」『語学教育研究論叢』28号 大東文化大学
- 中村明、佐久間まゆみ他編(2011)『日本語文章・文体・表現辞典』朝倉書店
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法5』第9巻とりたて、第10巻主題 くろしお出版
- 丹羽哲也(2006)『日本語の題目文』和泉書院
- 野田尚史(1996)『新日本語文法選書1「は」と「が」』くろしお出版
- ピヤトーン・ケウワッタナ(2013)「接続表現をめぐる日タイ対照研究——”*thîi*”, ”*sûj*”, ”*an*”と日本語の成分節の機能を中心として——」 2012年度大東文化大学大学院外国語学研究科日本語文化学専攻修士論文(未刊行)
- 堀川智也(2012)『日本語の「主題」』ひつじ書房
- 益岡隆志・野田尚史・沼田善子編(1995)『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 益岡隆志編(2005)『言語対照シリーズ 主題の対照』くろしお出版
- 益岡隆志編(2006)『言語対照シリーズ 条件表現の対照』くろしお出版
- 三上章(1960)『象は鼻が長い』くろしお出版
- Nawawaan Phanthumetha(1982) *Waiyakorn Thai* Bangkok Rungreuangsaarn
- Upakitsilpasaan(1968) *Lak Paasaa Thai* Bangkok Thai Watthanapanich
- Richard B. Noss(1964) *Thai Reference Grammar* Foreign Service Institute. Washington D.C.
- Iwasaki and Ingkaphirom(2005) *A Reference Grammar of Thai* Cambridge

## 第 II 部

### タイ語動詞構文の諸問題

อ้อยเข้าปากช้าง

ʔwɔy khâw pàak cháan

砂糖黍が象の口に入る  
(覆水盆にかえず)

第II部 タイ語動詞構文の諸問題〈第1章〉

タイ語の存在、所有、出現・発生の構文

—/yùu/と/mii/の意味機能—

【キーワード】 存在文 所有文 出現・発生日 事象把握 多義性

1. はじめに

あらゆる言語において、存在・所有、出現の諸相は言語研究の重要項目の一つで、英語の所有・存在文や中国語の存在、出現、消失にまつわる“有字句”、“存現句”についての研究をはじめ、言語習得の面からも様々な議論が蓄積されてきた。これは日本語でも明らかのように、〈AはBである〉という名詞文における事態規定と〈AはBにある〉という存在規定とが、恐らくは人間の事態認識・把握の最も基底に属することに拠っている。

- (1) 金庫の中 ニ 通帳 ガ アル  
 ⇨ 通帳 ハ 金庫の中 ニ アル。 = 通帳 ハ 金庫の中 ダ。
- (2) 受付 ニ 守衛 ガ イル。  
 ⇨ 守衛 ハ 受付 ニ イル。 = 守衛 ハ 受付 ダ。

(1),(2)では存在「A ガアル/イル」が所在「B ニアル/イル」に先行すると同時に、〈AハBダ〉が〈AハBニアル/イル〉を内包しているといえよう。「デアル」事態と「ガアル/イル、ニアル/イル」事態とは、似て非なる性格を持つ。また、存在と所有は不可分の関係にあり、その周辺に位置する動詞表現も豊富に分布することは容易に想像される。

一般に言語教育、習得において存在・所有の概念はどの段階で扱われるべき言語事象であろうか。日本語教育の初級段階を例にとれば、名詞文の後に提出される動詞文の中でも特殊構文として提出される。広く使用されている初級テキスト <sup>1)</sup> に倣えば一般行為動詞、移動動詞、一般行為動詞、授受動詞を導入した段階で存在動詞が提出される (図1)。

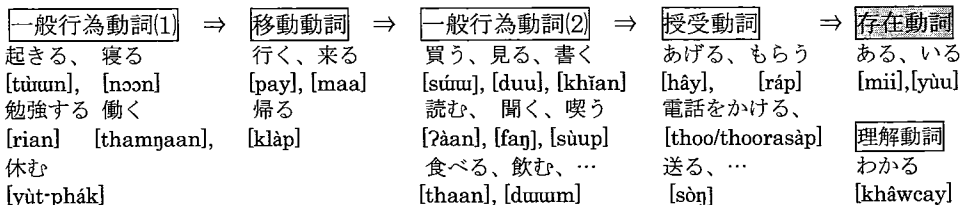


図1 日本語の動詞の導入過程例

日本語の下にタイ語を併記したが、これらの動詞の導入は名詞語彙の導入とも密接に関わり合っている。その〈連語的な認識〉は当該国の言語認識によって様ではないだろう。

ところで、存在・所在と所有は隣接した領域でもあるので、学習者には母語背景によってはある種の使用上の混乱も生じかねない。これまで行為動詞という具体的な名づけの動詞から多義的な動詞を導入されることで、使用上の混用が生じる傾向がある。また、必然的に情報の新旧とともに「所有」が先か「存在・所在」が先か、という提示の順序（所在場所と存在物の焦点）にも関心が持たれる。一般にモノの「所有」、即ち

(3) 私は[お金]がある。[パスポート、鍵、家庭、時間、夢、…]

のように、まず所有物を提示する。ただここでは有生物の存在をあらわす「いる」との混用を避けるため、「私(に)は妹がいる」などの文例は積極的に提示されない。次に「存在・所在」構文の導入に進むが、これには④「(Yに) Xがある/いる」、⑤「XはYにある/いる」の順で導入される。ここでは「ある」「いる」が明確に区別される。また、④ではXが新情報で助数詞が、⑤ではYが新情報で「上に」「右に」などの位置詞が導入される。それぞれの成分は④では存在動詞の前に、⑤では「机の上に」のように場所詞の後に置かれるのが普通である。また学習段階が進むにつれ、「ある」はさまざまな文脈で出現する。

(4) 日本には、世界に誇る国宝がある。(〇〇館)

(5) 加熱する代表争いも (事件の) 背景にあるようだ。(ニュース報道)

(4)では所有も存在も併存するケースであることに注意しなければならない。日本という所有主体を擬人的に見立てて、「国宝を有している」という意味と同時に、日本各地には「国宝が存する」という二重の意味を賦与されているのである（「日本は世界に誇る国宝がある」は非用に近い）。(5)では存在よりはむしろ所在を主張している。

一方、初級タイ語教育では一般に動作動詞のなかで、移動動詞/pay/「行く」、/maa/「来る」を先に導入し、次に存在動詞/yùu/「いる」が所有動詞/mii/「ある」「持っている」に先立って導入される傾向がある<sup>2)</sup>。存在動詞は移動動詞と同じように場所名詞をとともなうことから配慮されているといえよう。また、存在・所有は発生、出現事象とも連続する。

以下では、存在表現、所有表現、発生・出現表現の順にみていく。

## 2. 存在と所在(1)

タイ語の存在動詞/yùu/、所有動詞/mii/についての先行研究を瞥見してみよう。/yùu/については Anek(1992)、/mii/については Orapa(1992)の考察がある。とくに Anek(1992)では多くのパターンを挙げながら例証しているが、日本語との対照ではまだ不十分であろう。

日本語の〈AハBニイル/アル〉では、まず人やもの(建物、事物)が存在することを前提として、その所在を明らかに述べる言い方がある。「Aは」というとき、「A」は「〈A〉」といえ、それは「Bにある」という話し手にも聞き手にも(既知)の情報であること

が一般である。したがって[場所]がここでは〈未知〉の情報である。題目(既知:旧情報)とこれに続く解説(未知・新情報)の構造をなす。

(AハBニイル/アル)に対応するタイ語はほぼ(6)に示す通りである。

(6) ルール①

[存在物・人] 〈既知〉	yùu	thii	[場所]: [存在物・人]は[場所]にある/いる 〈未知〉	〈既知〉	〈未知〉
-----------------	-----	------	----------------------------------	------	------

〈既知〉情報(旧情報)とは話し手と聞き手のあいだに一定の認識が前提となっているのに対し、〈未知〉情報(新情報)は文脈の中でこれから言及しようとする焦点とみなされる。タイ語の存在動詞は日本語のように有生物(「いる」)、無生物(「ある」)のような使い分けはない。すべて/yùu/であらわされる。存在・運動場所をあらわす前置詞/thii/は日本語の格助詞「に」「で」に相当するが、省略が可能である。また、「上」「中」などの位置詞をともなう場合は、それ自身が場所格を兼務し、/thii/は一般に省略される。存在物は建物、人物、事物を問わないが、抽象物(「可能性は全員にある」など)は導入に適さない。

(7) a. khun-sǒmcay yùu thii baan

ソムチャイさん いる に 家 : ソムチャイさんは家にいる。

b. dichǎn yàak yùu thii yǐpùn

PRO [願] いる に 日本 : 私は日本にいたい。

c. peensaalii yùu thii-nǎy khá?

小麦粉 ある どこ FPP : 小麦粉はどこにありますか。

--- yùu chon thát pay khá

ある 列 次 行く FPP --- 次の列にあります。

d. rǎekkasǎan yùu nay fǎem

書類 ある 中 ファイル : 書類はファイルの中にある。

e. hōngrápkhèek yùu chán-bon

応接室 ある 階上 : 応接室は上の階にある。

f. bǒorisàt phǒm yùu thii sǐrom

会社 PRO ある に シーロム : 私の会社はシーロムにある。

/yùu/は人物、建物、物の所在をあらわす。日本語では有生、無生の使い分け「いる」「ある」があるが、タイ語の/yùu/は「いる」「ある」を併用する。(7a),(7b)は人物の所在、(7c),(7d)は存在物の所在、(7e),(7f)は施設、建物などの所在をあらわす。主部は話者間のなかで話題になっている対象(暗黙の指示)であり、述部はそれに対する説明である(yùu/に先立つ題目語について、/yùu/以下でその解説、説明を行う)。同時に、総体としては「いる」「ある」という存在の確認、「どこに」という質問に対する情報提供である所在の確認、この二種類の情報をあわせもつ。

なお、しばしば指摘されることだが、/yùu/は一時的、臨時的な意味であり、「～さんはいますか」と訊ねた時、/mây yùu/「いません」と答えれば、「いま席をはずしてここにいない」**臨時的不在**をあらわし、/mây mii/「いません」と答えれば、「そのような人はここにはもともといない」という**常態的不在**をあらわす<sup>3)</sup>。

/yùu/には「住む」「暮らす」の意味があるが、次に/yùu/を用いた複合句を富田（1987）からピックアップしてみる。/yùu/は<—>で示す。

(8) yùu kin <—/食べる>：住み食べる、ともに暮らす。

yùu dii kin dii <—/いい/食べる/いい>安楽に暮らす。

khwaam yùu dii kin dii 平穏な、安泰な暮らし、

yùu dii-dii kôw <—/よく/も>：何も変わったことがないのに急に。突如として。

yùu-yùu kôw <—/も>：何も変わったことがないのに急に。不意に。ぽっくり。

yùu tua <—/体>：安定する。

yùu thóoŋ <—/腹>：腹持ちがいい。

yùu bân <—/家>：在宅している。

yùu muu <—/手>：手なずける、おとなしく言うことを聞く。

yùu nay muu <—/中/手>：手中にある、統制下にある。

yùu khoŋ <—/残る>：不死身の

yùu yaam <—/夜警>：夜警に当たる。

yùu ween <—/順番に>：当番になる。輪番の。時間交替で。

yùu rôot <—/>：身を安全に保つ。rôot は「逃れる」という意味。

nâa-yùu <そうだ/—>：住んでよさそうな、住みよさそうな。

thîi-yùu, thîi-yùu-?aasây <場所/—>、<場所/—/頼る>：住むところ、住所。

/yùu thîi/「～にある」という意味には「所在」を提示する言い方があるほか、「～次第だ」という意味もあらわすことがある。

(9) tɔɔn-níi pra?thêet raw yùu nay chúaŋ sèetthakit kamlaŋ ca?ræŋ tɔɔp-too

今 国 PRO いる で 期間 経済 している 栄える 成長する

今、我が国は経済成長期にある。

(10) khwaam-sùk khǒŋ khruu yùu thîi sit

幸せ の 教師 いる に 弟子

教師の幸せは弟子にある。(教師の幸せは弟子次第だ)

(11) phóp chúu tua-?eeŋ yùu nay raay-chúu phûu-sòp-phàan

遭う 名前 自身 いる で 名簿 人-合格する

合格者の中に自分の名前を発見する。(合格者の名簿の中にある—)

ここで/yùu thîi/と/yùu nay/の相違について附言すれば前者は一般的な様相を呈し、後者は



ややフォーマルなニュアンスがある。なお、定型句「～最中である」は/yùu nay ra?wàaŋ/ のように/yùu nay/を用いる。但しタイ語では進行中をあらわす/(kamlan)··yùu/をあえて動詞の前後に配する必要がない。従って「\*考え事をする最中だ」のように言う傾向がある。

(12) tɔɔn-níi yùu nay ra?wàaŋ cháy khwaam-khít

今 いる で 間 使う 意見

今、考え事をしている最中だ。

(13) tɔɔn-níi kamlan yùu nay ra?wàaŋ phít?caaranaa

今 している いる で 間 検討する

今検討している最中だ。

先にも述べたように、/yùu/は動詞に後接して動作行為の進行や状態継続の意味を表すが、/khúm-yùu káp/はその慣用的な構文で、「～次第で／如何で」「～次第だ／如何だ」という意味を表す。日本語と同様、文頭にも文末にも位置する。事態発生の蓋然性をあらわす。

(14) ca mii khwaam-tèek-tàaŋ yàaŋ-mâak nay kaan-khāy

FUT ある 差 大いに で 売れ行き

khúm yùu káp wí?thii kaan-athí?baay sinkháa

なる いる と 方法 こと-説明する 商品

商品の説明の仕方いかにで、売れ行きに大きく差が出てしまうだろう。

(15) mii thii ?òok sāy khúm yùu káp sà?phâap aa?kàat

ある REL 出る 遅い なる いる と 状態 天候

天候のいかにによっては出発が遅れることもある。

(16) khúm yùu káp kaan-khāy nāŋsūu khoŋ ca mii kaan-phim sám than-thii

なる いる と 売れ行き 本 [推] FUT ある 印刷 重ねて すぐ

本の売れ行き如何では、すぐに再販ということもあるでしょう。

(17) ?àat ca pay thūŋ sāy mâak khúm yùu káp sà?phâap rôt tit

[推] FUT 行く 着く 遅い 大変 なる いる と 状態 車 混む

道の込み方次第で (は) 着くのが大幅に遅れるかもしれません。

(14),(15)などのように/yùu/が/mii/との併用がみられる現象については次節で考察する。

### 3. 存在と所有(2) —/yùu/から/mii/へ

#### 3.1 /mii/ の原義

一般に存在についての言及よりも、所有についての内実はさらに複雑である。これは所有というカテゴリーが広範におよび、また細分化されるからであろう。確かに日常周辺を観察しても存在は自ずと恒常的に規定されており、一方、所有は英語の have 動詞を例にしても広範な意味を有する。一般に「<場所>にAがある／いる」というとき、<A>の存

在そのものを問題にしている。前節では存在物が〈既知〉の情報のケースを見てきたが、/mii/を用いる場合、〈A〉は一般に〈未知〉の情報（新情報）で、反対に場所が〈既知〉の情報（旧情報）である。これに対応するタイ語構文はほぼ次の(18)によって示される。

(18) ルール②

mii	<A>	(人・物)・(場所)	:	(場所) に<A>がある／いる
		〈未知〉		〈既知〉
				〈既知〉
				〈未知〉

基本的な構造では/mii/が文頭に立ち後続に所在をあらわす場合と〈所有者主体〉が冒頭に立つケースがある。〈所有者主体〉は後述するように人、物、建物など多種多様である。

(19) a. mii nákrían (yùu) nay hòŋ.

いる 学生 (いる) 中 部屋 : 部屋の中に学生がいる。

b. mii hòŋ wâaŋ mǎy?

ある 部屋 空く Q : 空き室がありますか。

c. phônlamáay mii aray bâaŋ?

果物 ある 何 幾らか : 果物にはどんなものがありますか。

⇒ nay bandaa phônlamáay …… (「果物の中で……」)

d. nay hòŋ-rián mii tó? kii-tua?

中 教室 ある 机 幾-CL : 教室(の中)に机がいくつありますか。

e. dichǎn kôo yàak mii feen rew-rew

PRO も [願] ある 恋人 早く : 私も早く恋人が欲しい。(＊ありたい)

(19a)のように存在物が人の場合/yùu/をそえることもある。(19c)「果物は」のように提題(題目語)として「〈A〉についていえば」のように情報を提示する場合は文頭に立つことが一般である。「～の中で」のような範囲をあらわす語句を文頭に置くこともある。また(19d)のように所在をあらわす場所もあわせて表す場合は位置詞もふくめ文頭に置かれる。なお(19e)はタイ人日本語話者にはしばしば「\*恋人が欲しい」のような誤用が見られる。

一般に所有側が人である場合、一人称は省略されることが多いが、それ以外は明示される。場所の場合は/thiù/や/nay/を添えることが多い。以下、さらに詳しく見ていこう。

3.2 人名詞が文頭に来る場合

(20) a. khun mii weelaa mǎy?

あなた ある 時間 Q : あなたは時間がありますか?

b. wan-núí mii rián mǎy?

今日 ある 勉強 Q : 今日は授業がありますか?

c. phom mii phiiínóŋ 3 khon.

私 ある 兄弟 3 人 : 私には兄弟姉妹が3人あります。

d. khun mii fɛɛn mǎy?

あなた ある 恋人 Q :あなたは恋人がいますか。

e. khun mii khray thîi khun khaw-róp bǎaŋ mǎy?

あなた ある 誰 REL PRO 尊敬する 幾らか Q

あなたには誰か尊敬する人がいますか。

f. dichǎn mii sit thîi ca rúu

PRO ある 権利 REL FUT 知る

私には知る権利がある。

g. mây mii aray ʔantaraay

NEG ある 何 危険

何も危険なことはありません。

h. khoŋ mây mii khray mây yàak praʔsòp khwaam-sǎmrèt

[推] NEG ある 誰 NEG [願] 出遭う 成功

成功したくない人は誰もいないだろう。

(20b)のように所有の対象が動詞の場合があるが、これは授業という名詞に転化したもの。また(20f),(20h)などのように対象が連体修飾節をともなう場合も少なくない。

### 3.2 時間名詞が文頭に来る場合

実際に予定されている事の実現を予想して述べる。恒常的な状態も含む。(21a)は/kaan-/を用いて動名詞化した例。(21b)は「高い湿度がある」のように表される。

(21) a. duan-nǎa ca mii kaan-lúaktǎŋ

来月 FUT ある こと-選挙する

来月選挙がある。

b. chûaŋ-níi mii khwaam-chúum sūuŋ mâak

時期-この ある 湿度 高い 大変

この時期は湿度が高い。

### 3.3 場所名詞、物名詞が文頭に来る場合

この場合、所有は存在に転移し、対象は有生物、無生物など多種多様である。

(22) a. hôŋ-níi mii nákrían kii-khon khá?

部屋この ある 学生 何人 FPP

このクラスには生徒は何人いますか。

b. thǎew-níi mii ráan-saʔduák-súuu mǎy khá?

この辺り ある コンビニ Q FPP

この辺りにコンビニがありますか。

c. praʔthêet-thay mii caŋwàt cètsìpcèt caŋwàt

タイ国 ある 県 77 県

タイには県が77県ある。

d. mahāawithayaalay ní mii nákrían sǒŋ muuŋ khon

大学 この ある 学生 2 万 人

この大学には学生が2万人いる。

e. muaŋ-thay mii prachaakǝn tháwray?

タイ ある 国民 いくら

タイは人口（国民）はどのくらいですか。（どのくらいいますか）

f. muaŋ-thay mii thammáʔcháat thii ʔùdomsǝmbuun

タイ ある 自然 REL 豊かな

タイは豊かな自然がある。

g. muaŋ-thay mii raaydáy càak kaan-thǝŋnthiaw máak

タイ国 ある 収入 から 観光 多い

タイは観光からの収入が多い。（多くある）

なお、場所をあらわす語の前に、/nay/, /thii/などの前置詞を添えることがある。その場合、日本語では「には」のように取りたてられる傾向がある。(23c)は/tháj/を用いた例。

(23) a. thii muaŋ-thay mii mǝradòk lòok láay hèn

で タイ国 ある 遺産 世界 幾つも CL

タイには世界遺産が何カ所あります。

b. nay pharakon mii ráan-ʔaahāan-yiipùn mǎy?

中 パラゴン ある 日本料理店 Q

パラゴンの中には日本料理店がある？

c. khruaŋ-bin tháj lam mii phúudoosāan sip-khon.

飛行機 総て CL ある 乗客 10 人

飛行機全体で乗客が十人いる。

物名詞他が来る場合も同様である。

(24) a. thoŋ-cháat thay mii sām sǐi

国旗 タイ ある 3 色

タイの国旗は3色あります。

b. rawàaŋ-thaaŋ mây mii ráan-ʔaahāan

途中 NEG ある 食堂

途中には食堂がない。

### 3.4 存在、所有と事象把握

ここで、再度/yùu/と/mii/を比較確認しておこう。先に既知、未知の認知的環境に言及したが、/mii/は一般に状況の描写を主務とする。たとえば、地図があったとして—現実にも目の前に地図があっても頭の中にあってもよい—、何があるかを説明したいときに「YにXがある/いる」という言い方になる。一方、/yùu/は特定の人物、物を話題として設定し、「XはYにある/いる」のように、当該対象について取り立てて言いたいときに用いる。また、〈mii 存在物 yùu 存在場所〉のように言えることから/mii/が上位概念、/yùu/が下位概念、あるいは/mii/が〈俯瞰〉的、/yùu/が〈直視〉的把握という特徴が意義づけられる。

(25) a. mii praysanii khâaŋ-khâaŋ sa?phaan

ある 郵便局 そば 橋 : 橋の近くに郵便局がある。

b. hôŋ-náam yùu thii-nôn

トイレ ある あそこ : トイレはあそこにある。

c. mii nákrían yùu nay hôŋ-rian.

ある 学生 いる に 教室 : 教室に学生がいる。(教室にいる学生がいる)

## 4. /mii/ の諸用法

### 4.1 /mii/を用いた慣用句、熟語、語構成

タイ語には/mii/を用いた熟語、複合語で表されるものがある。中には実質的な「所有」の意味を残して意味を拡張したものがみられる。前節の/yùu/と同じように富田(1987)から主なものをピックアップみよう。/mii/は<—>で示す。

(26) mii kamray <—/利益> : 儲けがある。儲かる。

mii kiat <—/名誉> : 栄光がある、名誉ある、光榮な。

mii kèecay, mii námcaŋ <—/情け>、<—/人情> : 情けがある、人情がある。

mii khây <—/熱> : 熱がある。

mii khon <—/人> : 人がいる。在室中。

(映画館等で) 席が埋まっている。(トイレ、会議室等で) 使用中。

mii khan, mii thóŋ <—/妊娠する>、<—/腹> : 妊娠している、お腹が大きい。

mii khwaamsùk <—/幸せ> : 幸せな。

mii ɲən <—/金> : 金がある、金持ちの。

mii chiiwít <—/生命> : 生きている。

mii chúu, mii chúu-siãŋ <—/名前>、<—/名声> : 名声の、有名な。

mii tò <—/続く> : 続きがある。

mii thú?rá <—/仕事> : 仕事がある、用事がある。忙しい。

mii pra?yòot <—/効果> : 有益な、役に立つ。

mii panháa <—/問題> : 問題がある。

- mii an ca kin <—/もの/未来/食う> : 食うに困らない、裕福な。  
 mii khâa, mii raakhaa <—/価値>、<—/値段> : 価値がある、高価な。  
 mii ruan, mii khrõpkhura <—/家屋>、<—/家庭> : 結婚して家庭を持つ。  
 mii nâa <—/顔> : 間違っている、顔をつくろう。  
 mii nâa mii taa <—/顔/—/目> : 面目を施す、人に尊敬される。  
 mii wǎŋ (wâa) …<—/望む/ (という) > : (～という) 希望がある。  
 mii ʔaayú <—/年齢> : 年齢が高い。年配の。  
 mii ʔaawúʔsôo <—/功德> : 先輩格の、年齢や地位が上の。  
 mii raʔbiap <—/規則> : 秩序がある。  
 mii muun <—/根拠> : 根拠がある。  
 mii weelaa wâaŋ <—/時間/空いている> : 暇だ、時間がある。  
 mii khwaam-yiŋdii <—/嬉しさ> 嬉しい。慶賀な。  
 mii thaaŋ …<—/道> : ～手だてがある、～方途がある。  
 mii thâa wâa …<—/様子/という> : ～しそうだ。  
 mây mii maarayâat sia <否定/—/礼儀/ダメな> : 失礼な、無礼な  
 mii rúaŋ yàak ca …<—/話/したい/意志> : ～したいことがある  
 yôom mii maa <当然な/—/来る> : ありふれた、当然なことに。  
 yàak mii <[願]/—> : 欲しい。(タイ人は「\*ありたい」と誤用しがち)

次のように/mii/の反復・対句的な慣用句や諺もある。

- (27) a. mii khâaw tem naa mii plaaw tem nõŋ <—/稲/満つ/田/—/魚/満つ/沼>  
 田に稲は満ち、沼に魚は満つ。田に米あり、沼に魚あり。豊饒なさま。  
 b. mii kày thî-nǎy mii ray thî-nân <—/鶏/どこ/—/風/そこ>  
 鶏がいれば風がいる。善と悪は背中合わせ。  
 c. mii lûuk tua mii phûa kuancay <—/子供/自身/—/夫/心配する>  
 子供を持てば悩み、夫を持てば気苦労だ。  
 d. mii khwan yôom mii fay <—/煙/当然な/火>  
 火のないところに煙は立たない。(条件帰結文「煙あれば火あり」)

#### 4.2 /mii/の語彙的な文用法

次に日本語では「ある」が現れないが、タイ語では/mii/を用いた文例をあげる。「多い」「少ない」は/mii mâak/「多くある」/mii nõy/「少なくある」のように/mii/を用いて表すのが普通である。また、/khûm/「なる」などを併用して変化を表すことも少なくない。

- (28) a. mii raaŋkaay ʔõn-ʔeɛ  
 ある 身体 弱い : 身体が弱い  
 b. dichǎn mii phûan nõy khâ

- PRO ある 友達 少ない FP : 私は友達が少ない。
- c. mii rôt-châat aròy khûm  
ある 味 美味しい なる : (味が) 美味しくなってくる
- d. mii wan-yùt phôm khûm  
ある 休日 増える なる : 休みが増える
- e. mii khwaam-yàak-ʔaahãan  
ある 食欲 : 食欲が出る
- f. mây mii kaan-plian cay  
NEG ある 変化 心 : 気持ちが変わらない
- g. mii klin plèek-plèek  
ある 匂い 変わった : 変な匂いがする。
- h. priap-thiáp kàp phûu-chaay phûu-yĩŋ mii aayúʔ chaʔlia yuuun-yaaw kwàa  
比較する と 男性 女性 ある 年齢 平均 延びる-長い より  
女性は男性に比べ、平均寿命が長い。

#### 4.3 形状、資格、職業をあらわす/mii/

目立った特徴（属性）、「形状」を表したり、一定の職業を表したりするときに/mii/が用いられる。日本語の「～をしている」に相当する。/mũan/「～のような」、/duu/「～そうに見える、している」という比況をあらわす語句を用いることもある。

- (29) a. mii nãa mũan túkkataa.  
ある 顔 同じ 人形 : お人形のような顔をしている。
- b. mii taa mũan mæew.  
ある 目 同じ 猫 : 猫のような眼をしている。
- c. mii taa thĩ duu sãw-sãw.  
ある 目 COMP 見える 悲しい : 悲しそうな目をしている。
- d. mii rãaŋkaay thĩ duu khěŋ-ræŋ.  
ある 身体 REL 見える 丈夫な : 丈夫そうな身体をしている。
- e. khun-maarii mii taa sũay.  
マリーさん ある 目 綺麗 : マリーさんはきれいな目をしている。
- f. phôm mii aaʔchĩp pen khruu.  
私 ある 職業 COPU 教師 : 私は先生をしている。

#### 4.4 所持、接近をあらわす/mii/

- (30) a. dii ná thĩ mii rom

いい 終 REL ある 傘  
傘、持っててよかったね。

b. burùt thii mii khwaan-rúusùk phí?sèet kàp raw.  
男性 REL ある 感じ 特別な と PRO  
好意を寄せている男性

#### 4.5 状態をあらわす/mii/

mii のあらわす語彙的な意味が文全体の状況、状態を表すことがある。

(31) a. khǎw dáy ñaan màt thii mii ñan-duan dii  
PRO 得る 仕事 新しい REL ある 月給 いい  
thěem mây tǒŋ thamñaan lúañ-weelaa  
おまけに NEG [義] 働く 時間外  
təon-nú kǒ-ləəy mii khwaam-pen-yùu thii sa?baay.  
今 CONJ ある 暮らし  
彼女はお給料がよく残業のない会社に転職できたので、今は楽な生活をしている。

(31)では「給料がいい」「楽な生活をする」という常態を表す。一般に動詞に/yùu/を後接して動作の進行や状態を表すが、/mii/と動詞を併用しても表される。

(32) a. mii náam rúa càak pheedaan nay hòŋ-náam  
ある 水 洩れる から 天井 中 トイレ  
トイレの天井から水が漏れている。  
b. mii náam thúam hòŋ-náam  
ある 水 溢れる トイレ  
トイレで水があふれています。  
c. thii-nú mii mǐit-koon khǎay mǎy?  
ここ ある 剃刀 売る Q  
ここでは剃刀を売っていますか。

「～である」もまた状態、意図的な行為残存の結果をあらわす。

(33) a. dǎan nay súa-nòk mii chúu khǎan yùu.  
裏 中 上着 ある 名前 書く いる  
上着の裏に名前が書いてあります。  
b. tùkkataa pradàp yùu bon tǔu nǎŋsǔuu.  
人形 飾る いる 上 箆笥 本  
人形は本箱の上に飾ってあります。  
c. rūp-nú duu ñayñay kǒ khít wǎa tǒŋ dáy mii kaan-tòktèŋ càak dǎəm.



写真・この 見る どう も 考える COMP [推] PST ある こと・修正する から 以前  
この写真はどう見ても修正してある。

このように/mii/があれば「である」が想起されやすいが、次のように/mii/がない場合、タイ人日本語話者のなかには「飾っています」のように表す傾向がある。

#### 4.6 発生、出現をあらわす/mii/

具体的な発生を表す語句を用いる場合と用いない場合がある。(34a)は語順に注意しなければならない。(34d)のように変化をあらわす補助動詞/khúm/を添えることも多い。

##### (34) a. mii faymây hôŋ-khrua

ある 火事 台所

台所が火事だ。 (\* hôŋ-khrua mii faymây)

##### b. thii Oosaka, nâa-nâaw mii himá? tòk bâaŋ, tɛɛ mây mâak.

で 大阪 冬 ある 雪 降る 幾らか CONJ NEG 多い

大阪で冬にはたまたま雪が降るが、沢山ではない。

##### c. tháj bɔ̄orisát mii khon maa thamŋaan khon-diaw.

総て 会社 ある 人 来る 働く 一人だけ

会社全体で仕事に来たのは一人だけだ。

##### d. thǎew-níi kô mii phûu-khon mâak khúm ?ùk-thút kwàa kòon ná khâ.

この辺り も ある 人 多い なる 賑やかな より 以前 終 FP

この辺も人が増えて、ずいぶん賑やかになったわねえ。

日本語の「(予定が) 入る」も事態の発生をあらわす。

##### (35) a. phrûŋ-níi mii thu?rá rǔu-plào?

明日 ある 仕事 Q : 明日、予定が入っていますか。

##### b. sùt-sapbadaa-níi mii aray thii tōŋ tham.

週末-この ある 何 REL [義] する : 今週末は何か予定が入っている。

##### c. mii sùn thii tōŋ práp-plian khôn-khâaŋ yó?

ある 部分 REL 変更する かなり 多くの : かなり変更が入った。

日本語の「出る」も同様に事態、事象の出現を表すことがある。具体的な動詞を用いることなく、/mii/だけで表される。

##### (36) a. mii malɛŋ-sàap khâ!

ある ゴキブリ FP

ゴキブリが出た!

##### b. bɔ̄orisát mày níi mii boonát chây-mây khâ?

会社 新しい この ある ボーナス Q FP  
 新しい会社、ボーナス出るんでしょう？

c. ciŋ rǔur-plàaw khá, thǐi khǎw wáa roonreem nán mii phǐi.

本当 Q FP REL PRO COMP ホテル その ある 幽霊  
 あのホテル、お化けが出るって本当ですか。

d. mây sâap khrap wáa nǎŋ rúuŋ-nǐi ca mii wiichiidii maa rǔur-plàao?

NEG 知る MP COMP 映画 CL-この FUT ある VCD 来る Q  
 この映画の VCD は出るかどうかわかりません。

### 5. /mii/の定型表現—日本語との対照から—

発生、出現を表す構文には何らかの変化現象をとともうのが常である。また、ときに程度の増減を示して評価をあらわし、現時点での事態報告文ともなる。本節では/mii/を用いた比較的定型に近いと思われる構文のいくつかを瞥見し、その特徴を観察してみたい。

#### (1) 〈mii khwaam(-rúu) kiaw kàp…〉 :

「～についての(知識)がある、知っている」という意味である。日本語の「可能性がある」「恐れがある」「傾向がある」「予定がある」などの〈N ガル〉文と同じような性質をもつものや独自の構文的な構造をもつものが観察される。/khwaam/は動詞や形容詞に冠して抽象名詞を構成する。/kiaw-kàp/は「～に関する」「～について」という意味である。ここでは語用論的には相談をもちかけたり願望や提案をあらわしたりする言い方である。

(37) a. khǎw mii khwaam-rúu kiaw-kàp kaan-phalit.

PRO ある 知識 に関して 生産  
 彼は生産についての知識を持っている。

b. dichǎn mii rúuŋ (yàak)ca saʔnǎə khá.

PRO ある 話 たい FUT 提案する FPP  
 私は提案したいことがあります。

#### (2) 〈mii 名詞 aray mǎy?〉 :

質問、意見の有無を確認するようなどに用いる。この場合の/aray/は疑問詞「何」ではなく不定詞「何か」である。名詞は具体的な物名詞、抽象名詞を問わない。/khwaam-hěn/「意見」のほかに/kham-thǎam/「質問」、/khô-sǎŋsǎy/「疑問」、/panhǎa/「問題」などがよく用いられる。

(38) a. mii khwaam-hěn aray mǎy?

ある 意見 何 Q : 何か意見がありますか。

b. mii khô saʔnǎə aray ʔiik mǎy?

ある 項目 提案する 何 あと Q : ほかに何か提案がありますか。

(3) 〈mii aray hây 動詞 mǎy?〉:

会話などで使用頻度の高いもので、相手のために自分が何かすることがないか尋ねるときに使う表現。/hây/は使役助動詞であるが、ここでは謙讓的な用法。

(39) a. mii aray hây chûay mǎy khá?

ある 何 使役 手伝う Q FPP : 何かお手伝いすることがありますか。

b. mii aray hây kóppii mǎy khá?

ある 何 CAUS コピーする Q FPP : 何かコピーするものがありますか。

c. mii aray hây plæe mǎy khá?

ある 何 CAUS 訳す Q FPP : 何か訳すものがありますか。

なお、疑問文で注意すべきは日本語では通常「ありませんか」と否定疑問形式で訊ねるところをタイ語では単純諾否疑問「ありますか」で訊ねる点である。タイ語で日本語を直訳する場合は、

(40) mây mii aray hây plæe rǔuu khá?

NEG ある 何 CAUS 訳する Q FPP : 何も訳すものがないのですか。

のように全面否定を確認する言い方になってしまい、当該文脈から逸脱する。

(4) 〈mii (人)maa càak(場所)〉:

「(場所) から (人) が来た/来る」という事態の出現をあらわす。この場合の主体は不特定である。単に/khon maa/「人が来る」khon yùu「人がいる」は不自然で、/mii khon maa/「ある人が来る」、/mii khon yùu/「ある人がいる」のように言う。また、予定、情報の伝達、報告として述べる場合も/mii/をとまなうのが自然である。

(41) a. mûa-waan-níi mii khray maa càak sǎmnákjaan-yàt rǔuu?

昨日 ある 誰 来る から 本社 Q

昨日、本社から誰か来たの? (⇒本社から誰か来た人がいたの?)

b. duan-nâa ca mii wisawakoon maa càak Yìipùn.

来月 FUT ある エンジニア 来る から 日本

来月、日本からエンジニアが来ることになっている。

c. phrûŋ-níi ca mii nák-rœŋ daŋ maa càak kawrī.

明日 FUT ある 歌手 有名な 来る から 韓国

明日、韓国から有名な歌手が来ることになっている。

d. ?aathít-thii-léew mii lúuk-kháa maa càak ameerikaa.

先週 ある 顧客 くる から 米国

先週、アメリカからお客様がいらっしゃった。

(5) 〈mii kaan-動詞 kôo-ləəy…〉:

「することがある」という意味で前文で原因や理由を表し、後文ではその結果や希望を表す。つまり、事態の生起は必然的に結果事態をもたらす。/kaan/は上述の/khwaam/と同様に動詞に冠するが、こちらは動名詞を構成する。後文にある/kôo-ləəy/は「それで」とう接続詞で、結果事態をみちびく接続詞。

(42) a. mii kaan-triam ñaan-sammaanaa, tɔɔn-níi kôo-ləəy yùn mâak.

ある 準備 セミナー いま CONJ 忙しい 大変  
セミナーの準備があるので、今とても忙しい。

b. mii kaan-plian-pləəŋ phúucàtkaan kôo-ləəy tɔŋ plian naʔyoobaay.

ある 異動 重役 CONJ [義] 変える 方針  
重役の人事異動があるので、方針を変えなければならない。

c. khuu-waa mii kaan-khun raʔbòp mày, phanáknjaan kôo-ləəy

実は ある 切り替え システム 新しい 社員 CONJ

tɔŋ tham ooʔthii khá.

[義] する 残業 FPP

実は新しいシステムの切り替えで、残業しなければならなかったんです。

(6) 〈mii tèe …〉:

限定詞/tèe/を用いた特殊所有限定文で、「～しかない」「～だけある」という意味から「～ずくめ」の意味になる。

(43) a. khôpkhua khun-yaamaada mùu-níi mii tèe rúuŋ nâa yindii

家庭 山田さん 最近 ある だけ 話 そうな 嬉しい

山田さんのうちは、最近、おめでたいことずくめだ。

b. mùu-níi mây rúu pen yaŋŋay mii tèe rúuŋ dii-dii taʔlòot

最近 NEG 知る COPU どう ある だけ 話 いい ずっと

この頃なぜかいい事ずくめだ。[文]

(7) 〈mii tèe (ca)… khúm/loŋ rúay-rúay〉:

これも限定詞/tèe/「だけ」を用いた構文。「～ばかりだ、～一方だ」という意味に対応し、質量、程度の進行する現状を告知する。前文に事由を提示して後文に現れるほか、前文に示して、現在の置かれている状況を提示することもある。変化を表す事態には〈+〉増加の/khúm/や〈-〉減少の/loŋ/、/rúay-rúay/「次第に」という副詞を併用することがある。

(44) sín wăŋ phróʔ kitcakaan lóm-ləew saʔpháap khwaam-pen-yùu

尽くす 希望 から 事業 悪化する 状態 生活

khǒŋ khun-khaawaanuuchi mii tèe yêe loŋ

の 川口さん ある だけ 大変 なる

事業に失敗して希望を失い、川口さんの生活は荒れていく一方だった。

(45) phǒw aayú? mâak khûm phǒw mii tèe ca awcay yâak khûm

と 歳 多い なる 父 ある だけ FUT 機嫌をとる 難しい なる

mùu-níi mây mii khray yàak khâw klây

最近 NEG ある 誰 [願] 入る 近い

父は歳をとってから気難しくなるばかりで、この頃は誰も寄りつこうとしない。

(46) lǎncàak phâa-tàt sèt ?aakaan pùay khǒŋ phǒw

てから 手術 終わる 状態 病 の 父

kǒw yaŋ khoŋ mii tèe tha?rút loŋ pay rûay-rûay

も まだ [推] ある ばかり 悪化する なる 行く 徐々に

手術が終わってからも、父の病気は悪くなるばかりでした。[文]

(8) <mii phiaŋ … thâw-nán thîi … dâw> :

「ならでは」という意味を表し、独自のもつ才能や施設・設備、品質などの優秀なことを表す。直訳では「～しかもたない」という意味になる。/phiaŋ/の代わりに/cha?phó/を使うこともある。

(47) phâap-níi mii khwaam ráy-diaŋ sǎa-bèep thîi mii phiaŋ dèk-dèk

絵-この ある こと 無邪気な REL ある だけ 子供

thâw-nán ca sadæŋ ?òok maa dâw

だけ FUT 表す 出る 来る [可]

この絵には子供ならでは表せない無邪気さがある。

(48) chǎen phlǎetphlǎen kàp ?aahǎan rót-lǎot thîi mii cha?phó ráan níi thâw-nán

ください 楽しむ と 料理 味覚 REL ある 特に 店 この だけ

当店ならではの素晴らしい料理をお楽しみください。[文]

(9) <mây mii X thâw Y…?iik léew> :

「YほどXはない、YくらいXはない」という絶対比較を表す定型表現で、一種の評価文である。その時の状況を強調する場合に用いられる。タイ語では/khray/「誰」、/aray/「何」といった不定詞を用いる点が重要である。

(49) mây mii khray aw-tèecay tua thâw khâw ?iik léew

NEG ある 誰 我儘な 自身 等しい 彼 あと PERF

彼くらいわがままなやつはいない。

(50) weelaa lambàak mây mii aray thamhây diicay thâw kham-phûut

時 困る NEG ある 何 CAUS 嬉しい 等しい 言葉

khǒŋ phúan thii mii námcaŋ ?iik léew

の 友達 REL ある 情け あと PERF

困っているとき、思いやりのある友人の言葉ほど嬉しいものはない。

(51) mây mii aray khǒm-khúuun tháw káp kaan thii lúuk-lúuk

NEG ある 何 辛い 等しい と こと REL 子供

tǒŋ maa dùan càak pay kǒn

[推] 来る 急に から 行く 先に

子供に先立たれることほど辛いことはない。[文]

(52) mây mii aray háy thǒot tǒo rāanŋkaay ráay-rēŋ

NEG ある 何 与える 罰 対して 身体 酷い

tháw bù?rii ?iik léew

等しい 煙草 あと PERF

タバコぐらい体に悪いものはない。[文]

(10) <dooy mii … pen sūŋ-klaaŋ> :

<X を Y に> 形式の典型で、日本語では「を中心とした」「を中心として」「を中心とする」などの形が見られるが、タイ語では副詞句として文の後半に置かれるのが一般である。/dooy/は副詞節を構成する前置詞。直訳では「～を中心として持つ」がという意味を表す。/sūŋ-klaaŋ/の代わりに/keŋ-klaaŋ/「中核」、/lák/「基礎」などを用いることもある。

(53) kammakaan chú-t-màŋ càt-tàŋ léew

委員会 CL-新しい 設置する PERF

dooy mii khun-Ichii pen keŋ-klaaŋ

で ある 石井さん COPU 中核

石井さんを中心とする新しい委員会が出来た。[文]

(54) thiim-nán pen thiim chán dii thii rúam-tua kan nǎw-nên

チーム-その COPU チーム PRO いい REL 協力する 互いに 密接に

dooy mii káptán thiim pen sūŋ-klaaŋ

で ある 主将 チーム COPU 中心

そのチームはキャプテンを中心によくまとまったいいチームだ。[文]

(11) <tháa mây mii …> :

「～がなければ」という意味だが、日本語では「なくして」という限定条件を表す。特に特徴のある文型ではないが、日本語には他に「ことなくして」「なしには」などの形がある。タイ語では/pràatsacàak/「免れる」や/khàat/「欠く」を用いることもある。

(55) *thâa mây mii khwaam-phayaayaam khon pra?sòp khwaam-sămrèt dây yâak*  
 もし NEG ある 努力 [推] 出遭う 成功 [可] 難しい  
 努力なくして成功は難しいだろう。

(56) *thâa mây mii phôw-mêe khooy-chúay kôw chây-chiiwít*  
 もし NEG ある 両親 援助する も 生活する  
*yùu khon-diaw mây dây nêe*  
 いる 一人だけ NEG [可] 確かに  
 親の援助なくしては、とても一人で生活出来ない。[文]

(57) *thâa pràatsacàak khwaam-rák ca mây mii chiiwít yùu phúa siŋ-day kan.*  
 もし せずに 愛 FUT NEG ある 生活 いる ため どれ 合う  
 愛なくして何のための人生だろうか。

(12) 〈*mii khun-khâa phôw thii ca …*〉 :

これもタイ語では一種の定型表現をなす。直訳では「～するのに価値がある」「～甲斐がある」という意味で、「～するに足る、十分だ」という一定の評価を表す。

(58) *nii pen panhâa thii mii khun-khâa phôw tòw-koon ca maa*  
 これ COPU 問題 REL ある 価値 十分な 議論する FUT 来る  
*thòkthiãŋ kan rúu?*  
 議論する 互いに Q  
 これはわざわざ議論するに足る問題だろうか。

(59) *pliãŋ naan phúa ca dây naan thii*  
 変える 仕事 為に FUT 得る 仕事 REL  
*mii khun-khâa khuan kèe kaan-tham*  
 ある 価値 べき 対して こと-する  
 遣り甲斐のある仕事を求めて転職する。[文]

(13) 〈*mii khôw-kamnòt wâa …*〉 :

直訳では「～という予定がある」という意味で、近い将来の事態の接近をあらわす。日本語では「ことになっている」という既成事実を提示する言い方。/khôw-kamnòt/のほか、/kòt/「ルール、規則」を用いることもある。

(60) *bòrisàt-nii mii khôw-kamnòt wâa phanáŋnaan ca tòn ráp*  
 会社-この ある 予定 COMP 社員 FUT [義] 受ける  
*kaan-truat sùkkha?phâap pii lá? nùŋ-khráp*  
 診察 健康 年に 一回  
 この会社では社員は一年に一回健康診断を受けることになっている。

- (61) mii kòt wâa weelaa ca yùt rian tɔŋ cɛŋ hây rooŋrian sâap  
 ある 規則 COMP 時 FUT 休む 勉強する [義] 報告する CAUS 学校 知る  
 休む時は学校に連絡しなければならないことになっています。[文]

(14) 〈mây mii thaaj thii ca …(ròk)〉 :

「わけがない、わけはない、はずがない」という事態実現の不可能を断定する言い方。/ròk/をとまうと「～っこない」というより確信に近い断定表現になる。

- (62) chûaŋ thii yùŋ wûn-waay bèp-nii mây mii thaaj pay lên sa?kii dâj  
 時期 REL 忙しい 騒がしい こんなに NEG ある 方途 行く 遊ぶ スキー [可]  
 こんな忙しい時期にスキーに行けるわけがない。[文]

- (63) thâa khôo-sòp mii kham-thăam thii yaŋ mây dâj rian  
 もし 試験 ある 質問 REL まだ NEG PST 習う  
 mây mii thaaj thii ca tham dâj  
 NEG ある 手段 REL FUT する [可]

まだ習っていない問題を試験に出されても、できるわけがない。

- (64) fôn tòk nàk yàaŋ-nú mây mii thaaj piin pay thǔŋ yòt khǎw dâj  
 雨 降る 酷い こんなに NEG ある 方途 登る 行く まで 頂上 山 [可]  
 こんなひどい雨では頂上まで登れっこない。[文]

- (65) khâa-châw pheŋ bèp-nán phúak-raw mây mii thaaj càay dâj ròk  
 家賃 高い こんな 達-PRO NEG ある 方途 払う [可] 全然  
 そんな高い家賃、僕たちには払えっこない。

(15) 〈mây mii thaaj ?ùuun nôk-càak …〉 :

これも/thaaj/「手段」「方途」を用いた構文で、「～しかない」「～ほかない」といった主張、断定を表す言い方で、前文には原因理由を表す文が来るのが常である。

- (66) mây sāmāat tòo-aayú? wiisāa dâj cuŋ mây mii thaaj ?ùuun  
 NEG できる 延長する ビザ [可] CONJ NEG 方法 他の  
 nôk-càak klàp prà?thêet  
 以外 帰る 国

ビザの延長ができなかったのだから、帰国するしかない。[文]

- (67) mây mii khray pay theŋ kô læy mây mii thaaj lúak tɔŋ pay ?eeŋ  
 NEG ある 誰 行く 代わりに も CONJ NEG ある 方途 選ぶ [義] 行く 自分で  
 誰も代わりに行ってくれる人がいないので自分で行く他はない。[文]

- (68) mii khôo-camkàt tháj kamlaŋ-kaay lé? kamlaŋ-cay  
 ある 限界 も 体力 と 気力



kaan khèŋ-khǎn khraŋ-níi cuŋ mây mii thaŋ ʔùum nôk-càak tàtcay  
 こと 試合する CLこの CONJ NEG ある 方途 他 意外に 諦める  
 体力も気力も限界だ。この勝負はあきらめる他はない。[文]

(16) <(mây mii weelaa/panyaa ……ròk)> :

文字通りでは「まったく～時間がない、知恵がない」だが、「全然～どころではない」といった不可能表現になる。

(69) tɔɔn-níi chǎn yùŋ mây mii weelaa ca pay thòŋ-thíaw ròk  
 今 私 忙しい NEG ある 時間 FUT 行く 旅行 全然  
 今忙しくて旅行どころではない。

(70) saʔmǎy-nán mây mii saʔtaŋ thǔŋ ca pen wan-kàet kô  
 当時 NEG ある お金 でも FUT COPU 誕生日 も  
 mây mii panyaa ca chaʔlɔŋ ròk  
 NEG ある 知恵 FUT 祝う 全然  
 当時はお金もなく、誕生日といっても祝うどころではなかった。

(17) <(mây) mii thii-thâa wâa (ca)……> :

「そうだ」「そうにない」という眼前の様態をあらわす。/mii/を用いたモダリティ表現で、一種の意味拡張である。日本語では「模様だ」「気配がある」などの表現も見られる。タイ語の様態表現にもさまざまなタイプがある。/thâa-thaŋ/は「姿勢、態度、様子」、/thâa-thii/は「恰好」、/thii-thâa/も「姿勢、態勢」という意味をあらわす。また/thâa-ca/で「らしい、かもしれない」という意味をなす。なお、日本語では「そうだ」よりもむしろ「そうもない」の方が現れやすいように、タイ語でも否定表現が優位な傾向がある。

(71) kaan praʔthúŋ mii thâa-thii wâa ca phrê-khaʔyáay pay thûa-praʔthêet  
 こと 運動する ある 気配 COMP FUT 広がる 行く 国中  
 反対運動は全国に広がりそうな気配だ。[文]

(72) lòn mii thâa-thii khǎn-aay yùu taʔlòt-weelaa  
 PRO ある 様子 恥ずかしがる いる 終始  
 彼女はいつもはずかしそうにしている。[文]

/thii-thâa/と/thâa-thii/はほぼ同じ意味だが、/thii-thâa/のほうが眼前の状況に対する直感を表す傾向がある。

(73) nǎnsúu lêm-níi mây mii thii-thâa wâa ca khǎy dâ  
 本 CLこの NEG ある 姿勢 COMP FUT 売る [可]  
 この本は売れそうもない。[文]

(74) mây mii thii-thâa wâa ɲaan ca sèt dâw phaay-nay wan-phrûŋ-ní

NEG ある 姿勢 COMP 仕事 FUT 終わる [可] 以内 明日

仕事は明日までには終わりそうもない。[文]

(75) mây mii thii-thâa fõn ca yùt tòk méε ca dùk léεw

NEG ある 姿勢 雨 FUT 止む 降る たとえ FUT 深更 PERF

雨は夜に入っても、止みそうになかった。[文]

/thii-thâa/のかわりに/wǎŋ/「望む、希望」を用いた/mây mii wǎŋ wâa ca/も同じような様態の意味を表す。

(76) phûu-rúam thamɲaan kôo mây phoo

仲間 働く も NEG 十分な

mây mii wǎŋ wâa ca praʔsòp khwaam-sǎmrèt dâw

NEG ある 望む COMP FUT 出遭う 成功 [可]

スタッフも足りないので、成功は望めそうもない。

様態表現はタイ語では他に次のように/duu-thâa wâa/, /thâa-thaay/などでも表されるが、/mii/を用いた表現には一般情報が広く共有される向きがある。

(77) khon-nán súa-khóot kôo mây sây thâa-thaay nǎaw

人-その コート も NEG 着る 様子 寒い

その人はコートも着ずに寒そうにしていた。[文]

(78) lǎŋ-càak-ní 2-3 sàppadaa thâa-thaay ca mii bâan sâay khûm.

これから 2-3 週間 様子 FUT ある 家 建てる なる

あと2, 3週間で家が建ちそうだ。

(79) fõn tham thâa ca tòk loŋ maa díaw-ní lêʔ.

雨 する 様子 FUT 降る 下りる 来る 今 終

今にも雨が降りそうだ。

日本語にも「そうに（も）ない」「そうではない」「なさそうだ」などのヴァリエーションがあるように、タイ語の様態の否定ではおよそ二種類が見られる。(77)の/thâa-thaay/は肯定専用で、否定詞は補文節内に位置し、一般には上例でみてきたように所有動詞/mii/を打ち消して用いる傾向がある。

(80) thâa-thaay khǎw ca mây maa yen-ní

様子 PRO FUT NEG 来る 今夕

あの人は今晚来そうにもない／来なさそうだ。(：来ない模様だ)

(81) fõn kôo mây mii thii-thâa wâa ca tòk

雨 も NEG ある 様子 COMP FUT 降る

雨も降りそうではない。

以上、タイ語の存在、所有表現の分布を見て来たが、実質的な意味から抽象化、文法化がすすみ、あるものはモダリティ表現の一角を占めるなど、多様な用法も観察された。

## 6. 日本語の「ある」構文に対応するタイ語表現

本節では、反対に日本語の動詞「ある」を用いた構文に対応するタイ語表現を観察し、タイ語の存在・所有表現の特徴を見てみることにしたい<sup>4)</sup>。

### (1) 〈～ものがある〉:

文末にあって通常よりも目立つ特徴が見られるという意味で、価値の所在を表す。資質野菜能などを「有している」ことを強調した書き言葉的な評価表現だが、「残念なものがある」「淋しいものがある」などのように形容詞に後続する場合はほとんどで、タイ語では「珍しさがある」「特別な能力がある」のように表されるだけであるが、「感じられる」という印象や感想をそれとなく表すこともある。

(82) この作品には発想に斬新なものがある。[表]

naan chíŋ-níi mii khwaam plèek mây rúŋ nēw-khít

仕事 CLこの ある こと 珍しい NEG 話 視点

(83) 彼の潜在能力にはすばらしいものがある。[表]

kháw mii khwaam-sāamāat phī?sèet sôn yùu

彼 ある 能力 特別な 隠す いる

### (2) 〈～ともあろうものが〉:

主題をあらわす言い方で社会的な地位、役割や職業、資格をあらわす名詞について常識的に考えて、そのような人物が行うべきではない行為を批判的に述べる。驚きや怒り、不信感をともなう表現が続く。「～たるべきもの」にも似た、一種の詠嘆を表す。タイ語では「規模」という形容語と副詞/yaŋ/「まだ」を併用した一種の定型表現で表される。

(84) 警察官ともあろうものが、強盗をはたらくとは何ということだろう。[文]

kha?nàat tamrùat yaŋ pen coon sīa ?eeŋ níi man aray kan níi

規模 警察 まだ COPU 強盗 しまう 自ら これ 奴 何 互いに 強調

### (3) 〈(Xとして/に) あるまじき (行為だ)〉:

「Xとして」「Xにとって」相応しくない意味をあらわす。「行為」のほか「発言」などの言葉が述語としてあらわれる。また、接続詞には「など」のほか「なんて」「とは」も現れる。タイ語では前文を主題化して、後文では「ふさわしくない」という様子が語られる。

(85) 酒を飲んで車を運転するなど、警察官としてあるまじき行為だ。[文]

dùnum lăw léew khàp rôt pen kaan kra?tham thŕi tamruát  
 飲む 酒 PRRF 運転する 車 COPU こと 行う REL 警察  
 mây sôm-khuan tham  
 NEG 相応しい する

(4) 〈～あるのみ(だ)〉:

前進、努力、忍耐などの名詞をうけて「するべきことはそれだけだ」という決意の意味を表す。タイ語では定型表現 *mii-tèe* を用いるほか、義務をあらわす助動詞/*tɛŋ*/を用いる。*/tèe/*は多義語で「しかし」という接続語のほかに日本語の「だけだ」「ばかりだ」「一方だ」のような限定副詞として用いられる。

(86) こうなったからには前進あるのみ(だ)。

nay múa pen bèep-ní kôo mii tèe dæŋ nâ thâw-nán.  
 で 時 COPU 型この も しか だけ 歩く 前 だけ

(5) 〈～あつてのN〉:

「XあつてのY」の形で、「XがあるからYもなりたつ」という意味を表す。価値、評価を確認する表現。あとには「だから～する必要がある」といった対応したり対応したりする文が来るのが一般である。タイ語では/*mii*/のほかに/*yùu*/を併用する言い方が特徴である。たとえば(87)は直訳では「私が毎日いるのはあなたがいるからだ」のように表されているが、前半の「いる」は存在の/*yùu*/、後半の「いる」は所有の/*mii*/で表されている。

(87) a. 学生あつての大学だ。

phró? mii náksúksăa thŕŋ mii mahăawítthayaalay.  
 から ある 学生 まで ある 大学

b. あなたあつての私なんだから。

phró? thŕi chăŋ yùu dâŋ thŭk-wan ní kôo phró? mii khun  
 から REL 私 いる [可] 毎日 これ も から ある あなた

c. お客あつての商売だ、

thŕi thŭ?rakit yùu dâŋ kôo phró? mii lŭuk-kháa.  
 REL 仕事する いる できる も から ある 顧客

(6) 〈～とあつて(は)〉:

「という状態なので」という特別な事情をあらわす。あとには当然発生する、または対処すべき行動が述べられる。タイ語では(88)のように一般に/*phró?*/原因理由節によって表されるが、(89)のように/*thâa*/条件節を用いて表すこともある。

- (88) 名画が無料で見られるとあって、席ははやばやと埋まってしまった。

phró? sāmāat chom pháapphayon thii mii-chúur-siān dāy frii  
 から 可能だ 鑑賞する 映画 REL 有名な [可] 無料  
 thii-nān cuŋ tem yàaŋ-rúat-rew  
 座席 CONJ 埋まる はやく

- (89) 伊藤さんの頼みとあっては、断れない。

thāa pen kham-khǒw-rǒŋ càak khun-Itoo  
 たら COPU 頼み から 伊藤さん  
 lâ?-kǒw pathí?sèet māy dāy  
 CONJ 断る NEG [可]

(7) 〈～にあって (も/は)〉:

特別な状況を表す名詞をうけて「そこで示された状況のもとで」という意味をあらわす。接続の仕方は緩やかで、順接の場合も逆接の場合もある。一般に「も」がつくと逆接の意味を表す。「は」がつくと、当然という順接の意味を強調する。日本語の「ある」はタイ語では存在動詞のほか、「遭遇する」という意味の動詞を用いて表される。

- (90) 異国の地にあって (は)、仕事を探すこともままならない。

pay yù tàaŋ-deen kaan hāa ŋaan māy-chāy rúaŋ thii tham dāy  
 行く いる 異郷 こと 探す 仕事 ではない 話 REL する [可]  
 ŋāay-ŋāay daŋ-cay  
 簡単に 思いのまま

- (91) 彼は苦境にあっても、めげずに頑張っている。

thúŋ ca pra?sòp khwaamlambàak khāw kǒw pha?yaayaam  
 でも FUT 出遭う 困難 PRO も 努力する  
 dooy māy yǒw-thǒw  
 で NEG めげる

- (92) 夫が病床にあっては子供たちに十分な教育を受けさせることもできなかった。

dūay sa?phāap thii sāmāii nǒon pūay yùu bon tiaŋ  
 で 状態 REL 夫 寝る 病む いる 上 床  
 cuŋ māy sāmāat hāy lūuk-lūuk mii kaan-sūksāa dāy dii thaw-thii kuan  
 CONJ NEG 可能だ CAUS 子供 ある 教育 [可] いい 限り べき

- (93) あなたにあっては敵わないな。

yāaŋ khun nii māy mii khray sūu dāy læy ná  
 ような あなた 強調 NEG ある 誰 勝つ [可] 全然 終

(8) 〈「～おそれがある」〉 など:

「きらいがある」「向きがある」「おぼえがある」「甲斐がある、…」など抽象的な概念を対象にした一種の所有文で、タイ語では「あるかもしれない」という言い方の他に、これに準じた定型的な表現がある。

- (94) この薬は副作用の恐れがあるので医者の指示に従って飲んでください。

yaa ní àat mii phôn-khâaŋ -khiãŋ daŋ-nán karunaa thaan yaa  
 薬 この [推] ある 副作用 CONJ てください 飲む 薬  
 taam kham-sàŋ mǔo  
 従う 指示 医者

- (95) 人は中年になると新しいものに興味を持たなくなるきらいがある。

khon-raw phoo aayú? khâw way-klaaŋ khon mii nœwnóom thii ca  
 人-PRO と 年齢 入る 中年 人 ある 傾向 REL FUT  
 mòt khwaam-sóncaŋ tò siŋ màŋ-màŋ  
 尽きる 興味 対する こと 新しい

- (96) 君の活躍を心よく思わない向きもあるようだから、…

duu-múan wâa khon thii mâŋ phoo-caŋ nay bòtbàat khǔoŋ thœ kǔo mii  
 らしい COMP 人 REL NEG 満足する で 役割 の 君 も ある

- (97) 今回の計画については実現を危ぶむ向きもある。

kiaw-káp khroŋkaan khraŋ-nii yaŋ mii baŋ-khon sǔŋsǎŋ wâa  
 関する 計画 今回 まだ ある 幾人 疑う COMP  
 ca tham sǎmrèt dǎŋ ciŋ rǔu  
 FUT する 成功する [可] 本当 Q

(9) 〈～とあれば／とあらば〉：

「一旦緩急あれば：ひとたび大事が起これば」のように、特別な事態を表す言い方で、タイ語では /thâa/条件節を用いて表すのが一般である。

- (98) 子供の教育費とあれば、多少の出費もしかたがない。

thâa pen khâa-cháy-càay rûaŋ kaan-sùksǎa khǔoŋ lúuk  
 もし COPU 支払い 件 教育する の 子供  
 ca tǔŋ càay bàaŋ kǔo tǔŋ yoom  
 FUT [義] 払う 幾らか も [義] 認める

(10) 〈～からあるN〉：

およその距離、重量、数値をあらわす。大きさ、長さなど、「～を下らぬ」という概算的な判断を表す。タイ語では比較級表現（「～より低くない」）を用いて表す。

- (99) その遺跡からは20キロからある金塊が出土した。[文]（～を下回らない）

khùt phóp thooŋ kham-thêeŋ nám-nàk mây tám kwàa 20 kilookram

掘る 遭う 金 塊 重量 NEG 低い より 20 kg

càak sàak-booraan-sathāan hèn-nán.

から 遺跡 CL その

(11) <<さすがに>> ~だけあって~/~は (さすがに) ~だけのことはある>> :

評価表現の典型で、「道理で」「当然ながら」という納得を表す。一種の誘導的な原因理由文で、タイ語では定型表現/sôm kàp thii/を用いて表す。

(100) 10年もフランスに住んでいただけあって、彼女は洋服のセンスがいい。[文]

sôm kàp thii yuu farànsèet thūŋ sîp-pii thoo cuŋ mii rôt-ní?yom

相応しい と REL いる フランス まで 10年 PRO CONJ ある センス

rúaaŋ sūa-phāa dīi

件 服 いい

(101) うまい魚だ。とれたてを送ってもらっただけのことはある。[文]

plaa arỳ sôm kàp thii sòŋ maa hāy tāt-tèe toon càp dāy māt-māt

魚 美味い 相応しい と REL 送る 来る CAUS から 時 捕える [可] 新しく

(12) <~もあれば~もある> :

対比・並列表現の一つで、「こと」「時」のほかに「場合」「人」「もの」などもあらわれるが、タイ語では/baaŋ-thii kô/を繰り返して表される。例文はそれぞれ「ある場合は早く起きてある場合は遅く起きる」「ある場合は便利である場合は不便だ」のように表される。

(102) 起きる時間は決まっていない。早く起きることもあれば遅く起きることもある。[文]

weelaa túun mây nêe-noon baaŋ-thii kô túun cháw baaŋ-thii kô túun sǎay

時 起きる NEG 確かな ある時 も 起きる 早い ある時 も 起きる 遅い

(103) 車に乗っていると便利な時もあれば不便な時もある。[文]

khàp rôt baaŋ-thii kô sa?duak baaŋ-thii kô mây sa?duak

運転する 車 ある時 も 便利 ある時 も NEG 便利

(13) <~を措いて (は) (ほかに) ~ない>

最大比較、排他的表現。/nôk-càak/は「~以外に、~を除いて」という複合前置詞。?iik は「ほかに」という副詞。léew は日本語に対応しない成分である。/mii/の後には/khray/「誰も」のように不定詞がくるのが通例である。

(104) この仕事をやれる人は、あなたをおいて他にいないと思います。[表]

khít wāa khon thii tham ŋaan-nīi dāy

思う と 人 REL する 仕事この [可]

nôk-càak khun léew mii khray ?ùum ?iik

以外に 貴方 PERF NEG ある 誰 あと

## 7. テキストにおける/mii/の〈発生、出現〉の意味構造

日本語の多義的な動詞「ある」には、存在、所有以外にもさまざまな意味が観察されるが、その主だったものから、タイ語の存在、所有、発生の連続体を捉えることが可能になるように思われる。たとえば、日本語の「ある」は、一定の文脈、環境の下で出現し、解釈によっては「見られる」「観察される」「届く」などの意味になる。

(105) この前探った時は、途中に癩痕の隆起があったので、… (夏目漱石『明暗』)

このような「ある」は翻訳すれば単なる存在を意味しない。「新幹線の台車に数箇所亀裂があった」の「あった」は「見られた、発見された、見つかった、観察された」などの意味を内包する。「質問があった」「申し出があった」「電話があった」などの「あった」は「届いた、出された、来た」などの意味を表す。こうした日本語に見られる「ある」の内実の研究はここ数年、顕著な成果が見られ、タイ語の存在表現を見る際にもきわめて重要な示唆を得るにちがいない。事態発生、出現を表す/mii/の用法については、どのような条件のもとで現れやすいのか、ほとんど検証されていないように思われる。考えられることはある発生の端緒の設定が想起されることである。次例では「～を皮切りにして」という文型との併用が特徴的である。

(106) rêm càak kaan-phûut khǒŋ khăw mii khon camnuan mâak

始める から 発言 の PRO ある 人 数 多い

phûut sa?dɛŋ kwaam-hěn tǒ-tǒ kan pay

話す 表す 意見 次々と 合う 行く

彼の発言を皮切りにして、大勢の人が次々に意見を言った。

(107) rêm càak phǒnŋaan chin-ní thəə kǒ mii phǒnŋaan

始める から 作品 CL-この PRO も ある 結果

nawa?níyaay taam ?òk maa mâak-maay

小説 従う 出る 来る 沢山

この作品を皮切りとして、彼女はその後、多くの小説を発表した。

これまで、/mii/の基本的な用法を概観したが、一方で、実際のあらわれかた、使われ方はいささか複雑である。まず、存在物、所有の対象は日本語でも同じように抽象物もあり、さらに動作行為全体が動きを見せるような状況を提示する。以下、スワンニー・スコンターの作品「帰らぬあの日」から実例を見て行こう。

(108) ?aanaakhèet bâan raw kwâaŋ-khwâaŋ mii mâak phǒ ca liaŋ máa

敷地 家 PRO 広大な ある 多い 十分な FUT 飼う 馬



dây sák sip tua dūay-sám-pay

[可] 程 10 CL おまけに

[日本語訳]私たちの家の敷地はとても広がった。十頭ほどの馬を飼育するには十分の広大な土地であった。

この/mii mâak/は前述したような「多い」という意味よりも「広大な」という空間的な広さを表している。後続の/phoo-ca/とともに、「～には十分だ」という定型的な表現である。具体物の存在や抽象物の内在のほか、行為・現象の存在も表される。

(109) rôp-rôp bâan khǒŋ raw mii yâa khǐaw ?ùdom

周囲 家 の PRO ある 草 緑 豊かな

[日本語訳]私たちの家の周囲には、青々と茂る草がふんだんにあった。

(110) (.....)tèe kǒo yaŋ mii khwaam-chûmchúum phoo thîi ca mii

CONJ も まだ ある 湿気 十分な REL FUT ある

yâa khǐaw khúm rá?bát

草 緑 なる 芽生える

[日本語訳](略)それでもなお緑の草が生えるには十分の湿り気があった。

(111) lé? troŋ-nú ?eeŋ thîi mii ma?læn-pǒo sǐi sūay-sūay chúk-chum

CONJ ここ 強調 REL ある 蜻蛉 色 美しい 豊富な

[日本語訳]ここ、まさにこの地である。きれいな色の蜻蛉が群がっていたのは。

「長生きする」は「延命を有する」のように表され、また情報の伝播、出所にも/mii/が不特定多数の指示対象として用いられている。

(112) máa man mii ?aayú yuum mǔan-kan yàaŋ-nóoy kǒo

馬 PRO ある 歳 延びる 同じく 少なくとも も

àat-ca thǔŋ yǐi-sip-pii mii khon khǒoy wâa yàaŋ-nán

[推] 達する 20歳 ある 人 [経] 言う そのように

[日本語訳]馬は一般に長生きする動物だと聞いていた。当時、キイオウの年齢は少なくとも二十歳には達しているだろうと言う人もいた。

事態の出現、発生は「開始」を意味する動詞を併用することがある。日本語では直訳すれば「あり始める」という不自然な動詞結合を見せるが、タイ語では/mii/が形式動詞、機能動詞として働き、/rêem/はそれぞれ(113)/dæn-pay/「進んでいく」、(114)/klàp-maa/「帰って来る」にかかると見なされる。

(113) nay-thiisút kaan dæn-thaay kǒo rêem khún

遂に こと 行軍する も 始まる なる

rêem mii máa lé? thá?hǎan dæn pay thaay-thít ta?wan-tòk

始まる ある 馬 と 兵隊 歩く 行く 方角 西方

[日本語訳]とうとう行軍が始まった。馬と軍は西の方へ進み始めた。

(114) *mây naan nák kôo rôem mii thá?hãan klàp maa càak thít tawan-tòk*

NEG 長い 終 も 始まる ある 兵隊 帰る 来る から 方角 西

*mûŋ sùu tawan-?òok*

目指す 向かって 東方

[日本語訳]まもなく、軍が西方から引き返し、東方に方角をとった。

次も事象・事態の発生、進行をあらわす。「通り過ぎていく事態が何度も起こった」事実を述懐している。「～する度に、ある度に」という文型をなす、一種の定型句である。

(115) *thúk-khráŋ thii mii thá?hãan lé? máa dæm tháw phaan mùu-bãan khǒŋ raw pay*

毎回 REL ある 兵隊 と 馬 歩く 過ぎる 村 の PRO 行く

[日本語訳]軍と馬が私たちの村を通り過ぎるたびに、…

次は「髭を生やす」という特徴的な所有の一例である。

(116) (…) *lé? khon-nùŋ nay thii-nân mii nùat khraw ruŋ-raŋ lǎw maa mœŋ*

CONJ ある人 中 そこ ある 生やす 髭 ぼうぼうの 曲がる 来る 見る

[日本語訳] (略) そしてあごひげをぼうぼう生やした一人の兵隊が、振り返って私の方を見た。

「～をしている」のように特徴的な形状をあらわすときにも/mii/が用いられる (前述)。

(117) *phrá?phúttha?rùup ?oŋ-nii mii phrá?-phák duu ?òon-yoon mâak*

仏像 CL-この ある 仏・顔面 見える 優しい 大変

この仏像は優しそうな顔をしている。[文]

次の/mii/以下は前節で述べたように〈様態〉、〈前兆〉を表す定型表現である。直訳では「終わるといふ様子がなかった」という意味をあらわす。

(118) *sǒŋkhraam kôo yaŋ mây mii thii-thãa wãa ca sîn sùt*

戦争 も まだ NEG ある 様子 COMP FUT 尽す 果て

[日本語訳]戦争はいつ終止符をうつのか、その兆しすら見せてはいなかった。

## 8. /yùu/と/mii/を用いた諺

日本語の「ある」「いる」には人間の行為、存在、尊厳を意味した諺にもあらわれる。「苦あれば楽あり」、「壁に耳あり障子に目あり」、「鬼のいぬ間に洗濯」「神も仏もない」など、いわば人間の価値観や存在の本質が如実にあらわれたものといえよう。同様にタイ語にも短い言いまわしから長いもの、対句を用いたものまでさまざまな言語的特徴が観察される。

以下、タイ語辞書、慣用句から/yùu/と/mii/を用いた諺をいくつか紹介しておこう。

(119) kin yùu kàp pàak yàak yùu kàp thóŋ

食べる いる と 口 [願] いる と 腹

口で食べていて、お腹の中に居たがる。

意味：よく知っているのに知らないふりをする。「シラを切る」

(120) khii khúm pay yùu bon saʔmɔŋ

糞 上がる 行く いる 上 頭

糞がはねて頭の上に来る

意味：非常に恐れる。

(121) kháp thǐi yùu dǎy kháp cay yùu yáak

狭い 所 いる [可] 狭い 心 いる 難しい

場所が狭いのは大丈夫だが、心が狭いのは居づらい。

意味：文字通り。場所の狭さは気にならないが、心の狭い人とは一緒に居づらい。

(122) sǔa sǔŋ-tua yùu thǎm diaw-kan mây dǎy

虎 2-CL いる 穴 同じ NEG [可]

一つの洞窟に二匹の虎は棲めない。

意味：両雄、並び立たず。

(123) mæw mây yùu nǔu rǎa-rɔŋ

猫 NEG いる 鼠 騒ぐ

猫がいないと鼠は浮き立つ

意味：上司や目上の人がいないと部下は喜んで勝手に振る舞う。「鬼の居ぬ間に洗濯」。

(124) ŋaw hǔa mây mii

影 頭 NEG ある

影には首がない。

意味：死相が出ている。

(125) mii phaasǐ kwàa

ある 税金 より

(周囲より) さらに税金を持っている。

意味：より有利な立場にある。転じて美人は得をする。

(126) mii fúaŋ mii saʔlǔŋ

ある 小銭 ある サルン

0.25バーツある。

意味：はした金しかない。実際は沢山持っているのに謙遜して、あるいは相手をはぐらかす際に使うこともある。/fúan/は古代タイの貨幣単位。

(127) mii taa tɛɛ mii wɛɛw mây

ある 目 だが ある 光沢 NEG

目はあるが光沢はない。

意味：物を見る眼がない。「節穴」。

(128) kamphɛɛŋ mii hũu praʔtuu mii taa

壁 ある 耳 戸 ある 目

壁に耳あり、ドアに目あり。

意味：文字通り。密談が漏れやすいことのたとえ。日本語では「障子」がタイ語では「戸」になっている。/taa/のかわりに/chɔ́ŋ/「隙間」を使うこともある。

(129) mii ɲən náp wáa nɔ́ŋ mii thɔ́ŋ náp wáa phii

ある 銀 見なす と 弟 ある 金 見なす と 兄

銀あれば人々を呼んで弟となし、金あれば人々を呼んで兄となす。

意味：貧乏に兄弟なし。タイ社会では誰かが出世すると親戚と称する者が大勢現れて群がる傾向があることから。

(130) mii thɔ́ŋ thâw nùat kũn nɔ́n saʔdũŋ con ruan wǎy

ある 金 等しい 髭 海老 寝る 驚く まで 家屋 揺れる

海老の髭ほどの金しか持っていないのに、眠っていても家が揺れるほど吃驚する。

意味：小金を手に入れて、夜も安心して寝ていられない。吝嗇な。

(131) khon-dii mii nɔ́y khon-thòy mii mâak

いい人 ある 少ない 悪人 ある 多い

良き人は少なく、悪人は多い。

意味：文字通り。悪貨は良貨を駆逐する。

すでにみたように/mii/の慣用的な用法を含めて/yùu/よりも多種多様な表現があらわれるのは、大雑把にいえば人間の基本的な精神活動において、/yùu/が〈気付き〉、/mii/が〈認識〉、という特徴が見出せるのではないだろうか。そして、人間の価値観が後者により大きく依存していることを物語っているように思われるが、慣用句、諺などの言語文化的な表現にも示唆されるところがあるように思われる。

## 9. おわりに

本章ではタイ語の/yùu/, /mii/を用いた存在・所有、発生表現をみてきたが、/mii/の表現が多様にわたっていることが了解された。日本語でも「いる」よりも「ある」の用法がはる

かに豊富である。野田（2017）が示しているように、日本語の「ある」には「いる」には見られない多義性の特徴が見られる。

(132) 具体物の存在、プロトタイプの意味のある場所でのもの、建造物、地域の存在、人の立場、にある、人の状況、事物の状況、傾向にある、人の存在、人の生存、世にある、生物・ものの数量、期間・時間、所有物の存在、状態・権利・役割の帰属、人や動植物に備わる特徴、所有物としての事柄の存在、事柄の存在、実現する物事、過去に経験した物事、不定期に実現する物事、伝聞により把握される情報・出来事、帰結、実現に関与する事柄の存在、(野田 2017)

ここには存在・所有表現における多義性から意味的な拡張が随所に見出されるが、これらの意味・用法のネットワークを参照しつつ、タイ語の/mii/および/yuu/のネットワークを構築していくことも重要な課題であろう。とくに発生、出現の用法では様々な下位分類が可能のように思われる。/mii/と併用される動詞にも分類が見られそうである。同時に中国語との対照比較からの知見も吸収していく必要がある<sup>6)</sup>。

注

- 1) 初級日本語教科書『みんなの日本語 I』（スリーエーネットワーク、2010）による。
- 2) タイ・バンコクにある語学学校 Union Language School, AUA Language Center のテキストなど、外国人に対する第2外国語として開発されたタイ語のテキストに見られる傾向である。
- 3) yuu には動詞に後接して、動作行為の進行、習慣的常態を示す用法があるが、本動詞の用法とは異なるので、一部の用例を除いて本考察の対象からははずすことにする。
- 4) なお、以下の用例、言語データとしては次の訳本を用いた。

略称[表]

『どんな時どう使う日本語表現文型 500 中上級』友松悦子、宮本淳、和栗雅子 アルク 1996

กฎแจจจ500รูปประโยคภาษาญี่ปุ่นชั้นกลางและชั้นสูง

ผู้แปล วีรวรรณ วชิรดิถล สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม 2002

略称[文]

『教師と学生のための日本語文型辞典』グループジャマシイ編 くろしお出版 1998

พจนานุกรมรูปประโยคภาษาญี่ปุ่น

ผู้แปล บุษบา บรรจงมณี ปราณี จงสุจริตธรรม ประภา แสงทองสุข วันชัย สีสัพพัทธ์กุล くろしお出版 2012

- 5) 実例としては、次の作品を用いた。

原本 “เรื่องสั้นชุด สวนสัตว์” สุวรรณีย์ สุคนธา สำนักพิมพ์ศิลปปาวรรณาการ จัดพิมพ์ พ.ศ. ๒๕๕๕

日本語訳 「帰らぬあの日」

スワンニー・スコンター、吉岡峯子訳 『サーラピーの咲く季節』（段々社 1987）

- 6) 張、範等編著《現代漢語存在句研究》(2010) は現代中国語の存在表現研究の最先端にあると思われるが、第7章では〈漢—外〉対比研究(対照研究)の概略が紹介されている。だが、対象言語は英語、仏語、ロシア語、韓国語のみで日本語は含まれていない。

参考文献

- 伊藤健人(2015)「「ある」を述語とする所有表現の構文的特徴—「〈拡張型〉所有」と「〈内包型〉所有—」、『群馬県立女子大学国文学研究』35 1-19
- 大塚望(2004)「「～がある」文の多機能性」、『言語研究』125 111-142 日本言語学会
- 韓泌南(2013)「日本語の「ある/いる」構文の類型—命題の意味的特徴に注目して—」、『日本研究教育年報』17 33-52 東京外国語大学
- 久保田一充(2014)「「息子は明日運動会がある」構文—「予定」を表す「象は鼻が長い」構文の変種—」、『日本語文法』12(2) 192-212 日本語文法学会
- (2017)「出来事の発生を表す「～がある」文」、『言語研究』151号 67-87
- 田中寛(2018)「「とあって」と「にあって」—「ある」の後置詞化と状況の指示的特性—」、『語学教育研究論叢』38号 12-29 大東文化大学語学教育研究所
- 張麟声(2006)「現代日本語の存在表現」、森山卓郎・野田尚史・益岡隆志編『日本語文法の新天地Ⅰ』くろしお出版
- 角田大作(1990)『世界の言語と日本語』くろしお出版
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 野田大志(2017)「現代日本語における動詞『ある』の多義構造」、『国立国語研究所論集 NINJAI』12 81-110
- 新居田純野(2004)「人の〈特性〉と〈状態〉をあらわす存在文—「～がある」形式について—」、『日本語文法』4(2) 202-213
- (2015)「タイ語の存在・所有表現—日本語の存在・所有表現との対照から—」、『長崎外大論叢』第19号 47-72 長崎外国語大学
- 西山佑司(2003)『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』、ひつじ書房
- (2004)「絶対存在文と帰属存在文の解釈をめぐる」、『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』36 161-178
- 山本雅子(2015)「存在表現「ある」「いる」の意味—事態解釈の観点から—」、『言語と文化』No.22 55-71 愛知大学
- 李所成(2011)《日漢存在表現的対比研究—認知言語学視角》、北京・外語教学與研究出版社
- 張先亮、範曉等編(2010)《現代漢語存在句研究》、北京・中国社会科学出版社
- Anek Kimsuvan(1992) The Pragmatical Use of /yuu/, PAN-ASIATIC LINGUISTICS  
Proceedings of the Third International Symposium on Language and Linguistics  
Chulalongkorn University Bangkok, Thailand Jan.8-10
- Prapa Sookgasem(1992) A Verb-Subject Construction in Thai: An Analysis of the Existential Verb “mii” PAN-ASIATIC LINGUISTICS Proceedings of the Third International Symposium on Language and Linguistics Chulalongkorn University Bangkok, Thailand Jan.8-10

## 第Ⅱ部 タイ語動詞構文の諸問題〈第2章〉

## タイ語移動動詞の表現・機能体系

## —/pay/と/maa/の意味と用法—

【キーワード】 移動動詞 本動詞 補助動詞 意味拡張 心理的待遇表現

## 1. はじめに

人間は移動せずして生きることができない、といていいほど<移動>という概念、認識のパターンは行為、行動の中枢を占めている。したがって移動動詞は基本動詞のなかでもきわめて使用度、露出度の高い動詞である。発生動詞、変化動詞とも隣接する動詞の性格は[主体]と[客体：移動物]、さらに[移動先]という三点<sup>2)</sup>によって決定され、主体のいずれかの〈視点〉に基づいて、ダイクシス的な振る舞いを見せる。場所は主体が移動するにあたって視点が自ずと設定され、また移動することから何らかの目的指向と意志が介在する。よって、そこにはさまざまな言語行為を随伴することになり、その意味でも行為・事象を含む移動動詞表現は言語文化の考察にとっても重要な対象となりうる。

たとえば言語の表現行為に不可欠なく授受>などにみられるような、これまでキー概念としての<移動>を言語学的に考察した類型論的な研究<sup>2)</sup>としてまとまったものは管見の限り確認し得ていないが、今後も「アル」、「スル」、「ナル」、「デキル」、「イウ」、「オモウ」などとともに深い言語文化的な考察が続けられることだろう。そのためには複数の言語の移動表現、移動動詞を参照しなければ、その普遍性、個別性も明らかにされない。また、移動を論じる際の重要な認識として変化（表現）、事態の出現（消滅）の様相をどうとらえるか、という点も無視できない。本章ではタイ語の移動動詞を考察の対象とするが、変化動詞についても一部、言及することになる<sup>3)</sup>。

## 2. 本動詞/pay/と/maa/の意味と用法

空間移動の場合、移動する主体、移動の起点、経由する場所、到達点（目的地）、移動に用いる手段、移動にかかわる様態（附帯状況）などの要素が関与すると述べたが、状況によりその必須要素が言語（情報）化され方は自在に変化を見せる。空間内部の物理的移動と同時に、主体に重きをおけば話し手、聞き手からみた移動の方向性が関心事となる。

たとえば、「レンタルする」「出張する」という行為があるとする。この行為を構成する動作は必然的に移動動詞を伴う。「車を借りて来て／遊ぶ」「他の場所に仕事に行く」という複数行為の移動連続現象によって示される。分析的な表現を好むタイ語の特徴がここにも見られる。移動の方向性「来る」「行く」も話者の位置によって決定される。

(1) châw rôt maa | lèn-kan

借りる 車 来る 遊ぶ-互いに

車をレンタルする。(車を借りて来て | 遊ぶ) (「|」の左右は複数行為)

ここで<N1pay/maaN2>を構成する要件を点検すれば、N1は移動する主体で人間のほか物体・事物(電車・メール・報せ etc.)をあらわし、N2は目的地・到達点(人物の場合は「彼のところ」のように場所化される)と同時に手段もあらわす。ここから、移動の概念、範疇として、シンメトリックに相対する事象を考える必然性がある。即ち主体から見た目的地への離反と、ある任意・必然の場所から目的地としての主体存在場所に向かい接近の現象である。本章ではまず/pay/と/maa/に分けて記述する<sup>4)</sup>。

2.1 /pay/の用法

主体の移動を考えると、人物であれ、乗物、事物であれ、<行く・来る>が用いられる。しかし、その出現には一定の分布もみられる。たとえば、「メールが来た」「台風が来る」に対して「メールが行く」「台風がいく」はかなり限られているようである。「メールを送る」「台風が去る/去っていった」のように言うのが一般的だろう。

タイの最も規範的とされる学士院タイ国語辞典(พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน พ.ศ.๒๕๒๕) <sup>5)</sup>によれば/pay/の記述は以下のようである。

(2) /pay/の辞書的な意味記述

เคลื่อน	ออก	จาก	ที่	ใช้	ตรง	กันข้ามกับ	มา
khluang	ʔòok	càak	thîi	cháy	troṅ-kan-	khâam-káp	maa.
移動する	出る	から	所	使う	と反対に		来る
: 場所から出る動き。maa に対して用いる。							

以下、最も基本的なタイ語の移動表現をみてみよう。(5)の「遅刻する」のような例では話者の位置によって移動動詞の選択がなされる。

(3) phôm pay rooṅrian

PRO 行く 学校

私は学校へ行く。

(4) rôt-thua thîi ca pay chiaṅraay khuu khâṅ-nây khráp?

ツアーバス REL FUT 行く 地名 COPU CL-どこ MPP

チェンラーイ行き<sup>6)</sup>の長距離バスはどれですか。

(5) mûacháonîi pay sǎay khâ

今朝 行く 遅れる FPP

今朝、遅刻した。【(遅刻した)主体は(帰宅して/外出して)会社にいない】

(6) pay sǎansát, pay yàaṅṅay?

行く 動物園 行く どのように



動物園に行く {のに／には}、どうやって行きますか。

(7) khǎo khâw hôŋnáam kòon.

請う 入る トイレ 先に

先にお手洗いに行かせてください。(一般に「入らせてください」の婉曲表現)

(8) mây lǒŋ thaaŋ rúuu khá?

NEG 迷う 道 Q FPP

迷いませんでしたか。

— sa?núk dii khá. thǎam thaaŋ khon pay ta?lòot.

面白い いい FPP 訊ねる 道 人 行く ずっと

:面白かったですよ、ずっと人に道を訊いていました。(通行人)

ただし、(9),(10)のような場合は日本語とのズレが生じる。日本語では「来る」を使うべきところを「行く」が使われていることに注意しなければならない。

(9) kháw yàak háy chán pay bāan kháw.

PRO [願] CAUS PRO 行く 家 PRO

彼女は私に彼女の家に来て欲しいのです。cf: #行って欲しい

(10) khun pay kòon kǎo dāy khá.

PRO 行く 先にも [可] FPP

どうぞ先に行ってください。

— dǎaw khun taam pay ná khá.

すぐに PRO 従う 行く [終] FPP

じゃあ、後で来てくださいね。

「間に合う」もこちらから目的地に着く場合か、または向こうからこちらに着く場合かによって/pay than/,/maa than/が使い分けられる。次はこれから出かけていく場合の「間に合わない」状況である。否定詞は「行く／来る」と「間に合う」の二語の間に置かれる。

(11) wan-nú pen wan-yùt, mây yàaŋŋán rôt khoŋ tit, pay mây than.

今日 COPU 休日 NEG そう 車 [推] 込む 行く NEG 間に合う

今日は休日、さもないと渋滞で間に合わないだろう。

## 2.2 /maa/の用法

ここでダイクシスという事態把握について触れておくと、話し手の視点から見て相手に対して向かう行為、自分に向かう行為のいずれかはその場に話し手の存在を軸に考えるという発想である。これは言語によって一様ではなく、たとえば二人が公園を歩いていた時、一人がもう一人に「これから私の家に行きませんか」と誘う場合、「来る」のほうが「行く」よりも出現度が高いのは、自分の家を自分の領域として相手が向かうことを期待してのこ

とである。タイ語では反対に「行く」を用いる傾向がある。次の例を見てみよう。

- (12) 「死ぬ時にはどこにいても死にますわ。死なば諸共、良人の行く處ならどこへでも妻はついてゆきます。すると、子供は母親について来ます。」と彼女は答えた。それを聞いていた筆者は、非常に心強く感じて、感謝の情すら胸裏に湧いて来た。

(西村眞次『大東亜共栄圏』1942.7 博文堂出版 191頁)

母親はタイに行く。すると子供も母親について来る。母親は目的地のタイ、次に後から出発する子供に向けられている。こうした視点の移動は日本語ではきわめて自然である。これは後述する動作目的でも同様である。

日本人がタイ語を習い始めて初めて覚えた、あるいは初めて聞いたタイ語として、主語(主体)を省略した次のフレーズがしばしばあげられる。

- (13) maa léew  
来る PERF

「(電車、注文していたものが)来た」という言い方で聞く(使う)頻度も多い。「電車が行った」、「料理が行く」もないわけではないが、人間の営みの優先上、出現・使用頻度は低い。/pay rótmee/「バスで行く」のように名詞は移動動詞に直接後置される<sup>6)</sup>。

/maa/の意味記述は前述タイ語の学士院国語辞典では同様に、/pay/の記述を踏襲していて実質的、内容的な説明とはいいいがたい。

- (14) /maa/の辞書的な意味記述

เคลื่อน	ออกจาก	ที่,	ใช้	ตรงกันข้ามกับ	ไป
khluəŋ	ʔòk-càak	thii,	cháy	trəŋ-kan-kháam-kàp	pay
動く	出る	所	使う	と反対に	行く
: 場所から出る動き。/pay/に対して用いる。					

- (15) yàa maa sǎay ʔiik ná khráp.

[禁] 来る 遅れる もっと [終] MPP

もう二度と遅刻して来ないでください。

- (16) wan-nii raw maa rót roonrian khan-diaw kan.

今日 PRO 来る 車 学校 CL同じ 合う

今日私達は同じスクールバスで来た。

- (17) dǎw ca mii khèek maa. chúay triam kaafɛ wáy dūay ná khá.

後で FUT ある 客 来る 手伝う 準備する コーヒー ておく 一緒に [終] FPP

もう少ししたらお客さんが来ますので、コーヒーを用意しておいてください。

(18) maa muaŋ-thay dâw hâa duan léew.

来る タイ 得る 5 月 PERF  
タイに来てもう5カ月になりました。

(17)のように不特定の出現予定を報告する際に、前章で述べたように所有動詞 *mii* を併用することがある。また、次のように/*maa*/が原産地、出産地を表すことがある。

(19) sôm?oo níi maa càak thŭi-năy?

ザボン この 来る から どこ

このソムオーはどこから来ていますか? (このソムオーの原産地はどこですか)

(20) phŏj maa thŭj muaŋ-thay mŭa-waan-nŭi ?eeŋ khráp.

ばかり 来る 着く タイ 昨日 ただ MPP  
つい昨日、タイに着いたばかりです。

(20)の/thŭj/は「まで」という前置詞でもあり、「着く」という意味の動詞でもあるが、移動動詞とともに用いた場合、「着く」の方向性が賦与される。先方に到着場合は、/pay thŭj/で、接近側に到着する場合は、/maa thŭj/のように区別する。反対に離反側からの到着は/pay thŭj/を用いる。/càak/は「から」という意味の前置詞で通常/*maa*/に後接する。

(21) 移動動詞と起点、到達点

	thŭj	càak
pay 行く	pay thŭj 着く、まで行く	? pay càak から行く
maa 来る	maa thŭj 着く、まで来る	maa càak から来る

### 3. 動作目的——動詞連続の視点から

「買物に行く」「会いに行く」のような、いわゆる「動作目的」と称される表現は前後を入れ替えれば「(場所) へ行って~する」という動作連続の表現とも見なされる。

#### 3.1 /pay/+Vp+ (場所): 「(場所) へVに行く」

タイ学士院国語辞典にはこの用法の記述は見られない。つまり上記の/pay/, /maa/の動詞の用法に一括しているので、/maa/においても同様できわめて不十分な記述である。これに対し HASS(1964)、富田(1987)の記述は遥かに充実しているよいえよう。その中で/payVp/が比較的まとまった動詞句として常用されるものは以下のようである。

- (22) pay hâa mǎw 医者に診てもらいに行く  
pay yŭam phŭan 友達を訪ねる/友達に会いに行く  
pay súu khǒŋ 買物に行く  
pay càay ta?làat 買い出しに行く  
pay tàt phǒm 髪を切りに行く  
pay sǎem sŭay 美容室に行く

pay thāw 遊びに行く  
 pay kin khāaw 食事をしに行く  
 pay ŋaan òpʔrom 式に行く、研修に行く  
 pay faj thēet (寺に) 説経を訊きに行く

(23) pay piin khāw bōy

行く 登る 山 よく  
 よく山登りに行く。(??山を登りに行く)

(24) yàak-ca chuan khun pay duu nǎŋ.

[願] 誘う PRO 行く 見る 映画  
 あなたを誘って映画を見に行きたい。

(25) dǎaw dichán ca ʔòk pay kin khāaw khǎŋnòk.

あとで PRO FUT 出る 行く 食べる ご飯 外  
 ちょっとしたら私は外へごはんを食べに行く。

(26) dǎaw, dichán ca ʔaw wiidiaw pay khumun thīi ráan.

すぐ PRO FUT 取る ビデオ 行く 返す で 店  
 ちょっとしたら、店にビデオを返しに行く。

(27) khun ca pay ŋaan-tènŋaan khun-Nítthaayaa máyʔ

PRO FUT 行く 結婚式 ニタヤーさん Q  
 あなたはニタヤーさんの結婚式に出席しますか。

(28) ʔiik sǎam-sii wan phǎm ca pay prachum thīi Phátthayaa.

あと 3,4 日 PRO FUT 行く 会議 で パタヤ  
 あと3, 4日したら私はパタヤへ会議に行く。

(29) baan-khon pay súu khǎŋ baan-khon pay duu khǎŋ.

ある人 行く 買う 物 ある人 行く 見る 物  
 ある人は買い物に、ある人は物を見に行く。

(30) ca pay ʔaw súa thīi ráan-tát-súa.

FUT 行く 取る 服 で 仕立屋  
 仕立屋に洋服を取りに行きます。

(31) phǎm máy yàak háy khon-thay pay thamŋaan thīi yīpùn.

PRO NEG [願] CAUS タイ人 行く 働く で 日本  
 私はタイ人に日本に出稼ぎに行つて欲しくない。

(32) phǎm ca pay ráp phúan khon-thay thīi sanāmbin.

PRO FUT 行く 迎える 友達 タイ人 で 空港  
 私は空港へタイ人の友達を迎えに行く。

注意すべきは日本語の方向格の「へ」格はタイ語では動作行為の行われる場所を示す/thīi/を用いる点で、タイ人の日本語では「\*空港で迎えに行く」「\*学校で習いに来る」のような

誤用が多く見られることになる<sup>8)</sup>。

### 3.2 /maa/+V+ (場所) : 「(場所) へVに来る」

これに対して「Vに来る」は「Vに行く」に比べて使用・出現頻度は低いようである。これは大雑把に言えば、人間の行為が「Vに行く」を基準にして「Vに来る」はその一部の結果であるという認識に拠るのであろう。これはタイ語においても同様である。

(33) maa thônthiaw

来る 旅行する : 旅行で来た。

(34) maa òp?rom

来る 研修する : 研修(し)に来た。

(35) maa truat sùkkhaphâap.

来る 調べる 健康 : 健康診断に来た。

(36) kháo maa rian phaasāa-thay thii roonrian ní thúk-khuun.

彼 来る 学ぶ タイ語 で 学校 この 毎晩

彼は毎晩この学校にタイ語を習いに来る。

(37) chúay bòok háy maa duu thii hōng nòoy ná khá.

手伝う 言う CAUS 来る 見る で 部屋 ちょっと [終] FPP

部屋に見に来るのように言ってくれませんか。

(38) mii khèek maa hãa khã.

ある 客 来る 会う FPP

お客さんが {訪ねて来て / 会いに来て} います。

次の例は動詞/maa/のあとに/khróp/「揃う」をともなって、「来るのが揃う」「来て揃った」という統括的な意味を構成している。/khróp/はむしろ副詞的成分として使われ、動作目的というよりも動詞連続の現象である。日本語では「揃う」に方向性を含意するが、タイ語では/pay/,/maa/をともなって分析的にあらわされる。

(39) ?aahãan yaŋ mây maa khróp khã.

料理 まだ NEG 来る 揃う FPP

料理がまだ全部来ていません。

次の例も動作目的ではなく、「タイに来て、滞在する」というように継起を表す動詞連続表現である。/maa/を略していることも多い。/yùu/は結果継続を表す。

(40) maa yùu muaŋ-thay naan máy?

来る いる タイ 長い Q

タイに来て長くいますか / タイに来て長いですか。 cf.??長く来ていますか

動作目的を表す動詞連続句はさらに次節で述べる補助動詞などをともなうことも多い。これは日本語の「行って来る」の構造にほぼ対応している。

(41) pay tət phǒm maa khráp.

行く 切る 髪 来る MPP

髪を切りに行って来ました。

#### 4. 補助動詞としての/pay/,/maa/の用法

これは動詞に後接するもので日本語の「ていく」、「てくる」に相当する。前章と異なるのは、前章の用法が自立的な本動詞であるのに対し、ここでは副次的な用法と見なされる。中国語に見られる趨向動詞や方向動詞とも非常に似た用法である。まず、空間的、物理的には、行為の<離反、接近>が共通している。行為の離反は、主体が何らかの行為を附随させていくもので、具体的には「持って行く」/「持って来る」、「連れて行く」/「連れて来る」などで、前項動詞がいわば「行く」と「来る」の様態的な、手段方法的な意味をともなう。「飛行機に乗って」「車を運転して」なども使用頻度の高いものである。「朝食を食べて行く/来る」などは事態の継起とも解釈され、「朝食を食べてから行く/来る」のような行為の前後関係が明示される。主体が元の場所を視点として移動先へ離れて行く、または主体が移動先を視点として元の場所から近づいて来る、という現象である。

以下、特徴的なフレーズに分類して例証を試みる。

##### 4.1 携行動詞/?aw/,/nam/, 随伴・帯同動詞/phaa/との併用

移動の際に携行したり随伴したりする場合、セットで用いるフレーズがある。「連れて行く」「持って行く」「着ていく」などがそうである。基本的には、物の場合は/?aw/や/nam/「持つ」、人物や動物の場合は/phaa/「連れる」で使い分ける。

(42) chûay ?aw rôm maa nõy.

手伝う 取る 傘 来る [終]

傘を持って来て下さい。

(43) karunaa ?aw bay-rápprakan maa dûay ná khá.

ください 取る 保証書 来る 一緒に [終] FPP

保証書も持って来て下さい。

(44) karunaa phaa pay roonphayaabaan dûay khráp.

ください 連れる 行く 病院 一緒に MPP

病院に連れて行ってください。

(45) phô háy mêe phaa lûuk pay roonphayaabaan.

父 CAUS 母 連れる 子供 行く 病院

父は母に子どもを病院に連れていかせた。

(46) kháw ca phaa lûuk maa thâw kruŋthéep thán sām-khon.

PRO FUT 連れる 子供 来る 遊ぶ バンコク 全部 三人

彼は子供を三人ともバンコクに遊びに連れてきます。

(47) lúuk mây sabaay, dichán kô læy tŋ phaa kháw pay hăa mǔ.

子ども NEG 快適 PRO も CONJ [義] 連れる PRO 行く 会う 医者

子供が病気なので、私は子どもを医者に連れて行かないといけない。

次は/luum/「忘れる」の補文中に見られる例だが、「忘れてきた」のような趣きがある。

(48) wan-nú luum sây naalikaa-khō-muu maa khráp.

今日 忘れる はめる 腕時計 来る MPP

今日腕時計をしてくるのを忘れた。 cf.? 今日腕時計をするのを忘れてきた。

(49) luum ʔaw klŋ-thàay-rûp maa khráp.

忘れる 取る カメラ 来る MPP

カメラを持て来るのを忘れた。 cf.? カメラを持つのを忘れてきた。

次のように二次的行為の目的とともに動詞連続表現を構成することも多い。

(50) nam nănsúu maa khuun.

持つ 本 来る 返す

本を返しに来た。(本を持って来て返した)

(51) phōkháa mēekháa ʔaw sŋkháa maa khāy.

男商人 女商人 取る 商品 来る 売る

男女の商人は品物を (もつて来て) 売りに出す。

#### 4.2 移動の手段を表す動詞連続

主として交通機関など、移動手段をあらわす。

(52) khun ca dæn pay rūu khûm rót-fay pay?

PRO FUT 歩く 行く または 乗る 電車 行く

歩いて行きますか電車で行きますか。(電車に乗って)

(53) năj théksūi pay dii kwàa khráp.

乗る タクシー 行く いい より MPP

タクシーに乗って行ったほうがいいです。

(54) phǔm wŋ pay roonrian thúk-wan.

PRO 走る 行く 学校 毎日

毎日、私は学校へ走って行く。

#### 4.3 「帰る (帰っていく、帰ってくる)」

一般に、「帰る」も「行く」「来る」の方向性が含意される。視点が起点側にある場合は

/pay/を着点側にある場合は/maa/を用いる。通常、日本語にはあらわれにくい。

(55) kháw ca klàp pay yìipùn khá.

PRO FUT 帰る 行く 日本 FPP

彼は日本に帰ります。cf. ?日本へ帰っていきます。

(56) phoo klàp maa càak talàat kháw kôo tham ?aahãan.

と 帰る 来る から 市場 PRO も 作る 料理

市場から帰るとすぐに料理をつくった。(帰って来る)

「行ってくる」「引っ越してくる」「訊いてくる」も同様の方向性をもつ。

(57) khun-Ron pay chianmây maa rüu khá?

ロンさん 行く チェンマイ 来る Q FPP

ロンさんはチェンマイに行ってきたんですか。

(58) phôo-mêe yáay maa yùu thünñi, múa chãn yaŋ dèk.

両親 引っ越す 来る いる ここ 時 PRO まだ 子供

両親は私がまだ子どもの時、ここに引っ越してきた。

(59) phôm ca thãam raakhaa maa hây máy khá?

PRO FUT 訊く 値段 来る あげる Q FPP

私が値段を訊いてきましようか。

#### 4.4 「雨が降る」

日本語では「雨が降って来る」のように一般に言うが、タイ語では「来る」に相当する/maa/をとまなう必要はない。/tòk/に下方に向かう方向性が含意されているからであろう。

(60) fôn tòk léew, klàp théksüi kan dii máy khá.

雨 降る PERF 帰る タクシー 互いに いい Q FPP

雨が降ってきたので、タクシーで帰りましようか。(cf. #雨が降ったので)

#### 4.5 「電話をする(電話をかける、電話がかかる)」

「電話をする」にも双方向の方向性が顕著で、タイ語では移動動詞を厳密に使い分ける。すなわち話し手から相手にかけていく場合、主体が話し手にかけてくる場合である。

(61) dichán thoo pay (thü) roonriian lúuk.

PRO 電話する 行く (で) 学校 子供

私は子どもの学校に電話した。(cf. ??電話をかけていった)

(62) khun-khruu thoo maa (thü)bãan.

先生 電話する 来る (で) 家

先生は家に電話をしてきた。



場所ではなく、人にかける場合は/thoo pay haa/のように/hǎa/を用いる。また、場所と人を同時に表す場合は、(65)のように/hǎa/と/thūi/を用いる。(66)/thoo kláp maa/は「折り返し電話する」という定型句である。

(63) phǒm ca lǒng thoo pay hǎa kháv duu.

PRO FUT 試す 電話する 行く 会う PRO みる

私は彼に電話をかけてみた。

(64) khun-Yaamaada thoo maa hǎa dichán.

山田さん 電話する 来る 会う PRO

山田さんは私に電話をしてきた。

(65) dichán ca thoo pay hǎa sǎamii thūi bǒorisát.

PRO FUT 電話する 行く 会う 夫 で 会社

私は会社にいる夫に電話する。

(66) chūay bǒok hǎy kháv thoo kláp maa hǎa dichán khuuun-nūi dūay.

手伝う 行く あげる PRO 電話する 帰る 来る 会う PRO 今晚 [終]

今晚私に折り返し電話をしてくれるように言ってください。

注意すべきはタイ語では電話をかけたほうが再度かけ直すさいに「また電話をかけて来る」のように言う。電話をかける本人が相手の立場に立って「電話をかけてくる」と言るところから、タイ語は日本語のような自者本位ではなく他者本位を好む傾向がある。

(67) dǎaw-ca thoo maa mǎy.

あとで 電話する 来る 新しく

あとで直にかけ直します。(かけ直してきます)

#### 4.6 「買う (買っていく/買ってくる)」

動詞「買う」にも「買っていく」「買ってくる」のように対象に向かう一定の方向性をともなう。(68)のように「お土産に」という動詞連続性も見られる。(68)(69)は帰国後の発話に対し、(70)は帰国前の空港という発話の時間的な位置関係により移動動詞が決定する。

(68) kháo súu maa fàak phǒm sǒng tua khá.

PRO 買う 来る 預ける PRO 2 CL FPP

彼は私にお土産に二着買ってきてくれたんです。

(69) phúan chán pay yīpùn maa. kháv súu khanǒm yīpùn maa fàak chán.

友達 PRO 行く 日本 来る PRO 買う お菓子 日本 来る 預ける PRO

私の友達は日本へ行ってきた。彼女は私に日本のお菓子をお土産に買ってきた。

(70) ciroo súu lǎw pay fàak Ron.

次郎 買う 酒 行く 預ける ロン

次郎はロンのお土産にお酒を買った。(帰国前の買物)

#### 4.7 授与動詞「あげる」、「くれる」

物や行為の授受行為においても一定の方向性が賦与される<sup>9)</sup>。授与動詞/hây/に/maa/をともしない、他者か自者かいずれかに向かう行為を表す。

(71) ciroo hây năjsúuu phaasāa-yīpùn maa

次郎 あげる 本 日本語 来る

次郎は日本語の本を(私に)くれた。

(72) ron hây sūa Ciroo pay sām-tua.

ロン あげる 服 次郎 行く 3-CL

ロンは次郎に服を三着あげた。

(73) khun súuu thīnāy khá?

PRO 買う どこ FPP

どこで買ったんですか。

— m̄y d̄ay súuu kh̄. khun-ron hây maa

NEG PAST 買う FPP ロンさん あげる 来る

買ったのではありません。ロンさんにももらいました。(ロンさんがくれた)

(74) n̄okc̄aak yaa-thaa léew, m̄o yaj hây yaa-thaan maa ?iik d̄uay.

ほかに 塗り薬 PERF 医者 まだ あげる 飲み薬 来る あと 一緒に

塗り薬以外に、医者は飲み薬もくれた。

#### 4.8 方向動詞との併用

高頻度使用の方向動詞「アガル」(khúm)「オ Ril」(loŋ)「ハイル」(khâw)「デル」(òok)、と位置詞「中」(khâaŋ-nay)「外」(khâaŋ-n̄òok)「上」(khâaŋ-bon)「下」(khâaŋ-lâaŋ)との組み合わせは図1の8通りである。khâaŋは「側」という意味で、実際は短く発音される。

- ① khúm pay khâaŋ-bon 下から上へ上っていく
- ② khúm maa khâaŋ-bon 下から上に上ってくる
- ③ loŋ pay khâaŋ-lâaŋ 上から下へ降りていく
- ④ loŋ maa khâaŋ-lâaŋ 上から下に降りてくる
- ⑤ khâw pay khâaŋ-nay 外から中へ入っていく
- ⑥ khâw maa khâaŋ-nay 外から中に入ってくる
- ⑦ ?òok pay khâaŋ-n̄òok 中から外へ出ていく
- ⑧ ?òok maa khâaŋ-n̄òok 中から外に出てくる

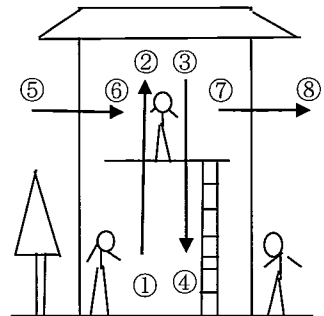


図1 タイ語の移動動詞と方向動詞の組み合わせ<sup>10)</sup>

奇数字矢印の起点に話し手からの視点、偶数字着点に聞き手からの視点が存在する。

①から⑧は中国語の複合趨向動詞「上去」「上来」「下去」「下来」「進去」「進來」「出去」「出来」とほぼ対応する。①-⑧の形態を中国語と対照させると表1のようになる<sup>11)</sup>。

表1 タイ語の複合方向動詞と中国語の複合趨向動詞

日本語	本動詞	タイ語		本動詞	中国語	
		+方向動詞	+方向動詞		+趨向動詞	+趨向動詞
		—pay 〈離反〉	—maa 〈接近〉		—去 〈離反〉	—来 〈接近〉
あがる	khûm	khûm-pay①	khûm-maa②	上	上去	上来
さがる	loŋ	loŋ-pay ③	loŋ-maa ④	下	下去	下来
入る/進む	khâw	khâw-pay⑤	khâw-maa⑥	進	進去	進來
出る	ʔòok	ʔòok-pay ⑦	ʔòok-maa ⑧	出	出去	出来
帰る	klàp	klàp-pay	klàp-maa	回	回去	回来

ここで本動詞の4種が主動詞に後接する場合の意味拡張を概略説明しておく。/khûm/は本動詞「上がる」が主動詞に後接して主動詞の動作、行為が「上昇または増大する」ことを表す。loŋは本動詞「降りる、下りる」が主動詞に後接して主動詞の動作、行為が「現在地より下降、または現在値より減少する」ことを表す。/khâw/は本動詞「入る」が主動詞に後接して主動詞の動作、事態が「増大した状態に入っていく」または「積極的に進行していく」などの意味を添える。/ʔòok/は本動詞「出る」が主動詞に後接して主動詞の動作行為が「出て行く」「出て来る」ことをあらわす。さらにそれぞれに/pay/が後接すれば〈離反〉をあらわし、/maa/が後接すれば〈接近〉を表す(富田 1987) ここでいう主動詞のなかには日本語では形容詞(「長い」「速い」「重い」「痩せている」)に当たるものも含む。

以下、それぞれの用法を例(実例を含む)とともに見ておこう<sup>12)</sup>。

① 〈khûm-pay〉: 上がっていく

/khûm/が本動詞として用いられると、動作の上方に向かう様子を表す。

(75) khâw khûm pay hãa phûucátkaan.

PRO 上がる 行く 会う 社長

彼は上にあがって社長に会った。(社長に会いに上階に上がって行った。)

② 〈khûm-maa〉: 上がってくる

/khûm/が方向動詞として行為動詞/lúk/「立つ」について、「立ち上がる」のように上方に向かう様子をあらわす。/maa/は話者および周囲への心的接近を表す。

(76) mii dèk nùm thâathaan ʔaw-ciŋ-ʔaw-caŋ ʔiik khon-nùn lúk khûm maa phûut

ある子 若い様子 真面目な また 一人 立つ 上がる来る 話す  
生真面目そうな男が立ち上がって、喋り始めた。

また、次例のように恐怖などの感情が湧いてくる様子を表す。

(77) *thoəŋmúan chák wàat...khûn-maa khraam-khrán*

トーンムアン 始める 慄く なる-来る とても

トーンムアンは恐怖にうち震えた。(恐怖に震えが湧きおこって来た)

③ 〈loŋ-pay〉：降りていく

loŋ が本動詞として具体的に（物理的あるいは地形的に）主体が下方へ下りて行く方向を表す。

(78) *phôm ca loŋ.....pay rɔɔ khâanlâaŋ ná.*

PRO FUT 下りる 行く 待つ 下 [終]

私は降りて行って下で待ちますよ。

次の「痩せていく」は期待していたよりも意外な程度に変化していくマイナスの意味での様子を表す。

(79) *khun phôm loŋ pay mâak léew ná*

PRO 痩せる なる 行く 大変 PREF 終

あなた、またえらく痩せましたねえ。

④ 〈loŋ-maa〉：降りてくる

本動詞として具体的に車から降りて来る様子を表す。/maa/は話し手・語り手主体、周囲への空間的な接近を表す。

(80) *mûa rót còt sa?nit dii léew phûak-khâw khôy tha?yɔɔy kan loŋ-maa*

とき 車 停まる 密接に よく PREF 彼ら 間もなく 三々五々 合う 降りて来る

車がしかるべき位置にぴたりと止まると、彼等は三々五々降り始めた。

⑤ 〈khaw-pay〉：入っていく

内部へ入っていったり接近していったりする様子を表す。

(81) *soy nâa líaw khwâa khâw pay khráp.*

ソイ 次 曲がる 右 入る 行く FPP

次のソイを右折して入って（行って）ください

(82) *chûay kha?yàp khâw pay khâaŋ-nay nòoy khâ*

手伝う 詰める 入る 行く 中 ちょっと FPP

ちょっと中へ詰めてください。cf: ??詰めていってください。

⑥ 〈khâw·maa〉：入ってくる

内部に入ってくる様子をあらわす。次はニカ所に進行の方向が示されている。

(83) man sàat khâw·maa doon thəə con tɔŋ lúk kraʔthəep khâw·pay nay·nay

奴 吹く 入ってくる PASS PRO まで [義] 起つ 強いて 入っていく 奥

雨が横殴りに吹き込んできたので、彼女は立ち上がり、やむをえず奥に入った。

⑦ 〈ʔòk·pay〉：出ていく

行為動詞の移動範疇例であるが、タイ語では「出て行った」が日本語では「出て来た」になっている点は重要である。日本語では主体よりもむしろ対象側に焦点を当てているふしが窺われる。「出て行く」という人物の〈背中〉よりも、むしろ「出て来た」という〈正面〉、ないし結果を強調する。

(84) phúuyà y mii dâ y ʔòk·pay hã khon làw·nán.

村長 ミー PST 出る・行く 会う 人 複数・それ

ミー村長が彼らを迎えに出て来た。

次は「おかしく見えた」にあらわれるもので、感情が思わず外に拡散していくイメージである。/sún/は文語的關係代名詞で、前文が後件事態を誘発する意味を添える。

(85) baang·khon kô ʔaw pháa·khāaw·máa maa khian ʔeew sún

ある人 も 取る パーカオマー 来る 巻く 腰 COMP

kô thamhây duu plèek ʔòk·pay ʔiik

も CAUS 見る 可笑しい 出る行く もっと

中には水浴び用の布を腰に巻き付けている者もいて、なおさらおかしく見えた。

次も主体から遠ざかっていく様子を表し、「遠い」距離感を強調する。

(86) ɲaan khuum·nán yŋ thamhây duu·múan wã phûak·khãw ca

祝宴 夜その もっと CAUS らしい COMP 彼ら FUT

yùu hàan klay ʔòk·pay ʔiik

いる 離れる 遠い 出る行く 更に

その夜の集まりは彼らがさらに遠く離れているように感じさせた。

/ʔòk/は「笑い出す」のように中から出る様子がイメージされ、次のような「笑えない」のような不可能表現も構成する。/khít mây ʔòk 「考え出せない」も同様である。

(87) thəəŋmúan yàak hũaʔró tɛə thəə kô hũaʔró mây ʔòk

トーンムアン [願] 笑う CONJ PRO も 笑う NEG 出る  
 トーンムアンは吹き出したくなったが、何故か笑えず、……

⑧ 〈ʔòk-maa〉: 出てくる

新しい事態・事象が生まれる様子を表す。生理的な現象が多く見られる。次は②でみた /khûn-maa/ と対称的に使われている。

- (88) thoøn múan rúusùk wáaʔwèe khûn-maa chap-phlan léʔ duan-taa  
 トーンムアン 感じる 寂しい なる 急に CONJ 目  
 thæ kôo rôəm kháp náam-sây saʔaat ʔòk-maa man ʔəo lán bâw-taa  
 PRO も 始める 取り除く 水透明な 綺麗な 出て来る PRO 溢れる 膨れる 眼窩  
 トーンムアンは急に寂しくなった。目頭に透明な涙が出て脹れあがり、…

4.9 「送出、放出」を表す /sòŋ...pay/, /sòŋ...maa/

「送出、放出」をあらわす動詞/sòŋ/と併用してさまざまな行為を表す。

- (89) sòŋ khâaw pay khây taaŋ-prathêet  
 送る 米 行く 売る 外国  
 米を外国に輸出する
- (90) sòŋ còtmây pay hây phúan  
 送る 手紙 行く あげる 友達  
 友達に手紙を送る。
- (91) sòŋ ɲən pay chûay rooŋrian khon-taa-bòot.  
 送る 金 行く 手伝う 学校 盲人  
 盲学校にお金を送る (寄付する)。
- (92) sòŋ póotsakáat pay yûpùn, thâwray khráp?  
 送る 葉書 行く 日本 いくら MPP  
 葉書を日本に送るのにいくらかかりますか。
- (93) buʔrùt-praysanii sòŋ còtmây maa phit bâan.  
 郵便配達人 送る 手紙 来る 間違う 家  
 配達人は間違えて手紙を(私のところへ)届けた。?届けて来た。
- (94) phô-mêe sòŋ lúuk-chaay pay yùu kàp phráʔ thîi wát.  
 両親 送る 息子 行く いる と 僧侶 で 寺  
 両親は息子をお寺に僧侶と一緒に住ませにやった。
- (95) phútthasâasanikkachon nay muaŋ-thay sòŋ ɲən pay chûay sâaŋ wát  
 仏教徒 中 タイ 送る 金 行く 手伝う 建てる 寺  
 thîi kheelifonia.

で カリフォルニア

タイの仏教徒はカリフォルニアに寺を建てるための援助金を送った。

しばしば「人に何かをさせる」という意味をあらわす。

(96) phôw-mêe thîi yâak-con sòŋ lûuk pay thamjaan thîi muanglûaŋ.

両親 REL 貧しい 送る 子供 行く 働く で 都会

貧しい両親は子供を都会に働きにやらせる。

#### 4.10 変化、移行を表す /plian...pay/, /plian...maa/

/pay/, /maa/が動詞/plian/と併用され、変化、移行を表す例が比較的顕著にあらわれる。日本語では「変わって来た」のように結果に重点が置かれる。

(97) Krunthêep thîi khœy pen muang léklék mây sâmkhan lé? mây mii khray rúucák

バンコク REL [経] COPU 町 小さい NEG 重要な と NEG ある 誰 知る

dây plian maa pen muang sâmkhan muang-nûŋ.

PAS 変わる 来る COPU 町 重要な 町-或る

クルンテープはそれまで小さい町で重要でもなく知る人もいなかったのが、重要な大都市に変わってきた。

(98) thûŋmêe wâa krunthêep dâi plian pay mâak têt khôŋ baang-yàaŋ

でも COMP バンコク PAS 変わる 行く 大変 COMJ 物 ある種

thîi khœy mii nay samăy kòon kôo yaŋ moŋhên dâi thûa-pay

REL [経] ある 中 昔 昔 も まだ 見える [可] 各所

バンコクは大変変わっていったとはいっても、あるものは以前のままで至る所に目にすることができる。

(99) nay samăy rêek-rêek pen latthihaayaan têt samăynîi plian maa pen latthiniyaan.

中 時代 当初 COPU 大乘仏教 CONJ 現代 変わる 来る COPU 小乗仏教

当初は大乘仏教であったが、今日では小乗仏教に変わった。(変わって来た)

(100) prathêet-thay dâi plian chûu càak prathêet-sa?yâam

タイ国 PAS 変わる 名前 から シヤム国

maa pen prathêet-thay.

来る COPU タイ国

タイ国は名前をシヤム国からタイ国に変えた。

(101) prathêet-thay dâi plian kaan pòkkhroon càak sonbuunnaanaachâat

タイ国 PAS 変わる 体制 統治する から 専制君主

maa pen prachaathipathay.

来る COPU 立憲君主

タイ国は政治体制を専制君主制から立憲君主制に移行させた。

(100),(101)のように「AからBに変わる」という場合は、結果対象のまえに pen を用いてあらわす。/maa/は過去から現在までの時間の流れ、経過をあらわすだけの標識で、一般に日本語には訳出されない。

4.11 変化、拡大の結果を表す/khà?yāay...?òk pay pen.../

/khà?yāay/「拡張する、広げる」が 5.8 でみたような方向動詞に移動動詞/pay/が後接し、/pen/以下で変化、拡大、拡張の結果を表す定型句である。

(102) khà?yāay weelaa ?òk pay pen 6-duan.

広げる 期間 出る 行く COPU 6-カ月  
義務教育を7年にのぼした。

(103) khà?yāay bâan ?òk pay pen 5-hôŋ.

広げる 家 出る 行く COPU 5-部屋  
家を拡張して5つの部屋にふやした。

(104) khà?yāay kaan-sùksāa pháak bankháp ?òk pay pen 7-pii.

拡大する 教育 段階 義務 出る 行く COPU 7年  
期間を6カ月にのぼした。

/khà?yāay/と同じように/phrêe-lāay/も/òk pay/と併用され、普及拡大の意味を表す<sup>9)</sup>。

(105) phrá soŋ yàak-ca háy kaan-sùksāa phrêe-lāay ?òk pay.

王 敬語【願】 CAUS 教育 普及する 出る 行く  
王様は教育を普及させたいとお考えになった。

4.12 行為の拡張、継続を表す

行為、現象の伸長、拡張により、一定時間量の経過をあらわす。過去から現在までの継続「てくる」、現在から未来への継続「ていく」もタイ語でも似たような言い方をする。むしろ、日本語よりも厳密に表現されることがある。何れも動詞に後接し、前者を回想確認、後者を意志確認と意義づけられる。

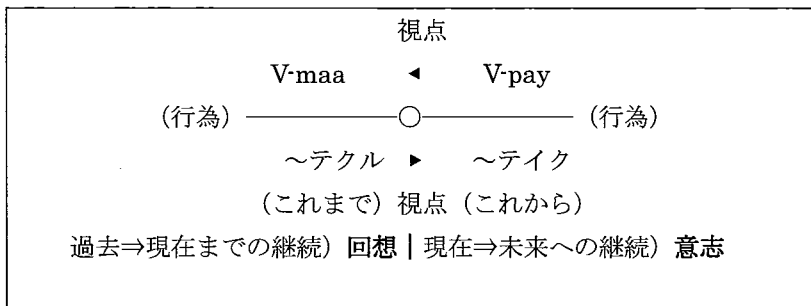


図2 /maa/と/pay/の時空間把握の概念図



(106) sŏŋsăy maa naan léew khráp.

疑う 来る 長い PERF MPP

長いこと、疑ってきた。

(107) phŏm rian phaasāa-thay maa sŏŋ-pii, tèt mây-khŏy dâŋ phŭut.

PRO 習う タイ語 来る 二年 CONJ NEG-あまり [可] 話す

タイ語を二年勉強してきたが、あまり話す機会がない。

(108) chán lèn thennít maa tântèt dèk.

PRO する テニス 来る から 子供

私は子どもの時からテニスをしている。

(109) ciin lé? khèek nán khâw maa yùu nay prathêet-thay naan léew.

中国人 と 印度人 それ 入る 来る いる 中 タイ国 長い PERF

中国人とインド人はタイに入ってきて長い。

(110) phrápathŏmceedii níi sâaŋ maa naan pramaan sŏŋphan pii léew.

プラバトムチェデー この 建つ 来る 長い 大体 二千 年 PERF

このプラバトムチェデーは建てられてから約二千年になる。

(111) khəy rian thŭi yŭpùn maa kŏn.

[経] 学ぶ で 日本 来る 先に

日本で以前に勉強したことがある。

(112) phŏm ca thamŋaan bŏorisát níi pay con kasŭan.

PRO FUT 働く 会社 この 行く まで 定年

私は定年までこの会社で働くつもりです。(働いていく、働き続ける)

動詞に後接する/pay/が副詞/rúay-rúay/を併用することで、一定期間継続していくうちに獲得される新事態をあらわすことがある。結果事態は/kŏ/であらわされることが多い。

(113) a. rian pay rúay-rúay kŏ ca khâw-cay

習う 行く ずっと も FUT 分かる

習っているうちに分かるようになる。

b. fùk pay rúay-rúay kŏ ca kèn.

練習する 行く ずっと も FUT 上手

練習していくとそのうち上手になる。

## 5. 意味的な拡張と特殊用法

/pay/,/maa/には本来の実質的な意味が希薄になり、あるいは消滅して、いわば形式化した用法として用いられる場合がある。そのいくつかについて瞥見する。

### 5.1 程度の過剰を表す/pay/

程度を表す言い方であるが、形容詞に後接して「～すぎる」という程度の過剰を表す。

/kæən-pay/を用いることもある。/kæən/は文字通り「すぎる」の意味。ただし、動詞の行為量をあらわすときは動詞の後に/mâak-pay/を使うのが一般。また、/pay sĭa léew/は予想外の過失、消滅などの意味を表す。

(114) thamjaan mâak kæən-pay.

働く 沢山 すぎる

働きすぎる。

(115) lék pay mǎy khráp?

小さい .. Q MPP

小さすぎませんか。

(116) múakhuum-nĭi nœn dŭik læy tũum sǎay pay nœy.

昨夜 寝る 遅い CONJ 起きる 遅い 行く 少し

昨夜遅く寝たので少し寝坊してしまった。(起きるのが遅すぎた)

(117) sĭadaay thĭi phǎm maa cháa pay.

残念だ REL PRO 来る 遅い 行く

私は遅れてきたので残念です。

(118) khuur-wáa rúusŭk wáa sĭaŋ piano daŋ pay nœy khâ.

つまり 感じる COMP 音 ピアノ 大きい - 一寸 FPP

あのう、ピアノの音が少しうるさいのですが。(大きすぎる)

日本語では「音が大きい」の「大きい」は「大きすぎる」という評価を含むが、タイ語では/pay/「すぎる」を明示しなければならない。これも分析的な表現を好む例である。

## 5.2 慣用的な語句

本来の意味をうしなつた固定化した用法だが、一部に方向性を残存しているケースもある。以下は使用頻度の高い副詞句である。

(119) thŭa-pay 至る所

これは/pay/しか使用されず、/\* thŭa-maa /は非用。一方、次のように対称的に、つまり時間軸にそつた対立的な用法では/pay/,/maa/それぞれの方向性を示唆している。

(120) hǎa sũnu dǎy taam ráan khǎay nǎŋsũnu thŭa-pay.

探す 買う できる 沿う 店 売る 本 どこでも

どの本屋でも買い求めることができる。

/pay/のかわりに「国」「世界」「町」を用いることもある。

(121) thŭa-pra?thœet (全国), thŭa-lœok (全世界), thŭa-muaŋ (全市/全市街)

空間全体に対し、時間全体を表す場合は /talòt /, /tò /を用いるが、この場合は /pay/, /maa/ はそれぞれ時間の方向性 (/pay/: 現在⇒未来、/maa/: 過去⇒現在) を表す。

(122) talòt-pay (これからずっと), talòt-maa (これまでずっと)

(123) tò-pay (これから引き続き), tò-maa (それから引き続き)

次の /tò-maa / は「以後」という意味で用いられる。

(124) samāy-kòon krunthēep pen muan léklék tò-maa kòo khayāy khūn.

昔 バンコク COPU 都市 小さい 以後 も 拡大する なる  
以前クルンテープは小さい町であったが、その後、大きくなった。

/pay/, /maa/ が名詞「往路」「復路」のように名詞として用いられる。

(125) khāa-maa maa thékssii.

足-来る 来る タクシー  
来るときはタクシーで来た。

(126) khāa-pay ca pay khruānbin. khāa-kláp ca kláp rómtee.

足-行く FUT 行く 飛行機 帰り FUT 帰る バス  
行き (往路) は飛行機で行く。帰り (復路) はバスで帰る。

/thát-pay/ は「隣の」という意味を表す。/\*that-maa/ は非用。

(127) pēn-sāalii yùu chon that^pay kha.

小麦粉 ある 場所 次の 行く FPP  
小麦粉はとなりの列にあります。

### 5.3 意味的な拡張と意志などの心的姿勢

/pay/, /maa/ が動詞に後接して事態を推し進める積極的な姿勢、決意の表明を表すことがある。/pay/ の話し手から遠ざかる心的姿勢 (放任) が強く認められる。同じように /maa/ が動詞に後接すると、話し手による聞き手への心理的な乖離、突き放し、放任的意味な意味を表す。

(128) tham pay læy

する -- ずっと  
今からやってもいい。

(129) tham maa læy.

する -- ずっと  
作ってきなさい。内容は任せますから自由に。

(130) phūt maa ca ?aw yaṅṅay

話す 来る FUT 強調 どう

どうしたいのか、私に言いなさい。(話し手の聞き手に対する働きかけ)

話し手が事態を心理的に自分から遠ざかるものとしてとらえる場合、/pay/を用いる。一方、話し手が事態を心理的に自分に近づくものとしてとらえる場合、/maa/を用いる。こうした場合は移動動詞は<虚動詞>ともいうべき形式的な標識となり、ほとんど訳出されない<sup>7)</sup>。

(131) thammay pay pen nák-khian?

何故 -- COPU 作家

どうして作家になったんですか。 [動機を重視]

(132) thammay maa pen nák-khian?

何故 -- COPU 作家

どうして作家になったんですか。 [結果を重視]

/yaa pay/maa V/はある種の定型表現で一般的禁止よりも話し手と聞き手との距離感を配慮したプライベートな禁止表現として用いる。禁止のやわらげ表現で心理的方向性をさす /pay/,/maa/は通常訳出されない。

(133) yaa pay yûŋ kàp kháw.

[禁] -- 煩う と PRO

彼にちょっかい出さないで。 [第三者が対象]

(134) yaa maa yûŋ kàp chán

[禁] -- 煩う と PRO

私にちょっかいださないで。 [話し手が対象]

(135) yaa pay chúa kháw na. kháo chôp phúut-lên sà?mǎə.

[禁] 行く 信用する PRO [終] PRO 好きだ 冗談を言う いつも

いつも彼を信用しちゃだめ。

一方、(136)のように/maa kòon/が「先に」という副詞的な成分となって、ゆるやかな制止をあらわすこともある。

(136) yaa kin kháaw maa kòon ná.

[禁] 食べる ご飯 来る 先に [終]

先に食べておかないでね。

次の/pay/は動詞に後接して動作の完了をあらわす。心理的な離反を表し、同時に相手側に向かう動作の方向性をもあらわす。

(137) sǎŋ-khon phó-p-kan lǎncàak thii càak kan pay pen weelaa 3 pii.

二人 会う-互いに 後で REL 別れる 互いに 行く COPU 時間 3年

二人は別れてしまってから三年ぶりに会った。

#### 5.4 行為の過失、意外性をあらわす/pay/

/pay/が動詞に後接して事態発生の意外性、想定外の過失などの感情を表すことがある。日本語の「テシマウ」に近い意味を表す。/pay léew /のように/léew /を伴うことも多い。

##### (138) phèt pay léew

辛い -- PERF

辛くなりすぎてしまった。

後悔、自慢・自負などの気分を表すことがある。

##### (139) tòp pay léew.

答える -- PERF

言ってしまった。言ってやった。

##### (140) mây nâa dàa pay læy.

NEG [当] 怒る -- ずっと

怒るんじゃなかった。

#### 5.5 集中、決心、注目表示の/maa/

聞き手に誘いをかけるような場合に/maa/が動詞に前置されることがある。日本語の勧誘文「~ましょう」に対応する。

##### (141) tòp-pay-nî raw maa rian pràwàttisàat kan thò?

これから PRO 来る 学ぶ 歴史 合う ましょう

これから私たちは歴史の勉強に入っていきます。<集中したとりかかり>

#### 5.6 附帯状況を表す <Vp-payVp-pay>

動詞の(/pay/)が後接して繰り返してあらわれると日本語の「~しながら~する」のように、複数の動作を同様にを行うことをあらわす。前項の動詞/pay/が後項の動詞/pay/の様態、附帯状況をあらわす。

##### (142) a. phôm khàp rót pay faj wíthayú pay.

PRO 運転する 車 -- 聴く ラジオ --

私は運転しながらラジオを聴く。

##### b. khâw thamnaaj pay rian nâjsũu pay.

PRO 働く -- 学ぶ 本 --

彼は働きながら学校へ通った。

##### c. khon-yíipùn mây chòp khon dæm pay kin pay.

日本人 NEG 好き 人 歩く -- 食べる --

日本人は歩きながら食べる人が好きではない。

d. kaan khàp rôt pay moon khân-thaan pay nán ?antharaay

こと 運転する 車 行く 見る 方向 行く それ 危険

よそ見しながら運転するのは危険です。

e. weelaa wâaŋ kháo chòp ?aan náŋsǔm pay faŋ wítthayú pay

時 暇な PRO 好き 読む 本 -- 聴く ラジオ --

暇なときは彼はよくラジオを聴きながら本を読む。

附帯的な様態修飾では次のように〈phróom kàp...dúay〉でも表されるが、/pay/の連用のほうが同時的かつ眼前描写的で会話に頻用される傾向がある。

(143) mēε kamlaŋ triam ?aahāan-yen phróom kàp han phleej pay dúay

母 ている 支度する 夕食 揃って と 鼻歌で歌う 歌 行く 一緒に

母は鼻歌を歌いながら夕飯の支度をしている。

この他タイ語には/phlaaŋ/を用いた様態節もあるが、これはやや硬く、日本語の「と同時に」「かたわら」「つつ」などに相当する。/pay/は省略が可能。

(144) dæm phlaaŋ rǔŋ phleej phlaaŋ.

歩く --- 歌う 歌 --

歩きながら歌を歌う、歌いつつ歩く。

(145) dùum náamchaa pay phlaaŋ khuy kan phlaaŋ thò?.

飲む お茶 行く -- 話す 互いに -- ましょう

お茶を飲みながら話しましょう。

(146) khon-yüpùn khaná?-thū chom dòokmáay pay phlaaŋ-phlaaŋ nán

日本人 時 愛でる 花 行く -- それ

kôo dùum pay dúay kin pay dúay.

も 飲む 行く 一緒に 食べる 行く 一緒に

日本人は花見をしながらか、飲んだり食べたりする。

### 5.7 /pay/ と/maa/の慣用的反復<sup>13)</sup>

/pay/と/maa/「来る」を併用して様々な慣用表現をつくる。(147)の pay-pay maa-maa では文字通り「行ったり来たり」のほか「結局」の意味もある。あとに/kôo/をとまなうことが多い。(147b)は文全体にかかる文副詞的な慣用句である。

(147) a. kháo pay-pay maa-maa rawàaŋ muaŋ-Thay kàp Yüpùn.

PRO 行く 来る 間 タイ と 日本

彼は日本とタイの間を行ったり来たりしている。

b. **pay-pay maa-maa kôo tón maa khôo nən phôo cháy.**

結局 も [義] 来る 貰う お金 使う

結局は父のところへお金をねだりに行かねばならない。

(148) a. **tron pay tron maa**

まっすぐ 行く まっすぐ 来る : 率直に (言つて)、…

b. **pay wát pay waa dáy.** [慣]

行く 寺 行く 出来る : 人前に出してもそう恥ずかしくない器量の

c. **pay-nây maa-nây**

行く どこ 来る どこ : あちこち行く

d. **ca pay nây khôo pay dūay.**

FUT 行く どこ 貰う 行く 一緒に : どこへ行くにも一緒に行かせて。

e. **maa dūay-kan pay dūay-kan**

来る 一緒に 行く 一緒に : 一緒に来たからには一緒に行く。

f. **kin pay-pay chák-chôp.**

食べる 行く 好きな : 食べているうちに好きになる。

g. **pay dii maa dii** [慣]

行く いい 来る いい : 道中気をつけて。

h. **rūip pay rūip maa** [慣]

急ぐ 行く 急ぐ 来る : さっさと行ってさっさと帰っておいで。

i. **pay laa maa wāy** [慣]

行く 去る 来る 拝む : 行き去る来るも拝め。いつも敬意を払う。

〈VpayVmaa〉で「あれこれVする」という言い方になる。既述の「～たり～たりする」の言い方に近い。(30)は〈VkôoV〉形式で、語彙的かつ構文的な性格をもち、さまざま考えたすえに意志決定する、一種の決断表現として用いられる。

(149) **khít-pay khít-maa**

考える・行く 考える・来る : あれこれ考える

## 6. まとめ

以上、本章では日本語の「行く」「来る」に対応するタイ語の移動動詞/pay/,/maa/の意味拡張を含めた用法についておおまかな考察を行った。以下、峰岸・タッサニー(2003)を修正しつつ、要点をまとめてみる。

- (1) 日本語の「行く」「来る」に相当するタイ語の/pay/,/maa/は実際の空間的な移動とその方向性を明示する動詞であるが、話し手の視点の置き方によりタイ語と日本語とのズレがしばしば生じる。
- (2) /pay/,/maa/は「～しに行く」「～しに来る」という動作目的をあらわすと同時に、手段

などの付帯状況的な成分をともなって動詞連続句として用いられる。

傘を持って行く、バスに乗って行く（バスで行く）

ご飯を食べて行く、ご飯を食べに行く

- (3) タイ語の/pay/,/maa/が補助動詞的な働きをし、移動の方向性という特徴から、空間的な移動と行為の心理的な移動への拡張が認められる。
- (4) さらに時間軸にそって日本語とほぼ同じように「現在から未来へ、過去から現在へ」の事態、行為の継続という時間量の方向性をあらわす。
- (5) 語彙的、構文的な固定した用法があり、これらは移動動詞本来の意味が希薄になったもので、日本語には見られない用法である。一方、日本語の「Xときたら」「そこへいくと」などの談話に見られるような言い方はタイ語にはなく、他の言い方が代用される。
- (6) 基本用法の周辺の用法、特殊用法として、〈取り込み〉、〈突き放し〉の用法がある。出来事に対しての過失や後悔、聞き手に対して注目表示的なサインとして機能する。これらもタイ語の移動動詞の意味が抽象化されたもので、日本語にはない特徴である。

移動事象表現は、「行く」「来る」に限らず、さらにさまざまな動詞にも見られる。日本語のこれらの動詞表現が移動動詞、発生動詞、変化動詞とどのように連携しつつ、併用されるかについては、引き続き調査検討を要する。

#### 注

- 1) この三要目は、例えば登山における三点支持（確保）のようなもので、どの一点が欠けても移動の実態を示すことは出来ない。
- 2) たとえば、〈移動〉をキー概念として類型論的な研究のアンソロジーとして、“THE LINGUISTICS OF GIVING” Edited by JOHN NEWMAN (1998) がある。諸言語に見られる事象を対照比較させ、授受と人称関係など、移動の考察と隣接するところが大きい。
- 3) 基本語を言語のキー概念とする捉え方は田中（2010）、田中（2013）などを参照。移動動詞「イク」「クル」については、森田良行(1968)の先駆的研究をはじめとして、今仁(1990)などの研究、また、アスペクトの側面から須田（1993）などがある。本章末尾参考文献では近年の研究論文をほぼ網羅した。なお、本章の記述では峰岸真琴、タッサニー・メーターピスイット（2003）などに多くを負っている。
- 4) 対照研究では英語との対照では上仲（1995）、中国語との対照では黄（2009）などがあげられる。松本(2002,2016)には移動事象にまつわる研究文献をほぼ網羅している。
- 5) タイの官製国語辞典。ほぼ十年ごとに改訂がなされているが、基本語の説明についてはほとんど異同がない。/pay/,/maa/の記述も半頁にも満たない。むしろ富田（1987）、Hass（1964）の方が説明、用例が充実している。なお最新版は2013年度版であるが、本書は1982年度版によった。英文名は Royal Institute of the Thai Language



6) タイ語では補語が動詞に後置されるため、タイ人日本語学習者には「タクシーを行く」「箸を食べる」のようなタイ語の干渉による誤用が多く見られる。

7) <虚動詞>という概念はここでは形式的な動詞、という意味で用いている。なお、前節でも述べたように、タイ語では事態説明、伝達では所有・存在動詞/mii/が他の動詞を統括するような言い方が顕著で、これも実質的な意味をもたない動詞と見なされる。

例 mii phúan maa hãa khun.

ある 友達 来る 会う PRO

友達があなたを訪ねて来た。(あなたを訪ねて来た友達がいる)

8) タイ人の日本語に多く見られる誤用の一つ。一方日本人のタイ語では/?aw/や/phaa/の後に物や人を置かずに「傘を持って行く」/\*?aw pay rôm/, 「友達を連れて来た」/\*phaa maa phúan/のような誤用が多く見られる。中島・吉川(2004)。おなじく/\*súru maa dòokmáay/のような誤用も多い。これは日本語では「買ってくる」がひとまとまりの言葉になっているための誤用で、語順を考えれば「花を買う、来る」の語順である。「買って来る」と「買いに来る」は意外と混用されやすい。

9) 本章では「行く」「来る」に限定したが、移動にかかわる動詞として「届く」「届ける」「向かう」「向ける」「もたらす」「送る」「入る」「出る」「近づく」「接近する」「遠ざかる」「離れる」「くつつく」「はがれる」「つなぐ」「生れる」など、発生動詞もふくめて多く分布する。

10) 田中寛(2002)『新編タイ語初級1』(私家版、p.138)を修正した。

11) 劉月華主編(1998)ではこのほか〈開〉「開く」と〈開来/開去〉、〈過〉「過ぎる」と〈過來/過去〉などをあげている。

12) 作品は以下のものから採録した。

原本 เหมือนอย่างไม่เคย "ฉันจึงมาหาความหมาย"

วิทยากร เชียงกูล สำนักพิมพ์เม็ดทราย จัดพิมพ์ พ.ศ.๒๕๒๑

日本語訳 「いつもとは違った日」

ウィッタヤコン・チエンクーン『だから私は意味をもとめる』所収  
岩城雄次郎訳編『現代タイ国短篇小説集上巻』、井村文化事業社 1982.10

原本 “เรื่องสั้นชุด สนวนสัตว์” สุวรรณี สุคนธา สำนักพิมพ์คิดปายบรรณาคาร จัดพิมพ์ พ.ศ. ๒๕๕๕

日本語訳 「帰らぬあの日」

スワンニー・スコンター、吉岡峯子訳『サーラピーの咲く季節』(段々社 1987)

13) タイ語の反復構文については本書第IV部第2章を参照。一部、用例の重複、再掲がある。

## 参考文献

大場美穂子(2008)「補助動詞「いく/くる」の持つ「視点」についての一考察」、『相模国文』35 相模女子大文研研究会 103-86

今仁生美(1990)「VテクルとVテイクについて」、『日本語学』9/5 54-66 明治書院

上仲淳(1995)「段階的動作をあらわす「~てくる/~ていく」と go,come,stay の関係について—日本語と英語の表現を対照させて—」、『日本語教育論集』4 64-77 姫路独協大学

- 菊池敦子 (2002) 「COME とクルの意味拡張における到達点の違い」、佐藤滋・堀江薫・中村涉編『対照言語学の新展開』、27-45 ひつじ書房
- 古賀裕章 (2008) 「「てくる」のヴォイスに関連する機能」、森雄一・西村義樹・山田進・米田三明編『ことばのダイナミズム』、くろしお出版
- 久保田育美 (2015) 「タイ語の/maa/の意味拡張—日本語の〈来る／てくる〉を手がかりに—」、『日本語・日本文化研究』第25号 112-121 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻
- 黄崢 (2009) 「空間移動を意味する“来”、“去”と「来る」「行く」についての考察—視点をめぐって—」、『愛知大学中国交換研究員論叢』26 11-25
- 古賀裕章 (2008) 「「てくる」のヴォイスに関連する機能」、森雄一・米山三明・山田進・西村義樹[編]『ことばのダイナミズム』241-257 くろしお出版
- 坂本比奈子 (1998) 「日本語の動詞「行く／来る」とタイ語の動詞 pay/maa の対照研究」、『麗澤大学紀要』47 41-74
- 須田義治 (1995) 「「してくる」と「していく」」、『日本語の研究と教育 窪田富男選教授退官記念論集』92-118 専門教育出版所収
- 高梨美穂 (2009) 「直示動詞「行く」「来る」の意味獲得—usage based model の観点から—」、『認知言語学論集』第9巻、38-48 認知言語学会
- 高橋清子 (2015) 「中国語とタイ語の移動事象表現」、『神田外語大学紀要』第27号、61-81  
—— (2017) 「タイ語の移動動詞」、松本曜 (編)『移動表現の類型論』シリーズ言語対照7 129-158 くろしお出版
- 田中寛 (1996) 『新編・タイ語初級 I』(私家版) 137-137  
—— (2002) 『現代タイ語文要説』(私家版)、タイ言語文化研究センター  
—— (2004) 『統語構造を中心とする日本語とタイ語の対照研究』、ひつじ書房  
—— (2010) 「「いう」と「おもう」の言語学」、『立命館言語文化研究』22-2. 145-179、立命館大学国際言語研究所  
—— (2013) 『日本語の表現心理』(私家版)  
—— (2017) 「動詞の反復と強調の類型・補遺—語彙的反復と構文的反復の観点から—」、『新世紀人文学論究』創刊号 3-21 新世紀人文学研究会
- 中沢恒子 (2002) 「「来る」と「行く」の到着するところ」、生越直樹編『対照言語学』、東京大学出版会
- 中島マリン・吉川由佳 (2004) 『間違いだらけのタイ語』、めこん
- 中山健一 (2014) 「人に向かう動作を表わす補助動詞「くる」について」、『日本研究教育年報』第18号 1-15 東京外国語大学日本専攻
- 成田徹男 (1881) 「空間的移動を意味する「～てくる・～ていく」」、『人文学報』23 23-48、東京都立大学
- 野津初美 「タイ語動詞2語連用文における考察」、『南方文化』第20輯 80-104 天理大学

- 浜田真理子 (1989) 『『行く／来る』と『～ていく／～てくる』の意味のつながり』、『*sophia linguistica*』27 45-56 上智大学
- 三上直光 (2002) 『タイ語の基礎』、白水社
- 峰岸真琴、タッサニー・メーターピスィット (2003) 「タイ語の「行く・来る」」、東南アジア諸言語研究会編『東南アジア大陸部諸言語の「行く・来る」』、211-248 慶應義塾大学言語文化研究所
- 村田明 (2001) 「本動詞『いく』、『くる』と軽動詞『いく』、『くる』の意味分析」、『信州大学留学生センター紀要』2 1-8 信州大学
- 森田良行 (1968) 「移動動詞「行く」「来る」の意味」、『国語学』75 国語学会
- (1980) 『基礎日本語2』、角川書店
- (1994) 『動詞の意味論的文法研究』、明治書院
- (2002) 『日本語文法の発想』、ひつじ書房
- 山本裕子 (2000) 「「くる」の多義構造——「くる」と「～てくる」の意味のつながり」、『日本語教育』105号 11-20
- 由井紀久子 (1996) 「日本語動詞の意味の抽象化過程—イク・クル・ミルの意味分析を中心に—」、『大阪大学文学部紀要』36号 1-29 大阪大学
- 李澤熊 (2014) 「動詞「来る」の意味分析」、『日本語・日本文化論集』第22号 119-142 名古屋大学国際言語センター
- 松本曜 (2002) 「資料：移動事象を表す言語表現に関する文献目録」、*The Meiji Gakuin review* (684) 83-158 明治学院大学
- 松本曜 (2016) 「移動事象の言語表現に関する文献目録 第二部」  
[www.lit.kobe-u.ac.jp/~yomatsum/resources/motionbiblio2.pdf](http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~yomatsum/resources/motionbiblio2.pdf) (2018年1月10日検索)
- 呉啓主 (1990) 《連動句・兼語句》、教学語法叢書(4) 北京・人民教育出版社
- 劉月華主編 (1998) 《趨向補語通釈》、北京語言文化大学出版社
- Edited by: JOHN NEWMAN 1998 “*THE LINGUISTICS OF GIVING*” *Typological Studies in Language* 36 John Benjamins Publishing Company Amsterdam/Philadelphia
- Iwasaki, Preeyaa Inkhaphirom (2005) *A Reference Grammar of Thai* Newyork: Cambridge University Press
- Noss, Richard B (1964) *Thai Reference Grammar* Washington Foreign Service institute Department of State, United States Government
- Thepkancana, Kingkarn (1986) *Serial verb construction in Thai* University of Michigan Dissertation.
- Rangkupan Suda (1992) “Subsidiary Verbs /pay/ ‘go’ and /maa/ ‘come’ in Thai” Graduate School Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand

### 辞書類

富田竹二郎 (1987) 『タイ日辞典』、養徳社

มานิต มานิตเจริญ พจนานุกรมไทย สมบูรณ์ -ทันสมัยที่สุด รวมสารสิน พิมพ์ครั้งที่ ๖ 1977

ฉบับราชบัณฑิตยสถาน พจนานุกรม 1982

Royal Institute of Thailand(1982) phótcaanaanúkrom chabáp ráatchabanditáyásàthāan  
[Royal Institute dictionary of the Thai Language]

Mary R.Hass (1964) *Thai-English Student's Dictionary* STANFORD UNIVERSITY  
PRESS, CALIFORNIA

### 用例出典

ウイライ・トーモラクン 『実用生活タイ語会話』、泰日経済技術振興協会 1999

宮本マラシー 『日常生活の中のタイ語会話 サワッデー②』、国際語学社 1996

田中寛 『現代タイ語文要説』(私家版) 2002

田中寛 『らくらくタイ語 文法から会話へ』国際語学社 2008

三上直光 『タイ語の基礎』白水社 2002 など

## 第 III 部

### タイ語におけるヴォイスの諸問題

ปิดทองหลังพระ

pìt thooŋ lǎŋ phrá?

仏像の背中に金箔を貼る  
(陰徳を施す)

第三部 タイ語におけるヴォイスの諸問題〈第1章〉

タイ語の使役・授受動詞/hây/の多機能的な意味

——日タイ対照研究からの一考察——

【キーワード】本動詞 使役 授受動詞 補助動詞 多機能性

タイ語の基本語の一つである動詞/hây/には本動詞としては授益の意味「あげる」（「くれる」）を有するが、助動詞としての用法では日本語に訳すと「させる」と「してもらう」の大きく二種類の意味を表す。この指向性は場面、状況によっては非言語的要素も含めて弁別される。人間の親疎、上下関係、さらに情報の緊急性・優先度など、統語的な枠組みだけでは処理できない複雑な要素が介入する。/hây/の研究はタイ語という個別言語の特徴を描き出すと同時に、普遍的な言語行為・事象を検証する際にも有用であろう。

/hây/には上記の大きくは二種類の用法のほか、間接引用的な伝達表現、および自他の動詞との関係、連語構成などさまざまな周辺の用法をそなえ持つ。本章ではこうした動詞のカテゴリカル的な意味として/hây/を含むフレーズを概観し、語用論的用法まで射程におきながら考察する。特に多機能的な意味が、どのような場面、文脈においてどのような伝達的な意味を担いうるのか、日本語との対照研究の立場から統合的な整理を試みる。

1. はじめに—問題のありか—

使役とは誰かに何かを主体に変わって代行させることを意味するが、さまざまな状況によって使役の度合いが異なってくる。いわゆるヴォイスの範疇にあって、使役は受身と対極にあるものの、その出現範囲は比較的制限されている。加えて、使役行為にいたる過程もまた目的、結果にいかなる影響を及ぼすかに関心が注がれることになる。

本章で考察する/hây/は元来「あげる」「与える」という意味の授与をあらわす動詞であるが、統語的には中国語の/給/と類似した側面ももつことから、授与と使役という二つの性格から解明しなければならない。本研究ではもっぱら使役表現についてのみ考察し、授受表現の用法には詳しくは立ち入らない。

まず、次の例を参照されたい。レストランでの料理の注文をめぐる会話である<sup>1)</sup>。

(1) A : khun-kimura chôp thaan aray?

木村さん 好き 食べる 何

B : aray kôo dâi khráp.

何 も できる MPP

hây khun-chanidaa sàŋ dii kwàa.

CAUS チャニダーさん 注文する いい より

AはB(木村さん)に対してどんなものが好きか、と訊ねているが、B(木村さん)はどうやって注文したらいいか分からない。ひとまず「何でもいいです」と答えておいてから「チャニダーさんに注文してもらったほうがいい」と申し出ている。この/hây/は一種の対応の方略でもあるが、このように授受の意味領域で解釈される一方、状況によっては「チャニダーさんに注文させたほうがいい、注文させよう」のような強制的な使役の意味を帯びることもある。このようにタイ語の助動詞/hây/は<hây(相手)・動詞>の語順で、「相手に～させる」という使役を表すほか、文脈(場面)によって「相手に～してもらう」という授受関係を表す。場面と双方の人物の上下、力関係、事態の緊急度等によって決定される。

(2) khun-phôo hây phôm pay súuu bu?rii.

お父さん CAUS PRO 行く 買う 煙草

父は私に煙草を買いに行かせた。

(3) khruu hây nákrían kláp bâan rew-rew.

教師 CAUS 生徒 帰る 家 速く

先生は生徒を早く家に帰らせた。

一方、(2),(3)の例では、強制的な意味、つまり「父は私に煙草を買いに行かせたい」「先生は生徒を早く家に帰らせたい」という意図が明確である。行為者は命じられる側である。/hây/のあとの相手が年長者である場合、初対面などの関係においては、授受関係が生じて、「煙草を買いに行ってもらった」「早く家に帰ってもらった」という解釈が選択される。こうして場面、人間関係によって、使役か授受関係かの解釈が選択されるのは、日本語のように明確な使い分けをもつ言語から見れば、どこに明確な選択の基準が存在するのか、容易に見いだせない。以下では/hây/の用法を整理しながら、こうした/hây/のもつ語用論的な側面にも言及する。

## 2. /hây/の基本的用法

/hây/は譲渡をあらわす意味の本動詞として用いられ、次のようにモノ(直接目的語)、ヒト(間接目的語)をとる二重目的語構文をなす。

(4) phôm hây pàakkaa (kèe) nóŋchaay.

PRO あげる ペン (に) 弟

私は弟にペンをあげた。

(5) phii-chaay hây phôtchanaanukurom (kèe) phôm.

兄 あげる 辞書 (に) PRO

兄は私に辞書をくれた。



< (A主体) hây (B動作主) 動詞 > 構文において、「AはBに(動詞)させる」という意味を構成する。/hây/は主体の動作主に対する支配域を表す。この場合の動詞は意志をとともなう随意動詞が基本である。

(6) dichán hây lûuk rian pianoo.

PRO CAUS 子ども 習う ピアノ

私は子供にピアノを習わせる。

(7) khun-khruu hây nâkrian tham kaan-bâan.

先生 CAUS 生徒 する 宿題

先生は生徒に宿題をさせる。

相手は日本語では二格であらわされることが多い。(6),(7)のように二重ヲ格をとる場合はとくに二格が必須となるが、(8)の「留学する」のような動詞の場合は、日本語では二格もヲ格も許容される。

(8) phôw-mêe hây dichán pay rian tàaŋ-prathêet.

両親 CAUS PRO 行く 習う 外国

両親は私 {を/に} 留学に行かせた。

(9) phôw hây mêe phaa lûuk pay roonphayabaan.

父 CAUS 母 連れる 子ども 行く 病院

父は母に子供を病院へ連れて行かせた。

(9)は二格しか使用できず、「父は母に {子供を連れて病院に行か} せた」のような埋め込み文の構造を呈している。使役否定は/hây/の前に否定辞/mây/を置く。

(10) dichán mây-hây sâamii sùup bu?rii nay bâan.

PRO NEG-CAUS 夫 吸う 煙草 で 家

私は夫に家で煙草を吸わせない。

「沸騰する」などの自動詞(不随意動詞)を他動詞化させる際にも/hây/が介在する。対象が無生物主語の使役構文を構成する。/léew-khôy/は「そのあと」という接続語。複数の行為「お湯を沸騰させる」「エビを入れる」が連動して発生する様子が示される。

(11) hây náam dùat kòon léew-khôy sây kûŋ.

CAUS 水 沸騰する 先に そして次に 入れる 海老

まず水(お湯)を沸騰させてからエビを入れます。

### 3. /hây/の語彙的用法

タイ語では語彙的に対照的な意味をもつ動詞が/hây/をもってあらわされることがある。これを本研究では/hây/の“連語的用法”と呼ぶ。以下がその代表的なものである。

- (12) châw 賃貸で借りる ⇒ hây châw 賃貸で貸す  
 yuum 借りる ⇒ hây yuum 無償で貸す  
 duu 見る ⇒ hây duu 見せる

「貸す」という単語はタイ語では「借りさせる」のように/yuum/「借りる」に使役助動詞/hây/を前置して複合動詞化しなければならない。/hây/と/yuum/の間には遊離関係が生じて、日本語の与格名詞（下例では「私」「山田さん」）が介在することもある。それぞれ、基本的な構文で具体的な用法を確認しておく。

- (13) hây (phôm) yuum sák phan-bàat dâi mây kháp?  
 CAUS (PRO) 借りる ばかり 千パーツ できる Q MPP  
 千パーツほど貸してくれませんか。(：借りさせてくれませんか)

- (14) chán hây khun-Yamada yuum phótcaaa?nukrom.  
 PRO CAUS 山田さん 借りる 辞書  
 私は山田さんに辞書を貸してあげた。

(13)では直訳すれば「(私に) 借りさせることができますか」といった使役可能文としてあらわされている。一方、「借りる」は対人関係が考慮されない場合、つまり(15)のように機関などから借りる場合は/yuum/だけでよいが、相手を必要とする場合は/khǎo/を前置した複合動詞/khǎo-yuum/を用いる。「貸す」も「借りる」も/yuum/を軸として使役助動詞をとる点もタイ語の貸借関係をあらわす特徴でもある。

- (15) nâṅsǔm thîi yuum pay ca khuun ?aathít-nâa.  
 本 REL 借りる 行く FUT 返す 来週  
 借りた本は来週返します。

- (16) chǎn khǎo-yuum klǎy-thàay-rûup càak khun-Susuki.  
 PRO 乞う-貸す カメラ から 鈴木さん  
 私は鈴木さんからカメラを借りました。

- (17) khǎo (yuum) thoorasàp nõoy dâi mǎy khá?  
 乞う (借りる) 電話 ちょっと [可] Q FPP  
 ちょっと電話をお借りできますか。

さらに「見せてください」という依頼文では/hây/の代わりに/khǎo/ を文頭に用いて、「させてください」「させてもらう」のような言い方を用いる。

- (18) khǎo duu nâṅsǔmphim nán nõoy.  
 乞う 見る 新聞 その ちょっと  
 ちょっとその新聞を見せてください。

- (19) mây mii tamraa læay khǎo khon-khâṅ-khâaṅ duu.

NEG ある 教科書 それで 乞う 人-近く 見る  
教科書がないので、隣の人に見せてもらった。

なお、/hây/と二極構造を有する(19)の/khǎo/の用法については、後に詳しく観察する。

#### 4. /hây/ を用いた結果構文—動詞連続用法—

動詞連続とは一次的動作行為から/hây/を介した二次的、つまり達成行為との一種の動詞連続構文の構造を呈している。日本語ではほぼ〈S1してS2する〉という継起表現に相当する。タイ語では特にこの現象は広範囲に観察され、分析的な特徴が際立っている。

(20) a. bòk hây faj

言う CAUS 聞く

言って聞かせる

b. kin hây mòt

食べる CAUS 尽きる

全部食べる (/mòt/は本動詞) cf: kin mòt 食べ尽くす (/mòt/は補助動詞)

c. yij hây taay

撃つ CAUS 死ぬ

撃って死なせる、射殺する

d. kòo hây kàet

引起こす CAUS 起こる

惹起する cf: tham hây kàet 発生させる

e. né?nam hây rúucàk (kan)

紹介する CAUS 知る (互いに)

(互いに知り合うように) 紹介する

例えば(20a)においては「言う」という働きかけ行為を前句として、二次的な行為達成を/hây/以下の後句で述べるという連動的、連携的な意味をあらわす。日本語では動詞テ形を前句に用いた「V1してV2する」という構造に相当する。(20b)は単に「食べる」行為であれば前項動詞だけで事足りるのだが、/hây/以下によって最後まできちんと食べるという完成を表す。副詞的、補語的な要素ともいってよい。さらに(20c)では/taay/「死ぬ」だけでは結果のみをあらわし、具体的な状況、プロセスが明示されないことになり、タイ語の文としては不完全である。すなわち「撃つ」という行為は「死なせる」という結果目的と結びついて過程的かつ分析的な意味をあらわしている。なお、(20c)は/hây/を省略して/yij-taay/ということもある。それぞれ日本語の「撃って死なせる」と「撃ち殺す」に対応する。また(20e)も「紹介する」は「(互いに)知る」状態にならなければ「紹介した」ことにはならない。つまり/hây/をはさんで前後の動詞が発動・帰結の、いわば動詞連動の慣用的な構造による結果構文の一種とみなされる。

(21) *thâa kamnôt-kaan pen thûi ríapróoy léew ca cêeɲ hây sâap khâ.*

もし 予定する COPU REL 丁寧な PERF FUT 報告する CAUS 知る FPP

日程が決まったらお知らせします。

(21)も/cêeɲ hây sâap/「報告して知らせる」という一次的行為と結果の二次的行為との連続表現をなしている。/hây/以下はいわば目的達成の補語的な成分ともいえよう。

もう一つの動詞連続構造は、基本的には(20)で見たような性格を有しながら、/hây/が以下の形容詞(修飾語)といわば複合語化されて、結果副詞的な機能を呈するものである。(21d)では/hây/なしでも用いられるが、その場合は他者(聞き手)への配慮を問わない。目的語は(21a),(21b),(21c)のように動詞と/hây/の間に置かれる<sup>5)</sup>。

(21) a. *tát phôm hây sân*

切る 髪 CAUS 短い

髪を切って短くする ⇒ 髪を短く切る

b. *kèp tó? hây ríapróoy*

片付ける 机 CAUS 丁寧な

丁寧にテーブルを片付ける

c. *wâat rûup hây sūay*

描く 絵 CAUS 綺麗な

絵をきれいに書く

e. *phûut hây chát/daɲ*

話す CAUS はっきり/大きい

はっきり/大きな声で話す

f. *?àan hây mâak*

読む CAUS 多い

多く読む

g. *kêe hây lûam*

直す CAUS 緩い

緩く直す (洋服の仕立て直しで)

(21e)は単に/phûut chát/のようにも言うが/hây/を使うと「意識的に」という努力の気持ちが強くなる。上例でも明らかのように<動詞+hây+修飾詞>で、結果達成を目論む「になる/するように~する/させる」という意味をあらわす。(21g)では動詞/kêe/「直す」を省略して、「緩くする」のように言うことも多い。以下、具体的な文例で確認する。

(22) *phrûɲ-núu mii ɲaan, tɛɲ-tua hây lò nòoy ná.*

明日 ある 式 身支度する CAUS ハンサムな ちょっと [終]

明日パーティーがあるので、少しは格好よくしてくださいね。

- (23) *khuan chûay phûut hây cháa ?iik nòoy dâi mǎy?*  
 [当] 手伝う 話す CAUS ゆっくり あと ちょっと [可] Q  
 もう少しゆっくり話してくれませんか。
- (24) *faŋ sɨŋ thîi aacaan phûut lé? sòŋ kaan-baan thúk-khráŋ hây riapróoy,*  
 聞く こと REL 先生 話す と 出す 宿題 毎回 CAUS ちゃんと  
*phaasǎa-yîipùn kôo khon ca kèŋ khúm.*  
 日本語 も [推] FUT 上手 なる  
 先生の言うことを聞いて宿題をちゃんと出したら、日本語はきっと上手になるで  
 しょう。
- (25) *mûa phûut thú?ra sèt léew kôo tɔŋ waan hũu loŋ hây sa?nít.*  
 時 話す 仕事 終わる PERF も [義] 置く 受話器 下ろす CAUS 緊密な  
 用件を話し終えたら、ちゃんと受話器を置かないといけません。
- (26) *chûay pít pratuu hây sa?nít dũay.*  
 手伝う 閉める 扉 CAUS 緊密な 一緒に  
 ドアをきちんと閉めてください。
- (27) *raw thúk-khon cuŋ tɔŋ chûay ráksǎa hây sa?àat.*  
 PRO 各人 CONJ [義] 手伝う 維持する CAUS 清潔な  
 私達はそれで綺麗になるように保たないといけません。
- (28) *rii hây baw loŋ dii kwàa.*  
 絞る CAUS 軽い なる いい より  
 少し（音量を絞って）小さくしよう。
- (29) *sák súa-phǎa hây sa?àat léew.*  
 洗う シャツ CAUS 清潔な PERF  
 シャツを綺麗に洗った。
- (30) *athí?baay hây chát-ccen.*  
 説明する CAUS はっきり  
はっきり説明する。
- (31) *phró? man mii ŋuan yaaw ca yép rũu càp aray thii khon*  
 から PRO ある 鼻 長い FUT 取り上げる か 掴む 何 で 人  
*sòŋ hây dâi sabaay mâak*  
 送る CAUS 得る 快適な 大変  
 長い鼻を持っているので、何でも簡単につかんで人のところへ運んでくれる。
- (32) *phûut hây nêe chát loŋ pay mây dâi ròok, tɛe ...*  
 話す CAUS 確か 明確な なる 行く NEG できる 全然 CONJ  
 一概には言えないが、…

## 5. /hây/の授益的な意味

本章冒頭で状況、場面、文脈によって/hây/が依頼的な意味を帯びることがあると述べたが、これはタイ語の重要な語用論的特徴の側面で、具体的には当該人間の親疎関係、上下関係、機関（組織）・個人関係などである。次の例を見てみよう。

(33) A : hây khray tát?

CAUS 誰 切る

(だれに逃えてもらったの?)

B : hây ráan khun-Manii tát hây.

CAUS 店 さん・マニー 切る あげる

(マニーさんの店で逃えた) 直訳：マニーさんの店で逃えてもらった。

ここでは服が自分では作れないことが前提である。Aはお金を払って「仕立ててもらおう」という依頼的な意味で用いている。Bはそれに対して、同じく/hây/を使ってマニーさんの店で仕立ててもらった、と答えている。「あつらえさせた」「仕立てさせた」では非常に不自然な言い方になるだろう。なお、/tát hây/のように動詞に後置する/hây/は恩恵の授益の方向範疇（「～てくれる」）を示すもので、あとに「私」(dichăn/phôm)が省略されている。

(34) khun-Yooko hây khun-Eemi khooy nâa roongreem.

さん・陽子 CAUS さん・愛美 待つ 前 ホテル

陽子さんは愛美さんにホテルの前で待ってもらおう。( ; >待たせる)

(35) Nisaa hây khăw tham ŋaan-bâan hây.

ニサー CAUS PRO する 家事 あげる

ニサーは（自分のために）彼女に家事をしてもらった。( ; ≡家事をさせた)

(36) chăh hây khăw sǎn phaasāa-Yiipùn hây.

PRO CAUS PRO 教える 日本語 あげる

私は（自分のために）彼女に日本語を教えてもらった。( ; >??教えさせた)

要するに、一つ目の/hây/は使役、二つ目の/hây/は「～のために」と訳される。主語が自分のために人に何かをさせる場合は、二つ目の/hây/の後の人物名詞は省略される。

ただし、(37),(38)のように恩恵が及ぶ方向を明示する場合は「一郎」「友達」という与格人物名詞は省略ができない。

(37) Ron hây Nisaa sǎn phaasāa-thay hây Icirroo.

ロン CAUS ニサー 教える タイ語 あげる 一郎

ロンは一郎のためにニサーにタイ語を教えさせた。

(38) khăw hây phôm pay súu yaa hây phúan.

PRO CAUS PRO 行く 買う 薬 あげる 友達

彼は友だちのために私に薬を買いに行かせた。

(39) pay hây mǎo truat dii kwàa.

行く CAUS 医者 調べる いい より

医者に診てもらったほうがいいです。

(39)では日本語で「医者に行く」「髪を切りに行く」のような場合、厳密には「医者に診てもらいに行く」「髪を切ってもらいに行く」のような背景の意味を含意する。

## 6. /hây/と願望・希望表現：「てほしい」「てもらいたい」の表現

誰かに何かをしてほしいと希望する場合、<yàak hây+人+動詞>であらわされる。日本語の「来させたい」「降らせたい」「治らせたい」「辞めさせたくない」は非用、もしくは少なくとも文脈から逸脱した言い方である。

(40) khǎw yàak hây chǎn pay bǎan khǎw.

彼女 たい CAUS 私 行く 家 彼

彼女は私に彼女の家に来てほしい。( ; >#来させたい)

(41) chǎn yàak hây fǒn tòk.

PRO [願] CAUS 雨 降る

私は雨が降ってほしい。( ; >#降らせたい)

(42) phǒm yàak hây khǎw hǎay rew-rew.

PRO [願] CAUS PRO 直る 速く

私は彼女が早く治ってほしい。( ; >#治らせたい)

(43) raw mây yàak hây khǎw laa-ʔòk.

PRO NEG [願] CAUS PRO 辞める

私たちは彼女に辞めてほしくない。( ; >#辞めさせたくない)

(44) phrûj-níi yàak ca hây phǒm yùt nõoy ná khráp.

明日 [願] FUT CAUS PRO 休む 少し [終] MPP

明日、休ませてほしいんですが。

(45) yàak hây (khun anúʔyáat) hây chǎn phûut aray sák kham.

[願] CAUS (PRO 許す) CAUS PRO 話す 何 ばかり 語

私にも一言言わせて欲しいんですが。

(46) sǎmráp phǒw-mêe léew kǒw yàak-ca hây lûuk dǎy pay rian

として 両親 PERF も [願] CAUS 子供 得る 行く 習う

mahǎawíthayaalay, t̄e...

大学

しかし

親としては大学まで行かせてやりたいんですが、

(47) yàak hây phûucátkaan khǎw-rúam thǎaw pracam-pii khǒŋ bǒorisát.

[願] CAUS 部長

参加する

遊ぶ

恒例の

の

会社

部長にはぜひ社員旅行には参加してほしい。

(48) yàak hây ?aacaan pay thîaw Ayútthayaa.

【願】 CAUS 先生 行く 遊ぶ アユタヤ

先生にアユタヤに行っていたきたい。

(49) khun yàak hây lûuk pen aray?

PRO 【願】 CAUS 子ども COPU 何

あなたは子どもを何にしたい？

— yàak hây pen mǎo rǔuu pen khruu.

【願】 CAUS COPU 医者 か COPU 先生

医者か先生にしたい。

## 7. 伝達依頼用法 /bòk hây/ 「～ように言う」の表現

使役の「させる」は表面上（形態上）あらわれないが、内容としては明らかに強制的、あるいは依頼的な意味を含意している。

(50) thùuk bòk hây tham raayngaan tǎn-nú kǎo læy kamlaŋ khǎan yùu ná khâ.

PASS 言う CAUS する レポート 今 も それでている 書く いる 【終】 FPP

今日は報告書を作るように言われて、今書いているところなんです。

(51) chúay bòk hây (khâw) maa duu thǐi hōŋ nǎoy ná khâ.

ください 言う CAUS (彼) 来る 見る で 部屋 少し 【終】 FPP

部屋に見に来るように(彼に)言ってくれませんか。

(52) phǎm bòk hây phanrayaa phaa lûuk pay hǎa mǎo.

PRO 言う CAUS 妻 連れる 子ども 行く 会う 医者

私は妻に子供を医者に連れて行くように言った。

(53) khun-mǎo yan mây-hây kláp, bòk hây yùu tǎo ?iik sǎoŋ-sǎam wan khâ.

医者 まだ NEG CAUS 帰る 言う CAUS いる 続く あと 2、3 日 FPP

医者はまだ帰らせてくれなくて、あと2、3日いるように言っています。

それぞれ「言って見に来させてください」「言って連れて行かせた」「言って居させる」のような、前述したような動詞連続構文を呈している。

(54) khun bankháp hây khǎw lâek sùup burii rǔuu?

PRO 強制する CAUS PRO 辞める 吸う 煙草 Q

あなたは彼が煙草を止めるように強制したのですか。

(55) troŋ-nâa mii thoorathát bòk hây rúu wâa rua-bin aray maa càak nǎy

正面 ある テレビ 言う CAUS 知る COMP 飛行機 何 来る から どこ

weelaa-day.

時間・どの



正面にはテレビがあつてどの飛行機が何時にどこから来るのかを教えてくれる。

### 8. 目的構文/phúaa-hây/と日本語の「ように」「ために」節

/hây/は目的節のうち、努力目標の目的節において併用され、日本語の「(ない) ように」節に相当し、<phúaa (mây) hây V.>の構文をなす<sup>2)</sup>。

(56) karunaa còt-banthúk wáy phúaa mây hây luuum

ください メモする ておく ために NEG CAUS 忘れる

忘れないようにメモをしてください。

(57) chǎn kèp-ʔoom ɲən phúaa hây lúuk dâi rian mahăawitthayaalay.

PRO 貯金する 金 ために CAUS 子供 [可] 習う 大学

子供が大学まで行けるように私は貯金をしました。

(58) tham baay nâa ráan hây yà-yà, phúaa hây khon khâw ráan mâak-mâak.

作る 看板 前 店 CAUS 大きい ために CAUS 人 入る 店 沢山

人が沢山入るように店の看板を大きくした。

(59) sây wéntaa phúaa hây hěn chát-chát.

かける 眼鏡 ために CAUS 見える はっきり

よく見えるように、眼鏡をかけました。

可能目的の場合、文末に/dây/をともなう義務がある。

(60) phayayaam tham kaan-baan khanci yàaŋ saʔmăm-saʔmăo phúaa hây ʔaan

努力する する 宿題 漢字 ように いつも ために CAUS 読む

khanci dâi.

漢字 [可]

漢字が読めるように、漢字の宿題をちゃんとしています。

(61) chǎn rûap-ruam ɲən-thũm phúaa hây phúaan kòo-tâŋ bôorisát dâi.

PRO 集める 資金 ために CAUS 友達 起こす 会社 [可]

友達が会社を作れるように (\*作るように) 資金を集めた。

(62) nay baan-khráŋ phúaa mây hây phûu-úum sĭacay kôo tôn phûut koohk baaŋ.

中 あるとき ために NEG CAUS 他人 哀しむ も 義務 話す 嘘 幾らか

時には人を悲しませないために嘘をつく。

(63) mǎo baan khon yaŋ khón-khwáa kiaw-káp rôok-phay khây-cèp thaan-wiʔthii

医者 ある 人 まだ 研究する に関する 疾病 方法

pôn-kan léʔ ráksaa phúaa hây thúk-khon pen-súk.

予防すると 維持する 為に CAUS 各人 幸せになる

医者のなかには予防法や治療法について皆が幸せになるように疾病の研究に携わっている人もいる。

一方、意志的な行為をもとに目的が指向される場合は/phũa thii-ca...dây/であらわされる。

(64) kamlaj kèp ɲən phũa thii ca súuu bán.

ている 貯める お金 ために REL FUT 買う 家  
家を買うために、お金を貯めている。

(65) phũa thii ca khâw mahâawitthayaalay læy tânçay rian yàaŋ-temthii.

ために REL FUT 入る 大学 それで つもりだ 習う 一生懸命に  
大学に入るために、一生懸命勉強している。

(66) yàaŋ thii phôw-mêe coŋçay mây hây khâw rooŋrian phũa thii ca hây

場合 REL 両親 わざと NEG-CAUS PRO 入る 学校 ために REL FUT CAUS  
thamŋaan kôw miï mũuan kan ná.

働く も ある 同じく 互いに [終]

仕事をさせるために、父親や母親がわざと行かせない場合がある。

日本語の目的節「ために」には一般に/phũa thii ca/、「ように」には上記のように/phũa hây (…dây) /が対応する傾向がある。これは教学上、指摘しておくべきことであろう。なお、「忘れないために」「上手になるために」など、日本語では意志をともなう場合も「忘れないように」「上手になるように」のように「ように」節でもあらわれるが、タイ語では/hây/の機能がこれにあずかっている。

なお、次のように/né?nam hây/以下が「ように」目的に準ずるようなケースもある。次は直訳すれば「電車に乗っていくように勧めたい」の意味である。

(67) thâa ca pay Sà?yâamsakhwæe lâ-kôw né?nam hây pay khûm rótfaifâa pay.

もし FUT 行く 地名 なら 紹介する CAUS 行く 乗る 電車 行く  
サイアムまで行くのなら、電車で行くのを勧めたい。(電車で行くように)

さらに、目的の意味をあらわすのに、時間関係「までに」が/hây/を用いて表わされることがある。この/hây/は前置詞の/con/「まで」にほぼ置き換えが可能である。すなわち、「山田さんが帰って来るまで待つて」というニュアンスを表している。

(68) roo hây khun-Yamada klàp maa kòon kôw dâw.

待つ CAUS 山田さん 帰る 来る 先にも [可]

山田さんが帰って来るのを待つて一緒に食べてもいい。

次のような例（いずれも諺）も目的を表す/hây/の用法といえるだろう。

(69) rák wua hây phùuk, rák lúuk hây tii

愛する 牛 CAUS 繫ぐ 愛する 子 CAUS 叩く

牛を愛するなら繫ぎなさい。子を愛するなら叩きなさい。

(70) nám khõŋ hây riip tàk.

水 上昇する CAUS 急ぐ 汲む  
 チャンスが来たら急いでつかめ。

「繫いでおくように」「急いで汲むように」という、目的を見込んだ言い方になっている。  
 次例も/phúua/が介在しないが、「幸せになるようにに祝う」という目的を含意している。

(71) pen phí?thii ?uayphoôn hây khuuu bâao-săao mii-khwaamsùk khâ.  
 COPU 儀式 祝う CAUS カップル 新郎新婦 幸せな FPP  
 花嫁と花婿の幸せを祝う儀式です。

9. 想定使役と不随意（感情）使役—/thamhây/の用法—

タイ語の使役動詞には/hây/のほかに/thamhây/がある<sup>3)</sup>。語彙的な構造からみれば、まず/thamhây/は「服が乾く」に対して「服を乾かす」の関係を表すように自動詞の他動詞化にあらわれる。元来、自他の対立をもたないタイ語の動詞では次のような現象が起きる。「そのようにせしめる」という意図的性格から、「想定使役」と称することにした。

(72) ?ûn 温まる (自動詞) ⇒ thamhây ?ûn 温める (他動詞)  
 tòk 落ちる (自動詞) ⇒ thamhây tòk 落とす (他動詞)  
 hêeŋ 乾く (自動詞) ⇒ thamhây hêeŋ 乾かす (他動詞)  
 hăay 無くなる (自動詞) ⇒ thamhây hăay 無くす (他動詞)  
 tòkcay 驚く (自動詞) ⇒ thamhây tòkcay 驚かす (他動詞) ……

/thamhây/は< X thamhây Y 動詞 >の形式であらわされる。この場合は表面上、働きかけは強制的であり、意図的であるが、非意図的な行為のケースもある。

(73) phôw thamhây lûuk yùt rooŋrian.  
 父親 CAUS 子供 休む 学校  
 父親は子供に学校を休ませた。

(74) karunaa yàa thamhây ?aacaan kròot  
 ください 禁止 CAUS 先生 怒る  
 先生を怒らせないでください。

/hây/は「XがYに～させる」という使役の意味を表し、Xは人間が原則。物や動物は主語にならないが、一方、/thamhây/は「XがYを～になるようにする」という働きかけ、影響を及ぼす意味になる。したがって、次のように主語（主体）は人間に限らない。

(75) khrúaaŋ-pruŋ ní thamhây ?aahaan aròy.  
 調味料 この CAUS 料理 美味しい  
 この調味料は料理を美味しくする。??美味しくさせる。

(76) rúaaŋ-ní thamhây khăw róoŋhây.

話-この CAUS PRO 泣く

この話は彼を泣かせた。

(76) のような例は日本語では翻訳調だが、タイ語では自然な表現として許容され、Xの発動する行為は多くがYが感情をあらわす場合に限られる傾向がある。感情動詞としては /tòkcay/ (驚く), /lambàak/ (困る), /siacay/ (悲しむ), /róŋhây/ (泣く), /dii-cay/ (喜ぶ), /phit-cay/ (失望する) などや/süay/ 「綺麗」などの形容詞である。(77)のように/dây/をともない、「大いに興奮させることが出来た」のように発生、達成の強調を表すこともある。また場面によっては与格名詞「私たちを」がタイ語では省略されることも多い。

(77) khun-Nakayama thamhây Yukiko róŋhây.

中山さん CAUS 雪子 泣く

中山さんは雪子さんを泣かせた。

(78) phûak-yîpùn kô thamhây tùun-tên dâi mâak.

しかし 日本人達 も CAUS 興奮する [可] 大変

日本兵は私たちを大いに興奮させた。(スワンニー・スコンター「帰らぬあの日」)

(79) naan-naan-khráj kô yàak ca thamhây phô-mêe diicay bâaŋ.

たまには も [願] FUT CAUS 両親 嬉しい 幾らか

たまには親を喜ばせたい。

(80) samây-nii mii kaan klèŋ kan bâaŋ thamhây bàat-cèp bâaŋ yùu bòy-bòy.

現代 ある こと 虐める 互いに たり CAUS 怪我する たり いる しばしば

今ではいじめたり怪我をさせたりすることもある。

(81) phû-sûa lé? dòokmáay thamhây lôok süay-ŋaam.

蝶 と 花 CAUS 世界 美しい

蝶や花は世界を綺麗にする。

(82) dèk-dèk chòp yêe hây man kròot.

子供たち 好き からかう CAUS PRO 怒る

子どもたちはからかって怒らせるのが好きだ。

(83) phôm ca thamhây khăw mii-khwaam-sùk.

PRO FUT CAUS PRO ある 幸せな

私は彼女を幸せにします。(\*#私は彼女を幸せにさせる)

(84) prathan bôrisát khon patcuban dâi thamhây caræn khúm.

社長 会社 人 現在 PAST CAUS 発展する なる

今の社長が(会社を)発展させた。

(85) baŋ-khon aw rûp lûuk-mia maa hây duu lé? baŋ-khon bòk wâa

ある人 持つ 写真 妻子 来る CAUS 見るとある人 言う COMP

chăn thamhây khăw khít-thûŋ lûuk mâak.

PRO CAUS PRO 懐かしがる 子 大変

妻子の写真を持って来て見せてくれる人もいれば、また、私を見ると自分の子どもを思い出すという人もいた。(スワンニー・スコンター「帰らぬあの日」)

(85)では日本語では複文で表しているが、直訳は「私が子どもを大変思い出させる」という意味になっている。使役禁止文は<yàa thamhây 人 Vp>の形式をとるのがふつうである。

(86) karunaa yàa thamhây ?aacaan kròot.

慈悲 禁止 CAUS 先生 怒る

先生を怒らせないてください。

(87) karunaa yàa thamhây thúk-khon tòkcaj.

慈悲 禁止 CAUS 各人 驚く

皆をびっくりさせないてください。

主体が文そのものの事態が代行し、結果を招来するような場合が少なくない。一種の因果関係であり、日本語では<S 1 してS 2 させる>のような意味を表す。

(88) phũchaay sòoptòk thamhây phòw-mêe sǐacaj

兄 試験に落ちる CAUS 両親 悲しむ

兄が試験に落ちたことが両親を悲しませた。(兄が試験に落ちて両親が悲しんだ)

(89) khǎw mák-ca phũut rúarj talòk-talòk thamhây phúan-phúan hũaró?.

PRO しがちだ 話す 話 おかしい CAUS 友達 笑う

彼はいつもおかしいことを言って友達を笑わせる。

(90) maa cháa rian sǎy pen-pracam thamhây aacaan phit-wǎj.

来る 遅い 習う 遅い いつも CAUS 先生 失望する

よく授業に遅刻して、先生をがっかりさせている。

抽象名詞の場合は、たとえば(91)「転職をすれば」のような主格は条件をも表わす。

(91) kaan plian ŋaan thamhây kàet pháapphót nay thaarj lǝp rɛŋ máak.

こと 変える 仕事 CAUS 起こす 印象 中 消す 強い 大変

転職にはマイナスのイメージが強い。( ; マイナスのイメージを強くさせる)

(92) khǎw khòp-khun phũu mii úppakaarakhun thúk-thân thũi chũay kan thamhây

乞う 感謝する 人 ある 善意 各位 関係 手伝う 互いに CAUS

lòok nǎa-yùu khũn. (タイ、セブンイレブンの広告)

世界 住みよい なる

世界を住みよくするのに協力して下さっている皆様の善意に感謝いたします。

(93) thanõn kǎw ráksǎa yǎak khũn phró? mii khon chòp thĩj khǎw lɔŋ

道路 も 維持する 難しい なる から ある 人 好きな 捨てる 物 落ちる

thamhây thanõn sókkapròk mây nâa-duu.

CAUS 道路 汚ない NEG 綺麗な

道路も維持しにくくなっている。物を捨てたがる人がいて道路を汚くし、醜くしているからだ。

しばしば条件文を受けて、/thamhây/が用いられることがある。

(94) thâa tàak fõn kõi ca thamhây pen wát dâi.

もし 乾く 雨 も FUT CAUS なる 風邪 得る

雨が降らずに乾燥すると、風邪を引くことになる。

(95) thâa thúk-khon mây thính khõõng loj bon thanõn, ca thamhây bân-muañ sa?àat.

もし 各人 NEG 捨てる 物 落ちる 上 道路 FUT CAUS 都市 清潔な

もし道路に物を捨てなければ、都市はきれいになる。

(96) yâa thính kradâat lé? bay-tõõng rûuu thûñ-phláatsatík loj bon phúuun

禁止 捨てる 紙 と 髪袋 か ビニール袋 落ちる 上 床

ca thamhây rooñ-năñ sókkapròk.

FUT CAUS 映画館 汚ない

映画館を汚くする(汚す)ような紙や紙袋、ビニールを床に捨ててはいけない。

(97) fõn tòk thamhây rôt tit sà?mǎõ.

雨 降る CAUS 車 混む いつも

雨が降るといつも車が混む。

/hây/に対して/thamhây/は「YになるようにXする」という、ある種の目的設定があって、それに適合、適応させるような、いわば「軌道」に沿った使役行為、現象を表す。従って、「上司は私をタイに行かせた」のような場合は/hây/を用いるのが自然で、/thamhây/は非文に近いものとなる。

(98) ??hûa-nâa phõm thamhây phõm pay thii muañ-thay.

上司 PRO CAUS PRO 行く で タイ

⇒ hûa-nâa phõm hây phõm pay thii muañ-thay.

上司 PRO CAUS PRO 行く で タイ

上司は私をタイに行かせた。(??行かせるようにした)

(99) phõm thamhây khǎw mii-chúuu-siãñ.

PRO CAUS PRO 有名な

私は彼を有名にした。#有名にさせた。??有名になるようにした

(100) prathaam bõrisàt khon pàtcu?pan dâi thamhây caræñ khúm.

代表 会社 人 現在 得る CAUS 発展する なる

今の社長が大きくした。(大きくするようにした)

なお/tham/と/hây/が遊離現象を起こすことがあるが、これは広義には/tham/動詞句と/hây/動詞句との連続的な表現と見なされる。後半は二次的な結果事態である。

(101) khăw nâj tham kha?nôm hây been.

PRO 坐る する お菓子 CAUS つぶれる

彼はお菓子の上に座ってつぶした。

(102) tham hôj hây sa?àat.

する 部屋 CAUS 清潔な

この部屋をきれいにする。

/thamhây/には接続成分として、原因理由を前件であらわし、後件に結果事態を導く用法がある。この現象については次章で詳しく考察する。

(103) khwaam-pra?mâat thamhây kòet ubàtti?hèet khráj yâj.

不注意 CAUS 生じる 事故 回 大きい

不注意が重大事故を引き起こすこともある。

(⇒ 不注意によって重大事故が起こることもある)

(104) himá? tòk nàk thamhây rófay maa cháa.

雪 降る ひどい させる 汽車 遅い

大雪が汽車を遅れさせた。(⇒大雪のために汽車が遅れた)

## 10. 使役受身と/hây/, /thamhây/の用法

使役と使役受身の関係はおよそ(105),(106)のような例文で示される。

(105) mêe hây chăn tham khwaam-sà?àat hôj.

母 CAUS PRO する 清潔な 部屋

母は私に部屋を掃除させました。

(106) chăn thùuk mêe hây tham khwaam-sà?àat hôj.

PRO PASS 母 CAUS する 清潔な 部屋

私は母に部屋を掃除させられました。

(107) mia hây phôm súu wêen phœŋ-phœŋ hây.

家内 CAUS PRO 買う 指輪 高い あげる

(108) phôm thùuk phanrayaa khǒo hây súu wêen phœŋ-phœŋ hây.

PRO PASS 妻 買う CAUS 買う 指輪 高価な あげる

(105)が使役で、(106)がその使役受身となる。すなわち、タイ語では語順から受身使役という構造による<thùuk 相手 hây 動詞>「(相手に) Vさせられる」であらわされる。

たとえば、「私は家内に高い指輪を買われました」という日本語は、(107)、(108)のタイ語訳が可能である。(108)は使役のみ、(109)は受身の助動詞/thùuk/と使役の複合助動詞

/khǎo-hây/を組み合わせた言い方になっている。複数のインフォーマントによれば(107)のほうがやや一方的に、(108)のほうが「乞う」という行為を内包して互いに了解のもとで、というニュアンスが出ているという。日本語では同じ「買わされる」でも、プロセスに違いが出るということがタイ語では統語的な異同であらわされる。

/hây/の代わりに/thamhây/を用いる場合もあるが、この場合は強制使役である。

(109) chǎn mák-ca thùuk phúan thamhây rǎw.

PRO がちだ PASS 友達 CAUS 待つ

私はいつも友人に待たされます。

さらに、/hây/の代わりに/khǎo-hây/を用いる場合もあるが、この場合は懇願的行為をとまなう使役 (<S1 して S2 させられる>) である。

(110) chǎn thùuk phúan khǎo-hây líaŋ aahǎan.

PRO PASS 友達 乞う-CAUS 奢る 食事

私は友達に食事を奢らされました。

使役受身は次のように、「仕方なく」「やむを得ず」という不可避的な事態が大部分である。

(111) khun thùuk hây thamjaan lǎaŋ weelaa thúk-wan khon yêe lá si khráp.

PRO PASS CAUS 働く 超える 時間 毎日 だろう 大変 強調 終 MPP

毎日残業させられて大変でしょう。

(112) thánthán-thǐi rǎŋ phleŋ mây khǎy kèn, tɛ̃ kǎo thùuk hây rǎŋ phleŋ

にも拘らず 歌う 歌 NEG あまり 上手 が も PASS CAUS 歌う 歌

tǎw nǎa khon-?úun.

対して 前 他人

歌が下手なのに、皆の前で歌わされてしまいました。

感情動詞の場合は/thùuk hây/の代わりに/thùuk thamhây/を用いる。

(113) àan nawaniyaay lêm-nǐi léew chǎn thùuk thamhây khít aray-aray lǎay-yàaŋ.

読む 小説 冊この PERF PRO PASS CAUS 考える 何々 色々

この小説を読んでいろいろ考えさせられました。

## 11. 一般例から見た使役と授受の関係性

ここでは/hây/が「使役」という束縛を越えて、恩恵の授受をあらわす表現を確認する<sup>4)</sup>。対人関係の上位、すなわち身分、職位などによる差異が明らかに見られ、かつ何らかのほどこしを目論む場合は、授受の意味が前面に押し出される。例えば、「私」と「部下」の関係において、職務上、遂行が義務付けられる場合は、「作らせる」でよいが、ある種の困難をとまない、遂行がなされる場合は、「作ってもらう」ことになる。ただし、後者を強調し



たい場合は/hây/の位置も文末に後置され、統語上も大きな違いを呈することになる。

(114) hây lûuknóŋ tham ʔèekkasāan.

CAUS 部下 作る 書類

: 部下に書類を作らせます。

(115) lûuknóŋ tham ʔèekkasāan hây.

部下 作る 書類 あげる

: 部下が書類を作ってくれます。⇨部下に書類を作ってもらいます。

以下の例でも、経済的、依願的な行為など何らかの代償を支払って、行為が達成される様子が示唆されている。構文的特徴としては、「～場合がある」などの例示表現である。

(116) yaŋ mii khruu pay sǒn hây thǔŋ bāan kō mii dūay ná.

まだ ある 先生 行く 教える CAUS まで 家 も ある 一緒に [終]

おまけに家庭教師まで付けてもらったりしている子どももいる。

(117) kō léew tɛɛ-la khon tɛɛ khít wā thī hây khon ráp cháy rǔu

も 次第だ につき 人 だけ 考えると 関係 CAUS 人 受ける 使う か

yāat chūay duuleɛ hây kō mii mâak ná.

親戚 手伝う 面倒を見る CAUS も ある 沢山 [終]

人に頼るけど、お手伝いさんや親類の人に面倒を見てもらっている場合が多い。

(118) mii nóy raay thī ca hây khun-ya khun-yaay duuleɛ hây.

ある 少し 場合 REL FUT CAUS おばあさん 面倒を見る あげる

おばあさんに面倒を見てもらったりすることも少ない。

(119) raw kō ca wé? hây cháaŋ thī nāŋ yùu khāaŋ thanǒn sǒm hây dāy

PRO も FUT 寄る CAUS 職人 REL 坐る いる そば 道路 修理する あげる 出来る

nay raakhaa thùuk lé? rew thancay.

中 価格 安い と 速い 間に合う

私たちは道端に坐っている職人に立ち寄って安い料金で、しかも早く修理してもらえ

次は日本語では「くれる」に相当する言い方になっている。

(120) Aakira lɛn pianoo hây chǎn faj.

アキラ 弾く ピアノ あげる 私 聞く

アキラは私に(私のために)ピアノを弾いてくれた。

「ピアノを弾いて私に聞かせた」のような構造になっている。

(121) thāa phǒn kaan-rian yɛ khǎw kō mây hây còp mây chāy rǔu?

もし 成績 勉強 大変 彼 も NEG CAUS 卒業する NEG そう Q

成績が悪かったら、卒業させてくれないじゃないの？

次は、法令、あるいは規則によって事態が遂行される状況を示す。

- (122) thúk-khon tàaŋ mii sǎan chǔay-lǔa roŋphayaabaan tháy-nán thamhây mǔo  
 各人 それぞれ ある 部分 協力する 病院 だけ CAUS 医者  
 phayaabaan mii weelaa truat ráksǎa càay yaa lé? hây kham-né?nam khon-khây lê?  
 看護婦 ある 時間 調べる 維持する 渡す 薬 あげる 助言 患者 と  
 chiit-yaa pŏŋ-kan rôk-ra?bàat.  
 注射する 予防する 伝染病

各人がそれぞれ病院を手伝って、医者や看護婦が診察の時間をもつようにして、治療したり投薬したり、患者にアドバイスをしたり伝染病の予防注射をしてくれるようにする。

- (123) phǔu-dooyśǎan thúk-khon thǐi maa càak tàaŋ-prathêet ca tŏŋ phaan hŏŋ  
 乗客 各人 REL 来る から 外国 FUT [義] 通る 部屋  
 dǎaŋ suŋlakaakon hây câwnâathǐi truat nǎjsǔuu-dænthaaŋ.  
 側 税関 CAUS 係員 調べる 旅券  
 旅行者はそれぞれ外国から帰ってくると、税関を通り、係員に旅券を調べてもらう必要がある。

## 12. 個別例から見た使役と授受の関係性

本節ではある統語的特徴によって使役と授受関係の相互交渉を観察、使用頻度の高いものを(1)から(9)まで複数例取り上げ、用例とともに記述する。

### (1) 結果事態の自然的、強制的招来

結果構文の類型として日本語の「XをYにする／くする」に対応する言い方でタイ語では<Vp+hây/pen+N/Adj>の形式をとる。(128)は動詞連続の構造を成し、直訳では「柵を作って空地にした」という意味を表す<sup>5)</sup>。

- (124) khǎan tua-nǎjsǔuu hây yàŋ  
 書く 文字 CAUS 大きい  
 字を大きく書く (字を書いて大きくする)

- (125) tham hŏŋ hây òp?ùn.  
 する 部屋 CAUS 暖かい  
 部屋を暖かくする。

- (126) phŏm yàak hây lúuk pen mǔo rǔuu pen khruu.  
 PRO [願] CAUS 子供 なる 医者 か COPU 教師  
 私は子どもを医者か教師にしたい。

- (127) maa ráksǎa bǎan-muaŋ hây sa?àat kan thò?  
 母 病院 行く 柵 壊す 誰か  
 母は病院に行く柵を壊す誰かか?

来る 保護する 街 CAUS 清潔な 互いに よう

街をきれいにしましょう。(標語)

(128) phûa kan phá-k-tópcháwaa phô cuj tham máy-kân hây pen thii-wâaŋ.

為に 防ぐ ほてい葵 父 それで 作る 柵 CAUS なる 空地

父は、ほていあおいの繁茂を防ぐ柵を作り、空地を確保した。(空地にした)

(スワンニー・スコンター「帰らぬあの日」)

## (2) 謙讓使役/khǎo/「させてもらう」

文頭に khǎo を置き、動詞を続けると、「させていただく」という謙讓的な使役を表す。

(129) khǎo sadæŋ khwaam-khít-hěn kiaw-káp rúaaŋ-ní ná khráp.

えう 述べる 意見 に関する 話この [終]MPP

これについて、意見を述べさせていただきます。

(130) khǎo cháy thoorasàp thii-ní nõoy mǎy khráp?

えう 使う 電話 ここ 少々 Q MPP

この電話を使わせていただけますでしょうか。

(131) wanníi pùat-síisa? khǎo klàp rew dây mǎy khráp?

今日 頭痛する えう 帰る 早く できる [終] MPP

今日、頭が痛いので、早く帰らせていただけますか。

/karunaa-hây/, /chúay-hây/は「させてください」という申し出表現である。話者主体の強い意志をあらわす。副詞/hây-dây/（「是非」）をとともなうことが多い。

(132) ɲaan-níi karunaa hây phǎm tham (hây-dây)thò? ná khráp.

仕事この 慈悲 CAUS 私 する ぜひ しよう [終] MPP

この仕事をぜひ私にやらせてください。

(133) kaan-dəənthaaŋ pay-thíaw nay khráp-níi karunaa hây dichǎn pay dūay ná khâ.

旅行 の 近回 慈悲 CAUS PRO 一緒に [終] [周]REL

今回の旅行には、私にも行かせてください。

(134) bāan phūaan yùt Phátthayaa raw khǎo pay phá-k thii bāan khǎw kan.

家 友達 ある パタヤ PRO えう 行く 泊る で 家 互いに

友達の家がパタヤにあるので、そこに泊めてもらうことになっている。

(135) phrûŋ-níi khǎo laa yùt ná khá.

明日 えう 休む [終] 丁寧辞

明日、休ませて下さい。

(136) khǎo cháy thoorasàp nõoy dây mǎy khráp?

えう 使う 電話 少し できる か MPP

電話をかけさせて（使わせて）くれませんか。

(3) 懇願使役/khǎo-hây/「してもらう」「させてもらう」

/khǎo-hây/も文頭に置いて、「させてください」という懇願をあらわす。

(137) wan-níi khǎo-hây phǎm pen khon càay thǎ? kháp.

今日 とう-CAUS PRO COPU 人 払う しよう 丁寧辞

今日のところは僕に払わせてください。

(138) khǎo-hây khun Aarii laa yùt ñaan ná kháp.

とう-CAUS アーリーさん 休む 仕事 [終] MPP

アーリーさんを休ませて（やって）ください。

「休ませてください」は話者自身に対する受益を期待しての申し出だが、「休ませてやってください」は第三者への受益を期待しての申し出である。

(139) mii kaan sǎn nám phrá?phuttharûp phûa khǎo-hây yùu yen pen-sùk dâay.

ある 事 かける 水 仏像 為に 乞-CAUS いる 平穩 幸福な とともに

幸運を願って、仏像にも水をかける。

(140) lûuk khǎo-hây phǎo-mêe phaa pay thǎaw bǎy-bǎy.

子供 とう CAUS 両親 連れる 行く 遊ぶ しばしば

子どもは両親に遊びに連れて行ってくれるようにいつもせがむ。

(141) khǎw khǎo-hây dichǎn rǎng phleeng thay hây faŋ.

彼 とう-CAUS 私 歌う 歌 タイ CAUS 聞く

彼は私にタイの歌を歌って聞かせるようにせがむ。

(142) chǎn (khǎo)hây phûan chûay thǎay rûp hây.

私 (とう) CAUS 友達 手伝う 写す 写真 あげる

私は友達に写真を撮ってもらった。

次の例は、定型的な/khǎo phiaŋ-têe hây/というフレーズをなし、「～さえ～ればいい」という懇願的な希求を表す。

(143) khon thǎi hǎn wǎa phǎn kaan-rian ca pen yanŋay kǎo

人 COMP 見える 結果 勉強 FUT COPU いかにも

chǎaŋ khǎo phiaŋ-têe hây kǎo mii mâak nǎi-nâa.

何と とう だけ あげる も ある 沢山 終助詞

どんな成績でも卒業さえできればいいという人も多い。

(4) 使役禁止/yàa hây/

禁止・制止表現「させないでください」は/yàa hây/を文頭に用いる。

(144) yàa hây phǎm tǎn phûut rûaŋ-nán càak pàak khǎoŋ phǎm læy.

～な CAUS 私 [義務] 話す 話-その から 口 の 私 語気詞

: 僕の口から言わせないでください。

(145) yàa hây khǎw sàw phrík mâak ná.

～な CAUS 入れる 唐辛子 沢山 終助詞

: 彼にたくさん唐辛子を入れないように。Cf 入れさせないように

(5) 許可使役/anú?yâat hây/, 容認使役/yɔɔm hây/, 強制使役/bankháp-hây/

許可の意味を表したいときは、/hây/の前に動詞/anú?yâat/「許す」を置いて表わされる。また、容認の意味を表したいときは、同じように/hây/の前に動詞/yɔɔm/「認める」を置いて表わされる。

(146) phôw-mêe (anú?yâat)hây chǎn pay tàaŋ-prathêet khon-diaw

両親 (許す) CAUS PRO 行く 外国 一人で

両親は私に一人で外国へ行かせてくれました。

(147) phôw-mêe mây-yɔɔm/mây-anú?yâat-hây chǎn líaŋ sù?nát.

両親 NEG-認める/NEG-許す CAUS PRO 飼う 犬

両親は犬を飼わせてくれませんでした。

(148) phôw-mêe lambàak (sòŋ-sǎa) hây chǎn dâw pay rian con-thũŋ

両親 困る (犠牲にする) CAUS PRO 得る 行く 習う まで

chán mahaawitthayaalay

階 大学

両親は苦勞して私を大学まで行かせてくれました。

(149) chǎn (anú?yâat)hây lúuk lén keem thũi chóp.

PRO (許す) CAUS 子ども 遊ぶ ゲーム REL 好き

私は子供に好きなだけゲームをさせた。

/yɔɔm-hây/は「～させるのを認める」という使役許可をあらわす。/yɔɔm/は「認める」「承諾する」という意味の動詞である。

(150) phôw yɔɔm-hây phôm pay rian tòw thũi muaŋ-nòk.

父 認め-CAUS PRO 行く 習う 続ける で 外国

父は私に留学させてくれました。(留学させることを許可した)

(151) phôw-mêe mây yɔɔm-hây chǎn khóp kàp khǎw.

両親 NEG 認める-CAUS PRO 付き合う と PRO

両親は私に彼と交際をさせてくれない。

強制使役の場合も同じように/hây/の前に動詞/bankháp/「使いる」、/sa?kòt/「押し留める」などを置いて表わされる。行為者に抵抗の余地がなく、「ように強いる」、「ようにし向ける」といった意味を表す。

(152) khun bankháp-hây khǎw lôək sùup burii rǔuu?

PRO 強制する-CAUS PRO 辞める 吸う 煙草 Q

あなたは彼が煙草を止めるように強制したのですか。

(153) khwaam-khũŋkhǎŋ kooŋ-tháp sa?kòt-hây chǎn yuun ta?luŋ yùu kan thii.

厳しさ 軍隊 強いる-CAUS PRO 立つ 呆然と いる 互いに 所

軍の厳しさを知る私のもう一つの心は、その場に一指動かず直立しているよう強い  
るのだった。(スワンニー・スコンター「帰らぬあの日」)

状況が共有理解の環境であれば、/bankháp/を省略してもよい。

(154) chǎn (bankháp-)hây lúuk àan nǎŋsǔuu wan-lá? 2 chũamoŋ thúk-wan.

PRO (強制する-) CAUS 子供 読む 本 日あたり 2 時間 毎日

私は子供を毎日2時間勉強させた。

(6) 放任使役/plooy-hây/「させておく」

放任の「させておく」は/hây/の前に動詞/plooy/「放つ」を置いて表す。

(155) plooy-hây khǎw tham yàaŋ thii khǎw yàak tham thə?

放す-CAUS PRO する ように REL PRO [願] する しよう

この子には好きなことをさせておきましょう。

(156) ŋaan-níi plooy-hây khun-Taanaaka càt kaan kòw dáy.

仕事-この 放す-CAUS 田中さん する 仕事 も [可]

この仕事は田中さんにまかせておいてよい。

(157) phòw-mêe kòw dáy tɛe hây ŋən yàaŋ-diaw léew plooy-hây khon-?uun

両親 も 得る だけ あげる お金 しか PREF 放す-CAUS 他人

òp?rom duulee lúuk hây.

躰 世話する 子ども あげる

子供の躰を人に任せて、お金だけを与えて放任する。

(158) raw yàa phòŋ plùk plooy-hây khǎw phák ?iik sák nõoy thə?

PRO ~な ばかり 起こす 放任する-CAUS PRO 休む あと ばかり 少し しよう

起こさずにもう少し休ませてあげましょう。

(7) 努力や恩義を表す/?ùtsǎa Verb hây/の用法

副詞/?ùtsǎa/「せっかく」「わざわざ」を用いて、感謝の意味を表す。/hây/のあとには恩恵を受ける人物がくる。

(159) sǔasawêettə tua-níi ?ùtsǎa thák hây phòm rǔu?

セーター CL-この わざわざ 編む CAUS PRO Q

このセーターはわざわざ私に編んでくれたんですか。

(160) khòp-cay thîi ?ùtsăa maa sòn hây phóm.

有難う REL わざわざ 来る 送る CAUS PRO

わざわざ私を見送りに来てくれて有難う。

(161) câwnâathîi sathâanii rófay tit-tòo câwnâathîi tamruat hây thanthii.

係員 駅 連絡する 係員 警察 CAUS すぐに

駅員はすぐに警察に連絡してくれました。

(8) 恩恵の授受を表す<karunaa hây V>の用法

日本語の「くださる」に対応する。次の例では「先生が～てくださった」「京子さんが～てくださった」のように主体が逆転していることに注意しなければならない。対格の人(/chăn/「私に」)はしばしば省略されることが多い。

(162) khruu karunaa hây (chăn) faj rúan-raaw

先生 慈悲 CAUS (PRO) 聞く 話

先生に話を聞かせていただいた。

(163) khun-kiawkó? karunaa hây (chăn) kin yaa.

京子さん 慈悲 CAUS (PRO) 食べる 菓

京子さんに菓を飲ませていただいた。

(9) その他の/hây/の用法

前文を受けて、「と言われても」のような意味、さらに「お持ちします」といった謙譲的な意味用法がある。/hây/の語用論的用法として位置付けられる。

(164) thăa ca hây yók tua-yàaŋ lá?kò yók mây-mòt ròok ná

もし FUT CAUS 挙げる 例 なら 挙げる NEG 尽くす 全然 [終]

例をあげたらきりが無いわね。(例をあげてと言われても…)

(165) hây chăn yók-thúu khỏŋ khun hây mây kháp?

CAUS PRO 持つ 物 PRO あげる Q MPP

お荷物をお持ちしましょうか。

(166) ca hây pay kii-moong dii khá?

FUT CAUS 行く 何時 いい FPP

何時に伺ったらいいでしょうか。

おわりに

本研究ではタイ語の使役動詞/hây/を、多機能性、あるいは多義性に注目しながら用例を中心にそれらの意味用法を検討した。その過程で、使役行為がさまざまな目的意図をほらみつつ、ある目的、想定された事象を遂行するための手段、途上の現象によって構成されていることもより明らかにされた。

使役構文はある種の意志を媒介とするために、受身表現の使用頻度と比較すれば、言語の習得においても比較的遅いことが言われている。つまり「させる」という特殊な状況に置かれることは日常、それほど多いわけではない。その一方で、授受行為という対人関係を配慮した表現が選択されるが、その使用分布については、さらに人間関係や場面を重視した、言語データを駆使して分析に努める必要がある。

注

- 1) 『らくらくタイ語 文法から会話』(田中寛、国際語学社 2005) 45 頁。
- 2) タイ語の目的節については、田中(2004)を参照。
- 3) /thamhây/の使役機能が因果関係のほか、条件、目的節にあらわれやすいことは次節で比較的詳しく論じている。
- 4) /hây/の授受的な意味形態についてはシリワン(2008)の研究、/hây/の意味拡張については高橋(2009)などの考察があるが、授受と使役の意味的ネットワークについてはさらなる検討が必要である。
- 5) 様態修飾に意志が介在しない場合は/hây/をとまなう必要はない。

khāw phūt reej pay

彼 話す きつい 過ぎる

彼の言い方はきつすぎる。\*khāw phūt hây reej pay

#### 参考文献

- 赤木攻監修、中島マリン・吉川由佳著(2004)『間違いだらけのタイ語』めこん
- 高橋清子(2010)「タイ語における他動性と使役性」、西光義弘、ブラシャント・パルデシ(編)『自動詞と他動詞の対照』シリーズ言語対照 6 71-142 くろしお出版
- (2009)「タイ語の機能語 hây の意味変化の方向性」、『日本言語学会第 138 回大会予稿集』148-153
- 田中寛(2004)『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房
- ムニントラウオン・シリワン(2008)「『～てもらう』表現とタイ語における強制性」、『日本語・日本文化』第 34 号 大阪大学日本語日本文化教育センター
- 吉川武時(1978)「日本語とタイ語の使役表現をめぐる調査の報告」、『日本語学校論集』5 164-169 東京外国語大学附属日本語学校(当時)
- Paatcarii Cunpraseetsuk(2008) “*Phuut phit khit may – ruup-prayook phaasaa-Yiipun mii Phuu-rian mak chay phit*” Roonrian samaakhom 「タイ人によくある失敗例——どうして間違い?なぜ失敗、あなたの日本語」
- David Smyth(2002) “*Thai An Essential Grammer*” Routledge Ltd.
- Shoichi Iwasaki and Preeya Ingkaphirom(2005) “*A Refernce Grammer of Thai*” Cambridge University.Press.



## 第Ⅲ部 タイ語におけるヴォイスの諸問題〈第2章〉

## 接続辞のように用いられるタイ語の/thamhây/について

## —「使役」と「因果関係」、「程度・到達」の連続性—

【キーワード】使役 因果関係 条件・帰結 程度・到達 接続辞

## 1. はじめに

本章ではタイ語における使役文がしばしば「主格」側からの働きかけという機能によって前件事態を構成し、かつ後件事態の出現、発生を招来、惹起せしめる「起因」的現象をとりあげ、結果的に見て程度（多くが拘束）の過多を背景にして使役構造が因果関係の意味構造にシフトされる構文的特徴について観察する。

議論の前に使役を規定する「態」の本質的な部分について触れておきたい。われわれはともすると所与のカテゴリーや概念であるかのように「受身」や「使役」といった「態」を何ら抵抗もなく受け入れ、最初に「態」ありきのような発想、思考回路で文法現象を切り取ってしまいがちである。しかしよくよく考えてみるならば、「使役」とは事象や行為の発生後に便宜的に名付けられたもので、本質のすべてを表しているわけではない。つまりわれわれが「使役」と規定してしまう対象の深奥には、「使役」でも「能動」「受動」でもない、「態」本来の姿が存在するという事実である。同様に他動詞、自動詞という範疇も、「目をつぶる」が意志を介在したものであるかどうか判断しがたいように、また併用現象も少なくないことから、きわめて便宜的な命名であることにも注意する必要がある。「使役」の研究は、まさにこうした意識のギャップを埋め合わせ、看過されてきた「態」の別の姿に新しい光をあてていく作業にほかならない。ひとたび「態」と名づけられたが最後、うしなわれた「態」もまた併存する。したがって、本章でも既成概念を援用するものの、「態」の認識にはゆるやかな未確定のものも意識して議論することにしたい。「出来」という本質的な概念をさらに精査するためにも、「使役」の研究は重要である<sup>1)</sup>。

そもそも「サセル」とはどのような立場、現象を規定するのだろうか。日本語の使役研究で顕著な成果をおさめた早津(2016)は使役を「つかいだて」(他者利用)と「みちびき」(他者誘導)の二つの意味タイプを提起しているが、その背景には前後に因果関係なり条件、目的なりの恣意的要素が配置されていることを示唆している。その一つとして主体Aが主体Bに「何かをサセル」というとき、主体Aも主体Bも積極的な意志をもたない場合も当然あるだろうし、結果として「サセラレル」はめになる、つまり「使役受身」といった発生事態は日常でもしばしば観察、実感されるところでもある。気がつけばそういう状態に置かれている、という移行、移動の招来こそが「態」の本質であるように思われる。

本節ではこうした事態生起をしばしば「惹起」という概念で考えてみることにする。以下、タイ語の例をベースに再考してみたい。

タイ語の/thamhây/は前章であつかった/hây/が使役と授受を兼務するのに対して、一方的な使役をあらわす助動詞として用いられる。タイ国学士院国語辞典によれば/tham-ʔaw/と併記され、以下のような説明がある。

(1) pen hêt-hây

COPU 原因-CAUS

(何か) させる原因となる

例: thamhây kháo dâi pay muaŋ-nôok

CAUS PRO [可] 行く 外国 (彼を外国に行かせる)

tham-ʔaw kháo yâm-yeɛ pay

する 取る PRO 無理に 行く (彼を無理に行かせる)

短い説明のなかに、/hêt/ (「原因」) という説明が見えるのは重要である。

/thamhây/はもともと使役の助動詞/hây/をもとに/khǎo-hây/, /yàa-hây/などととも派生した形の一つである。したがって、一般にタイ語の「使役」概念についてはタイ人の行動様式の観察と同時に、言語学的にはこの/hây/の記述検討が最大の関心事となるのだが、ここでは使役構文全体のなかでの位置づけとして、むしろ使役という概念が一方で原因理由をあらわす協働の磁場の環境をになうことに注目し、その結果、新たな事態を招来(惹起)するという表現形式について考察をすすめる。したがって本章ではもっぱら/thamhây/の用法について考察をおこない、一方の/hây/については前章にゆずり、補足的に記述するにとどめる。

2. /thamhây/の生起する磁場

従来、使役をあらわす助動詞の/thamhây/をめぐるのは動詞の階分類をはじめ、もっぱらヴォイスの範疇で論じられることが一般であった。その一方で、実際の用法を観察していくうちに、また語用論的な用法を含め、前件が/thamhây/に導かれて時間関係や、原因理由をあらわし、後件にもたらされる結果事態を提示することが少なくない。例えば、次のような例である。(3)では/thamhây/の前に接続詞/ləy/が共起成分となっている。

(2) phâak-ʔisáan hêeŋlɛŋ mâak thamhây kəət panháa rúaŋ

東北タイ 乾燥する 大変 CAUS 起こす 問題 話

kaan-tham-maa-hăa-kin.

こと-生計をたてる

イサーンの日照り続きは食糧問題を引き起こした。

(3) dâi ʔaan bòtkhwaam rúaŋ-ní ləy thamhây khít pay tàaŋ-tàaŋ-naa-naa.

得る 読む 記事 話-この CONJ CAUS 考える 行く 様々な



b. thamhây thúk-khon mii khwaamsúk

CAUS 各人 ある 幸せ : 皆を幸せにする

c. thamhây kháw tòkcaey

CAUS 彼 驚く : 彼を驚かせる

一般に/hây/の後にくる動詞が「行く、来る、食べる、見る」などの動詞のように当該動作の実行が主体の意志で決められる随意動詞に限られるが、(5)のように動詞が一般に「怒る」「悲しむ」「幸せになる」など感情をともなう場合は/thamhây/を用いる。そのほかの動詞については、どのような動詞が/thamhây/と共起しやすいかは大量のコーパスによる調査が必要であるが、ここでは(4)のような不随意動詞の数例（ただし「会う」のような例もある）を示すにとどめた。

### 3.2 /thamhây/の使役構文

次に統語的な側面から/thamhây/の用法を検討する。一般に日本語の使役表現は前章でも述べたように、タイ語では/hây/を用いてあらわす。

(6) chǎn hây nóŋsǎaw tham ʔaahǎan.

PRO CAUS 妹 作る 料理

私は妹にご飯を作らせる。

「料理を作らせる」「仕事を手伝わせる」など、相手に何等かの行動をし向けさせることを狙いとする。したがって、何らかの目的遂行の意識が内在している。仕向ける側とし向けられる側には一定の力関係があり、前章でも述べたように「テモラウ」との互換がしばしば行われる。これに対して/thamhây/は品詞そのものに変化を与えて、ある別の状態に変えるという働きがあり、「悲しませる」「大きくする」といった変化を強制的に及ぼすことから、当然のこととして授受後文「テモラウ」との互換性は見られない。例えば/thamhây/のあとに目的結果となる事態をあらわす形容詞が後接すると、日本語では「クスル」のような変化を表す動詞表現になる。ちなみに形容詞/múut/（「暗い」）を「暗くする」のように他動詞に転成する場合は、/múut/の前に/thamhây/を置いて表すことになる。主語は有生、無生無生の主語を問わない。例えば(7)の主語は「人」でも「落雷」でもかまわない。

(7) thamhây hōŋ múut

CAUS 部屋 暗い

部屋を暗くする

目的語がある場合は[thamhây/目的語/形容詞]の語順となる。

なお、/thamhây/の否定形式は/mây thamhây/は殆ど用いられず、通常は/yàa thamhây/のような禁止・制止・命令の表現になる。

(8) pròot thamhây phèt.

[命] CAUS 辛い

辛くしてください

(9) pròot yàa thamhây múrut

Please [禁] CAUS 暗い

暗くしないでください。

品詞の性格、環境を変えるということでは自動詞「発展する」を他動詞「発展させる」に変える場合も/thamhây/が用いられる。[thamhây 目的語 自動詞]の語順となる。

(10) prathaan-bòorisàt khon pàtcuban day thamhây bòorisàt carəən khùn.

社長 CL 現在の PST CAUS 会社 発展する なる

今の社長が会社を大きくした。(発展させた)

/thamhây/は中国語で言うところの離合詞の形態を示し、/tham-/は一般同士で個別的な意味は内包されない。/tham/の代りに具体的な動作行為を表す場合は、[V1-hây-V2]の構造を呈する。さらに用例を見てみよう。

(11) khray thamhây hōn sa?àat?

誰 CAUS 部屋 清潔な

誰が部屋をきれいにしたか?

(12) fəej thamhây chǎn dùatróon.

恋人 CAUS PRO 困る

恋人は私を困らせた。

(13) thamhây sùk-sùk nòoy.

CAUS 熱す 少し

もう少し焼いてください。(火が通るようにしてください)

/tham/は自発動詞・形容詞と結合して、他動詞的な意味を構成することが少なくない。いわゆる動詞連続文を構成する。この場合、/tham/と/hây/は目的語をはさんで遊離し、/hây/以下は前項の一次的動作行為によって引き起こされた二次的な結果事態である。

(14) phom tham pratuu hây phaj

PRO する ドア CAUS 壊れる

:わたしはドアを(蹴る、などの具体的行為で/意図的に)壊した。

[tham A hây V]の語順で、動作行為が意図して行われた結果、「壊れる」という事態が発生したという、いわば動詞連続的な構文である。直訳すれば「AがVになるようににVした」という意味を表す。主語には無生物主語が多くあらわれることにも注意したい。

### 3.3 無生物主語構文と因果関係

無生物名詞が主語に立ち、人為的に人のある方向、目的に向かわせる言い方がある。一種の結果達成文として提示されるもので、「人」は第三者、不特定者、話し手を問わない。

(15) nâqsũuu lêm-níi thamhây khaw tâncay ca pen mǎo

本 CL-この CAUS PRO 決心する FUT COPU 医者

この本は彼に医者になるように決心させた。

⇒ この本を読んで、彼は医者になることを決心した。

(16) khàaw wan-níi thamhây thúk-khon tòkcay.

ニュース 今日 CAUS 各人 驚く

今日のニュースは皆を驚かせた。

⇒ このニュースを聞いて、皆は驚いた。

(17) sàatsa?nāa thamhây raw khít-thúŋ khwaam-māay khǒŋ chiiwít.

宗教 CAUS PRO 思い至る 意味 の 人生

宗教は私たちに生きる意味を考えさせる。

= 宗教に依って、私たちは生きる意味を考えるようになる。

(18) kitcakam-níi thamhây khrǒpkhrua khǎw rùay.

事業この CAUS 家族 PRO 裕福な

この事業が彼の家族を裕福にした。

⇒ この事業で彼の家族は裕福になった。

(19) ?aarayatham thamhây khon khon-raw mii khwaam-sùk dâŋ cŋ rǔu?

文明 CAUS 人 人-PRO 持つ 幸福 [可] 本当 Q

文明は人を幸せにできるのだろうか。

⇒ 文明に依って人は幸せになれるのだろうか。

これらは主体を原因格として新事態をもたらすという意味関係を表す。主体は人の他に一般名詞、無生物主語や抽象名詞が来る。/kaan-/を冠した動名詞もしばしば主格に立つ。

(20) kaan-dænthaaŋ thamhây yawachon rúucàk tua-?eeŋ mâak khúm.

こと-旅行する CAUS 若者 気づく 自分自身 大変 なる

旅をすることは若者に多くのことを気づかせる。

⇒ 旅をすることによって若者は多くのことに気づくようになる。

次の例では文の主部は比較的長いことから、/thamhây/はその指示標識ともなっている。

(21) khon pen phrǒ? thátsanakhati lé? laksaná?-nisăy thii ŋāy-ŋāy sabaay-sabaay

[推] COPU から 態度 と 性格 REL 易しい 快適な

khǒŋ khon-thay tàaŋ-hàak thii pen pàtcay sāmkan thīsùt

の タイ人 異なる REL COPU 財産 重要な 最も

nay kaan thamhây kaan-plian pen chûa-châat diaw-kan praʔsòp phôn-sámret.

中 こと CAUS こと・変わる COPU 民族 同じ 出会う 成果

穏やかなタイ人の性格や態度が同化を成功させている一番の原因であろう。

(21)では/thamhây/の前に主語である「タイ人の性格や態度」が顕在していないが、「同化」を「成果」にもたらすことにおいて (/nay kaan/) 重要因子たる事実を述べている。

Wilaiwan(1982)は外国語、とくに英語の影響によって次のような言い方が現代タイ語に多く見られることを指摘している。主体を<外敵>と見なし、人間を必然的にその従属下において捉えるのである。言い方を変えれば、主体が<外敵>の被害を蒙る、あるいは勢力下におかれることを意味する。使役のあらわす<外敵>と受身のあらわす<内在的>な事態発生とは、実は表裏の関係にあることを示唆している。

(22) khwaam-klua khwaam-mûut thamhây khăw mây klâa ʔòk-càak bâan.

こと・怖い こと・暗闇 CAUS PRO NEG 敢えて 出る・から 家

暗闇の恐怖が彼を家から出させないようにさせた。

⇒ 暗闇を怖がって、彼は外へ出ていくのを恐れた。

(23) khwaam-wǎŋ thîi ca dâi pen rátthamontriî thamhây khăw

こと・望む REL FUT 得る COPU 首相 CAUS PRO

phayayaam mâak khûn.

努力する 大変 なる

首相になるという希望が彼をして大変努力するようにさせた。

⇒ 首相になりたくて彼は大変努力するようになった。

「彼」の立場としては、いずれも「余儀なくさせた」という意味で消極的な行為発動の解釈をもたらす。一方、対象となる人物が不在の場合もある。出現・発生文の一種である。

(24) phôn khòŋ kaan-sûu-róp kamlaŋ thamhây kòet khwaam-sîa-hăay

結果 の こと・闘う 力 CAUS 起こる 消失

yàŋ-yây-lūaŋ

大規模に

戦闘の結果が大規模な損失を招いた。

⇒ 戦闘の結果、大規模な損失が生じた。

<X 事態がもたらされる>という、受動的な、不可避の結果として認識される。タイ語の /phôn/ (「結果」) は実質名詞であるが、日本語の「結果」のように、あたかも接続成分のような振る舞いを呈している。

外国語の影響は本来、被害の受身の拡張にも及ぼすことになる。次例も Wilaiwan(1983)のあげた例である。/thùuk/は一般に被害が明確な場合にしか積極的に用いられない受身のマーカである。

(25) khăw thùuk sa?nèe pen phûu-theeŋ khǒŋ klum.

PRO PASS 推薦する COPU 代表 の グループ  
彼は会の代表に推薦された。(推薦されるはめになった)

(26) khăw thùuk khǒ-róŋ hây pen prathaan tòŋ-pay ?iik waará?-nùŋ

PRO PASS 懇願する CAUS COPU 会長 続く もう 一期  
彼はもう一期会長を続けるように懇願された。

(27) moradòk thùuk beeŋ ?òk pen sii sùan.

遺跡 PASS 分ける 出る COPU 4 部分  
遺跡は四つの部分に分けられる。

こうした用法は個々の主体のコントロール外のところでも起こる、意外な現象をイベントとして取り上げる意味をあらわしている。/thamhây/もまた客観的な事態の発生・結果を一体化して述べることに特徴がある。

#### 4. 接続詞的機能の成立要件

##### 4.1 /thamhây/の前が名詞句の場合

前件が大きなまとまりをもった名詞句となって、後件の結果事態を引き起こすといった因果関係をあらわすことがある。S1 のあらわす事態が S2 のあらわす事態を引き起こすという構造である。ここでは/thamhây/の基本的な使役の意味が薄められ、結果的には接続詞的な成分として機能している。まず、主格(主語)が無生物主語で多くが抽象名詞の場合である。多くが<X(主語)がY(後件)の原因だ>という意味をあらわす。

(28) ?aakàat-róŋ thamhây nùay n̄ay.

気候 暑い CAUS 疲れる 容易な  
暑さが疲れやすくする：暑さが疲れやすいことの原因だ。

(29) sèetthakit tòk-tàm thamhây khon tòk-ŋaan mâak.

経済 低下する CAUS 人 失業する 多い  
不景気が多くの人を失業させた：不景気が失業者の多いことの原因だ。

以上は主語が名詞句であったが、節のようなより大きな単位も/kaan-/によって名詞句化されて/thamhây/に導かれ、後件事態発生をもたらすことも少なくない。(28)では「仕事を変えることが」「仕事が変わると」のような条件節との交渉が見られる。

(30) kaan-plian-ŋaan thamhây kòet phâapphót nay thaŋ lóp-róŋ mâak

こと-変わる-仕事 CAUS 起こる イメージ 中 方面 マイナス 大変  
転職はマイナスイメージを強くする。  
⇒ 転職するとイメージが悪くなる。

文自体は単文であるが、意味的には複文的な情報(P-Q)を説明する構造を呈している。こ



れは英語の動名詞主格後文が条件節のように用いられる現象と類似している。

(31) Talking to her father about it might be opening a can of worms.

それについて彼女の父に話をすると面倒なことになる。

(『NHK ラジオ英会話』2017.11.23)

#### 4.2 /thamhây/ の前が文の場合

4.1 のさらに拡張された形式をみてみよう。同じように翻訳の影響も大きいと思われるが、まず日本語をベースに考えてみたい。たとえば、

(32) a. 永く同じ姿勢を続けていた

b. 腰が悪くなった

この二つの文を繋げた場合、後件は使役を<媒介>にして立ち現れる。

(33) [長く同じ姿勢を続けていた]ことが[腰を悪く]させた。

したがって、使役を文成立の<媒介>としない次の文は不自然である。

(34) [長く同じ姿勢を続けていた]ことが[?腰を悪くした/\*腰が悪くなった]。

前件事態は後件事態を誘発する条件（因果条件）となっているが、結果からみれば原因理由文とみなされる。「ので」「ことで」「ことから」を用いた接続が可能である。

(35) 長く同じ姿勢を続けていた {ので/ために/ことで/ことから}、腰が悪くなった。

再帰動詞を用いても前件と後件の関係は同様である。

(36) 長く同じ姿勢を続けていた {ので/ために/ことで/ことから}、腰を悪くした。

注意すべき点は、日本語では後件が「ナル」的な事態である点である。当該文には主語（主体）は明示されていないが、仮に「わたし」であるとすれば、その内部で生じた変化にはかならない。したがって、次の文は不自然である。

(37) ? 長く同じ姿勢を続けていたので、腰を悪くさせた。

以上は、日本語による内省であるが、タイ語の場合、/thamhây/を取り去っても文として成立するという特徴がある。

(38) phaasâa-thay yâak thamhây khon rian bûa.

タイ語            難しい CAUS    人    学ぶ    飽きる

タイ語は難しいので、習う人が飽きる。

(39) nɔɔn dùk thamhây túun sâay.

寝る 遅い CAUS 起きる 遅い

遅く寝るので朝寝坊する。

(40) ráan-níi khăay pheeŋ thamhây khon mây yàak súu

店-この 売る 高い CAUS 人 NEG [願] 買う

この店は高く売るので、客は買いたくなくなる。

(41) pŏm thaan kaafæ mâak thamhây nŏn mây lâp.

PRO 飲む 珈琲 沢山 CAUS 寝る NEG 熟睡する

私はコーヒーを沢山飲んだので眠れなかった。

/thamhây/構文はこのように原因理由文を構成することが多いが、条件文の代行として用いられることも少なくない。次例は煙草のパッケージにある表示で結果誘発の警告文となっている。

(42) sùup burii thamhây kèe léew.

吸う 煙草 CAUS 老ける PERF

煙草を吸うことは早く歳をとらせる (「TIGEReye」)

⇒ 煙草を吸うと早く歳をとる (ことになる)。

/thamhây/が人為的な後件事態を誘発するのに対して、/hây/は自然とある状態へと移行せしめる点が特徴である。

(43) khwan burii khâa khun hây taay dâ

煙 煙草 殺す PRO CAUS 死ぬ [可]

煙草の煙はあなたを死に至らしめる。(「Marlboro」)

次は前件、すなわち前提事項が相応に長い文の場合で、「Xことから」という、水論的二後件事態を誘発する意味関係になっている。ただし、接続関係を意図するために/thamhây/の前にやや短いポーズが置かれるのが普通である。

(44) phonlamuan thay sùn-yà

人口 タイ 大部分 凡そ 百 当たり 80 まだ 生計を立てる

thaan kasèttakam yùu thamhây prathêet-thay dâw chúu wâ pen

方面 農業 いる CAUS 国 得る 名前 COMP COPU

prathêet kasèttakam.

国家 農業

タイの人口の大部分が、約 80%がいまだに農業で生計を立てていることから、タイは農業国と言われている。

(⇒ ～ことがタイに農業国という名前をつけさせた)

(44)の例では日本語では「ことから」という接続語であらわすと座りがよくなる。さらに

次の例をみてみよう。さらに前件が長い情報を内包する場合である。

- (45) nay samăy-níi mii roongaan ʔutsaahakam baaj hɛ̄ŋ tɔ̄ŋ yùu  
 中 現代 ある 工場 産業 幾つか CL 建つ いる  
 rim mɛ̄ɛ-náam léew plɔ̄y khǒŋ sǐa loŋ mɛ̄ɛ-náam  
 縁 河 PERF 放つ 物 腐った 落ちる 川  
 thamhây kə̄t panháa rúaŋ naám sǐa léʔ mii kiln mɛ̄n  
 CAUS 生じる 問題 件 水 汚染する そして ある 匂い 臭い  
 rópkuan khon thii yùu klây mɛ̄ɛ-náam dūay.  
 困らせる 人 REL いる 近い 川 もまた

近年、川縁に工場がいくつかでき、川のなかに汚物を投棄するようになってきた。  
その結果、水質汚染の問題が発生し、悪臭を放ち、川の近くに住民たちを困らせて  
 ている。

こうした長い文が前件にたつ場合は、一旦、前件の文で切った方が分かりやすい。「生じさせ」「困らせた」という使役の意味を維持しつつ結果に重点をおいた表現になっていることでは前例と共通している。日本語では「その結果」という接続語であらわされていることに注意したい。

このように無生物主語のほか、原因理由をあらわす要因、情報の提示がおこなわれ、その結果を後続に導くのに/thamhây/が用いられる。/thamhây/に後接する動詞/kə̄t/はなかでも代表的な発生動詞である。主格「ことが」は「によって」という対格を共起させ、結果的に「もたらす」「生じさせる」などの動詞述語には「発生する」という自動詞述語が用いられる。

- (46) khon tók-ŋaan kan mâak thamhây kə̄t panháa rúaŋ khaʔmooy-chúkchum.  
 人 失業する 互いに 沢山 CAUS 生じる 問題 件 窃盗する  
 失業者が増大したことが多くの窃盗問題を生じさせた。  
 ⇒ 失業者が増大したために多くの窃盗問題が発生した。

以下も同様に使役が因果関係と一体的な関係をあらわしている。(37)にも見られる動詞/kə̄t/は「出来」「惹起」の最も具体的な現象を表す。(38)のように日本語では「せいで」「ために」のように外的圧力をあらわす現象に対応するケースもある。

- (47) sǎay-fay kôw kàw mâak ʔaat-ca thamhây kə̄t faymây dâŋ ná khráp  
 電線 も 古い 大変 [推] CAUS 起こる 火事 [可] {終} MPP  
 電線も大変古いので、火事の原因になるかもしれません。  
 (48) sèetthakit mâŋ dii thamhây kaan-sòŋ-ʔòok lót loŋ  
 経済 NEG いい CAUS こと-輸出あうる 負ける なる  
 不景気のせいで、輸出が減ってしまった。

(49) khrûaŋcàk sĭa lăay-tua thamhây phalít sĭnkhăa mây than.  
 機械 壊れる 幾-CL CAUS 生産する 製品 NEG 間に合う  
 機械が何台も壊れたので、製品の生産が間に合わなくなった。

(50) khâaw-thay raakhaa sũuŋ kəən-pay thamhây kəət panhăa rûaŋ  
 タイ米 価格 高騰する 過ぎる CAUS 生じる 問題 件  
 kaan sòŋ khâaw ʔòk-pay khăay tàaŋ-prathêet.  
 こと 送る 米 出る-行く 売る 外国  
 タイ米価格の高騰で輸出米の問題が生じた。  
 (⇒ タイ米の価格高騰が輸出米の問題を生じさせた)

次の(51)は/tòk/には自動詞しかないために、/thamhây/を用いて他動詞として機能しているものの、結果は「勝ちになる」のような結果将来の意味を表している。

(51) thăa pàk-paw săamâat thamhây culaa tòk dăy  
 もし パクパオ 加納だ CAUS チュラー 落ちる [可]  
 kô náp-wăa pàk-paw chaʔná, thăa culaa săamâat thamhây pàk-paw tòk  
 も と見なす パクパオ 勝つ もし チュラー 加納だ CAUS パクパオ 落ちる  
 dăy kô náp-wăa culaa chaʔná.  
 [可] も と見なす チュラー 勝つ  
 パクパオ風がチュラー風を落とすとパクパオ風の勝ちで、チュラー風がチュラー風を落とすとチュラー風の勝ち（ニナル）と見なされる。

次の(52)は/thamhây/を介して、前件内容が恩恵「テクレル」をもたらす意味関係をあらわしていることにも注意したい。

(52) kaan-sũksăa thamhây khon mây ʔoo, khǒo-hây kəət panyaa  
 教育 CAUS 人 NEG 馬鹿な 懇願する 生じる 教養  
 rúucàk wíʔthii thii ca tham-maa-hăa-kin léʔ raksăa rāaŋkaay hây  
 知る 方法 REL FUT 生計を立てる CONJ 守る 体 CAUS  
 khěŋreŋ praatsacàak rôok-phay-khây-cèp.  
 丈夫な なしに 病気  
 教育は人を無知にさせておかず、お金をどうやって得るか、また教養を身に付ける方法、病気にならずに丈夫な体を維持する方法を教えてくれる。

(53) càk kaan-sămrèt thamhây sâap sâahèet khǒŋ phonphít  
 から こと調査する CAUS 知る 原因 の 公害  
 調査 {で/から} 公害の原因が明らかになった。  
 ⇒ 調査が郊外の原因を知らしめた。

次の(54)では、後件事態の発生要因が前置詞/càk/であらわされている。さらにいくつかの

事象変化をあらわす用例を見てみよう。

(54) kin ʔaysakariim mâak-maay yàaŋ-nán ca thamhây thóŋ sǎa ròok.

食べる アイスクリーム 沢山 そんなに FUT CAUS お腹 壊す [終]

そんなにアイスクリームを沢山食べるとお腹を壊しますよ。

(55) yaa sum khâw pay nay baat-phlǎe thamhây pùat sèep.

葉 沁みる 入る 行く 中 傷 CAUS 痛い ヒリヒリする

葉が傷口に沁みて痛い。

(56) thâa-hàak khun khœy-chin kàp kaan khàp rót léʔ

もし PRO 慣れる と こと 運転する 車 CONJ

ramát-rawaŋ nòoy lon ca thamhây kàet ʔubàttihèet dâw nǎay.

注意する 少ない 減る FUT CAUS 起こる 事故 [可] 容易な

もしあなたが運転に慣れて注意力が少なくなると事故を起こしやすくなる。

(56)の「あなた」は不特定対象を示す。前節(従属節)は日本語では結果を導く「て」(55)、また条件節「と」(54),(56)などと対応するケースが観察される。前件がこのように動詞句のまま従属節を代行するといったケースが観察される一方、(52)でも見たように動詞や形容詞を名詞化する接辞/kaan-/や/khwaam-/などによって、文を無生物主語化して後件事態の発動要件とするケースも少なくない。行為や状態をいわば既成の事実として、それらが引き起こす結果との因果関係をコンパクトに説明している点もタイ語の使役の特徴である。

### 4.3 /thamhây/の語用論的機能

/thamhây/が文頭に来て、話し手の文意を受けながらあたかも呼応するように自己の主張を述べる言い方が会話にしばしば観察される。一種の語用論的機能といえよう。

(57) kreeŋcay caŋ thamhây khun tǔŋ lambàak yùu rúay lœy.

遠慮する 非常に CAUS PRO [義] 困る いる ずっと [終]

いいんですか、いつも悪いですね。

(57)は一種の倒置文で、直訳では「いつも迷惑をかけていることに遠慮する」といった意味だが、/thamhây/の前には言外の状況が含意されている。日本語では「それで」という接続詞が用いられる。

(58) A: dooŋ lóo thiiray phǔm kliat chúu phǔm thúk-thii

PASS 揶揄う いつも PRO 嫌う 名前 PRO いつも

揶揄されると何時も自分の名前がいやになりました。

B: thamhây khun mây yàak phúut phaasǎa-ciin chây-mǎy?

CAUS PRO NEG [願] 話す 中国語 Q

それが／それで中国語を話したくなかった(原因だった)のでしょうか。

(57)の/thamhây/は英語の文頭にあらわれる”that”のような振る舞いに酷似している。つまり前件そのものを原因理由と見なす用法である。

(59) A: Do you think I should talk to Dad about this?

パパにこの話をすべきだと思う？

B: that might be opening a can of worms.

そうすると面倒なことになるかもしれないよ。(『NHK ラジオ英会話』2017.8.2)

このように、聞き手の/thamhây/は話し手の述べた文全体を受けて、話し手の言いたい心情を積極的に代弁しているような会話構成になっている。/thamhây/の機能的な性格をよくあらわしているといえよう。

## 5. 実例による検証

これまで/thamhây/の用法について諸例をあげながら本質的な特徴を議論してきたが、なお不十分な点を補うために若干の実例を観察してみることにしたい。本節ではタイ語文(小説)と日本語訳を用いて対照を試みる<sup>2)</sup>。

(60) thǔŋ thəe ca pen dèk thəe kǎo rúu dii wāa cāw-naay phiay sǎŋ-sǎm khon

でも PRO FUT COPU 子供 PRO も 知る よく COMP 役人 だけ 2-3 CL

kǎo ?àat ca thamhây mùu-baan koolaahǎn dāy léew

も [推] FUT CAUS 村 大騒ぎする {可} PERF

たった二、三人の偉い役人が来たただけでも村中がひっくり返るほどになるということ  
を子供ながらにも知っていたのだが、…(邦訳「いつもとは違った日」)

(60)は「偉い役人が来たただけで村中を大騒ぎにさせる」状況を、日本語ではむしろ結果招来に重点をおいた表現になっている。(61)では英語の関係代名詞の継続用法に準ずる/sǔŋ/を/thamhây/に前置することで、前件事態「彼らを見るコト」が後件事態(「面白く思う」心理状態)を引き起こす一連の情景的プロセスを述べている。

(61) thəeŋmúan dāy hǎn khǎw lén kan phíreen-phíreen sǔŋ thamhây

人名 PST 見る PRO 遊ぶ 合う 風変わりな COMP CAUS

thəe rúusùk thǔŋ

PRO 感じる 面白い

トーンムアンは、こんな風変わりな遊びにうち興じている彼らを見て、面白いと思った。(同上)

(62) thəeŋmúan mák chǎp pay duu tǎn thǐ khǎw ramwǎŋ

人名 がちだ 好む 行く 見る 時 REL PRO ラムウォン踊りをする

phrǎ? man thamhây thəe phǎo-cay kǎp khwaam-rúusùk thamnǎŋ thǐ wā

何故なら それ CAUS PRO 満足する に こと-感じる 曲調 REL COMP

phûak-khăw mây dây yùu hàan klay thəə con kəən-pay nák

達-PRO NEG PST いる 離れる 遠い PRO まで 過ぎる [終]

トーンムアンは、彼らがそれをやっていると喜んで見に行った。というのは、それを見ていると、彼らが彼女とそんなにかけ離れていないような気がして満足するからだった。(同上)

(62)では「見ている」という前件の行為が「満足すると感じる」心理状態を引き起こすプロセスを述べているが、/thamhây/の前に前件内容を受ける指示代名詞/man/「それ」が置かれていることに注意したい。(63)も同様の例である。

(63) thəəŋmúan mák chəəp pay nāŋ lēn thūi saalaa-pra?chaachon

人名 がちだ 好む 行く 座る 遊ぶ で 公民館-人民

man thamhây thəə rúsuuk ?əp-ùn khūm weelaa núk-thūŋ phûak-lăw nán...

それ CAUS PRO 感じる 暖かい なる 時 思い出す 連中 あの

…トーンムアンはいつもこの「公民館」に腰を下ろしに来た。ここに座ってあの連中のことを思い出すと懐かしさが込み上げ、…(「いつもとは違った日」)

(64) thəəŋmúan ?əep pay duu phûak-khăw nòy-nūŋ léew-kô kláp bán

トーンムアン こっそり 行く 見る 達-PRP 少し CONJ 帰る 家

ŋaan khuuun-nán yīŋ thamhây duu-mǎn wāa phûak-khăw ca yùu

式 夜-その もっと CAUS らしい COMP 達-PRO FUT いる

hàan ?əək-pay ?iik.

離れる 出る行く あと

トーンムアンはこっそり彼らを少しばかり覗きに行ったらあと帰宅した。その夜のことと彼らをもっと遠く離れている気がした。(同上)

(65)では/thamhây/の作用を「さそい」「誘発」という視点でとらえることが可能だろう。また、結果は議論して来たような程度をともなっている点にも注意したい。

(65) kaan fāw-khəəy man dūay weelaa náp chūamoŋ-chūamoŋ

こと 見守る それ で 時間 数える 何時間も

thamhây chān khít fān pay dây klay mây mii thūi sīn-sùt

CAUS PRP 考える 夢見る 行く [可] 遠い NEG 場所 彼方

馬の様子をじっと見守っていると、時間のことなどすっかり忘れてしまうほどだった。はるかかなたの夢の世界へ誘われてしまうのだ。(邦訳「帰らぬ日」)

(66)は(62)でも見たように「私が (家族を) 思い出させる」を「私を見るとき (家族を) 思い出させる」のように具体的な行為が背景にあることにも注意しなければならない。また(67)でも文の前段にさまざまな(日本兵の)行為が示唆されている。

(66) baaj-khon ?aw rûup luuk mia maa hây raw duu

ある人 持つ 写真 子供 妻 来る CAUS PRO 見る

lé? baaj-khon bòok wâa chǎn thamhây khǎw khít-thǔng lúuk máak

と ある人 言う COMP PRO CAUS PRO 思い出す 子供 大変

妻子の写真をもってきて見せてくれる人もいれば、また、私を見ると自分の子供を思い出すという人もいた。(邦訳「帰らぬ日」)

(67) tɛə phûak yîpùn kôo thamhây tùuntên dâi máak

CONJ 達 日本 も CAUS 興奮する [可] 大変

raw khuy kan dâi phaasǎa-bây pen-sǎan-yà

PRO 喋る 互いに で 言語-駕 たいてい

しかし、日本兵は私たちが大いに興奮させた。たいていの場合、私達との会話は、身振り手振りに頼るものだった。(邦訳「帰らぬ日」)

次に日本語からタイ語に訳された例をみてみよう。ちなみに『五体不満足』のタイ語訳全文を精査した結果、合計 150 余例の/thamhây/の用例を抽出した。時間の制約からそれぞれの分類は未着手であるが、文接続の形態として比較的大きな比重を占めていることが了解される。その中の数例をあげてみよう。

(68) ……が、ミルクを飲む量はいっこうに変わらない。ここまで来ると諦めの境地か、両親も考え方を改めた。(『五体不満足』 p.13)

…tɛə phôm kôo yaŋ khoŋ kin nom nɔɔy mǎan-dæm thamhây

CONJ PRO も まだ [推] 食べる ミルク 少し 相変わらず CAUS

phôo káp mɛə tɔŋ plian khwaam-khít mǎy dooy khít wâa…

父 と 母 [義] 変える 考え方 新しい で 考える COMP

(69) 人よりも短い手足と車椅子のおかげで、友達の数では誰にも負けなかった。(p.16)

dâi hɛət thîi phôm mii khǎen-khǎa sân kwàa dèk khon-ùum lé? mii káwyîi-lɔ

で 理由 REL PRO ある 手脚 短いより 子 他人 と ある 車椅子

thamhây mii camnuan phúan fūun mây nɔɔy-nâ khray læy

CAUS ある 数 友達 親しい NEG ひけをとる 誰 全く

(68)では「ここまで来ると」が/thamhây/で表されている。(69)では「おかげで」という原因理由表現と共に起している点もこれまで見て来た諸例を裏づけている。

/thamhây/の現れ方の特徴のひとつとして、〈端緒、きっかけ、契機〉に導かれるという事態があげられる。以下の例では/thamhây/は結果の招来を意味する。

(70) cǎak bòtkhwaam nùŋ nay nǎnsǔu-phim thamhây núk-thǔŋ

から 記事 ある 中 新聞 CAUS 想起する



hèetkaan nùm mûa yîi-sip-pii kòon

出来事 ある とき 20年 前

ある新聞記事をきっかけにして、20年前のある出来事を思い出した。

(71) rôm càak kaan thûi dâi pen phûan kâp khon-yîpùn khon-nùm

始める から こと REL 得る COPU 友達 と 日本人 一人

thamhây khít rûaŋ rian tòo thûi yîpùn

CAUS 思う 話 勉強する 続ける で 日本

ある日本人と友達になったことがきっかけで、日本留学を考えるようになった。

(72) càak kaan-puay lé? khâw rooŋ-phayaabaan nay khráŋ-níi

から 疲労 と 入る 病院 中 今回

thamhây tâŋcay wâa càak-níi-pay ca pay trúat sùkkha?phâap

CAUS 決心する COMP 今後以降 FUT 行く 調べる 健康

pracam-pii yàaŋ-sa?măm-sa?măe

例年 定期的に

今度の病気、入院を契機として、今後は定期検診をきちんと受けようと思った。

なお、/thamhây/はしばしば表示にも用いられる。次は某コピー機に書かれた注意書きである。参考までにタイ語のほか、英語、中国語も示す（韓国語もあるが省略）。タイ語では目を傷つけることになる、のように結果招来を表している。中国語では〈以免〉を用いて「～ないように」という回避の目的表現となっていることにも注意したい。

(73) Do not stare at light. It may cause discomfort or irritation to eyes

警告 ランプの光をみつめないでください。

目の疲れや痛みの原因となる恐れがあります。

請勿直視曝光灯光源，以免造成眼睛疲劳及傷害眼睛。

khôo khuan rá?wan hâam còŋ-mooŋ sɛŋfay

項 べきだ 注意する 禁ずる 見つめる 光線

phrɔ? àat thamhây pùat rûu rá?khaay dwaŋduaŋ taa.

から [推] CAUS 痛い か 傷つける 瞳 目

直訳：光線を見つめないでください。（光線を見つめると）目を傷めたり傷つけたりするかもしれないから。

以上、紙面の関係から数例を観察するにとどまったが、/thamhây/には比較的長い前件事態を指示するような機能が見られ、結果を招来するプロセスを描写、ないし説明していることがわかった。その際しばしば関係代名詞の/sûŋ/や、指示代名詞/man/などを/thamhây/に前置して比較的緊密な関係を構成している特徴も観察された。なお、さらに多くの事例を観察しつつ、こうした/thamhây/の出現環境を明らかにしていく必要がある。

## 6. 接続語/ləəy/, /con/との「互換性」について

以上、助動詞/thamhây/が何らかの因果関係をあらわす事態を述べてきたが。一般的な因果関係の構文とどのような性格的な相違が見られるのだろうか。また、双方に互換性は見られるのだろうか。たとえば次例をサンプルに考えてみよう。

- (74) khâaw-thay mii kiln thamhây khon-yîpùn mây chōp  
 タイ米 ある 匂い CAUS 日本人 NEG 好む  
 タイ米は匂いがあるので日本人は好きではない。

この文を/thamhây/を用いることなく、文接続成分である、/(kô-)ləəy, (kô-)cuŋ /に置き換えた場合、文に意味的な変化はあらわれるのだろうか。

- (75) khâaw-thay mii kiln khon-yîpùn (kô-)ləəy mây chōp  
 タイ米 ある 匂い 日本人 (CONJ) NEG 好む  
 タイ米は匂いがある。それで日本人は好きではない。

(75)では二文構成になり、前件と後件のあいだに一定のポーズが置かれるのが普通である。(74)の内包する強制的、かつ必然的な生起とくらべて(75)はゆるやかな、むしろ偶然的、一般的な帰結をもたらすと考えられる。つまり/(kô-)ləəy/を用いた文では結果に重点が置かれ、自然な、かつ一般的な帰結という意味をなすのに対して、/thamhây/を用いた文では拘束力、影響力が強く、必然的な誘発の意味が強化される傾向が見られる。同時に、対象となる「日本人」は一部のグループというように限定化される向きがある。

さらに次の例をみてみよう。

- (76) mûa-khuun-nîi nōn dùk læy tùun-sāay pay nōy.  
 昨夜 寝る 遅い CONJ 寝坊する てしまう 少し  
 昨晚遅く寝て、少し寝坊してしまった。

/ləəy/を/thamhây/に変えても文の意味は変わらないが、(77)では「昨晚遅く寝たこと」に重点がおかれる。後件はやむなく引き起こされた事態との主張が強く打ち出される。

- (77) mûa-khuun-nîi nōn dùk thamhây tùun-sāay pay nōy.  
 昨晚 寝る 遅い CAUS 寝坊する てしまう 少し  
 昨晚遅く寝たものだから、少し寝坊してしまった。

つまり、結果から見れば、(77)のほうが「遅く寝たせいで」「遅く寝たもので」のような責任回避、つまり主体の自己責任というよりは外的要因に起因するという抗弁の心情があらわされる。これは結果認識をめぐる問題としても興味深い事実である。

/thamhây/のもつ使役性が因果関係と関係がある一方で、接続詞のように用いられる前置詞/con/の程度、到達が因果関係をあらわすケースがある。そもそも/con/は程度をあらわし、

「ほど」「くらい」の意味を、到達の場合は「まで」に相当する。

(78) klua sĭa con khaw san.

怖がる てしまう まで 膝 震える

恐ろしくて膝がふるえた。(=膝がふるえるほど恐ろしかった)

(79) lom phát con kin-máay cuan-ca hək yùu léew

風 吹くまで 木枝 そうだ 折れる いる PERF

風が吹いて木の枝が折れそうだと。 (=木の枝が折れそうなくらい風が吹いた)

(80) khun-ueda thamṅaan nək kəən-pay con rāṅkaay sùt-soom loṅ

上田さん 働く 重い 過ぎる まで 身体 衰える なる

上田さんは働きすぎて身体をこわしてしまった。

(⇒ 身体をこわすまで上田さんは働きすぎた)

(81) weelaa fōn tòk bon phuu-khāw sūṅsūṅ námfōn ca lāy sá? hĭn-dĭn

時 雨 降る 上 山 高い 雨水 FUT 流れる 侵蝕する 岩土

bon phuu-khāw con kəət pen ruan nám lék-lék.

上 山 まで 起こる COPU 溝 水 小さな

高い山に雨が降ると雨水は流れて山の岩土を侵蝕し、小さな水路ができる。

(⇒ 山の岩土を侵蝕し小さな水路ができるまで雨水が流れる)

(80),(81)の例では日本語では「くらい」よりもむしろ「まで」に訳した方が自然である。上記の諸例の「程度、到達を表す文は同時に因果関係をあらわしているが、見方を変えれば使役の意味関係をも表している。つまり、日本語では以下のように言いかえても情報伝達の内容には変化は見られない。使役と因果関係の交渉は明らかであろう。

(78)' 恐怖が膝をふるえさせた。

恐怖 $\square$ 膝がふるえた。

(79)' 風が吹いたことが木の枝が折れそうな状態にした。

風が吹い $\square$ 木の枝が折れそうな状態になった。

(80)' 上田さんが働きすぎたことが(彼女の)身体を壊してしまった。

上田さんは働きすぎ $\square$ 身体を壊してしまった。

(81)' 高い山に雨がふると雨水は流れて山の岩土を侵蝕し小さな水路をつくる。

高い山に雨が降ると雨水が流れ $\square$ 山の岩土が浸食され小さな水路がつくられる。

つまり、ここからタイ語はスル的な言語、日本語はナル的な言語という対称性が観察される。以上、タイ語との対照によって、日本語の因果関係、受動表現、「テシマウ」表現といった結果指向の特徴があらためて浮き彫りにされた。

## 7. まとめにかえて

対照研究の試みは母語の内省がきっかけになることが少なくない。本研究も日本語の次のような自動詞的表現と他動詞的表現の対立関係についての関心がきっかけとなっている。受動的表現、能動的表現の対立といってもよい。

(82) a. 少年の顔写真が公開されたことが物議をかもしている。

b. 少年の顔写真が公開されたことで物議をかもされている。

(82a)は能動的な起因本位の文、(82b)は受動的な結果本位の文と言えよう。つまり前件が後件を誘発、誘導する方向性には二種類があって、前件、後件のいずれかに重点を置くことで話し手の意図が差別されるといえよう<sup>4)</sup>。

前件	例	後件	文構造
主格節	「ことが」	使役、他動詞的表現	単文構造
副詞節	「ことで」	自動詞的表現	複文構造

本章では従来、使役助動詞/thamhây/の基本的な用法を確認するとともに、その派生的機能としての接続機能について記述を試みた。同時に、単文と複文の境界を再考するきっかけともなった。使役というカテゴリーが前件の主意的な働きかけを有し、結果事態を發揮させるところから、新しい事態の動機づけ、接続的な成分として転成する現象が説明可能となるように思われる。

使役という行為概念には受身、授受といった行為現象とも隣接し、構文的意味構造はヴォイスの体系のなかで有機的に位置づける必要がある。それにはネットワークという視点が常にもとめられる。日本語学の研究からタイ語の使役文研究の深化を期待したい。

/thamhây/は一種の処置文、変化後文としても機能し、無生物主語、文主部を前件主体としながら、結果事態を強制的にとりあげる働きがある。また、会話でも報道文でも広く用いられることを観察した。使役と因果関係、さらに程度と到達という現象に注目したが、これからも/thamhây/の多様な現象については今後も検証を続けていきたい。

## 注

- 1) こうした議論、認識の発端は國分(2017)から得たところが大きい。國分は受身表現にみられる〈シ手〉と〈サレ手〉の二分法による説明の限界について〈中動態〉という概念を抽出し重要な示唆をおこなっている。使役態の議論においても意志と責任の所在をめぐって「可視化」する必要がある。
- 2) 日本語の「ことで」と「ことから」については田中(2004a)で比較的詳しく論じている。タイ語の/thamhây/の日本語訳にはしばしば「ことで」「ことから」といった原因理由の「抽出」の意味が投影される点にも注目したい。

3) 取り上げた小説は次の作品。

原本 เหมือนอย่างไม่เคย “อันจึงมาหาความหมาย”

วิทยากร เชียงกูล สำนักพิมพ์เม็ดทราย จัดพิมพ์ พ.ศ.๒๕๒๑

日本語訳 「いつもとは違った日」

ウィッタヤコン・チエンクーン『だから私は意味をもとめる』所収  
岩城雄次郎訳編『現代タイ国短篇小説集上巻』、井村文化事業社 1982.10

原本 “เรื่องสั้นชุด สนวนสัตว์” สุวรรณี สุคนธา สำนักพิมพ์ศิลปาบรรณาคาร จัดพิมพ์ พ.ศ. ๒๕๕๕

日本語訳 「帰らぬあの日」

スワンニー・スコンター、吉岡峯子訳『サーラピーの咲く季節』（段々社 1987）

原本 乙武洋匡『五体不満足』講談社文庫 2001

タイ語訳 “ไม่ครบห้า” แปล : พรอนงค์ นิยมค้า สำนักพิมพ์ ส.ส.ท. เยาวชน 2001

4) ここで他動詞の表現、自動詞の表現というのは、事態発生のありかたを規定し、前者を外発的起因、後者を内発的起因、のように意義づけることができる。

〈外発的起因〉

〈内発的起因〉

- ・ 山登りに行ったことをきっかけに ⇔ 山登りに行ったことがきっかけで、
- ・ 金がないのを理由に ⇔ 金がない（ことが）理由で、

参考文献

國分功一郎 (2017) 『中動態の世界 意志と責任の考古学』医学書院

センウォンパイサーン・ルンナパー(2009)「日タイ両言語における使役構文の対照研究—タイ語の thamhây をめぐって—」、大東文化大学外国語学部日本語学科 2008 年度卒業論文

田中寛 (2003) 『現代タイ語文要説』私家版

田中寛 (2004a) 『日本語複文表現の研究 接続と叙述の構造』、白帝社

田中寛 (2004b) 『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』、ひつじ書房

早津恵美子 (2016) 『現代日本語の使役文』ひつじ書房

Wilaywan(1982) iitthiphon phaasaa taangpratheet nay phaasaa-thay

「タイ語に見られる外国語の影響」 ”kaan-chay phaasaa” Seminar on Current Practice in Using the Thai Language Problem and Issues

Khanakammakaan saphaawicay neang-chaat saakhaa pratchayaa

『タイ国学士院国語辞典』(1988)、タイ・バンコク

A Dictionary of Basic Japanese Grammar The Japan Times 1986

Seiichi Makino Michio Tsui

พจนานุกรมไวยากรณ์ภาษาญี่ปุ่นเบื้องต้น ผู้แปล ประภา แสงทองสุข วันชัย สีสพัทธ์กุล

พิมพ์ที่ บริษัท อเนกการพิมพ์ จำกัด พ.ศ.๒๕๔๒



## 第 IV 部

### タイ語の複文と談話構造の諸問題

ถอยหลังเข้าคลอง

thoay lăng khâw khloong

後ろに下がって運河に入る  
(元の状態に戻る : 元の木阿弥)



#### 第IV部 タイ語の複文と談話構造の諸問題〈第1章〉

### タイ語の条件表現をめぐって ——条件節、時間節とその周辺——

【キーワード】条件表現 確定条件 仮定条件 表現意図 意合法

#### 1. はじめに

タイ語は孤立語に属し、膠着語である日本語とは形態的、統語的にも大きく異なる特徴を兼ね備えている。すなわち名詞の性、数といった区別もなく、格による変化も動詞のテンス、人称による語形変化というものも存在しない。文成立にあたっては語順が重要な役割を果たしている。文法的には中国語からの影響も多々見られる。

タイ語の文法的特徴は主だったものは次の通りである<sup>1)</sup>。

- (1) 基本語順は〈SVOC〉主語・動詞・目的語・補語成分。(私/食べる/肉/いつも)、〈被修飾語/修飾語〉(家/大きい)を原則とし、疑問文でも語順は変わらない。
- (2) 否定詞は原則として否定される語(動詞、助動詞、形容詞)の前に置かれる。
- (3) 名詞の格変化はなく動詞には文法範疇としてのテンスがなく文脈や場面、時間副詞などによって時制も決定され、現在、過去、恒常の時制も表す。したがってタイ語母語話者の日本語では「私は昨日、映画を見に行く」のような誤用がしばしば起こる。
- (4) 助動詞相当表現が発達している。基本的には「だろう/行く」のように助動詞が動詞に先行する。
- (5) 形容詞と副詞は同形で修飾詞と総称される。動詞が同形で名詞として用いられることがある。すなわち、品詞は文中の位置によって決定される。
- (6) 日本語と同じように状況、場面に応じて主語が省略されたり、本来目的語であったものが情報の優先度によって前方移動し、主題化、焦点化されることが少なくない。

このほか、指示詞の3項対立、また女性男性文末丁寧辞、また類別詞の言語文化的発達など、すでに多くの研究でも指摘されている<sup>2)</sup>。

タイ語の条件表現については、日本語と同じように複文のなかでも比較的大きく取り上げられ、たとえば伝統文法(日本語の学校文法に相当)にもとづく、Phrayaa(1971:262-269)をはじめ、Banchop(1977:218-219)や、日本では三上(2002:238-240)などに見られるように、文の分類という観点からの概括的な記述が主流であったが、英語をはじめ外国語の研究が進む中、近年ではPhacharin(1994)、Tatvalai(2001)などの語用論的研究もみられるようになった。とくにTatvalaiはオースティンやサールの談話行動、言語行為論などに依拠して、

妥協や修正、防御といった17形式、23種類もの分類を行っている。

一方、日本語との対照研究では田中(2004)、中川サワリ(2005 など)による日本語の主要形式との対応関係をさぐる考察、またタイ人日本語学習者による条件表現の習得に関してはスニーラット(1999)などの成果が見られるものの、タイ語の条件表現の機能的本質を解明するまでにはいたっていない。

本章では日本語との対照研究の立場からに、タイ語の条件表現の態様を概観するとともに、こうした研究が日本語をはじめ他言語の条件表現の研究にどのような有効な視点をもたらすのか、にも関心を置きつつ進めることとしたい。すなわち、

- (1) 条件節と時間節による表現の相違を検討しながら、日本語の主要な条件表現との対応関係を考察する。
- (2) 条件節と目的節、原因理由節、名詞節との相関、意味関係を比較検証する。
- (3) 関連語、連結句などの複文マーカータを持たない条件表現の諸相について考察する。

などの作業を通じて、日本語とタイ語の条件表現に見られる共通性、個別性について明らかにしたい。タイ人日本語学習者にとって、日本語の条件表現の形式が多岐にわたることから、それらの使い分けが日本語の習得上、しばしば困難なものにしている。反対に日本人タイ語学習者にとっても対応の位置づけが困難なことが予想される。こうした問題を背景におきながら、上記の検討課題に取り組むことにしたい。

## 2. /thâa/条件節の用法

タイ語の条件表現の主要形式は/thâa/が従属節の文頭にたち、仮定・未然条件をあらわすケースである。/thâa/条件節は多くが「前置」型であるが、しばしば「後置」型もみられる。「後置」型は後述の時間節、原因理由節にも見られる現象であるが、一般に主節の文が短い場合や、情報の優先性などによって生じる傾向がある。/thâa/のあらわれる位置、付加的な成分によって、いくつかのタイプに分類される。以下、それらの形式を瞥見する。

### 2.1 /thâa.../

前文に/thâa/が単独であらわれると、一般的な確定条件をあらわす。/thâa/は英語の if、中国語の“如果”、“要是”などに該当する<sup>2)</sup>。

- (1) thâa mooj maa càak bon-tùk khon duu raw-kàp mót.

.. 見る 来る から 上-ビル 人 見える ような-と 蟻  
ビルの上から見ると人がまるで蟻のようだ。

- (2) thâa chãn maa mây than taam nát, thæ klàp kòon kòo-dây.

.. PRO 来る NEG 間に合う 従う 約束 PRO 帰る 先にも-[可]  
私が約束通りに間に合なかつたら、先に帰ってもいい。

後文主文にはしばしば/tòj/「にちがいない」、/nâa-ca/「はずだ」、/khøj/「だろう」とい

った認識や推量のモダリティをあらわす助動詞があらわれやすい。

(3) *thâa khàat sòp tǒŋ tham raayŋaan sòŋ.*

-- 欠席する 試験 [義] 作る レポート 送る

試験を欠席すればレポートを出さなければならない。

(4) *thâa rôt-tit khoŋ tǒŋ cháŋ weelaa yàaŋnóoy 1-chûamooy.*

-- 車混む [推] [義] 使う 時間 少なくとも 1-時間

車が渋滞したら一時間はかかるにちがいないだろう。

/thâa/節は文脈的な意味や場面、話し手の確信度によって意味用法が特徴づけられるが、前件にあらわれる動詞の認め方には緩やかな幅が見られる。

(5) *thâa khun pay yǐpùn karunaa súu klǒŋthàayrûup maa dūay.*

-- PRO 行く 日本 ください 買う カメラ 来る 一緒に

日本へ {行ったら/行くなら} カメラを買ってきてください。

(5)では「日本へ行ったら」は「日本へ行った時には」のように事態の実現がほぼ確定した言い方であるのに対し、「日本へ行くなら」は「日本へ行く時には」「日本へ行く予定であれば」のように未然の事態を選択的条件として確認する意味で用いられる。すなわち「日本へ行く」が新規の話題の情報静が賦与されており、かつ未来意志の設定をあらわす場合には日本語のタラ形式、話し手・聞き手ともに旧情報に属する確認的な意味が専攻する場合は、日本語のナラ形式に相当する<sup>3)</sup>。(6)も同様に、眼前の状態を観察したのち、これを前提とした事態に見立てて述べる場合は日本語のナラ形式に移行する。

(6) *thâa phlia mây-sabaay thammay mây yùtphák sǐa bāaŋ lāw?*

-- 疲れる NEG-元気 なぜ NEG 休む てしまう 多少 強調

疲れて {弱っているのなら/弱っていたら} なぜ休みを取らないのですか。

このように/thâa/節は一般に日本語のタラ形式にもナラの形式にも相当すると規定づけられる。日本語の内省的な分析にもとづくタラとナラの使い分けが、タイ語では場面や状況によって柔軟に判断されることを意味している。

## 2.2 /thâa..., ca.../

主文の時制辞/ca/は未来における事態実現の可能性、および主体の意志をあらわす。英語の will に相当する。(7)は話用論的には助言をあらわす。いずれも話し手の事態認識、聞き手に対する伝達意志は高い傾向がある。

(7) *thâa súu tua-pracam ca khûn rǒtfay dāy nay raakhaa thùuk.*

-- 買う 券-常用の FUT 乗る 電車 [可] 中 価格 安い

定期券を買うと電車に安く乗ることが出来る。

(8) *thâa thùuk lóttærii ca ?aw ɲən pay tham aray?*

.. 当たる 宝くじ FUT 取る お金 行く する 何  
宝くじに当たったら、何に使用いますか。

2.1 が確定条件に相当するのに対し、2.2 は主文に未来（可能性を含む）にかかわる行為事態が述べられる点で未確定条件をあらわすが、ト形式にもタラ形式にも相当する。

2.3 /*thâa*…、*kôo* (*ca*)…/

/*thâa*/を用いた条件文のもっとも一般的な用法で、二つの文の意味関係はより密接、かつ必然的である。/*kôo*/は元来、添加・累加をあらわす日本語の「も」、中国語の「也」に相当するとともに時間や条件を表す全文を受けて主文を導く。中国語では/*ca*/が“就”、/*kôo*/が“才”にほぼ相当する<sup>4)</sup>。

(9) *thâa khâw mây pay dichán kôo ca mây pay.*

.. PRO NEG 行く PRO も FUT NEG 行く  
彼が行かなければ私も行かない。

(10) *thâa kòet sòp khâw pay, kôo tɔŋ tòk sám-chán nêe-nêe.*

.. 起こる 試験 入る 行く も [推] 落ちる 留年する 必ず  
もし入学出来たら、留年するにちがいない。

(10)では二つの文の意味関係にしたがえば、「たとえ入学しても」のような譲歩文（逆条件文）の意味を含意する。一方、/*thâa*/節末に完了辞/*léew*/があらわれると、前文で述べられた事態の完了を認めたとえでの結果事態、結果行為が主文に導かれる。

(11) *thâa mây mii thúrâz aray léew klàp pay kôo-dây ná khráp.*

.. NEG ある 用事 何 PERF 帰る 行く も-可能 [終] MPP  
ほかに何も用事がなければ、先に帰ってもいいですよ。

(12) *thâa rúu-wâa ?im léew ca mây tham kha?nàat-níi ròk.*

.. 知る-COMP 満腹の PERF FUT NEG 作る こんなに [終]  
お腹がいっぱい（であるの）なら、こんなに（料理を）作らなかったのに。

(12)は眼前の事態成立を確認する/*rúu*/「知る、分かる」を補助的に用いて「お腹がいっぱいになるのが分かっていたら」という意味をあらわす。(12)は一般に仮定法過去とよばれ、後悔などの話者の気持ちを表す。

2.4 /*thâa*/とナラ節

用例(5)で/*thâa*/が文脈や場面によってタラ節にもナラ節にもなりうるケースをみたが、一般に/*thâa*/節内に/*ca*/があらわれると、「ということになれば」のように近似未来の行為・事

態を先取りして想定し、それに見合った行為・事態が述べられる。

(13) *thâa ca thaan ?aahâan-thay pháthakhaan-níi dii thîisút.*

.. FUT 食べる タイ料理 レストラン・この いい 一番  
タイ料理を食べるなら、このレストランが一番いい。

前文に関する情報をさらに焦点化、唯一選択して述べるもので、日本語の「ナラ」節に相当することが多い。(14)などの/*lá?kôo*/はほぼナラ節に対応する成分で前件を受ける一種の強調詞の役割をはたし、文の調子を整えるほか聞き手に対して催促、警告などを表す。

(14) *thâa ca súuu røŋtháw lá?kôo khǒŋ itaali dii ná.*

.. FUT 買う 靴 強調 物 イタリア いい [終]  
靴を買う {んだったら / (の) なら}、イタリア製がいいよ。

(15) *thâa ca háy khon yàaŋ-nán chúay lá?kôo háy chán tham*

.. FUT CAUS 人 そんな 手伝う 強調 CAUS PRO する  
*con taay pay-síá yaŋ ca dii-kwàa.*  
まで死ぬ てしまう まだ FUT いいもっと  
あんな人に手伝ってもらうくらいなら野垂れ死にしたほうがました。

(16) *thâa ca pay sayâamsakhwee lá?kôo né?nam háy khúm rótfay pay.*

.. FUT 行く サイアムスクエア 強調 勧める CAUS 乗る 電車 行く  
サイアムスクエアへ行くなら、電車で行くのを勧めます。

(14)は(13)と同じく提案や指示を、(15)は行為選択をあらわす。(16)はむしろ目的節「サイアムスクエアへ行くのに」に相当する。また、(17)のように前文に/*khít*/「思う」を添えた場合も、「ようと思つたら」のような意志の確定、前提をあらわし、日本語のナラに近いニュアンスを表す。なお、/*tŋ*/はここでは義務、推量でもなく命令指示を表す。

(17) *thâa khít-ca laa-?òok lá?kôo tŋ bòok kàp câwnaay*

.. 思う-FUT 辞める 強調 [命] 言う と 上司  
*hây cháat wâa ca laa-?òok*  
CAUS はっきり COMP FUT 辞める  
会社を辞める (の) なら、ちゃんと上司に申し出なさい。

日本語のタラとナラは次のように対照される。タイ語の前文の語順に着目すれば、タラは完了を、ナラは未完了をあらわす。(18a)は公共標識に見られる四語標語である。

(18) a. (*thâa*) *dùnum léew háam khàp(rót)*

(-) 飲む PERF 禁じる 運転する (車)  
飲んだら乗るな。=飲んだ後は乗るな。

b. *thâa ca dùuum lâ?kôo hâam khàp(rót)*

-- FUT 飲む 強調 禁じる 運転する (車)

飲むなら乗るな。 = (これから) 飲むときは乗るな。

## 2.5 /hàak (wâa)···/thâa-hàak (wâa)···/など : /thâa/の限定用法および慣用的用法

/thâa/の派生形式として、/hàak (wâa)/, /thâa-hàak (wâa)/を用いた条件文は日本語のレバ形式のようにやや硬い、フォーマルなニュアンスで用いられる。「(かりに/万一) ~として」のような仮定条件に相当する。

(19) *hàak khâa-námman khún raakhaa yàaŋ-tòo-núar*

-- 代・ガソリン 上がる 価格 次々と

*prachaachon ca yêe.*

人民 FUT 大変だ

{もし/仮に} 石油が高騰するようなことになれば庶民は大変だ。

(20) *thâa-hàak prathaan khát-khwāaŋ ca tham yanŋay dīi?*

-- 主任 邪魔する FUT する どう いい

{もし/仮に} 主任が邪魔をするようなことがあれば、どうすればいいか。

/sømmút-wâa/ は「もし~と仮定すれば」のような仮定の気分を強く押し出す。

(21) *sømmút-wâa chán mīi pīik chán ca bin pay sūu thīi khun.*

-- PRO ある 翼 PRO FUT 飛ぶ 行く ~ 所 PRO

もし私に翼があつたら、あなたのところへ飛んでいきます。

このほか、/thâa/は時間不定詞/múaray/「いつ」と呼応した慣用的な用法がある。日本語の「次第」に相当する。口語では〈23〉のようにしばしば/thâa/が省略される場合がある。

(22) *thâa mīi khâw-maa pīik múaray raw ca rian hây sâap.*

-- ある 入る・来る あと いつ 我々 FUT 申す CAUS 知る

入荷次第、ご連絡を差し上げます。

(23) *yàa dây múaray phôm kôo-ca tènŋaan kàp khun dây.*

離婚する [可] いつ PRO も-FUT 結婚する と PRO [可]

離婚が成立でき次第、ぼくはあなたと結婚できる。

/thâa-phùua-wâa/ は日本語では「という話であれば」「となると」のような事態の想定が強く差し出された言い方になる。

(24) *thâa-phùua-wâa khâw maa bòok hây rōo phôm.*

-- PRO 来る 言う CAUS 待つ PRO

もしかしてあの人が来たら待ってもらうように言ってください。

- (25) *thâa-phũa rót sĩa rawàaŋ-thaaŋ khun mây yêe chiaw-rũu?*  
 ... 車 故障する 途中 PRO NEG 大変 強調-Q

もし途中で車がm<sup>1</sup>呼称するとなると、大変じゃないですか。

/thâa-wâa/はしばしば注釈的説明を添える形で主文の後に位置し、「(それでも) というんだったら」、/rũu-thâa/は「(それでも) なら」という意味で、それぞれ前文を受ける接続詞的用法である。

- (26) *thân tởŋ rawaŋ tua hây máak thâa-wâa thân khũu máa-phayót.*

貴方 [義] 注意する 身 CAUS 大変 -- 貴方 乗る 暴れ馬

(それでも) 暴れ馬に乗るというのなら、よく気を付けなさい。

- (27) *khun tởŋ pay hây-dây rũu-thâa pay mây-dây kôo*

PRO [義] 行く 絶対 またはもし 行く NEG-PAS も

*khuan-ca sỏŋ khray pay theen.*

べきだ 送る 誰 行く 代わりに

あなたは絶対に行かなければならないが、(それでも) 行けないとなると誰か代わりによこすべきだ。

### 3. 条件をあらわす時間節(1) : /phỏ/の用法

タイ語の時間節は条件節と密接な関係をもつ。従属節の文頭に/phỏ/が置かれると、後文主文の行為・事態は前文のそれを受けて間をおかずに生起するという時間的に接近した緊密な関係をあらわす。つまり前文と後文の事態の関係は継起的、連続的である。/phỏ/はもともとは「十分な」という意味の修飾語で、「どうにか (なる、できる)」といった、ある種の行為や事態の変化の飽和点を意味する。以下、/phỏ/のいくつかの用法を瞥見する。

#### 3.1 /phỏ..., kỏ/

多くが日本語のト形式の条件文に相当し、〈28〉のように「なり」「とすぐに」「やいなや」「とたん」といった直後の事態生起のほか、〈29〉の発見・遭遇、〈30〉の同時発生などがあらわされる。/kỏ/は実質的な意味を持たず、前文を引き継ぎ、意味関係の密接なることを表す。/kỏ/の前に僅かなポーズが置かれることもある。中国語では一般に“— P, 就 Q”の緊縮形式に相当する。

- (28) *phỏ khruu khâw hỏŋ nákrian thúk-khon kỏ ừiap-krip.*

-- 教師 入る 部屋 生徒 全員 も 黙る

教師が教室に入ってくるなり、生徒は静まり返った。

- (29) *phỏ pỏt nẵnsũu duu dooy mây-dây khít aray*

-- 開ける 本 見る で NEG-PAS 思う 何

*kỏ phỏp thanabát 1 muun-yen.*

も 出遭う 紙幣 1 万円

何気なく本を開いたら、1万円札が出て来た。

(30) *phoo fõn tòk náam kôo thûam*

-- 雨 降る 水 も 溢れる

雨が降ると (すぐ) 水が溢れる。

主文末に/*than-thii*/'すぐに'という副詞を添えることも多い。〈31〉のように/*phoo*が主文に働きかけの文(ここでは行為指示文)を導く場合、日本語ではタラ形式が用いられるが、タイ人日本語学習者はト形式を用いる傾向が見られる。

(31) *phoo náam dùat kôo háy sày kùj loj-pay khâ.*

-- 水 沸く も CAUS 入れる 海老 下がる・行く FPP

お湯が {湧いたら/\*湧くと}、海老を入れてください。

/*phoo*は「予定」「仕組み」「習性、慣例」の意味を表し、日本語の「ト」条件節との対応が観察される。次例のような恒常的な事象、現象においては/*kôo*/の共起は義務的ではない。

(32) *phoo prachum sèt phõm ca pay phóp lúuk-kháa*

-- 会議 終わる PRO FUT 行く 会う 顧客

会議が終わったらお客さんに会いに行く

(33) *phoo kòt pum níi khruaŋ ca thamŋaan*

-- 押す ボタン この 機械 FUT 働く

このボタンを押すと機械が動きます。

(34) *phoo fõn tòk náam ca thûam than-thii*

-- 雨 降る 水 FUT 溢れる すぐに

雨が降るとすぐ洪水になる。

### 3.2 /*phoo*..., *kôo mák-ca*.../ /*phoo*..., *ca* .../

前件を受けて自然な移行による事態継起をあらわし、そこから転じて主体の習性や傾向なり恒常的な事態などを述べる。後文主文には出現にかかわる方向動詞/*khúm*/'なる'や補助動詞/*maa*/'くる'などが補助的成分として「用いられる」。

(35) *khon raw phoo kèe-tua kôo mák-ca cay-sá? khúm.*

人 PRO -- 老いる-身 も がちだ 涙もろい なる

歳をとると、人はとかく涙もろくなる。

/*phoo*/節内に近似未来を表す/*kamlaŋ-ca*/'ようとする(ところだ)』を用いると、その時点での後件事態の出現を意味する。(36) (37)は日本語では行為実行直前を表す「ようとしているところへ」などの言い方に相当する。



(36) phoo kamlaŋ-ca klàp kháw kôo maa háa.

-- ようとする 帰る PRO も 来る 会う

ちょうど帰ろうとしている {と/とき(に)/ところへ}、彼が訪ねてきた。

(37) phoo kamlaŋ-ca ?òok càak bâan fôn kôo tòk.

-- ようとする 出る から 家 雨 も 降る

家を出ようと {すると/したら/したとき(に)}、雨が降ってきた。

### 3.3 /phoo...léew,(lá)(kôo)(ca).../ /phoo...léew/

完了辞/léew/が/phoo/節内にあらわれると、一定の状況が発生する。3.2 と同様に傾向、習慣といった恒常的な頻度が提示される。

(38) mây rúu thammay phoo khuy kàp kháw léew rúusùk sa?nùk.

NEG 知る 何故 -- 話す と PRO PERF 感じる 面白い

彼と {話すと/話したら/話すたびに} なぜか楽しくなってくる。

主文文末に/léew/をとともなう場合、「会社に着いてみた時には電気が点いたままの状態にあった」という既成事態への遭遇、発見をあらわす。

(39) mûa-cháaw phoo maa thúŋ boorisàt, fay kôo pèet yùu léew.

今朝 -- 来る 着く 会社 電気 も 点く いる PERF

今朝会社に着いて {みると/みたら} 電気が点けたままだった。

(40),(41)では、飽和点(達成点、開始点)を強調した言い方となっている。

(40) phoo ?im léew kôo rûip klàp.

-- 満腹の PERF も 急ぐ 帰る

お腹がいっぱいに {なったら/なると} 急いで帰る。(達成点)

(41) phoo kháw rêuam dùum rêuam kin léew lá?-kôo ca mây yùt.

-- PRO 始める 飲む 始める 食べる PERF 強調 FUT NEG 止む

彼は飲食を始めたが最後、止まらない。(開始点)

/phoo/節が結果を導く特徴的な性格として主文に/ləəy/「そして、それで」,/tèe/「しかし」などの接続詞とともに、原因理由、および逆接をあらわす機能が見られる。以下ではそれぞれ「ので」「が」に言い替えが可能である。

(42) wan-kòon phoo tuan rûn-nóŋ rûn-nóŋ læy mây bon léew.

この間 -- 注意する 後輩 後輩 それで NEG 文句を言う PERF

この間、後輩に {注意をしたら/注意したので}、文句を言わなくなった。

(43) ... phoo pèet pratuu ?òok duu tèe klàp mây mii khray læy.

-- 開ける 戸 出る 見る CONJ 却って NEG ある 誰 全く

ドアを {開けてみたら／開けてみたが}、誰もいなかった。

#### 4. 条件をあらわす時間節(2)—/mûa/の用法—

条件節と時間節の交渉（重なり）はこれまでもしばしば観察され、議論されてきた。日本語では次のようなタラ節で、既定条件を前提として時間の前後関係をあらわす。

(44) 京都に着いたら電話してください。

⇨ 京都に着いた {時に／後で} 電話して下さい。

この多くは指示的な目論見を有する。即ち、前件行為に基づく何らかの予定された行為、現象の生起で、一種の恒常的な事態継起（英語訳では鳴り終わってから）を表している。

(45) 発車サイン音が {鳴り終わると／鳴り終わりましたら} ドアが閉まります。

Doors close soon after the melody ends. (東京メトロ駅構内標示)

タイ語の時間節のなかで条件節と密接な関係にあるのが/mûa/である。/mûa/は本来は過去のある時点での行為・事態を述べる指標となるもので、これからの特定の時点で成立する事柄が確定的である、または恒常的なものと見なされた場合、条件節としても機能するという特徴を持つ。/mûa/には二つの類型が観察される。

##### 4.1 特定条件の用法

特定の状況を提示して(46)のような「時には」、あるいは(47)のような比例的推移・漸進性「につれて」などの意味をあらわす<sup>5)</sup>。

(46) mûa pay-thũŋ Naaritaa khun-Yuki ca maa ráp chǎn.

-- 行く-着く 成田 由紀さん FUT 来る 迎える PRO

成田に {着いたら／着いたときには}、由紀さんが私を迎えに来てくれる。

(47) mûa rúduu-nǎaw klây khâw-maa klaaŋ-wan ca sân loŋ.

-- 季節-寒い 近い 入る-来る 日中 FUT 短い なる

冬が {近づくにつれ／近づくと／近づいた時には} 日が短くなる。

後文主文に/kô/を用いると、前文の事態を前提として、後文の事態が必然的に発生するという状況を表す<sup>6)</sup>。前件と後件は習慣的かつ連続的で/mûa/のあらわす時間の幅は比較的短く、日本語では「からには」、「たが最後」のような言い方に相当する。

(48) thǐi muaŋ-thay mûa dâyyiŋ phleengchât kô ca tôŋ yuun-khúm thanthii.

で タイ国 -- 聞こえる 国歌 も FUT [義] 起つ-上がる 直ぐ

タイでは国歌が {聞こえたら／聞こえた時は} すぐ起立しなければならない。

(49) ca pay thamŋaan thǐi muaŋ-thay mûa rian còp.

FUT 行く 働く で タイ国 -- 勉強する 終わる

卒業したら、タイへ仕事に行くつもりだ。

(50) *múua phǒm pen khon ráp khâw thamjaan ní eej.*

-- PRO COPU 人 もらう 入る 仕事 この 強調

*khun kǒo sabaay dâi*

PRO も 平穩 [可]

私がこの仕事を引き受けたからには、大船に乗ったつもりでいる。

(50)は「私が仕事を引き受ける人になった時は」のように未来に想定される確かな条件をあらわすが、むしろ「引き受けたカラニハ」といった限定的な原因理由をあらわす。

#### 4.2 絶対(唯一)条件の用法

範囲をあらわす/may/をとともなうことにより、より限定的な条件、およびその影響かにおける事態発生をあらわす。日本語の「かぎり」「以上」に相当する。(45)は条件表現を借りた、一種の修辞疑問文である。

(51) *nay-múua khun mây rúu-wâa khray pen àatchayaakoon léew*

中 -- PRO NEG 知る-COMP 誰 COPU 犯人 PERF

*khray rúu lâ??*

だれ 知る [終]

あなたが犯人を知らないとしたら、誰が知っているのだろうか。

/kǒo-tǒo-múua/は文中に見られる慣用形式で、限定的な機会、状況を想定して述べる。「の際には」「さえすれば」「限りは」などの日本語の言い方に相当する。

(52) *thəə ca háy khâw yók-yǒŋ kǒo-tǒo-múua thəə dâi*

PRO FUT CAUS PRO ほめる -- PRO [可]

*sâaŋ phǒnŋaan khún-maa*

築く 結果 なる・来る

君が結果を出しさえすれば、彼は君を評価するだろう。

#### 4.3 その他の時間節の内包する条件性

/múua/のほかにもタイ語には複数の時間節が存在する。それらの内包する条件性には次のような例が見られる。なお、緩やかな時間帯を表す/tǒon/節には手元のデータによれば条件性は含まれにくいようである。まず、節も「時」を表す時間節だが、しばしば/kamlaŋ/を併用しつつ「ちょうどその時」といった偶有的な事態実現の意味をあらわす。

(53) *khá?ná-thūi-kamlaŋ khuy yùu kâp khun-taanaaka khun-yaamaada kǒo maa*

-- ちょうど 話す いる と 田中さん 山田さん も 来る

(丁度) 田中さんと話して {いたら / いた時}、山田さんが来た。

にも「時間」と「条件」をあらわす用法があり、タイ人日本語学習者にとって日本語条件表現の使い分けが困難な背景となっている。まず、時間節の用法と条件節としての用法を比較すれば、後者には「この家は」「この道路は」のような規定的意識が強く現れ、総じて /phoo/ のもつ主観性に対して、客観的な恒常的事態生起を表す傾向がある。

(54) weelaa prachum chûay pít muuuthúu dūay

-- 会議をする ください 消す 携帯 終

会議の時は、携帯の電源を切ってください。

(55) weelaa fôn tòk náam ca rúa càak lǎn-khaa pen-pra?cam

-- 雨 降る 水 FUT 洩れる から 屋根 いつも

雨が降ると屋根からいつも雨漏りがする。

(56) thanôn sǎay-nú weelaa mii ?ùbathèet rôt ca tit than-thii

道路 CL-この -- ある 事故 車 FUT 混む すぐに

この道路は事故があるとすぐ渋滞になる。

#### 4.4 条件節と時間節の連続性、干渉

条件表現を構成する二つの文には自ずと時間的な前後関係が意識されていることから、時間節との交渉、連続性が議論されることは日本語でも観察される。

(57) a. バスが止まるまで席を立たないでください。

b. バスが止まってから席を立ててください。

c. バスが止まったら席を立ててください。

時間節は現実の場面としての時間の前後関係を述べているのに対し、条件節の場合は後文主文の「席を立つ」行為の前提として前文が設定されているところに表現意図、発想の違いが見られる。以下に、条件節と時間節のスケールを示すとともに、日本語の条件節、時間節とのおよその対応関係を確認しておくことにする。

(58) /thâa-ca/, /thâa/, /thâa-hàak/...../phoo/..... /toon/, /múua/

ナラ、タラ、レバ ト コロ、トキ

/sômút-wâa/, /thâa-phúua-wâa/ /weelaa/, /khá?ná-thii/

トスレバ、トナレバ トキ、サイ、場合

**条件的未確定性** 大 ←.....→ **時間的限定性** 大

以上、第2節から第4節の考察から、/thâa/は日本語のタラ、レバ、ト、ナラの四つの形式に対応し、/phoo/, /múua/の時間節もタラ、レバ、ト形式に対応することを観察した。このなかで /phoo/ は時間的な継起に重点が置かれ、その使用域は /thâa/ の条件節と /múua/ の時間節の中間的な性格をもつと考えられる。

## 5. 条件表現とその他の副詞節との関係

条件節には時間節のほか、条件節とさまざまな意味関係をもつ節が観察される。以下では目的節、原因理由節、名詞節についてそれぞれ見ていきたい。

### 5.1 目的節との意味的な交渉

日本語で「競技場に行くにはどう行けばいいですか」「競技場へ行くんだったら真っすぐ行けばいいです」のような言い替えがしばしば観察されるように、条件節と目的節はしばしば相補的、交錯する関係にある。/phûa/, /phûa(-wâa)/はそれぞれ「ために」「時のために」のような目的節をつくり、しばしば「ためなら」のように条件節との重なりが見られる<sup>7)</sup>。

(59) khâw ?aat-ca phûut aray nâay-nâay pay dâay thûk-rûan

PRO [推] 話す 何 軽く 行く [可] 各件

phûa thamhây tua-eej duu dii.

ために CAUS 自身 見る いい

彼は自分をよく見せるためなら出任せに何でも言うだろう。(＊ために)

(60) triam wáy ?iik chût nung ca dii kwâa phûa-wâa chût níi ca sǎ

用意する ておく あと CL 1 FUT いい より ために CL この FUT 悪

この服がだめになった時のためにもう一着用意した方がいい。(＊ために)

(61) ?aw kha?nôm pay dâay na.

取る 菓子 行く 一緒に [終]

phûa yen-níi ca mây mii khâaw-kin.

ために 夕方この FUT NEG ある 食べ物

今晚の夕食がない時のために、お菓子を持って行きなさい。(＊ために)

しばしば、/phûa/は「とよくないから」という不安、心配の回避あらわす。このほか、目的と到達をあらわす/(con)kwâa/「まで」が条件を含意することがある。

(62) phôm ca maa ?iik con-kwâa khun ca yoom yók-thôot háy .

PRO FUT 来る また まで PRO FUT 認める 許す罪 あげる

あなたが許してくれるまで何度でも参ります。

(=あなたが {許してくれたら/許してくれなかつたら} 何度も参ります)

(63) kwâa ca pay thûng kôo mòt kamlaŋ.

まで FUT 行く 着く も 無くなる 力

(cf: 行き着く頃には力が無くなる (=行きついた頃になると力が無くなる)

### 5.2 原因理由節との意味的な交渉

前件を受けてそれが後件事態にとっての原因理由をあらわす場合、しばしば一定の条件を含意する。それぞれ、接続詞/laey/, /cuŋ/をとまなう点で共通している。これは形式語的な特徴があり、前件を受けて後件の結果をみちびく成分である<sup>8)</sup>。

(64) mii tɛɛ yoom ráp-phít-chóp dii-dii (tháw-nán),

ある だけ 容認する 責任を取る よく (のみ)

kháw cuŋ ca yók-thót hây.

PRO CONJ FUT 許す-罪 あげる

十分に責任をとり さえすれば、彼は許してくれるだろう。

(十分に責任をとるだけで、彼は許してくれるだろう)

(65) duu tháa ca pay sǎay tɛɛ khúm thésǎi pay

見る 様子 FUT 行く 遅い しかし 乗る タクシー 行く

lǎy pay thǔŋ than weelaa yàaŋ-krachánchít.

CONJ 行く 着く 間に合う 時間 ギリギリで

遅刻しそうだったがタクシーに {乗ったら/乗ったので} 滑込みセーフだった。

それぞれの位置は後文主文の主語（ゼロの場合あり）に後置される。一般に lǎy が口語的、/cuŋ/が書き言葉的とされる。/lǎy/は文末詞として「まったく」「ずっと」といった話し手の心情を表す点が形式的な/cuŋ/とくらべて特徴的である。

### 5.3 名詞節との交渉

日本語でも「ここに駐車することは無断駐車で法律違反になる」の主部が「ここに駐車すれば」のように条件節との重なりがみられるように、タイ語でも文頭の動詞性名詞句が条件節の代替的な機能をにうことが少なくない。接頭辞/kaan-/を動詞に前置して成立する/kaan/名詞句が述部と等位関係（[P こと]が[Q であること]につながる）によって、しばしば「PであればQになる」のような意味関係をあらわすことがある<sup>9)</sup>。

(66) kaan-wícaan tàtsǐn khon-ùuun yàaŋ-rǎay lé? rúat-rew

こと-批評する 決める 他人 容易に そして 急いで

baaŋ-khráŋ kǎo phít-phláat dǎy.

しばしば も 誤る [可]

人を安易に品定めすると、失敗することがある。

(67)の場合、使役助動詞/thamhây/を用いた原因理由節とも重なりを見せる。

67) kaan-rian phaasǎa-thay thamhây phǎm khâwcaŋ khon-thay

こと-勉強する タイ語 CAUS PRO 分かる タイ人

dǎy mâak khúm.

[可] 大変 なる

タイ語を勉強したおかげでタイ人のことが分かるようになった。

(タイ語を勉強したたら、タイ人のことが分かるようになった)

一方、(68)では文脈、場面によって目的節として機能している。「事業に成功する」が目的

節では新情報、条件節では旧情報という違いも観察される。

(68) kaan-thii ca pra?sòp khwaam-sămrèt nay thúrakit

こと-REL FUT 出遭う 成功 で 事業

campen-tŏŋ rúk-nâa khûu-tòw-sûu.

必要だ 見越す 競争相手

事業に成功するには、競争相手に先んじることが必要だ。

(事業に成功したかったら競争相手に先んじることが必要だ)

すなわち、(68)の場合、名詞節を条件表現として用いるには、日本語では「したかったら」のような希望願望表現が内包されることが多い。また、使役助動詞/thamhây/がここでも接続詞のように用いられることがある<sup>10)</sup>。

(69) kaan-thaan lâw yàaŋ-phoo-mó? thamhây khlaay khwaamkhriat dâw bâanŋ

こと-飲む 酒 適当に CAUS 解消する ストレス [可] 多少

アルコールを適量飲むと多少ストレスを解消することができる。

(アルコールを適量飲むことで多少ストレスを解消することができる)

(アルコールを適量飲むことが多少ストレスを解消させることができる)

名詞化を担う関係代名詞/thii/にも、条件表現との重なりが見られる。

(70) pen kaan-siakiat thii ca thamjaan pra?phêet-nán

COUP こと-名誉を失う REL FUT 働く 種類-その

そんな仕事に就いては沽券にかかわる。

(そんな仕事に {就いたら/就くなんて} 沽券にかかわる)

(71) thii fŏn tòk wan-aa?thít chán ca rúusúk hòt-hùu sâw-mooŋ.

REL 雨 降る 日曜日 PRO FUT 感じる 減入る 萎れる

日曜日に雨が降ると、気が減入ってしまう。

(70)の/thii/は接続詞的に感情の原因を導く用法、(71)の/thii/は「雨が降ること」のように名詞化(ここでは主題化)を担う用法である。

以上、条件表現がいくつかの副詞節、名詞節と重なるケースを観察した。

## 6. 特定の関連語・連結句をもたない条件表現

一般に口頭語の場合、特定の関連語、連結句を用いることなく前文と後文の意味的な関係をあらわすことができる。これは中国語にも頻繁に見られる現象で、いわゆる「意合法」と呼ばれる用法である<sup>11)</sup>。David(2002:119)では次のような文の簡略化をあげている。(72a)は最大限の情報の共有下では(72b)のような伝達をほぼ可能にする。主語(主体)のほか、関連語は情報、文脈の共有下では省略が可能である。

(72) a. hàak-wâa fǒn tòk chán kǒo (ca) mây pay.

もし-COMP 雨 降る PRO も(FUT) NEG 行く

もし雨が降ったとしたら、私は行かない

b. fǒn tòk (kǒo) mây pay.

雨 降る (も) NEG 行く

雨が降ったら行かない。

こうした簡潔的な条件文についてはなお多くの用例の検証を必要とするが、今後の課題としたい。以下では、ある種の特定のマーカ―がそれらの代行をなす場合を瞥見する。

① 呼応詞/*kǒo*/によって、前文を後文の条件、前提として意味づける用法で、二つの文の意味的な関係は密接、必然的である。しばしば諺のような表現にも用いられる。

(73) khâw fūuŋ hǒŋ kǒo pen hǒŋ.

入る 群れ 白鳥 も COPU 白鳥

白鳥の群れに入れば白鳥になる。(朱に交われば朱くなる)〈諺〉

(74) rǒon thâa-nán kǒo nâa-ca thǒt sūa-tua-nǒk ʔǒk.

暑い それなら も べきだ 脱ぐ 上着 出る

暑いんだったら、上着を脱いだらいい。

/*thâa-nán*/は「だったら」という接続詞的用法である。次のように同語(動詞・名詞)を反復させた慣用的な言い方もある。

(75) ooʔkhee pay kǒo pay khun líaŋ ná.

オーケー 行く も 行く PRO 奢る [終]

オーケー、行くなら行きましょう。あなたの奢りですよ。

(76) khruu kǒo khruu lūksit kǒo lūksit (phǒo-phǒo-kan lè)

教師 も 教師 弟子 も 弟子 (大体 互いに SFP)

先生も先生なら生徒も生徒だ。( ; どっちもどっちだ)

② 前文の後にやや休止を置いてあらわれる/*ca-dây*/は事態の帰結を意味づける。可能の助動詞/*dây*/は前件事態が後件事態の実現可能をもたらすことを意味する。

(77) wīŋ rew-rew ca-dây than rǒtmee.

走る 速く FUT[可] 間に合う バス

急いで走たら、バスに間に合う。

(78) sàʔ phǒm thúk-wan hūa ca-dây mây láan.

洗う 髪 毎日 頭 FUT[可] NEG 禿げる

毎日髪を洗えば、頭は禿げることはない。

③ 完了の助動詞/*léew*/が前件末尾にあらわれると、前文と後文の意味的な境界を示すマー



カーとして機能する。

(79) khây-wát-yà̄y pen léew hăay yâak.

インフルエンザ 罹る PERF 治る 難しい

インフルエンザに罹ると治りにくい。

(80) khâaw-phát biip námmanaaw léew ca aròy khûm yóʔ.

チャーハン 絞る ライム汁 PERF FUT 美味しい なる 沢山

チャーハンはライム汁を絞るともっと美味しくなる。

(81) thũng rooŋræm léew tit-tò̄ maa than-thii ná

着く ホテル PREF 連絡する 来る すぐに 終

ホテルに着いたらすぐに連絡してください。

④ 使役助動詞/thamhây/が接続詞のように用いられる場合がある。前件が後件事態を「もたらす」、あるいは「つながる」という意味関係を表す。

(82) sāmii pen-yà̄y-pen-too thamhây phanrayaa dâ̄y-nâa-dâ̄y-taa.

夫 偉い CAUS 妻 有名になる

夫が偉いと、妻は鼻が高くなる。

(83) kin ayʔsakariim mâak-maay yàaŋ-nán, ca thamhây thóoŋ sĩa mâak.

食べる アイスクリーム 沢山 そんなに FUT CAUS お腹 壊す 大変

そんなにアイスクリームを食べるとお腹を壊しますよ。

(82),(83)では/thamhây/によって前文が主題化され、前文が後文を引き起こす(結果につながる)根拠を差し出す。(85)のように日本語では「テハ」節に対応することが多い。文の前後関係、場面によっては書面誤、口頭語を問わず、原因理由(84)や条件(85),(86)を表すケースも少なくない<sup>12)</sup>。

(84) fôn tòk thamhây dùatró̄n.

雨 降る CAUS 困る

{雨に降られて／雨が降って} 困りました。

(85) tó̄n-klaaŋkhuum duu-nã̄jsũu dooy-mây nȭn yàaŋ-nán

夜間 勉強する で-NEG 寝る そんなに

ca thamhây sùtkhaphâ̄p sĩa na.

FUT CAUS 健康 壊す [終]

夜も寝ないでそんなに勉強しては、体を壊しますよ。

(86) kaan-fâwkhó̄y man dûay weelaa náp chûa-mooŋ-chûa-mooŋ

こと-見守る それ で 時間 数える 何時間

thamhây chãn khít fãn pay dâ̄y klây mây mii thii sínsùt.

CAUS PRO 思う 夢みる 行く [可] 遠く NEG ある 所 果て

馬の様子をじっと見守っていると、時間のことなどすっかり忘れてしまうほどだった。  
(スワンニー・スコンター「帰らぬあの日」)

⑤ 特定の動詞/taam/「従う、沿う」が前置詞のように用いられ、条件を含意する場合がある。(87)は比例関係、事象の漸進性をあらわしているが、前後文の入れ替えが可能である。

(87) a. hũu ca tuŋ khũm taam aayũ?.

耳 FUT 遠い なる 従う 年齢

歳をとるにしたがって、耳が遠くなる。

b. aayũ? mâak khũm hũu kũu tuŋ khũm.

年齢 多い なる 耳 も 遠い なる

歳をとると、耳も遠くなる。

⑥ 補助的な複文マーカーを用いることもなく、もっぱら前文と後文の意味的な関係に立って条件表現を構成する。とくに口頭語において多く観察される。

(88) maw mây khàp ca làp tũŋ còot.

酔う NEG 運転する FUT 眠る [義] 停める

酔ったら運転しない。眠るなら停める。(交通標語)

(88)の前半部分では/maw/「酔う」が/mây khàp/「運転しない」という行為、後半部分では/ca làp/「眠る」と/tũŋ còot/「停めなさい」という行為とが、社会通念、あるいは公共ルールという前提で結びついたものである。ここでは否定語/mây/、および義務をあらわす助動詞/tũŋ/が意味的な接続を明示する成分として機能している。

⑦ 副詞/púp-páp/「すぐに」を類音反復して用いることにより、前後の喫緊の意味関係をあらわす。語彙的な条件というべきケースである。

(89) kin púp ?im páp.

食う すぐ 一杯 すぐ

食べるとすぐお腹が一杯になる。

⑧ 対比的な関係を維持するために助動詞などを反復させることがあり、これらは慣用的な言い方、諺として定着しやすい。(90),(91)は前後四語構成になっている。また(90)では/hây/が、(91)では/dây/がそれぞれ韻を踏んだ簡潔な対句的構成を呈している。

(90) rák wua hây phũuk, rák lũuk hây tii.

愛する 牛 CAUS 繫ぐ 愛する 子供 CAUS 叩く

牛が可愛いなら繫いでおけ、子どもが可愛いなら叩け。(諺)

(91) tham dii dâŋ dii tham chũa dâŋ chũa.

する いい 得る いい する 悪い 得る 悪い

善行あれば善果あり、悪行あれば悪果あり。(諺)

(92) dəən taam lǎŋ phûu-yay máa mây kát.

歩く 従う 後 大人 犬 NEG 噛む

大人について行けば犬は咬まない。(諺)

⑨ 助動詞の連動が一定の条件帰結という意味的な関係を結ぶことから、文連結の擬似的なマーカーとなることがある。(93)は願望を表す助動詞/yàak/が、義務を表す/tǎŋ/と連動し、複文を構成するのに与っている。

(93) yàak wàay-náam pen tǎŋ loŋ náam.

[願] 泳ぐ [可] [義] 入る 水

泳げるようになりたければ、水に入らなければならない。

⑩ (94)では/pay/「行く」のように特定の動詞を繰り返すことによって、文の前後関係が構成されることがある。前述の目的節との交渉も同時に観察される。

(94) pay sǎan-sát nǎŋ rǒtmee sǎay aray pay dii?

行く 動物園 乗る バス 線 何 行く いい

動物園に行くんだたら何番のバスに乗って行ったらいいですか。

(動物園に行く {のに/には} 何番のバスに乗って行ったらいいですか)

同語反復は条件文の成立にかかる重要な要件で、(95)は「西洋薬を飲む」という行為が焦点化され、文の意味関係を必然的な事象としてあらわしている。

(95) khun nâa-ca kin yaa-faràŋ, kin yaa-faràŋ háay rew.

PRO [当] 飲む 西洋薬 飲む 西洋薬 治る 早い

あなたは西洋薬を飲んだほうがいい。飲めば早く治る。

⑪ 二つの文の意味的な関係を明示するために名詞節とも条件節ともとれるケースがある。(96)は前後の意味関係をあらわすために、/thǔu/の前に若干の休止が置かれる。同時に前件が名詞句のような構成にもなっている。

(96) phǔut muŋ kuu thǔu-wáa mây sù?phâap.

話す PRO PRO 見な-COMP NEG 丁寧な

「俺、お前」のような言い方をすれば失礼と見なされる。

(「俺、お前」のような言い方をするのは失礼と見なされる)

さらに(97)では前後の意味的な関係が選択指示や助言をあらわしている。

(97) fàak thǔi-nǐ plòot-phay.

預ける ここ 安全な

ここに {預けたら／預けるのが／預けたほうが} 安全だ。

次のような名詞が文頭に立つ場合、「千パーツ以上の買物をすれば」のように条件節と隣接する点も日本語と類似的な現象である。

(98) sùu sǐnkháa nùŋ-phan bàat khún-pay ca dâi sùan-lót háa pæssen

買う 商品 千 パーツ 以上 FUT [可] 割引する 5 パーセント

[千パーツ以上の買物は] 5%の割引になる。

=千パーツ以上の買物すると、…………

⑫ 特定の動詞が形式化して、前文を受ける接続語のような機能を呈することがある。(99)は自然にそのような状態になるという帰結をみちびいている。なお前文にも助動詞/tɔŋ/が複文の擬似マーカーとなっていることにも注意したい。日本語では接続語が必要である。

(99) yùu dūay-kan tɔŋ kreŋcay kan.

いる 一緒に [義] 遠慮する 互いに

chiiwít tɛŋgaan thūŋ ca râap-ruun.

生活 結婚する 達する FUT 円満な

一緒に {住むには／住みたかったら} 互いに遠慮が必要だ。

そうすれば、結婚生活は円満になる。

(100)では後文の文頭にあらわれる特定の副詞/diaw/「すぐに」が、前文を受ける接続標識のように用いられる。ここでも日本語では接続語があったほうが自然であろう。

(100) A: rûaŋ khômphiuthæ nī dichǎn mây khôy rúu-rûaŋ læy

件 コンピューター 強調 PRO NEG あまり 分かる 強調

コンピューターのことは私はあまり知らないんです。

B: mây tɔŋ rúu kô-dây.

NEG [義] 知る も-[可]

知らなくてもかまいません。

dǐaw mua-tèe lèn mây mii weelaa tham rûaŋ-ùun.

すぐ ばかりだ 遊ぶ NEG ある 時間 する 件-他の

(でなければ) 遊んでばかりいて他の事をする時間がありません。

⑬ ある種の任意の選択的環境、比例的な事象が条件表現を含意することがある。(101)では「行くか行かないかということが」という前件が主題を表す。<X khún yùu kàp Y>形式は「XはY次第だ」「XはY(如何)による」といった選択条件を表す。

(101) pay rûu-mây pay khún-yùu kàp aa?kàat.

行く か-NEG 行く に拠る と 天気

行くか行かないかは天気次第だ。(天気が良ければ行くが、悪ければ行かない)

(102) phaasāa-thay sāmrap phǒm yīŋ rian (kōo) yīŋ ŋoŋ.

タイ語 にとって PRO -- 勉強する(も) -- 混乱する

タイ語は私にとって勉強すればするほど混乱する。

また、(102)にみる yīŋ の連用は中国語の“越～越～”形式に類似した慣用形式で、「～れば～ほど」のような比例関係をあらわす。

⑭ 翻訳にかかわる問題でもあるが、タイ語ではとくに条件表現を意図したものでなくても、日本語ではしばしば条件表現としてあらわされることがある。(103)は対比列挙の「～し～」と「～も～れば～も」の並列形式の言い替えが成立する。

(103) baan-khráŋ kōo dii máak baan-khráŋ kōo yēe.

ある時 も いい 大変 ある時 も 酷い

ある時はいいし、ある時はひどい。(大変いい時もあれば酷い時もある)

(104) phaasāa-āŋkrit kèŋ máak yàaŋ thəə, thamŋaan ʔaachīp nǎy kōo-dii

英語 上手 大変 ような PRO 働く 職業 どの もい

彼女のように英語が上手かったらどんな仕事もできる。

(彼女ほどの英語力があれば、どんな仕事もつぶしがきく)

(105) phátsadu chin-nūi kháw bōok-wāa tōŋ pay ráp thūi praysanii

荷物 CL-この PRO 言う-COMP [義] 行く 受け取る で 郵便局

この荷物は郵便局に受け取りに行かなければ受け取れないそうだ。

(この荷物は郵便局に受け取りに行かなければならないそうだ)

(106) nǎysūuuphim loŋ khàaw wāa hūn kamlaŋ tòk.

新聞 報じる 消息 COMP 株 ている 下がる

新聞は株価が下がっていると報じている。

(新聞によれば株価が下がっているそうだ)

(106)は「～によれば～そうだ、聞いたところでは～らしい」といった伝聞を含意する。こうした現象も複文表現の周縁として扱う必要がある。

⑮ /taam/は「従う」「沿う」という意味の動詞であるが、慣用的に文頭に位置しうえ「によると」「によれば」のような情報の出所、伝聞を表す。主文には/bōok/が発話主体を表すほか、日本語の「そう」に相当する助動詞成分は存在しない。タイ人の日本語では(107b)のような場合、「?天気予報によれば明日は暑いです」のような断定表現になることが多い。

(107) a. taam thūi khun-khiawko bōok hokkaydoo nǎaw.

従う REL さん-恭子 言う 北海道 寒い

恭子さんによると、北海道は寒いと言っている。

b. taam phayakoon-aakàat phrûŋ-nii ca rón.

従う 天気予報 明日 FUT 暑い

天気予報によれば、明日は暑いそうだ。

⑩ /phiaŋ/を用いて限定条件をあらわす。/khǒo-phiaŋ(khêe)/は日本語では「さえすれば」「だけで」という形式に相当する。

(108) a. lúuk chán khǒo-phiaŋ khai mii weelaa wâaŋ ca lén thiiwii keem.

子 PRO … ある 時間 暇な FUT 遊ぶ TV ゲーム

うちの子は暇さえあればテレビゲームで遊んでいる。

b. khǒo-phiaŋ háy lúuk-lúuk mii sùkkhaphâap khêŋ-reeŋ khêe-nii

… CUAS 子供 ある 健康 丈夫な だけ-この

phôo-mêe kôo phooŋcay léew.

両親 も 満足する PERF

子供達が丈夫でありさえすれば親はそれだけで満足だ。

c. khǒo-phiaŋ mii khun yùu khâŋ-khâŋ thâw-nán,

… ある PRO いる 近く だけ

yàaŋ-ùuun kôo mêy tŋkaan aray ?iik.

外のもの も NEG 必要な 何 あと

あなたがそばにいてくれるだけで、他には何もいらない。

以上、複文の構成にかかる有標をもたない二文構成について観察したが、引き続き、多くの用例の分析が必要である。日本語の複文表現のなかで条件表現は原因理由文、逆接文などと同様に多種多様な形式をもつ。これらのタイ語との対応例は必ずしも特定されるものではないが、ここにあげた表現のいくつかはタイ語の複文の特徴の一端を表している。

## 7. おわりに

世界には〈非現実・現実〉を横軸とし、必然・偶有、あるいは〈期待・反期待〉を縦軸として個あるいは集団の行為、現象の時空間を構成する。私たちはそうした中で情報を交換し、伝達し合い、とりわけ条件の認識世界では唯一条件、必然条件、十分条件、確定条件、仮定条件などといったスケールを想定して事態、行為の現実化をはかっている。したがって、そこには必然的に時間的要素、命題、目的、原因理由などの要素が絡んでくることになる<sup>13)</sup>。条件表現の使用、出現の背景として、事態の取捨関係—つまりPQの採用、棄却—や甲斐損得の競合が、多かれ少なかれ関与せざるを得ないのは、それぞれの可能性の選択肢をめぐる主体の事態に対する評価、判断、およびそれらのさまざまな伝達のあり方と密接な関係があるからにほかならない。

本章ではタイ語の条件表現を大きく二種類に分けて議論した。その一つは特定のマーカ—を有する条件節 (/thâa/, /hâak-wâa/など)と時間節 (/phoo/, /mûa/など)によってあらわ

されるもの、もう一つは特定のマーカを有することなく、文の前後の意味関係、場面的な環境、紙背に抛って生ずる条件表現であった。後者においては、名詞節、原因理由節、目的節が意味上、条件表現と重なる特徴を多くの用例をあげながらみてきた。形式の中核と周辺は、条件表現における認識世界を補強し合っていることがわかった。

タイ語では仮設・仮定と条件を明確に分別し、後者を現場の場面での行為選択の条件として扱う傾向があるが、日本語ではこれらの線引きが重層的でかつ形式も渾の意わたっている。条件表現の形式も日本語では多岐にわたっている。本章では主として前者に重きをおいて考察したが、なお考察すべき点は数多い。本研究では統語的な立場からタイ語の条件表現を概観したが、たとえば、否定条件節、疑問文の成立などについては詳しく考察することはできなかった。今後の研究においては節にあらわれるモダリティ成分、/léew/, /kɔɔ/, /ca/などといった成分の生起の有無、位置について、また日本語の習得、誤用の背景とどのような関係にあるのか、課題としなければならない<sup>14)</sup>。いわゆる意合法についても類型的な特徴を持つ中国語との中タイ対照研究からの示唆も期待されるところである。

さらに談話分析においても多くの検討課題を残している。ひとつは条件文の生成にかかわる議論で二文構成、または一文構成で、後続文を省略するケースも会話では少なくない。

- (109) a. rīp tùun rew ca s̄ay léew ná.  
 急ぐ 起きる 速い FUT 遅れる PERF [終]  
 早く起きなさい。(さもないと)遅れるよ。
- b. th̄aa mây rīp tùun ca mây than.  
 もし NEG 急ぐ 起きる FUT NEG 間に合う  
 早く起きないと遅れるよ。
- c. th̄aa mây rīp tùun (léew) ?lá-kɔɔ ……  
 もし NEG 急ぐ 起きる (PERF) 強調  
 早く起きないと。……

のような場面では日本語との対応がみられるものの、日本語では依頼文に条件文が埋め込まれている。「次第」も限定選択条件を明示する。(110)のような間接疑問文にみられる条件表現との相関なども検討課題であろう。

- (110) ca h̄ay tùun kii-moɔŋ dii khráp?  
 FUT CAUS 起きる 何時 いい MPP  
 いつ目を覚ましたらいいか教えてね。

このほか、主題ともかかわる「となると」「ときたら」「とあれば／とあらば」「といえば」「と思えば」などのような、いわゆる条件形の慣用形式との対応、さらに順接と対極にある日本語の「のに」「ても」に対応するタイ語の逆接、譲歩文(逆条件文)についても今後の課題としたい。一定の言語習慣のもとでの談話行動、発話行為に見られる条件表現の対応の

考察は、さらにその高次の段階になる。

### 追記

本稿は言語対照シンポジウム「条件表現をめぐって」(神戸研究学園都市大学共同利用施設、2005.7.24)で発表された内容を修訂・加筆したものである。発表に際して多くの方々から貴重なご意見を賜った。また、草稿の段階からチュラロンコーン大学の R.カノックワン博士から種々のご助言を、またカセサート大学 B.ブッサパー博士からは貴重な文献資料のご提供をいただいた。記して感謝申し上げる。

### 注

- このほか、統語的特徴としては日本語の格助詞に相当する前置詞が比較的発達していること、名詞修飾では被修飾語名詞と修飾語(動詞、形容詞)の間に関係代名詞のをおくこともある。日本語の助数詞に相当する類別詞もよく発達している。動詞構造では動詞連続構造が顕著で、複数の動詞句が組み合わさった動作行為の一連の経緯をあらわす。日本語のテ形接続との対照など、構造分析にはなお課題が多い。
- 以下の用例は現代タイ語(バンコク標準方言)で、各種タイ語学習書、辞書類からの引用による。なお作例についてはインフォーマントのチェックを受けた。
- 「目的地に着いたら電話します」のような時間の前後関係を焦点にして述べる際には、一般に時間節の /mûa/ が用いられる傾向がある。/mûa/ は他の時間節とは際立った特徴として、事態想起の意味が強く表される傾向がある。/mûa/ については後述を参照。
- /kɔɔ/ は現代漢語の“都”、“也”、“才”などに類似する一種の呼応詞。/kɔɔ/ については Saranya(2000) や ウィチャイ(2002) などの研究があるが、複文における生起条件については更なる研究がもたれられる。
- (46)において、習慣的な行為(「私が成田に着くと」など)を表す場合、/mûa/ の代わりに /weelaa/ を用いる傾向がある。なお、次のような日本語のナラ節は /toon/ でも表すことができる。  
 来る {ならときは}、もう少し早く来てほしかった。  
 toon ca maa nâa-ca maa rew kwâa-níi ?iik nõɔy  
 時 FUT 来る [当] 来る 早い より-この あと 少し
- 一般に時間節では、主文に /kɔɔ/ があらわれる場合は条件帰結や事由帰結を表す傾向がある。
- 日本語の目的節「ためには」と条件節「ためなら」の交渉については田中(2004b:404-410)を参照。なお、英語でも次のように目的節が条件節を含意している場合がある(東武鉄道車輦内表示)。  
 例：非常の場合は中のハンドルを手前に引けばすべてのドアは手で開けられます。  
 (…すべてのドアを手で開けるには中のハンドルを手前に引いてください)  
 Pull the handle inside to unlock all doors of the car in case of emergency.
- 日本語でも条件節と原因理由節との意味的な連続性がしばしば観察される。田中(2004b:264)では「のだから」「なら」「のに」の相関を述べている。  
 例：女の子 {なんだから/なら/なのに}、そんな悪戯をしてはいけません。
- 名詞節の主題化では英語の動名詞構文にも顕著に観察されるが、動詞成分には何らかの他動的な意味(例では cause) が不可欠である。



例：[Making it public] would cause needless confusion.

[公にすると]無用な混乱が生じることになるだろう

⇔ [公にすることが] [無用な混乱]を引き起こすだろう (作例)

/kaan-/名詞節の比較的详细な記述については田中(2004a)を参照。

10) こうした/thamhây/の機能に対応する日本語の「ことが」「ことで」との相関については本書第Ⅱ部第2章の/thamhây/の考察も参照。

11) こうしたタイ語文の成立には下地(2006)で指摘されているような個々の動詞の意味的な限界性、状態性などの制約、関与が考えられる。

12) (84),(85)の用例は田中(2004b:152)からの再掲。

13) 益岡(2006)で言及された静的事態、動的事態という概念も仮定性、事実性に大きくかかわるファクターと思われる。

14) /kô/のほかにも、中タイ対照研究ではたとえば/leew/と“了”、/ca/と“就”との比較対照なども今後の考察の課題である。

#### 参考文献

- ウィチャイ・ピアンヌコチョン(2002)「タイ語における接続詞 kôo についての一考察」、『東大東南アジア学』第7巻 122-126
- オースティン,J.L.坂本百大訳(1978)『言語と行為』大修館書店
- サール,J.L.坂本百大・土屋俊(1986)『言語行為—言語哲学への試論』勁草書房
- 下地早智子(2006)「中国語の条件表現—条件文における“了”の分布と意味—」、益岡隆志編『言語対照 条件表現』くろしお出版 83-98
- スニーラット・ニャンジャローン(1999)「タイ語母語話者による条件節『と・ば・たら・なら』の習得」、『言語文化と日本語教育』第18号 25-35
- 田中寛(2004a)『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房
- (2004b)『日本語複文表現の研究 接続と叙述の構造』白帝社
- (2004)「接続詞のように用いられるタイ語の thamhây について—使役と因果関係—」、『指向』第2号、大東文化大学大学院外国語学研究科日本語学専攻 77-92
- 中川サワリー(2004)「日本語とタイ語の条件表現—認知的モダリティー—「因果的」時間的「仮定的」プロトタイプ」、『名古屋大学言語学論集』、第19巻 95-135
- (2005)「日タイ語における条件表現の意味—意義素の内部構造—」、『名古屋大学言語学論集』、第20巻 19-47
- (2006)「条件文における論理構造」、『名古屋大学言語学論集』、第21巻 9-32
- 益岡隆志編(1993)『日本語の条件表現』くろしお出版
- 益岡隆志(2006)「日本語における条件表現の分化—文の意味的階層構造の観点から—」、同編『言語対照 条件表現』くろしお出版 31-46
- 宮本マラシー(1989)「タイ語の tɔɔn,weelaa,mûa,nai の用法—時間との関係において—」、『大

阪外国語大学論集』第2号 17-37

- Banchop Phanthumeetha(1977) *Lak Phaasaa-thai*. Samnakphim Mahaawitthayaalai, Krungtheep, Raamkhamheang.
- Dancygier, Barbara(1987) *Conditional and Prediction: Time, Knowledge and Causation In Conditional Constructions Series*. Cambridge Studies in Linguistics.
- David Smyth(1995) *Thai: An Essential Grammar* Routledge London.
- Elizabeth Closs Traugott, Alice Ter Meulen, Judy Snitzer Reilly, Charles A. Ferguson Edited(1986) *On Conditionals* Cambridge University Press.
- James Higbic & Snea Thinsan(2002) *THAI REFERENCE GRAMMAR –The Structure of Spoken Thai-* 「タイ語参照文法：タイ語の話し言葉の構造」 Orchid Press, Bangkok.
- Kamchai Thoongloo(1987) *Lak Phaasaa-thai*. Krungtheep: Amonkaanphim.
- Nawawaan Phanthumeethaa(1984) *Waiyaakoon Thai* Runruankaanphim Krungtheep.
- Pankhuenkhat, Ruengdet and Mahaawitthayaalai Mahidol(1998) *Phaasaa'saat Phaasaa-thai*. Mahaawitthayaalai Mahidol: Sathaban Wichai Phaasaa 1 Watthanatham Phatthana Connabot.
- Patcharin Dongsri(1994) *Concessive Sentences in Thai*. A Thesis Submitted in Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree of Master of Art. Department of Linguistics, Graduate School, Chulaloongkorn University.
- Pei Xiao-rui(2001) 《泰語語法新編》中国・北京出版社.
- Marry Hass “Thai-English Dictionari”
- Phrayaa Upakitsinlapassaan(1971) *Lak Phaasaa-thai*. Krungtheep Thai-Watthanaphaanit..
- Ruengdet Pankhuenkhat(1998)*Phaasaa-saat phaasaa-thai* 「タイ語言語学」 Sathaaban-wicai Phaasaa lae watthanatham phua phatthanaa chonnabot, Maahaawitthayaalai Mahidol.
- Saranya Savetamalya(2000) *Multiple lexical entries of /koo/ in Thai*. Grammatical Analysis, Morphology, Syntax, and Semantics: Studies in Honor of Stanley Starosta. Ed.by Videia P. de Guzman and Byron W. Bender. Pp.141-152. Honolulu, HI: University of Hawaii Press.
- Tatvalai Niemboobpha(2001) *The Use of conditionals to Express Different Intentions in Thai* A Thesis Submitted in Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree of Master of Art In Thai, Department of Thai Faculty of Arts, Graduate School, Chulaloongkorn University.
- Traugon, E. C. et al.(eds)(1986) *On Conditionals*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Vichian Panupong(182) *Khroonsaang Phaasaa-thai: Rabop Waiyaakoon*. Phaak-wichaa Phaasaa'saat, Khana-Aksonsaa, Chulaloongkoon University.
- William G. Lycan(2001) *Real Conditionals*. Oxford: Clarendon Press.

## 第IV部 タイ語の複文と談話構造の諸問題〈第2章〉

## タイ語の重ね言葉と反復形式の一考察

## ——実質的反復と形式的反復の諸相——

【キーワード】重ね言葉 反復 繰返し 並列表現 語用論的用法

## 1. はじめに

日本語にも「山々」「国々」「人々」といった疊語、「早く早く」「歩いて歩いて歩いて」などの反復表現があるように、タイ語にも顕著にみられる。タイ語の語彙的特徴の一つと言っても過言ではない。一方、文法書を見てもこれらの特徴、使用定義については明確な説明があるわけではなく、「強調、複数、やわらげ、気持ちを込める」といった大まかな意味付けがなされている程度である。本章では頻出度の高い用例を手掛かりにタイ語にみられる重ね言葉を観察し、そこに含意される意味を考察してみたい。タイ語の語用論的特徴をさぐるうえで、重ね言葉、反復形式にあらわされる意味の考察は、日本語表現との異同を検証することにもつながる重要な作業と位置づけられる。

なお、本章では反復形式を厳密な意味では直接一語の反復、ないし類義語・類音節を連ねたものを指す疊語(AA型/AA<sup>レ</sup>型)とともに、機能成分(非実質成分)が一定の間隔をもって反復されるもの(……A……A型など)も指すこともある。前者を疊語、重ね言葉、繰返し語、後者を反復形式、反復表現と呼ぶことにしたい。後者の反復形式・表現は一定の構文的特徴として現れるもので、日本語では「寝ても醒めても」「寝たり起きたり」のように慣用的に反復行為を表すものもあれば、「雨は降るわタクシーは来ないわ」のように必ずしも事態事象や行為の反復ではなく、単に並列形式と見なされるものもある<sup>1)</sup>。

こうした現象、事象の記述は勢い個別的な事例の列挙にならざるをえず、体系化、類別化には多くの課題があることは論を俟たないが、今後の研究の出発点として、収集したデータを瞥見することから始めたい。

## 2. 語彙的な反復、重ね言葉

## 2.1 思考様式、感情表現の〈キー概念〉として

どの言語にも伝達の効率をはかるべく、反復、繰返しの特徴は普遍的な事象の一つであろう。重ね言葉は声調言語であるタイ語にあつて二語を重ねることでリズムカルな音調を生産し、細やかな感情心理を伝える重要な要素ともなる。なかでもタイ人の発想様式、感情表現のキーワードともいえる以下の3語は重ね言葉の中でも頻出度の高いものである。タイ語では反復される語、即ち二番目にあらわれる語は反復記号(๑) *lǎi* *máy-yamók* で

あらわされるが、以下の国際音標文字表記ではハイフン(-)を用いながらそのまま繰り返すことにし、用例中の重ね言葉の部分を濃字、相当する日本語を下線でしめした。

(1) **chǔuay-chǔuay / chǔy-chǔuay**

「平然としている、動じない」といった意味がある。動詞句に後置される。

a. **nâŋ chǔy-chǔuay**

座る … : じっと座っている (だけだ)

b. **rúusùk chǔy-chǔuay**

感じる … : ただ思っているだけ、別に何とも思わない

(2) **rúay-rúay**

「まあまあ、相変わらず、ずっとそのまま」といった意味で動詞句に後置される。

a. **mii kamray rúay-rúay**

ある 儲け … : ぼちぼち儲かっている

b. **fôn tòk rúay-rúay**

雨 降る … : 雨が間断なく降る

c. **troŋ pay rúay-rúay**

真直ぐ行く … : そのまままっすぐ行く

(3) **khôy-khôi**

「そっと、ゆっくり」などの意味をあらわす多義語である。動詞句の前後の位置によって意味が異なる。

a. **phûut khôi-khôi**

話す そっと : 小声で話す。

b. **khôi-khôi phûut**

ゆっくり 話す : ゆっくり話す。

c. **dæŋ khôi-khôi**

歩く そっと : そおとと歩く。

d. **khôi-khôi dæŋ**

ゆっくり 歩く : そろそろ歩く

e. **khôi tham khôi pay**

… する -- 行く : ぼちぼちやっっていく

f. **khôi pen khôi pay**

-- [可] - 行く : 少しずつ習い憶えながらやっっていく

g. **khôi-khôi khít khôi-khôi tham**

-- 考える -- する : ゆっくり考えてそろそろやっっていく

一般に副詞句は動詞に後置されるが、(3b),(3d)のように動詞句に前置され (khôiV1khôiV2) 形で「ぼちぼち V していく」という意味になる。/khôi/を重ねて配置することもある。

一般に「上声」の重ね型では、中国語と同じように第一番目の語は「高声」として発声されやすく、また二番目の語にくらべてやや短めに発声されるのが特徴である。従って、最初の語よりは後の語に強勢が置かれる傾向がある。重ね言葉にはこうした音声学的な特徴があり、興味が持たれるが、本章では詳しく立ち入らない<sup>2)</sup>。

## 2.2 名詞の重ね言葉、繰返し語

同一名詞を重ねると、「友達⇒仲間たち」、「子供⇒ほんの子供」のように、その名詞のあらゆる数量、集団が複数であることを表したり、属性を強調したりする働きがある。以下では名詞に準ずる成分の重ね言葉も含む。

(4) tɔɔn dɛk-dɛk yàak-ca pen nàk-kiilaa.

頃 子供 [願] COPU スポーツ選手

(小さい) 子どもの頃はスポーツ選手になりたかったです。

(5) a. khrúan-khian tàan-tàan

文房具 種々の

: さまざまな文房具

b. chûam ra?wàan muan . tàan-tàan

結ぶ 間 町 種々の

: 町(と町)の間を結ぶ。

(6) a. plùuk dɔ̀ɔkmáay khâŋ-khâŋ pratuu-nâa

植える 花 近く 門 前

: 玄関の前のそばに花を植える。

b. khâŋ-khâŋ mii khon nâŋ léew khâ

そば ある 人 座る PREP FPP

隣にもう座っている人がいる。

以下は対象の複数を強調した語例である。

(7) a. thúk-thúk khon 各人

b. dèk-dèk, lúuk-lúuk 子ども達

c. phúan-phúan 友人達 ( 複数と同時に「親友」の意味もある)

d. nùm-nùm sǎaw-sǎaw

若い(男性) 若い(女性) : 若い連中 (/nùm/は若い男性、/sǎaw/は若い女性)

## 2.3 形容詞の重ね言葉、繰返し語

形容詞を重ねると、絶対普遍的な性質、属性を表す。つまり、単に「面白い話」ではなく、「(誰が聞いても)面白い話」のような価値が加わり、一般にその属性の程度が高いことをあらわす。たとえば、次の例では単に「高いビル」ではなく「高層ビル」という固定した意味になる。「赤い」「地味な」はそれぞれ「赤っぽい」「地味っぽい」といった話し手の主観や感情をともなった意味になる。

(8) *mũa-kòon rót kôo mây khôy mii, túk sũuŋ-sũuŋ kôo mây khôy mii.*

以前 車 も NEG 余り ある ビル -高い も NEG 余り ある  
以前は車もあまりなかったし、高層ビルもあまりなかった。

(9) *dichăn chỏp sũ riap-rũap.*

PRO 好きだ 色 地味な  
私は地味な色が好きです。

(10) *kháw mák-ca khuy rũaŋ talòk-talòk*

PRO がちだ 喋る 話 面白い  
彼はよく面白い話をする。

(11) *kháw sáy sũa sũ dæŋ-dæŋ*

PRO 着る 服 色 赤  
彼は赤いシャツを着ている。(目立つような赤色、原色の赤)

(12) *khon-thay mây chỏp rót cũut-cũut, chỏp càt-càt*

タイ人 NEG 好む 味 淡白な 好む 濃い  
タイ人は淡白な味を好まない。濃い味を好む。

#### 2.4 副詞の強調、形容詞の副詞化、

動詞に後置して、その語彙の持つ意味を臨場的に高める働きがある。2.1〈思考表現のキーワード〉として挙げた3語以外に、使用頻度の高いものをみていく。

(13) a. *phũut baw-baw* : 静かに話す

b. *dæŋ baw-baw* : そっと／静かに歩く

/baw-baw/は「静かに」「そっと」という意味で動詞に後置される。形容詞の副詞化では疊語形式が一般に使用される。

(14) *tæŋkwaa hàn baŋ-baŋ ná.*

キュウリ 切る 薄い ね : キュウリは薄く切ってくださいね。

(15) *maa sãy bởy bởy*

来る 遅れる しょっちゅう : しょっちゅう遅刻する。

一般にタイ語では形容詞と副詞の区別は文中の位置によって決定されるが、疊語構造によってより様態・状態修飾の職能を高めることになる。形容詞の副詞的用法は最も日常的用法で、以下は頻出語の一部である。一般に動詞句の後に置かれる。

(16) *phũut daŋ-daŋ nõy.*

話す 大きい 少し  
少し大きい声で話してください。

(17) *tỏŋ rawàŋ dii-dii.*

[義] 注意する よく

よく注意しないとよくない。(よく > よい)

(18) a. phǒm hây kháw kláp bân rew-rew.

PRO CAUS PRO 帰る 家 速く

私は彼を早く家に帰らせた。

b. nǒn yǎʔ-yǎʔ ca dáy hǎay rew-rew.

寝る 沢山 FUT 得る 治る 早く

沢山寝て。そうすれば早くよくなるから。(早く > 早い)

(19) sǎa weelaa plǎw-plǎaw

費やす 時間 無駄な

: 無駄な時間を費やす

(20) rǒt càt-càt/cuūt-cuūt

味 濃い/薄い

: 味が(ひととき) 濃い/ 薄い・ 淡白だ。

(21) a. bia yen-yen

ビール 冷たい

: ギンギンに冷えたビール

b. cay yen-yen !

心 冷たい

: 落ち着いて! (常套句)

(22) yùu kláiy-klây/klay-klay

いる 近い/遠い

: 近く(近隣)/ 遠く(遠方)にいる。

(23) phûut troŋ-troŋ

話す 真つすぐ

: 直接言う。

(24) mii ŋaan mák-mâak

ある 仕事 沢山

: 仕事が沢山ある。

(25) thaan tǒn rǒn-rǒn arǒy kwàa

食べる 頃 熱い 美味しい もっと

: 熱いうちに食べたほうが美味しい。

(26) mii khon-yiipùn raw-raaw 10 khon.

ある 日本人 大体 10 CL

: 日本人がだいたい10人いる。

(27) cǎp muu nĕn-nĕn

握る 手 しっかり

: きつく手を握る

(28) phǒm yùt ŋaan naan-naan mây pen khráp.

PRO 休む 仕事 長く NEG [可] MPP

(そんなに) 長くは仕事を休めません。

形容詞/naan/「長い」が動詞句/yùt ŋaan/「仕事を休む」に後置され、副詞化するとともに「そんなに長く」という強調をあらわす。このほか頻出度の高い重ね言葉を挙げる。

(29) a. nâa-duu ciŋ-ciŋ 本当に可愛い (本当に > 本当の)

b. tùuun cháw-cháaw 朝早く起きる (朝早く > 朝早い)

- c. nɔɔn dɔ̀ɩk-dɔ̀ɩk 夜遅く寝る (夜遅く>夜遅い)  
 d. phũut rew-rew/cháa-cháa 速く/ゆっくり話す (ゆっくり>ゆっくりした)  
 e. sày phákhii yǎʔ-yǎʔ? バクチーをたくさん入れる (沢山>多い)  
 f. chũay nũat rɛɛŋ-rɛɛŋ nõɔy 少し強く揉んでください。(強く>強い)  
 g. bɔ̀ɔk nɛɛ-nɛɛ. 確かに言う。(確かに>確かな)  
 h. 2 chũamoɔŋ sɛ̀t-sɛ̀t 2時間余 (余分な>余りの)

次は「辛い」が「辛いもの」、「暇な」が「暇な時」のように名詞化した用法である。

(30) a. mây chɔ̀ɔp phèt-phèt

NEG 好き 辛い : 辛いものは嫌いだ。

b. wáaŋ-wáaŋ chɔ̀ɔp tham aray?

暇な 好き する 何 : 暇なとき何をしています？

2.5 不定語の反復

「だれ」「いつ」「どのように」といった不定語を反復させ、さらにこれらを/kɔ̀ɔ/で受ける  
 と「だれでも」「いつでも」「どうしても」といった、不特定かつ無条件の対象を表す。

(31) a. khray-khray kɔ̀ɔ hũaŋ-yoo lũuk tuaeɛŋ.

誰 も 心配する 子 自分の : 誰でも我が子が心配だ。

b. aray-aray kɔ̀ɔ chɔ̀ɔp

何 も 好きだ : 何でも好きだ。

c. thũrian hɔ̀ɔm khray-khray kɔ̀ɔ yàak thaan.

ドリアン 香がいい 誰でも も [願] 食べる

ドリアンはいい香りだからだれでも食べたくなる。

d. nãŋsũuu lɛ̀m-nĩ thũi-nãŋ thũi-nãŋ kɔ̀ɔ mii khãay.

本 CL-この どこ も ある 売る

この本はどこでも売っている。

e. ráan-nĩ aray-aray kɔ̀ɔ arɔ̀y.

店-この 何 も 美味しい : この店は何でも美味しい。

f. mũaray-mũaray kɔ̀ɔ mây wáaŋ.

いつ も NEG 暇な : いつでも暇なためしがない。

g. yaŋŋay-yaŋŋay kɔ̀ɔ tɔ̀ŋ pay

どうしても も [義] 行く : どうしても行かねばなりません。

h. nãŋ-nãŋ kɔ̀ɔ maa thũŋ yĩpũn lɛ̀ew ...

どれ も 来る迄 日本 PERF : とにかく日本に来たんだから、...



### 3. 構文的な反復形式の諸例

特定の語が反復されるほかに、句文そのものが繰り返される場合がある。二語構成による短文がほとんどであるが、たとえば次のような気づかせ、指示の用法である。

(32) *tii læy tii læy*

殴る 全く 殴る 全く : なぐってしまえ!

繰り返すことでもとの二語文よりも主張が強くなり、語気も強まる。これは日本語でも「殴れ殴れ!」のようにけしかける言い方に共通したものである。ここで注意しておきたいのは、反復してあらわれる現象でも、たとえば、次の/*hây*/のように、それぞれの語の構文的機能が異なっていれば反復とはみなされない点である。いずれも「(人)に~してもらう/させる」という授受・使役表現にあらわれる。

(33) *nisaa hây(1) khăw thamŋaan bân hây(2).*

ニサー -- PRO 働く 家 --

ニサーは(自分のために)彼女に家事をしてもらった。

(34) *khăw hây(1) phôm pay súuu yaa hây(2) phúan.*

PRO -- PRO 行く 買う 薬 -- 友達

彼は友達のために私に薬を買いに行かせた。

最初の/*hây*/(1) は使役の意味で、後の/*hây*/(2)は与格「のために」「に対して」の機能を有する。以下では使用頻度の高い反復形式を用例とともにあげる。

#### 3.1 <…*bâaŋ*, …*bâaŋ*> と <*baaŋ*…, *baaŋ*…>

複数の動作行為を列挙させ、常態をあらわす。日本語の「~たり~たり」に相応する並列表現である。/*bâaŋ*/はそれぞれの節に後置される。

(35) a. *duu thoorathát bâaŋ phûut khuy kâp phúan-phúan bâaŋ.*

見る テレビ -- 話す 語ると 友達 --

テレビを見たり友達と話したりします。

b. *wan-níi yûŋ thánwan thàay èekkasáan bâaŋ phim ŋaan bâaŋ*

今日 忙しい 一日中 写す 書類 -- 打つ 仕事 --

コピーをとったりワープロを打ったり今日は一日中忙しかった。

/*bâaŋ*/の前接は対立語であったり類似語であったり否定語がおかれたりする。なお/*bâaŋ*/のあとに名詞をとともなわずに/*kôo*/を用いて複数の不定代名詞となる場合がある。

(36) a. *khon·raw bâaŋ kôo dii bâaŋ kôo chûa*

人·PRO -- いい -- 悪い

我々人間にはいい者もいれば悪い者もいる。

b. **nákrian thánlăay bāaŋ kǎw kin bāaŋ kǎw lén.**

生徒 すべて --- 食べる --- 遊ぶ

生徒たちは食べているものもあれば、遊んでいるものもある。

(生徒たちは食べたり遊んだりしている)

一方、声調が異なり、名詞に前接する/bāaŋ/は節の反復で、英語の/some/の意味をあらわしながら名詞の動態を対比させる。対比の対象は人、時間、物事など多様である。三人称分割代名詞、先に集合体の主語を出し、それをいくつかのグループに分割している。「～もれば～も」のように訳されるが、「～たり～たり」に言い替えが可能である。

(37) a. **bāaŋ-wan khăay dii bāaŋ-wan khăay mây dii**

ある-日 売る いい ある-日 売る NEG いい

よく売れる日もあれば、売れない日もある。

b. **bāaŋ-pii himá tòk nàk bāaŋ-pii mây tòk ləəy.**

ある-年 雪 降る 多い ある-年 NEG 降る 全然

雪がたくさん降る年があるかと思えばまったく降らない年もある。

c. **khon-thay bāaŋ-khon chōp thaan phét bāaŋ-khon mây chōp.**

タイ人 ある-人 好き 食べる 辛い ある-人 NEG 好き

タイ人のなかには辛いのが好きな人がいれば嫌いな人もいる。

d. **khon-Thay bāaŋ-khon ruay bāaŋ-khon con.**

タイ人 ある-人 裕福 ある-人 貧乏な

タイ人には金持ちもいれば貧乏人もいる。

e. **khon-yìpùn bāaŋ-khon rúucàk muaŋthay bāaŋ-khon mây rúucàk.**

日本人 ある-人 知る タイ国 ある-人 NEG 知る

日本人のなかにはタイをよく知っている人もいれば知らない人もいる。

「タイ人」、「日本人」をまず文頭におき、その内部分類を行うこともある。直訳すれば「ある日は～、ある日は～」であるが、日本語では「～し～し」、「～ば～も」、「～かと思えば～も」などのように訳される。肯定・否定の列挙も多く見られる。

### 3.2 <điaw… đīaw…>

「すぐに」という単語を反対語の前にそれぞれ置かれ、「～たり～たり」の意味を表す。前述の〈…bāaŋ…bāaŋ〉とくらべて話し手の感情がより強調される。動詞のほか名詞、形容詞なども制約がない。肯定・否定の列挙も多く見られる。

(38) a. **khon-níi plèek caŋ cəw chǎn đīaw thák đīaw mây thák.**

人-この 不思議 凄く 会う 私 -- 挨拶する - NEG 挨拶する

: この人は変な人だ、私に会っても挨拶する時もあればしない時もある。

b. aakàat mây khôy dii **điaw năaw đđiaw rónn.**

気候 NEG 余り いい -- 寒い -- 暑い

: 気候があまりよくない、寒かったり暑かたりします。

c. fayduan ní **đđiaw tit đđiaw đáp.**

電球 この -- 点く -- 消える

: この電球は点いたり消えたりしている。

d. borisát ní **đđiaw khon-nán khăw đđiaw khon-nú òk thán-pii.**

会社 この -- 人-その 入る -- 人-この 出る 一年中

: この会社は一年中人が入ったり辞めたりする。(人の出入りが激しい)

「その人」、「この人」のように指示詞を対比的に用いているところが面白い。

e. khăw mây sabaay thán-pii **đđiaw pen-wát đđiaw pùat thónn.**

彼 NEG 元気だ 一年中 -- 風邪を引く -- 痛い お腹

: 彼は年中病気です。風邪を引いたり腹をこわしたりします。

f. **đđiaw rónnhây đđiaw hũa?ró**

-- 泣く -- 笑う : 泣いたかと思えばまた笑う。

g. **đđiaw thũ-nũ đđiaw thũ-nân**

-- ここ -- あそこ/そこ : ここかと思えばまたあちら

なお、単純に二つの動詞をそれぞれ重ねて用いると「～たり～たり」の言い方になるが、口語的な用法で、日常動作をあらわすものに限られるようである。

(39) kin-kin nónn-nónn

食べる 寝る : 食べたり寝たり、食っちゃあ寝食っちゃあ寝

### 3.3 〈…đđiay…đđiay〉

動詞にも形容詞にも後接し、「～でもあり～でもある」「～くもあり～くもある」「～て～する」のように並列、列挙による常態をあらわす。

(40) a. sũuđ đđiay phỏm đđiay

背が高い 一緒に 痩せる 一緒に : 背が高くもあり痩せてもいる。

b. kin đđiay khuy đđiay

食べる 一緒に 喋る 一緒に : 食べて話す。

### 3.4. 〈VpayVpay〉

/pay/は移動動詞として、また方向動詞としてタイ語の動詞のなかでも形式的機能的な特徴をもつ。この/pay/を繰り返して「～しながら～する」というように、複数の動作を同様に行うことをあらわす。日本語ではナガラ節に相当する。語順では前句が附帯状況をあら

わす。動詞本来の移動をあらわす「行く」が抽象化したものである種の漸進性を表す。

(41) a. *phôm khàp rôt pay faŋ wíthayú pay.*

私 運転する 車 -- 聴く ラジオ --

: 私は運転しながらラジオを聴く。

b. *khão thamŋnaa pay rian nãŋsũuu pay.*

彼 働く -- 学ぶ 本 --

: 彼は働きながら学校へ通った。

c. *khon-Yiipùn mây chòp khon dæŋ pay kin pay.*

日本人 NEG 好き 人 歩く -- 食べる --

: 日本人は歩きながら食べる人が好きではない。

d. *kaan khàp rôt pay moonj khâŋ thaŋ pay nán antharaay*

こと 運転する 車 行く 見る 方向 行く それ 危険

: よそ見しながら運転するのは危険です。

e. *weelaa wâŋ kháo chòp àan nãŋsũuu pay faŋ wíthayú pay*

時 暇な 彼 好き 読む 本 -- 聴く ラジオ --

: 暇なときは彼はよくラジオを聴きながら本を読む。

日本語の「ナガラ」に相当する附帯様態修飾では次のように〈*phróom kàp...dúay*〉でも表されるが、/pay/の連用のほうが同時的かつ眼前描写的で会話に頻用される傾向がある。

(42) *mêe kamlaj triam aahãan-yen phróom kàp han phleŋ pay dúay*

母 ている 支度する 夕食 揃って と 鼻歌で歌う 歌 行く 一緒に

: 母は鼻歌を歌いながら夕飯の支度をしている。

### 3.5 〈kôo〉の反復用法

/kôo/はタイ語の機能語のなかで最も頻出度の高いもので、日本語の「モ」のような累加をあらわしたり、単に前接前句をうけて後節後句も成立する状態を明示したりする相関的な意味を表す。以下、代表的な反復形式について意味機能を述べる。

〈*...kôo dii...kôo dii*〉は「～であれ～であれ」「～でもいいし～でもいい」というように無条件の資格、立場をあらわし、前提句として結果が一律であることを要請する。

(43) a. *phûu-chaay kôo dii phûu-yin kôo dii,...*

男性 ... 女性 ... : 男性であれ女性であれ、...

b. *maa kôo dii mây maa kôo dii*

来る ... NEG. 来る ... : 来てもいいし来なくてもいい。

c. *bidaa kôo dii maaradaa kôo dii yôm rák bùt.*

父親 ... 母親 ... 敬えて 愛する 息子

: 父親であろうと母親であろうと息子が当然可愛い。

〈…kǎw dâj …kǎw dâj〉「～もできるし～もできる、～もいいし、～もいい」といった複数の事態の可能、許容の態度をあらわす。動詞句、名詞句に後置される。

(44) a. ca dæ̀n pay kǎw dâj ca nâj rôt túk-túk pay kǎw dâj

FUT 歩く 行く も できる 乗る 三輪車 行く も 出来る  
 歩いて行ってもいいしトウクトウクで行ってもよい。

b. wan-ní kǎw dâj phrû̀n-ní kǎw dâj

今日 も 出来る 明日 も 出来る  
 今日でもいいし明日でもいいです。

〈…kǎw chà̀n…kǎw chà̀n〉は「～ても～てもどちらでもかまわない」という意味である。後句には同様に否定句が多くあらわれる。タイ語では語呂をあわせたり語数をあわせたりする習慣が見られるが、この形式もよくその特徴をあらわしている。

(45) a. thǔ̀ng kǎw chà̀n mây thǔ̀ng kǎw chà̀n

着く …… NEG 着く ……  
 着こうが着くまいがどっちでもかまわない。

b. kǎw ca tham kǎw chà̀n, mây tham kǎw chà̀n kǎw.

PRO FUT する …… NEG する …… 彼  
 彼がしょうがしまいが放っておけ。

### 3.6 /pay/と/maa/の慣用的反復

移動動詞/pay/「行く」は/maa/「来る」と併用して様々な慣用表現をつくる。(46)の/pay-pay maa-maa/では文字通り「行ったり来たり」のほか「結局」の意味もある。あとに/kǎw/をもなうことが多い。(46b)は文副詞として、文全体にかかる慣用句。

(46) a. kǎw pay-pay maa-maa rawà̀n muang-Thay kàp Yì̀pùn.

彼 行く 来る 間 タイ と 日本  
 彼は日本とタイの間を行ったり来たりしている。

b. pay-pay maa-maa kǎw tǔ̀ng maa khǎw nǔ̀ng phǎw chá̀y.

結局 も [義] 来る 貰う お金 使う  
 結局は父のところへお金をねだりに行かねばならない。

(47) a. troj pay troj maa

まっすぐ 行く まっすぐ 来る : 率直に (言って)、…

b. pay wát pay waa dǎy. [慣]

行く 寺 行く 出来る : 人前に出してもそう恥ずかしくない器量の

c. pay-nǎy maa-nǎy

- 行く どこ 来る どこ : あちこち行く
- d. ca pay nây khǎw pay dūay.  
FUT 行く 貰う 行く 一緒に : どこへ行くにも一緒に行かせて。
- e. maa dūay-kan pay dūay-kan  
来る 一緒に 行く 一緒に : 一緒に来たからには一緒に行く。
- f. kin pay-pay chák-chôp.  
食べる 行く 好きな : 食べているうちに好きになる。
- g. pay dii maa dii [慣]  
行く いい 来る いい : 道中気をつけて。
- h. riip pay riip maa [慣]  
急ぐ 行く 急ぐ 来る : さっさと行ってさっさと帰っておいで。
- i. pay laa maa wāay [慣]  
行く 去る 来る 拜む : 行き去る来るも拜め。いつも敬意を払う。

〈VpayVmaa〉で「あれこれVする」という言い方になる。既述の「～たり～たりする」の言い方に近い。(49)は〈VkǎwV〉形式で、語彙的かつ構文的な性格をもち、さまざま考えたすえに意志決定する、一種の決断表現として用いられる。

(48) khít-pay khít-maa

考える 行く 考える 来る : あれこれ考える

(49) pay kǎw pay

行く - 行く : 行こう。(交渉の末、まあ、行くとしよう)

### 3.7 頻度をあらわす言い方

習慣的に「あること」が必然的に別の「あること」を引き起こす場合、/thii-ray/と/thúk-thii/を前後に配置してあらわす。音韻的な対比とともに反復される頻度を表す。日本語では「～たびに」「～都度」「～ときまって」「～するときはずっと」などの言い方になる。

(50) a. thii Krunthéep fǎn tòk thii-ray nám-thuam thúk-thii.

で バンコク 雨 降る いつも 洪水になる いつも

バンコクでは雨が降るたびに洪水になる。(雨が降ったらいつも～)

b. aa?kǎat náao thii-ray chǎn pen-wát thúk-thii.

気候 寒い いつも 私 風邪を引く いつも

寒くなると私はいつも風邪を引きます。

c. chǎn thaan tǎmyam-kûn thii-ray pùat thǎon thúk-thii.

私 食べる トムヤムクン いつも 痛い 腹 毎回

私はトムヤムクンを食べるときまってお腹をこわします。

d. khun-Maana pen khon khayǎn chǎn cǎo kháo thii-ray

マーナさん COUP 人 勤勉な 私 会う 彼 ---

**kháw àan nàpsūuu thúk-thii**

彼 読む 本 毎回

マーナさんは勤勉な人で彼を見かけるときはいつも本を読んでいる。

e. faj phleeŋ nán **thū-ray khít-thǔŋ** kháw **thúk-thii**

聴く 歌 その -- 懐かしむ 彼 毎回

その歌を聞くといつも彼女のことを想う。

f. phǒm thoo-pay-hǎa khǎw **thū-ray** khun-phǒo khǎw rǎp **thúk-thii**.

私 電話をかける 彼女 いつも 父親 彼女 とる 毎回

僕が彼女に電話をかけるといつも彼女の父親が出て来る。

注意しておきたいのは頻度とともに傾向という事象である。日本語の「～がちだ」「よく～する」という意味をあらわす/mák-ca/は行為、動作、状態の習慣や傾向をあらわす。反復とは性質が異なる。

### 3.8 〈yīŋ…yīŋ…〉 比例をあらわす言い方

中国語の「越来越～」（～であればあるほど、～すればするほど）に類似した言い方で、片方の程度に応じてもう一方の程度も変化するという意味をあらわす。動詞や形容詞、または文に前置する。反復をもって程度の変化、比例の状況を表す。後項の/yīŋ/の前に/kǎo/をとともなうと程度の強調をあらわす。

(51) a. yīŋ tham yīŋ buà

-- する -- 飽きる : すればするほど飽きる

b. phaasǎa-Yiipùn yīŋ rian yīŋ nǎa-bùa.

日本語 -- 学ぶ -- 飽きる

: 日本語は勉強すればするほどつまらない。

c. yīŋ sūay kǎo yīŋ dii

-- 美しい も -- いい : 美しければ美しいほどいい。

d. nǎŋ rúatŋ-níi yīŋ duu yīŋ sanùk.

映画 CLこの -- 見る -- 面白い : この映画は見れば見るほど面白い。

e. phleeŋ níi chǎn yīŋ faj yīŋ chǒp.

歌 この 私 -- 聴く -- 好き

この歌は聴けば聴くほどもっと好きになる。

f. khǒŋ yàatŋ-níi yīŋ kào yīŋ mii khǎa.

もの こんな -- 古い -- ある 価値

このようなものは古ければ古いほど価値が出る。

g. yīŋ khún raakhaa yīŋ khǎay dii

-- 上げる 値段 - 売る よく

値上げをすればするほどよく売れる。

### 3.9 四語構成による慣用句的用法

繰返し語には二番目の言葉（多くが身体語）を類似的なもので並べたりすることも多く、慣用句として用いられることも少なくない。中国語の四字成句にも似た語構成、意味的な仕組みである。

(52) a. **khôm nâa khôm taa**

屈む 顔 屈む 目 : わき目もふらずに

b. **dây nâa dây taa**

得る 顔 得る 目 : 顔が立つ、自慢になる

c. **thùuk ?òk thùuk cay**

当たる 胸 当たる 心 : 気に入る

### 3.10 その他の重ね言葉

比較に類した表現では慣用的に重ね言葉がこのまれる。

(53) a. **phəw-phəw kan** だいたい同じ

b. **khláay-khláay kan** よく似ている

c. **thāw-thāw kan** だいたい等しい

呼びかけ語、罵語などには気づかせのため、繰り返されるケースが多い。

(54) a. **dīaw-dīaw** ちょっと待って！

b. **nóŋ-nóŋ** 呼びかけ語「お姉さん！」「店員さん！」

c. **bāa-bāa bəw-bəw** 馬鹿げている、狂っている、アホな

/tháy/は〈tháy X lé Y〉で「AもBも」という列挙を表すが、類義の動詞に前置して「～にも～にも」という意味を表す。

(55) **tháy kin tháy thīao sīa nən màak**

-- 食べる -- 遊ぶ 使う 金 沢山

: 食事をするにも遊ぶにもお金がかかります。

## 4. 実例による観察(1)

以下、スワンニー・スコンターの短篇「帰らぬあの日」（タイ語題、mây mii wan-nán）にあらわれた重ね言葉、反復表現をみてみよう<sup>3)</sup>。

/?úum-?úum/は使用頻度の高い語のひとつで、複数の他者存在をあらわす。



(56) lé? khon-?úun-?úun nay khrōp-khrua kō khōj ca khít chên-diao-kan.

と 他者 の 家族 も だろう FUT 考える 同じ  
家族の他の者もきっと同じように考えていたに違いない。

(57) tēe raw kō mii phiang máa núng tua lé? sàt-líaj ?úun-?úun.

が 我々 も ある だけ 馬 1 CL と 家畜 他の  
だが実際に家で飼っていたのは、わずかに一頭の馬と他の家畜、それだけだった。

(58) raw mák khūt boriween nán háy lúik kwàa tōon ?úun-?úun.

我々 がち 掘る 一帯 その CAUS 深い より 頃 他  
たいていの場合、その周辺を他の地点より深く掘っておく。

以下、小説の実例にそって重ね言葉をみていく。

(59) rōp-rōp bān khōj raw mii yaa khíaw ùdom.

周囲 家 の 我々 ある 草 緑 豊かな  
私たちの家の周囲には青々と繁る草がふんだんにあった。

/rōp-rōp/は「周囲、一帯」の意味だが、広いイメージをあらわす。また、次の例では名詞/chúamooj/ (時間) を重ねて、「何時間も」という副詞修飾句になる。

(60) kaan fāw-khōy man dūay weelaa náp **chúamooj-chúamooj**

こと 見守る 奴 で 時間 数える 何時間も

thamhāy chǎn khít fǎn pay klay mây mii thīi-sīn-sút.

CAUS 私 考える 夢 行く 遠い NEG ある 果て

馬の様子をじっと見守っていると、時間のことなどすっかり忘れてしまうほどだった。はるか彼方の夢の世界に誘われてしまうのだ。

次は形容詞の重ね言葉の諸例である。

(61) dōk cha?nít nīi phiang-tēe lom phat **rēj-rēj** kō aat chám dāy.

花 種類 この だけ 風 吹く 強い も だろう だめになる 出来る

この種の花は強い風にあたるだけで、すっかりだめになってしまうこともある。

(62) tham khàn-banday hīn **yāap-yāap**.

作る 階段 石 粗い

粗い石を使って階段を作っていた。(粗っぽい)

(63) lé? troj-nīi eej thīi mii malēj-pō **sūay-sūay chūk-chum**

と ここ 正に COMP ある 蜻蛉 美しい 夥しい

ここ、まさにこの地である。きれいな色の蜻蛉が群がっていたのは。

(64) chǎn yàak-dāy máa tua mia phró yàak-dāy máa **lék-lék**.

私 欲しい 馬 CL 雌の から 欲しい 馬 小さい

私だって、どんなに雌馬が欲しかったことか。しかし、私の場合、それは可愛い仔馬に限られていた。

(65) **chǎn yàak-dây aray-aray ?iik róoy-pěet.**

私 欲しい 何でも まだ たくさん

のどから手が出るほど欲しいものは、他にもたんとあった。

(66) **têe mây khəyây dâay aray ləy nōkcaak khwaamfǎn lom-lom léey-léey thii**

が NEG[経] 得る 何 全く 以外 夢 ふんわりとした COMP

ca khít ao sák thāoray kōo dâay.

FUT 考える 取る ばかり いくら も 出来る

だが、ひとつとして現実に手にすることはできなかつたただ、何度心に描こうと、その都度自分のものにできる、ふんわり浮かぶ夢をのぞいては。

lom-lom léey-léeyは「幻の、空言の」という意味の慣用句である。

(67) **têe phōo bōok wāa máa man chōp wīŋ mâak kwàa ca yùu chǎy-chǎy.**

が 父 言う COMP 馬 奴 好き 走る 沢山 より FUT いる じっとして

しかし、父はキイオウはじっと静かにしているより、戸外で走り回る方がはるかに好きだ、と言うのだった。

(68) **man chōp thāw-thāw kàp yāa òon tēe kōo tōŋ sūuu.**

奴 好き 同様に と 草 柔らかい が も [義] 買う

やわらかい草と同様、これまた大好物だった。しかし、こちらのほうは、お金を出して買って来なければならなかつた。

(69) **ciŋ yùu thūŋ mēe-wāa ca khəyây wəp-wəp khāo maa bāaŋ nay baaŋ-khrāj.**

最も いる 迄 たとえ FUT [経] 微かに 入る 来る 幾らか に 時折

もつともそのことが時折ちらつと私の脳裏を掠めたことがなかつた訳ではない。

(70) **man yaŋ tít yùu nay sùn lúuk-lúuk nay samōŋ yùu con krathāŋ bāt-nii.**

それらまだ 残る いる に 部分 深い 中 脳裏 いる まで 現在

これらの言葉は今もなお、私の記憶の奥底に残っている。

(71) **talōt con-krathāŋ mún thii cháŋ kaŋ-nōon thúk-yàaŋ**

ずっと まで 蚊帳 開 使う 寝る どれでも

pen sǐi-khǐi máa tùun-tùun.

COPU 色 糞 馬 濁る

どれをとってみても、あらゆるものが馬の糞のような濁った色だった。

(72) **thahāan phūak-nii kin yùu kan yàaŋ ŋāy-ŋāy mii rabiap wīnāy sūŋ**

軍人 団この 食う いる 一緒に ように 簡単な ある 規律 高い

軍人たちは、たいへん簡素で規律ある生活を送っていた。

(73) **mii máa phon-dəen-thāw lé rótyon-banthúk khan-yàŋ-yàŋ**

ある 馬 歩兵 と 車 運ぶ 台 大きい

馬もいた。歩兵たちもいた。大きな輸送トラックもあった。

(74) thahāan lāw-nán bàat-cèp lé? phoom-soo pen farəŋ hūa dɛŋ-dɛŋ

兵士 奴らその 怪我する と 瘦せる 頭 赤い

suan-mâak mây-chây Yüipùn.

大部分 ではない 日本

負傷兵や身体がげっそりやせ衰えた兵隊たちだった。もっとも紅毛の西洋人で大部分は日本人ではなかった。

(75) mây-wāa ca thahāan chāt day kō duu kapalòk kaplīa

であれ FUT 兵士 国 どの も らしい 弱る

lé? òn reŋ phəw-phəw kan

と 弱る 力 十分に 互いに

どの国の兵であろうと、みなすっかり衰弱していることに変わりはなかった。

「弱る」は韻を踏んだ形容詞類語の重ね言葉になっている。重ね言葉の一種である。動詞の反復をいくつかの事例でみてみよう。

(76) rəem mii máa lé? thahāan dæm pay thaŋ thit-tawan-tòk dæm lé? dæm

始まる ある 馬 と 軍人 歩く 行く 方向 西 歩く と 歩く

馬と軍は西の方へ進み始めた。徒歩、徒歩、とにかく歩きに歩いていた。

(77) mây mii khraŋ ləy thii ca dæm yóon kləp maa mii tɛɛ pay ...lé? pay

NEG ある 誰 全く REL FUT 歩く 引き返す 帰る 来る ある だけ 行く と 行く

こちらに歩みを戻して来る者などひとりもいなかった。みなただ前進、前進のみだった。

/dæm/「歩く」, /pay/「行く」を /lé?/「そして」を介して繰り返すことで、日本語の反復形式である<V = V>（歩きに歩く、ただ前進のみ）という継続をあらわす。

不定語の反復をいくつか瞥見する。

(78) mây mii yüipùn nay sūn lé thū-nây thū-nây ?ik tòɔ pay.

NEG ある 日本 に 庭 と どこ どこ あと 続ける 行く

庭にも、そしてどの場所にも、もはや日本軍はいなかった。

(79) tɛɛ-la-wan mây khəy mii ay-khiaw...rüu maa tua nây-nây

いずれの 日 NEG [経] ある キイオウ または CL どの

何れの日も、キイオウの、いや馬という馬の姿は一頭も目にはなかった。

(80) chān fāw khít chēn-nán sám-léɔ sám-lāw.

私 見守る 思う このように 何度も何度も

私は心の中で、何度も何度も問いかけてみた。

(80)は反復、頻度を強調する慣用句である。

### 5. 実例による観察(2)

以下、ウィタヤコン・チエンクンの短篇「いつもとは違った日」(タイ語原題「mũan yaj m̄ay khəy」直訳:「いまだかつてなく」)にあらわれた反復表現を観察してみよう<sup>4)</sup>。

まず、形容詞の反復をみしてみる。

(81) maa phrɔ̄m kàp s̄iəŋ-phleeŋ sũŋ-sũŋ tàm-tàm sũŋ krathêk-krathán

来る 揃って と 歌 高い 低い COMP がなりたてる

raaw kàp kàet càak kaan kradɔ̄n

恰も と 生じる から こと でこぼこの

まるでこぼこ道のせいでもあるかのような調子っぱずれの歌をがなりたてながらやってきたのだった。

/sũŋ-sũŋ tàm-tàm/の形容詞「高い」「低い」をAABBのように繰り返すことで「調子はずれ」の様子をあらわしている。

(82) khăw rɔ̄n prayòok nán sám-kan pay sám-kan maa d̄uay ...

彼ら 歌う 文 その 繰返し で

彼らは何度も何度もこう叫び立てていた。

/sám-kan pay sám-kan maa/は/pay/と/maa/を配置した慣用的な熟語で、「繰返し」「何度も」の意味である。「似る」を「似通った」のように、意外さを強調した表現になっている。

(83) t̄eŋ tua kaankeŋ khláay-khláay kan

穿く 身 ズボン 似る 互いに

非常に似通ったズボンを穿き、…

(84) weelaa moŋ klay-klay ....

とき 見る 遠く

遠くから見たところでは、…

/klay-klay/は本来形容詞であったものを繰り返すことによって「遠く」のように名詞句として用いられている。

(85) kamlaŋ loŋ maa d̄əen yũut khêŋ yũut khāa phlaaŋ

ようとする 降りる 来る 歩く 伸ばす 手 伸ばす 足 も

kôo h̄an pay moŋ r̄ɔ̄p-r̄ɔ̄p yàaŋ sanòk-sòncay

も 見廻す 行く 見る 周囲 ように 面白い

車から降りてしまうと手足を伸ばしながらいかにも興味深そうに周囲を見回す…

「手足を伸ばす」では日本語では「手足」と纏めて言うが、タイ語では「手を伸ばし足を伸ばし」と分類して述べる。「周囲」も広い範囲をあらわすために繰り返され、「興味深そうに」という副詞句も韻をふんだ複合副詞句となっている。

(86) mây hěn mii aray nòk-càak thũn-naa an hêeŋ -léeŋ mùu-bàan kào-kào

NEG 見える ある 何 他は 田圃 CL 乾き切る 村 古い

khǒŋ phũak bàan thəə wát lèk-lèk ...

の たち 家 彼女 寺 小さい

今やすっかり乾ききった田圃以外は何も見当たらないのだから。彼女の住む村はもう古いものだし、寺は小さく、・・・

「古い」を重ねることによって「いかにも古びた」様子を、「小さい」を繰り返すことで「ちっぽけな」という過小評価をあらわしている。次例では不定詞/day/を重ねることで、「どんな質問でも」のように不特定の複数をあらわす。

(87) phǒu nán mây khəəy wàŋ phǒu sǎmráp kham-thǎam day-day thǎn-sín.

父 その NEG ことがある 暇な 十分に ための 質問 どんな すべて

父には、それがどんな質問であれ、答えてもらえるような暇がなく、...

(88) kəe kǒu yaŋ khǒŋ ɣók-ɣók ɣəən-ɣəən lé phũut mây khǒy patit-patǐt kan.

彼 も まだ だろう おどおどする と 話す NEG 余り 辻褄が合う

いまだにおどおどして、話の辻褄はあまり合っていないようだった。

「おどおどする」という動詞が韻を踏んで臨場感をあらわしている。「辻褄があう」も複数の行為を指して韻を踏んだ複合語となっている。次例では主人公をとりまく「大雑把な」情景の様子がとらえられている。

(89) thǒŋmúan faŋ dǎy khwaam phiaŋ lao-lao wáa ...

トーンムアン 聴く 得る こと 変わる だけ 大雑把な と

トーンムアンはそれでもごく大雑把ではあるが...ことだけは分かった。

不定詞/day/を重ねて「いかなる報酬をも」のように無条件を強調している。

(90) phũak-kháo pen phũu thũi yǒm sǎa salá maa thamjaan

彼ら COPU 人 COMP 容認する 犠牲にする 来る 働く

dooy mây dǎyráp siŋ tǒptheen day-day thǎn-nú

で NEG 得る こと 報酬 いかなる 全て-この

彼らが何の報酬も求めず、ただ自らを犠牲にして勤労奉仕にやってきたのだと...

次例は/néŋ-néŋ/「確かに」は助動詞/tǐŋ/とともに用いて確信をあらわす。

(91) kháo tǐŋ chalàat kwàa thúk-khon nay mùubàan néŋ-néŋ

PRO [義] 賢い より 各人 の 村 確かに

(あの人たちは) 確かにこの村の誰よりも聡明な連中に違いないのだから。

(92) hèn phưak-kháv waan muu càak ɲaan dæən kláp thii-phák kan pen klùm-klùm

見る 達-PRO 置く 手 から 仕事 歩く 帰る 宿舍 一緒に で 集団

彼らは作業を中断してそれぞれのグループ単位で宿舍に戻った。

複数の「グループ」を指して重ね言葉が用いられている。訳文では「それぞれの単位で」のように規律性もあらわしている。

(93) Thooɲmúan yuun ʔéɛp yùu troɲ mum múut-múut hèn-ɲuɲ.

トーンムアン 立つ 密かに いる 処 隅 真っ暗な CL-ある

トーンムアンは、隅の暗がりを選んで起ち、こっそりと彼らを眺めていた。

/múut/「暗い」を重ねることで「真っ暗な」「暗がりの」という臨場感を表している。

(94) phưak -kháv càp klùm kan rỏn phleeɲ léʔ mii kaan lalên tàaɲ-tàaɲ ...

達-PRO 作る 団 一緒に 歌う 歌 と ある こと 遊ぶ それぞれ

彼等はグループになって歌を合唱し、…ゲームばかりをあれこれやってゆき、…

(95) lảncàak thii kháo dáy hãa wíthii kaan lên plèk-plèk

後で REL PRO 得る 探す 方法 こと 遊ぶ 珍しい

con mây mii aray ca lên kan tòɔ pay ʔiik léɛw

まで NEG ある 何 FUT 遊ぶ 一緒に 繋ぐ 行く また PERF

それから彼等は思いつく限りの奇妙なゲームを次々とやりついに種切れになった。

/plèk-plèk/を単に「珍しい」とせず「思いつく限りの奇妙な」と訳されている。次の例では/phireen/を繰り返すことで「こんなにも風変わりな」という心理状態を表している。

(96) thooɲmúan dáy hèn kháv lên kan phireen-phireen sủɲ thamhây thỏ rúusủk thủɲ.

トーンムアン 得る 見る PRO 遊ぶ 一緒に 奇妙な COMP CAUS PRO 知る まで

彼女はこんな風変わりな遊びに打ち興じている彼らを見て面白いと思った。

(97) duu kháv chầaɲ pen khon chỏp phũut sĩa ciɲ-ciɲ...

見える PRO 何と COPU 人 好き 話す 終う 本当に

しかしまあ、なんと話し好きな男なのだろう。

最も頻出度の高い/ciɲ/を重ねて、/chầaɲ/「何と」という間投詞とともに用いている。

(98) kháv kỏ pỏet ooʔkàat hây khon-ʔủum-ʔủum khủm phũut báaɲ.

PRO も 開ける 機会 与える 人-他の なる 話す いくらか

彼は次の者に話をする機会を与えた。

/khon-ʔủum-ʔủum/は「次から次へと」のように複数の集団を表している。

(99) **kháw kôo khít-khít wáy mǔan kan tɛ̄ hɛ̄n wáa pen wan-rɛ̄k-rɛ̄k.**

PRO も 考える ておく 同じ 一緒に CONJ 見る COMP COPU 初日

彼自身もそう思っていたわけだが、今日はまあ初日だから…

動詞反復の典型で/khít-khít/で「そう思う」のように〈恒常性〉を表す。/rɛ̄k/を重ねることで、「初日でもあるし」のような話者の主観的気分を表している。(99)では/phúak/で複数をあらわしているが、「ほんの子供」という意味で重ね言葉を用いた。

(100) **phúak dèk-dèk mák ca pay khooy duu dūay wǎj wáa ca mii aray sanùk-sanùk**

達 子供 がち FUT 行く 待つ 見る で 望む COMP FUT ある 何 面白い

子どもたちはいずれそのうちに何か面白いこと、…と期待していたのだが、

(101) **pen aaʔkhaan prôŋ-prôŋ mii tɛ̄ lǎjkhāa mǎy mii fāa**

COPU 建物 空洞の ある だけ 屋根 NEG ある 壁

phúuun láat puun siimeen talòt.

床 敷く 粉 セメント 一面に

建物の内部はがらんどうで壁はなく、セメントを敷いた床の他に、…

(102) **rǔur-máy-kôo ʔaw phúak-súa-phāa léʔ náŋsúuu lém lék-lék maa cɛ̄k**

さもなくば 持つ 衣類 と 本 CL 小さい 来る 配る

:さもなくば衣類やポケットブックなどを配りに来てくれるだろう

(103) **khǎo aw klôŋ-tháay-rûup maa tháay kan yà y léʔ khray tǎo khray**

彼等 持つ カメラ 来る 写す 一緒に 大きい と 誰 繋ぐ 誰

yà y-tǎo-tǎo kôo maa chom-chəy kan...

大きい も 来る 褒める 一緒に

彼等はカメラを持って来てパチパチとシャッターを切り、偉そうな人が次々と現れては出来栄を褒めたたえた。……

/khray-tǎo-khray/で「人が次から次と」、/yà y-tǎo-tǎo/で「偉そうな(人)」という意味をあらわす。

(104) **phúak-dèk-dèk mák-ca pay khooy duu dūay wǎj wáa ca**

子供達 がちだ 行く 待つ 見る 一緒に 望む COMP FUT

mii aray sanùk-sanùk chên,...

ある 何 面白い 例えば

子どもたちはいずれそのうち何か面白いことを期待して待っていた、例えば、…

(105) **kháw lóm mǔu kan pen-tua-tua léew kôo yaŋ chúak kà y ʔiik mâak-maay.**

PRO 殺す 豚 一緒に 何匹も PERF も まだ 絞める 鶏 なお 多い

何匹もの豚が殺され、数多くの鶏が宴会の犠牲になった。

類別詞/tua/を重ねることで、「何匹もの」という複数をあらわしている。

(106) man sàat khâw maa doon thəə con tŏŋ lúk krathəəp khâw pay **nay-nay**,...

奴(雨) 吹き込む 来る 当たる 彼女 まで 起きる ずらす 入る 行く 中

雨が横殴りに吹き込んで来たので、彼女は立ち上がり、やむをえず奥に入った。

位置詞/nay/「中」を重ねることで、「奥へ奥へ」という動作の進行を表している。

## 6. おわりに

中国語でも「紹介紹介」、「商量商量」、「考慮考慮」というように、動詞「紹介」、「商量」、「考慮」を繰り返すことで「ちょっと～てみる」という軽い、試行的な気持ちを表す。タイ語にもそうした中国語の影響が見られるが、聞き手への親近感、あるいは行為の反復性をあらわすかは、文脈に依存しているところも小さくなく、検討の課題としなければならない。ともあれ熟語となった使用頻度の高い特徴を抽出し記述することが重要である。

重ね言葉の習得と運用はタイ人との言語コミュニケーションに欠かせない。タイ語教育にも取り入れる工夫が必要だろう。タイ語の多様な反復語を分類し、記述するにあたっては語彙的な側面からと構文的な側面とから検討しなければならないが、合わせて話し手(書き手)の心理的側面、さらに社会文化的な言語習慣も見逃せない。ネイティブの言語感覚も世代、社会環境によって異同が見られるかもしれない。おおがかりなコーパス資料に基づけば使用傾向が明らかにされるだろうが、これには専門的な調査研究を俟ちたい。

### 注

- 1) 反復、繰り返しの現象は言語の普遍的な特徴の一つであるが、ここでは形状反復に限定している。意味的な反復形式である日本語の「ては」「たびに」「ごとに」「につけて」「そばから」などに対応するタイ語表現については割愛し、別途考察の対象としたい。
- 2) 反復語、反復表現の態様については田中(2017)では野呂(2016)なども参照しつつ日本語をベースに考察した。擬態語、擬声語にも韻をふんだ重ね言葉が多くみられるが、本考察では対象外とする。
- 3) スワンニー・スコンター『帰らぬあの日』日本語訳は吉岡みね子訳『サーラピーの咲く季節』(段々社1981)による。
- 4) 日本語訳は岩城雄次郎訳『現代タイ国短篇小説集』上巻(井村文化事業社1982)による。

### 参考文献

- 田中寛(2004)『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房
- 田中寛(2017)「動詞の反復と強調の類型：補遺」、『新世紀人文学論究』創刊号 新世紀人文学研究会 4-23
- 富田竹二郎(1987)『タイ日辞典』養徳社
- 野呂健一(2016)『現代日本語の反復構文—構文文法と類像性の観点から—』くろしお出版



## 附 章

### 言語文化とその周辺の諸問題

ตบหัวแล้วลูบหลัง

tòp hũa léew lûup lǎng

頭を殴って背中を撫でる  
(鞭で叩いた後に飴を与える：鞭と飴)

附章 言語文化とその周辺の諸問題〈附章(1)〉

## タイ語の身体語彙

### —— /taa/「目」に関する慣用句、成句、諺——

【キーワード】 慣用句 成語 身体語彙 比喩 意味拡張

#### 1. はじめに

身体語彙は慣用句のなかでも大きな領域を占めている。物理的な名称としての語彙という側面と、比喩的に用いられる側面とがあり、とくに後者は文化的な意味でも興味深い。

「目」は身体語彙の中でもさまざまな表現のなかで用いられている。日本語でも「目は心の窓」「目は口ほどにものを言う」などの成語・ことわざ、また「目を細める」「目が重い」「目が眩む」「目が利く」「目が覚める」「目が肥える」「目がない」などの慣用句表現もきわめて身近に使われている<sup>1)</sup>。また、実質的な意味から「目覚ましい」「目聡い」「目まぐるしい」、「目下」「目前」などさまざまな語彙的な拡充が見られる。

こうした特徴は日本語に限らず、他言語でも興味深い観察が見られることが考えられる。本章ではタイ語の/taa/“目”にちなんだ慣用句、成語を見ながら、タイ語の言語文化の理解の一端としたい。なお、タイ語の身体語彙については、まだ体系的な研究はなされておらず、日本では佐藤(1997)が早期の研究としてあげられるが、身体語彙の分類を試みたままで、それぞれの部位の詳細な意味記述については不十分な印象をまぬがれない。また、宮本マラシー〈1991-1993〉は対訳語彙集のような体裁ではあるが、代表的な身体用語の慣用句を挙げている。なお、意味用法の記述的研究、意味拡張の研究については、昨今では、認知言語学、認知意味論の立場から研究が進められている<sup>2)</sup>。意味記述のほかに慣用句、成語の構造についてみれば、中国語などの影響が散見されるなど、非常に興味深い。本章では辞書的な記述を補う意味から、慣用句や成語の語法的、修辭的特徴にもできるだけふれていくことにしたい。将来、構想するタイ語日本語慣用句辞典の作成の準備作業ともなるものである<sup>3)</sup>。

#### 2. 動詞との組み合わせ

タイ語で“目”は /taa/ というが、前後に動詞、形容詞を用いてさまざまな表現を作る。そのなかには単に現象的な意味をあらわすものだけのものと、比喩的に含意するものがある。後者に注目して、動詞の位置による分類を試みてみよう。

##### 2.1 〈動詞+ taa〉

動詞と/taa/による二語構成の熟語、連語であるが、単純に動詞と目的語の関係で結びつ

いたものと、実質的な意味よりも慣用的な意味で用いられるものがある。

- (1) *khwan taa* 目の保養、愛する女性に対して用いる二人称。愛人。/khwan/は「魂、吉兆」などの意味。
- (2) *khàt taa* 目ざわりである。/khàt/は「ボタンをとめる」などの意味で/khàt-cay/「自分の気に入るようにさせない」など多くの熟語をつくる。
- (3) *khúŋ taa* 怒ってまたは禁止の気持ちでにらみつける
- (4) *càp taa* 見つめる、目を引く。
- (5) *cùnrut taa* 目立たない、見飽きた。/cùnrut /は「淡泊な」という意味の形容詞でもある。
- (6) *chaay taa* 横目で見る。
- (7) *tàak taa* 原義は「目を干す」。転じて、見たくもない下手糞の芝居などを長い時間、辛抱して見ているさま。転じて面の皮を厚くして恥を忍ぶこと。
- (8) *tha?lúŋ taa* 怒ってまたは禁止の気持ちでにらみつける
- (9) *thàaŋ taa* 眠いときくつきそうな臉を無理に開く。
- (10) *bàat taa* 見て不愉快な、目ざわりな。
- (11) *mây waan taa* 視線をそらさずに、じっと。
- (12) *sùu-yíp taa* 死に物狂いで戦う。
- (13) *láp taa* 見えなくなる、消えうせる。目を閉じる。
- (14) *luan taa* 目をごまかす。
- (15) *lên taa* 「目を遊ぶ」が転じて、色目を使う。
- (16) *sà?dùt taa* 目を引く。
- (17) *măay taa* 目をつけておく。
- (18) *pəət taa, bəək taa* 目を見張る、目を開く。
- (19) *phit taa* 「目を違える」が転じて、違って見える。異様な。

【四語熟語】については次のものがある。同一の動詞を反復させ、「目」/taa/と/nâa/「顔」/hũu/「耳」、/cay/「心」などの身体語彙を対照させて用いる。

- (20) *khúm nâa khúm taa* 名声を高める、名誉を高める。
- (21) *mii nâa mii taa* 面目をほどこす、世間体がよい。
- (22) *tít taa tít cay* 目と心に強い印象を受ける。
- (23) *tít hũu tít taa* 耳目に強い印象を受ける、今も耳目に残っている。
- (24) *phít hũu phít taa* 前とずいぶん変わって見える、見違えるような、異様な。
- (25) *lunum hũu lunum taa* 目を開けている。
- (26) *hăay nâa hăay taa* 視界から遠ざかっている。

## 2.2 〈taa + 動詞や他の品詞〉

動詞や形容詞、またときに名詞などを修飾語として /taa/の後に併用する、固定化した熟

語・慣用句をみてみよう。

**【taa + 名詞】の構成によるもの：**

- (27) taa kòp うまく炊けていない、硬い芯のあるご飯。  
 taa kòp taa khiat ともいう。/kòp/は「蛙」、/khiat/は「雨蛙、青蛙」の意味。
- (28) taa còrakhée 比喩。ワニの目のように切れ目の長い目の形容。
- (29) taa cāwchúu 比喩。すけべ目。日本語の「色目」。
- (30) taa klōŋ (俗) カメラマン、映写技師。
- (31) taa plaa 魚の目。胼胝。
- (32) taa kún 海老の目から転じて、濃い紫色、灰色がかかった紫色。
- (33) taa kún yin ものもらい。麦粒腫。
- (34) taa thùu 角膜が濁っている。比喩。緑豆の目の意味が転じて、小さな目、物がよく見えない。何かを探しても見つけれられない。
- (35) taa thíp 何でも見通せる超能力眼。/thíp/は「神仙」。

**【taa + 形容詞】の構成によるもの：**

これにはそのように形容された「目」自体についての説明と、目の具体的な動き、様子を表すものがある。前者は名詞として、後者は動詞として用いられる。

- (36) taa klom つぶらな目。嘆じて子どもや美しい女性の目。
- (37) taa too 目を大きくする、関心を示す。食欲な、欲を起こす。欲に目がくらむ。
- (38) taa khīaw, taa khùn-khīaw 「緑色の目」から怒ってにらむさま。激怒した目の形容。
- (39) taa khēe 斜視。やぶにらみの。
- (40) taa ?èek 同上。斜視。やぶにらみ。
- (41) taa khěŋ 目がかたい、眠くない、不眠症の、まばたきしない、目が冴えている。
- (42) taa khāaw 白目、怖がりの、臆病な、恐怖を表すさま。気が小さい。
- (43) taa dam 白目に対する黒目、ひとみ。子どもに対してあどけない様子。
- (44) taa dēŋ 充血する、結膜炎。
- (45) taa dēŋ-dēŋ 泣いて、または泣こうとして目が赤くなる。
- (46) taa dii 目が良い。目が鋭い。目が高い。
- (47) taa lěem 目が速い。目ききの。
- (48) taa tàŋ 上下、貴賤、優劣などを見分ける能力の無い。
- (49) taa khom 目つきの鋭い、大きくてきれいな目。眼光堂々とした。
- (50) taa plàaw 肉眼。

**【taa + 動詞】の構成によるもの：**

ここでも目のありようを形容した言い方、形容された目そのものを表すものが見られる。驚いた様子、ぼんやりと見える様子、目が鋭い様子などには複数の表現が見られる。

- (51) taa fàat 見誤る、幻覚が現れる。

- (52) taa faaŋ 目がかすむ。ぼんやりとしか見えない。  
 (53) taa mua ぼんやり見える。  
 (54) taa pit 目が開けられない。目をつぶった。  
 (55) taa phrâa はっきり見えない。かすんで見える。  
 (56) taa phooŋ 目を見開く。驚く。  
 (57) taa phlooŋ 驚いて目を見張る。  
 (58) taa klàp 白目を剥いた、年をとって逆に視力が良くなった。  
 (59) taa kaŋ chĩn 人を欺く性格を表している目つき。  
 (60) taa kooŋ だまし目。  
 (61) taa khwâaŋ きちがいじみた様子を見せ始めた、不満な、怒った。  
 (62) taa khùn 老人のような輝きのない眼、激怒した目の形容。  
 (63) taa khêe 斜視、少しやぶにらみの。  
 (64) taa khwâm 俯くほどに横目でにらむ。  
 (65) taa kháaŋ 白目を剥いたままの、死んでも目を開けたままの。  
 (66) taa ráay 他人を見つめると見つめられた人は病気になったり死んだりするという超能力を持っていると信じられている人。  
 (67) taa cěw 澄み切った目、生き生きとした目。  
 (68) taa looy うつろな目。  
 (69) taa laay 目がくらむ。  
 (70) taa lúk 目を丸くする。驚く。恐れおののく。  
 (71) taa tâŋ ひきつけを起こして白目を剥く。  
 (72) taa mua 目がかすんだ。  
 (73) taa way 目が鋭い、視覚が鋭敏な。  
 (74) taa sĩa 目がつぶれる。失明する。  
 (75) taa yĩ 光や塵をよけるために目を細める。

### 3. 四語熟語

ここでは、四つの単語からなる熟語をみてみよう。なお、熟語は背景にその誕生したいわれを定かにもたないが、成語にはまつわる逸話や故事をもつのが普通である。成語については、ことわざのところで触れたい。四語熟語の中には韻を踏んだり、同語反復をしたりするものなどが見られる。

#### 3.1 「盲人」にちなんだ熟語もいくつか見られる。

- (76) taa bòt khlam cháaŋ 物事の一面しか知らない、または一方的な見方しかできない人が物事をそうと思い込んでしまうこと。群盲象を撫でる。  
 (77) taa bòt dáy wên 盲人が眼鏡を拾う。自分にとって何の役にも立たないものをもらった人。

(78) taa bòot sòot taa hěn 盲人が見えないのに見えているふりをする、知らないくせに知ったふりをする。

(79) taa bòot taa sǎy 常人と変わらないような目でも実は盲人。半盲の。

3.2 「目は……である」のように、コンピュータの /pen/ を用いた熟語が特徴的。

(80) taa pen man 欲しくて目がギラギラする。

(81) taa pen fay 燃えるような目

(82) taa pen sàpparót パイナップルのように目がたくさんある、大勢の手下や仲間がいて絶えず至る所で見張っている人がいる。張り巡らされた情報を持っている。

(83) taa pen nók khwèk 何がどこにあるか、キョロキョロする。兎の目鷹の目。

3.3 /taa/を二回反復させて用いた熟語(1)。韻をふむ言い方：

(84) taa sǐi taa sǎa または taa sǎa taa sǐi 農民、田舎者。

(85) taa khùn taa khǐaw 激怒する。目をむく。

(86) taa pen nók khwèk 何がどこにあるか目をキョロキョロさせる。鶺鴒の目鷹の目。

(87) taa lii taa lúak あわてふためいて。

3.4 /taa/を二回反復させて用いた熟語(2)。とくに韻を踏んだものではない：

(88) taa fúang taa salǔŋ 若い女性に流し目を送ること。

(89) taa lúk taa chan 金品などを見て目を大きく見開いてギラギラさせること。

(90) taa lék taa nóoy 女性に対する流し目。秋波を送る。

(91) taa cháang taa máa 「象の眼、馬の眼」 時と場所を考える。タイミングをとる。事の前後をわきまえる。

(92) (duu) taa máa taa rua 馬の目、船の目(を見る)。周囲の状況を見定める。「転ばぬ先の杖」。

(93) taa pii taa cháat 終身、いつもいつも、永遠に。

(94) taa lúak taa plín 非情に驚き慌てる、肝を冷やす。

(95) taa rón taa fay 嫉妬に燃えた目でみつめる。

(96) taa máy mii wêew 死人の目のように光沢のない虚ろな目。愚鈍な。

3.5 /taa/のほかに他の身体語彙を併用する熟語。動詞は同語反復のケースが多い：

(97) klay hǔu klay taa 目の届かないところで、膝元から離れて。

(98) klay taa klay cay 目からは遠いは心からも遠い。去るもの日々に疎し。

(99) hǔu pàa taa thúan 状況がどうなっているのか分からない。愚かな、無知蒙昧な。

3.6 四語熟語のほかに、次のような言い方もみられた：

(100) taa dii kôo dǎy, taa ráay kôo sǎa. 運が良ければ得、悪ければ失う。運を天に任せる。

(101) taa tit krà?pǎw 財布を切る目。男心をとろけさせるような目。そのような女性の視線に出会うと男は喜んで財布の紐を弛めて彼女に取り入ろうとする。

#### 4. 成語、諺の中にあらわれた/taa/「目」

前節では百ほどの諸例をみたが、実際にはこの倍近くの慣用句がある。他の身体部位とくらべても非常に多彩な用法が観察される。以下では一部重複するが、主として、一般に市販されている多くの“sāmnuan thay”「慣用句(拾遺)」に収録されている成語、諺のうち、上記以外の諺に /taa/ が含まれたものを見ておこう。用例の番号を最初に戻す。

(1) klay taa klay cay

目が離れば心も離れる。「去るもの日々に疎し」。

(2) fāa mii hūu praʔtuu mii taa. kampheɛŋ mii hūu, praʔtuu mii chōŋ.

壁に耳あり、扉に目あり(隙間あり)。「壁に耳あり障子に目あり」。

(3) yùu muaŋ taa líu tōŋ líu taa taam. khāw muaŋ taa líu, tōŋ líu taa taam.

片目の国に入ったら、片目で過ごせ。「郷に入れば郷にしたがえ」。

(4) duaŋ-taa pen nāataaŋ khōŋ duaŋcay.

目は心の窓。直訳そのもので、文字通り万国共通の表現。

(5) mōŋ khon yāa mōŋ dūay hàaŋ-taa.

目尻で人を見るな。

(6) sip pàak wāa mǎy thāw taa hēn.

百聞は一見にしかず。(十聞)

以下の耳と目にちなんだ成語、ことわざも比較的多い。

(7) hūu yùu naa taa yùu rāy または(?aw) hūu pay naa (?aw) taa pay rāy.

耳は田圃へ目は畑に向ける。これは自分の家や身近なところにあつて、本来は自分が責任をもって見守らなければならないものに目を向けず、我関せずの態度をとるという意味。知らぬ存ぜぬ、どこ吹く風。

(8) hūu pāa taa thuan. または hūu pāa taa muut.

未開人の耳、未開人の目。周囲の状況にまったく気がつかない。「ツンボ栈敷の」。

(9) hūu phrayaa taa rōn.

「ハゲワシの主のように目と耳が早い」が転じて、目も早ければ耳も早い。

(10) hūu sǎn taa sǎn.

「目も耳も短い」が転じて、見識が狭い。

(11) kaa taa wēw hēn thanuu.

カラスは賢いのでちらっと見ただけで逃げ出す。悪賢い。

「涙」にちなんだ表現もいくつか見られた。

(12) kin námtaa.

「涙を飲む」から、「泣き悲しむ」の意味。

(13) biip námtaa.

「涙を絞り出す」から、「目をパチパチさせてわざと泣いて見せる」という意味。本当に悲しくて泣いているのに、嘘泣きをしていると皮肉ってということが多い。



(14) *sĭa nĀmtaa.*

「涙をなくす」から、「無念の涙を流す」の意味。Sia は「無くす」の意味。

(15) *nĀmtaa chĕt hŭakhāw*

「涙で膝頭をふく」から、「悲しくてまたは失望してさめざめと泣くさま」。

(16) *nĀmtaa pen tàw*

焼かれたカメのように涙をボロボロとこぼす。

(17) *nĀmtaa tòk nay*

心の中で泣き、悲しみを外に表さない。

(18) *khùt dŭay pàak, thàak dŭay taa.*

「口で掘り、目でそぐ」から、「言葉と視線の両方で相手を侮辱する」という意味。

(19) *khāw taa con. khāw taa ráay*

この/taa/は「碁盤の目」。どこへも動かせないところに駒が入る。切羽づまる。辛い立場に陥ること。

(20) *khāw pàa taa líu.*

ジャングルに入って目を細める。用心深くなる。

(21) *khóp khon taa ?èek, cháy khwaay khāw kèek.*

片目の人と交わり、妙に曲がった角を使う。異相でよくないから避けるべきである。前者のフレーズのみ使うこともある。

(22) *cāw-naa cāw-taa.* 田の主、目の主。でしゃばり。

(23) *tòp taa.* 目を叩く。目先をごまかす。tòp は「平手で強く叩く」。

(24) *thii lōt taa cháaŋ, hàaŋ lōt taa lĕn.*

この/taa/は「目、網の目」ではなく、/tua/「からだ」を意味する。どんなに間隔を密にしても象でもくぐりぬけられるものだし、どんなに粗にしてもシラミはくぐりぬける。下の句はかざりて意味は少ない。/lĕn/のかわりに/khwaay/「水牛」、/rua/「船」を使うこともある。転じて、非常に周到にやっているようだが、実は抜けたところがある。節約すべきところに節約せずに、ケチるべきでないところにケチる。

(25) *?itchāa taa rōon.*

嫉妬に燃える。taa rōon 「熱い目」は危害を加えようとする目。

(26) *pàak wāa taa cha?yĭp.*

口で言って目で合図する。口ではするなど言いながら、するように目配せをする。口と心が別々の。本音と建前が異なる。

(27) *pen taa yùu.*

ユ一爺さんになる。昔、ナー爺さんとイン爺さんが魚を捕りに行って、一尾の魚を得たが、分け方で言い争った。通りかかったユ一爺さんが仲裁に入って解決したが、ナー爺さんは頭のほうを取り、イン爺さんは尻尾のほうを取り、ユ一爺さんは真中の一番良いところをせしめたという故事にもとづく。「漁夫の利をしめる」。

- (28) pen taa  
老人語。/nâa/は「...してよさそうな」という意味。/pen naa-kin 「おいしそうな」。
- (29) pen taa diaw  
一つの目のように一斉に見る。
- (30) pen nâa pen taa.  
仕事はしかるべくきちんとする。
- (31) pen hũu pen taa.  
「...に代わってその耳目となる」。/tâaŋ hũu tâaŋ taa/とも言う。
- (32) pèət hũu pèət taa.  
より多く見聞するために耳目を開く。外遊することなどについて言う。
- (33) phõŋ khâw taa tua ?eey.  
自分の目に入ったゴミ（は取り出しにくい）。今まで他人の窮地を何度も救ったことがある賢い人でもいざ自分に問題が起きてみると解決し難いものだ。
- (34) mɔɔŋ tua ?eey dûay taa nâa, mɔɔŋ phũu-?ũum dûay taa lâŋ.  
自分自身を見るときは顔についた目で見て、他人を見るときには背中についた目で見る。自分のことはすべて良く、他人のことはみなけなす。
- (35) mɔɔŋ con taa khâaŋ.  
ポカーンと見とれる。唾然とする。
- (36) mɔɔŋ sòp taa.  
視線が合う。相手の目を見つめる。/sòp taa/だけでも用いられる。
- (37) mii taa mây mii wêu.  
目はあるが光沢がない。見る目がない。
- (38) yêe taa rák.  
とても困っている。
- (39) lúat khâw taa.  
血が目に入る。血を見てたけり狂う。
- (40) lúat taa thêep kra?den.  
ほとんど目から血が飛び出るほど。死にもの狂いで。
- (41) wín pen kày taa tèek.  
闘鶏で目を蹴られ、目がつぶれた鶏のように走る。向こう先もみえずに無我夢中で突っ走る。猪突猛進する。
- (42) taa dii kôo dáy taa ráay kôo sǎa  
運が良ければ得をする。運が悪ければ損をする。万事は運次第。
- (43) sũu con yép taa.  
目を縫うまで闘う。闘鶏の用語。死にもの狂いで最後まで闘う。一步も退かずに闘う。
- (44) sa?nèe-hǎa taa-bòt.

恋は盲目。sa?nèe-hǎa は純粹に愛するという意味。

(45) taa réeŋ ca?mùuk mót

「驚の眼、蟻の眼」。転じて視覚嗅覚の鋭敏な人。日本語の「地獄耳」などに相当する。

(46) khâam nâa khâam taa

またぐ 顔 またぐ 目

顔をまたいで、目をまたぐ。他人を無視する。頭越しに行く。

(47) khǎay nâa khǎay taa

売る 顔 売る 目

顔を売り、目を売る。恥をかく。顔を汚す。面子を失う。

(48) yím dûay pàak thàak dûay taa

微笑む で 口 剥ぐ で 目

口で笑い、目で剥ぎ落とす。表面では穏やかだが内心は冷酷だ。

## 5. 実例による観察—異文化理解とともに—

最後に、タイ語の/taa/が実際にどのような使われ方をしているのか、数例を紹介してみよう。「目」はさまざまな場面、文脈で主人公、話し手（語り手）の心情を吐露する有力なアイテムとして機能する。その一端をタイ語の実例から観察してみたい。テキストはスワンニー・スコンター「帰らぬあの日」のタイ語原文と日本語訳（吉岡峯子）を用いた<sup>4)</sup>。本小説は現代タイ文学を代表する女性作家の掌編で、筆者が接したタイ文学作品のなかで感銘を受けた十指のなかでまず指を屈すべきものであり、既に現代タイ文学の紹介においてしばしば登場する作品である。第二次大戦中のタイ北部に日本軍が進駐した。ビルマへ侵攻するインパール作戦のためであったと思われる。村中の牛や馬を買い集めるなか、大事に育てていたキイオウも日本軍に連れ去られる。やがて敗走する日本軍と捕虜兵士のなかに馬は一頭も見えず、あの日には帰っては来なかった。用例番号を最初に戻す。

(1) chǎn læe-duu phôo khii máa pay con lǎp sǎay-taa

PRO 眺める 父 跨る 馬 行くまで 閉じる 目線

[日本語訳]父が馬に乗って行く姿を私はじっと目で追った。(傍線は引用者)

タイ語では/sǎay-taa/「目線」で表している。「目で追う」という行為は単に目を投げかけるわけではない。その連続した流れ、時間を「目線」という語で表している点に注意したい。直訳では「目線を閉じるまで」という表現になる。なお、/sǎay-taa/には「視線、視力」のほかに慣用句として「眼光」という意味があり、上例ではその意味も内包する。

(2) chǎn yàak-dây máa tua-mia phró? yàak-dây máa lék-lék

PRO 欲しい 馬 雌 から 欲しい 馬 小さい

man nâa-rák lé? wîŋ taam mêe dâŋ tâŋ-tèe luuum taa khûn maa duu lǎok

PRO 可愛い と 走る 従う 母 [可] から 忘れる 目 なる 来る 見る 世界

[日本語訳]私だって、どんなに雌馬が欲しかったことか。しかし、私の場合、それは可愛い小馬に限られていた。目が開いて、この世を見られるようになったもうその時から母馬の後について走りまわる小馬——

この例では日本語には「目が開いて、この世を見られるようになったもうその時から」と訳されているが、タイ語では「この世を見られる目を忘れてきた時から」のように表現されている。

- (3) mée-tèe tua-naay noon-láp phót tháʔhāan kōw yaŋ ʔùtsāa tham khwaam-khawróp  
 でも 上官 眠る 隊 兵士 も まだ わざわざ する 敬礼  
 múa dān phāan chān hēn dūay taa khōŋ chān ʔeəŋ  
 時 歩く 過ぎる PRO 見るで 目 の PRO 自身

[日本語訳]上官が床に就いているときでさえ、兵隊達は通り過ぎる時にわざわざ敬礼した。私は実際、この目でそれを見た。

この場合は「この目で」は一瞬の観察であり、「視線」ではなく「目」を用いている。タイ語では「私自身の目で/私自らの目で」という語句で表しているが、日本語では「実際、この目で」と訳されている。

- (4) chān tōŋ wīŋ ʔōk maa duu ... duu máa tēe láʔ tua  
 PRO [義] 走る 出る 来る 見る 見る 馬 毎 あたり CL  
 thāw-thūi sāay-taa ca amnuay hāy-dāy  
 限り 視線 FUT 許す ぜひ

[日本語訳] (略) 私は駆け寄った。そして探した……一頭一頭の馬を。私の眼の力が許すかぎり、ただ馬だけを目を凝らして見た。

日本語では「眼の力が許す」と訳しているが、/amnuay/は「及ぶ」のような意味が適切であろう。/hāy-dāy/は「必ず」という副詞だが、日本語では「ただ」という限定継続の意味に訳されている。

- (5) baəŋ-khon mii tēe phāa pen thēep kàw mǔan phāa-khī-rīw  
 ある人 ある だけ 布 COPU 殆ど 古い 同然 雑巾  
 phan tháw theen rōŋ-tháw léʔ pen camnuan máak thūi mii phāa tiaw  
 巻く 脚 代わりに 靴 CONJ COPU 数 多い REL ある 布 襪  
 phūuk wáy khāŋ-nāa kan thúʔrēet nay-taa  
 結ぶ ておく 前面 防ぐ 衰れな 目玉

[日本語訳]彼らの中には雑巾同然の古びたボロ布を、まるで靴代わりとでもいうように足に巻きつけている人もいた。全面に襪をつけて、彼らに向けられるいやらしい視線を避けている人も大勢いた。

ここでは「目」は/taa/でも/săay-taa/でもなく、「眼球」を意味する/nay-taa/が用いられている。だが、訳語としては訳文のように「(いやらしい)視線」が適切であろう。

以上、実例を数点瞥見したに過ぎないが、「目」は「目線」「視線」、さらに「眼差し」「眼力」にもなり、「見る」にしても「目に飛びこむ」「目にする」「目に入る」「目がくらむ」「目で追う」「目をなげかける」「見かける」といった、慣用句も含めさまざまな語句を構成する。そうした使い分けはやはり実例による示唆が大きいことに気づかされる。なお、目に関する慣用句がどのような場面、文脈で用いられているかについては別の機会に調査報告してみたい。

ここで、本章の趣旨からやや脇道に逸れるが、思うところを附言しておきたい。筆者は対照研究と異文化理解に欠かせない材料（言語データ）として、かねてから文学作品の精読、鑑賞を重視し、自らもそうあるべきと認識し続けてきた。言語研究において良質な作品を扱うことでより理解を深め、そうした地道な理解の積み重ね、姿勢がひいては異文化理解、共生・多文化理解の本質的な土壌をつくっていくことを信じている。

## 6. おわりに

以上、語構成などの形態面に注意を払いながら、およそ 150 項目の「目」にかかわる慣用句、成語、言いまわしをみてきたが、タイ語には日本語には見られない含蓄ある表現が多く見られた。タイは「微笑みの国」と言われるが、その微笑みは目に宿ることも多い。語構成から見れば、とくに、中国語の影響と思われる四語熟語・成語の使用も高く、また、他の身体語彙や色彩語彙などをともなう現象も見られた。実例にも他の品詞などを併用して多彩な表現を形成して用いられていることも観察された。

言葉はやはり魔法である。「目」ひとつとっても、その発想、意味の拡張によりさまざまな意味を生産する。表現の豊かさ、細やかさはタイ語への統語的な関心とともにタイ言語文化の広がりへと関心を誘う。

本章では研究ノートとして/taa/「目」をとりあげたが、引き続き、他の身体語彙を対象に、基本的な語構成から慣用的な用法、さらに場面、文脈に即した表現の態様にも関心を払っていきたい。

### 注

- 1) たとえば、『大辞泉』（小学館 2012）では 140 余の慣用句を挙げている。なお、本章では「目がしら」「目じり」「瞳孔」などの目に関する器官の名称や単に物理的（実質的）な意味を表す語結合・構成についてはふれていない。
- 2) 宮本マラシー（1993）では/taa/「目」の身体慣用句を 100 例ほど挙げている。ラダポーン・サイソンプーン（2006, 2007, 2008）では「顔」、「口」に関する意味拡張、文法化の事象を扱っている。またアラデー・アピウオンガム（2005）はタイ語の cay「心」と日本語の「気」について考察している。中国語では方（2014）が詳しい考察を行っている。

3) 田中 (2014) は使用度の高い諺を中心に 1000 余例あつめたものだが、現在慣用句を含めて  
修訂作業中をすすめている。

4) 作品の出所は次の通り

原本 “เรื่องสั้นชุด สนวนสวรรค์” สุวรรณี สุคนธา สำนักพิมพ์ศิลปภาพรรณการ จัดพิมพ์ พ.ศ. ๒๕๕๕

日本語訳 「帰らぬあの日」

スワンニー・スコンター、吉岡峯子訳『サーラピーの咲く季節』(段々社 1987)

#### 【参考文献】

亜細亜大学慣用句比較研究プロジェクト編 (1998) 『世界の言葉散策 目は口ほどにものを言う  
か?』三修社

アラデー・アピウオンガム(2005) 「タイ人の caj について—日本語の「気」と比較して—」『国  
際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要』第 2 号 独立行政法人国際交流基  
金

岩城雄次郎 (1998) 『タイ語ことわざ用法辞典』大学書林

佐藤博史 (1997) 「シャム語の身体語彙」『南方文化』第 24 輯 天理大学

田中寛, パリスット・パンタランクン (1997) 「タイのことわざと日本のことわざ」『外国語学  
会誌』第 24,25 号 大東文化大学外国語学会

田中寛 (2014) 『タイ語慣用句拾遺 タイ言語文化の世界』、語学教育フォーラム 12 大東文化  
大学語学教育研究所

方小賢 (2014) 《中日人体詞匯慣用語比較研究—以認知語言学視閥下的『頭部』表現為中心—》  
(日中身体語彙慣用語の比較研究—認知言語学の視点から見た「頭部」表現を中心に—)、天  
津・南開大学出版社 (日本語)

宮本マラシー (1991,1992,1993) 『タイ語 “からだ言葉” 拾遺—「頭」「顔」「目」—』大阪外国  
語大学タイ・ベトナム語研究室

ラダポー・サイソンプーン (2006) 「身体部位「顔」の意味拡張：日本語とタイ語の比較」  
認知言語学会『認知言語学会論文集』第 6 巻 12-22

————— (2007) 「身体部位を表すタイ語の文法化：「nâa (顔)」を中心に」 認知言語学会  
『認知言語学会論文集』第 7 巻 294-309

————— (2008) 「身体部位「口」の意味拡張：日本語とタイ語の比較を中心に」 認知言語  
学会『認知言語学会論文集』第 8 巻 12-22

富田竹二郎 (1987) 『タイ日辞典』天理・養徳社

松山納 (1994) 『タイ語辞典』大学書林

Ratchanii Sootthikun 2540 “Samnuan Angkrit-samnuan Thai”

Samnakphimheang-Culaalonkoon-Mahaawitthayaalay

ขุนวิจิตรมาตรา(สง่า กาญจนาคพันธุ์) “สำนวนไทย” สมาคมส่งเสริมเทคโนโลยี(ไทย-ญี่ปุ่น) ๒๕๓๘

(クンウィットマートウラー『タイ慣用句』バンコク・泰日経済技術振興協会 仏暦 2538)

附章 言語文化とその周辺の諸問題(2)

## 外国語教育と異文化理解

### —あるタイ語・日本語テキストの場面から—

【キーワード】 外国語教育 異文化理解 表現素材 言語文化 翻訳

#### 1. はじめに

語学テキストには学習者が語彙や文型を効率よく習得するための工夫もさることながら、その内容にも興味を持てるように配慮されているのが普通である。だが、ともすると語彙や文型の導入のほうに目がいき、内容や場面の工夫は二の次ということにもなりやすい。

一般的に語学テキストの作成についてみれば、およそ3種の方法が考えられる。

タイ語のテキストを例にとれば、まず、(1)〈無国籍型〉といってよいもの。つまり、現代の人間社会に共通する話題、習慣を設定するもの。次に、(2)〈現地密着型〉といってよいものである。これは、現地のタイを舞台に書かれたもので、文化や歴史や習慣の紹介にまでおよぶ。もう一つは(3)〈母語風土型〉といってよいもので、(2)の逆で日本の生活を現場にして紹介記事として書かれたものである。②のスタイルは現地に赴く人たちにとっては有益だろう。(3)は反対にタイ人に日本のことを紹介するときなどに効力を発するだろう。(2)および(3)は、異文化理解、異文化接触型テキストということで、異言語によるコミュニケーションの擬似体験を配慮した場面構成になっている。(1)には異文化接触に関するものは意識されないが、当該国に受容されにくい対象(例えば宗教的な背景等)が紛れ込む恐れもある。住環境や社会適応にもっとも配慮したものでは、かつて帰国した中国残留孤児に対する実践的な日本語習得のためのテキストなどがあげられるだろう。実践型の会話を盛り込んだ内容のテキストはしばしば『生活(タイ語)会話』などと呼ばれることが多い。さらに近年はタイの日系企業等で日本人との協働の現場を重視した『ビジネス(日本語)会話』なども開発されているが、敬語や待遇表現の指導に時間が割かれ、十分な問題解決には至っていない。自ずと教える側の関心、采配に比重が置かれることにもなる。

理想的なテキストとはこれら3種類のスタイルがミックスされているのがベストであろうが、全体的なバランスからいえば非常にむずかしい。しかも、比重の置き方をひとたび誤ると、文化摩擦も起こりかねない。教科書作成の難しさの一端がここにもある。筆者はかつて、タイで日本語教科書の作成に取り組んだことがあったが、日本のサラリーマン生活や住宅事情、新幹線などの紹介を紹介するとき、地に脚がつかないような感触を覚えた記憶がある。表面的には関心を持たれても、学習者の心情までははかりかねた。そこに生きる現実社会に根をおろせばおろすほど、異質な現代社会を持ち込むことに身勝手さや違

和感、おこがましさとといったものを感じたのである。まだ日本語教師数年目にして感じたその戸惑いは今でも鮮明である。そうした体験も交えつつ、教科書、とりわけここでは語学テキストが異文化理解のテキスト、文脈として考えられる点を再考してみたい。

なお、以下では特定の語学教材を任意にとりあげるが、テキストには内容的にも完全なものはない。よく言われるように、教科書は完成した時点から古くなるという宿命を持つ。したがって、ここで議論する対象は実際にみられる現象の一端であり、意図的に批判的な視点から言及するものではないことをあらかじめお断りしておきたい。

## 2. 場面—その1—

語学テキストには一般に〈構造シラバス〉と〈場面シラバス〉とがあることはよく知られているし、教材の開発にあたってはよくこの点は吟味すべきであることは論を俟たない。初級の段階では前者が、中級以降の段階では後者がほぼ指向されるが、〈構造シラバス〉には文型の配列順序が一番の課題となり、〈場面シラバス〉では用途に応じた場面の設定とともに〈構造シラバス〉もほどよく併行して分布していなければ、効率的な習得は期待できない。〈構造シラバス〉にしてもただ文型の習得だけに終わっては無味乾燥な中身になってしまう。

これまで、語学教材の表現素材については、日本語教育ではジェンダーの角度から、男女の役割分担的な場面に問題が介在することがしばしば指摘されてきた。

### (1) 「木村さんはきれいな人です。そして親切です」

某日本語教科書に見られる紋切り型の文例であるが、ここでは並列接続詞「そして」の導入、また形容動詞「きれいな」「親切(な)」の、修飾用法、述語用法をそれぞれ対比させる意図をあわせもつ。ステレオタイプ的な文例は日本の紹介にもしばしば見られる<sup>1)</sup>。

### (2) 「日本人は時間をむだにしませんね」

「日本はほんとうに技術が進んでいると思います」

といった例文が堂々と掲載されていて、教室であつかう際には面映ゆくなることもある。

「むだにする」「技術が進む」という語彙はそれ自体、有用な語彙である。だが、とりわけ初級学習者にとっては、文型、例文が本人の表現の始発的な運用なり印象を強く定着しかねないことから、こうしたステレオタイプ的な文例を覚えてしまうことは無意識にも文化のゆがんだ受容につながるものが懸念されるのである。さすがに近年ではジェンダーやフェミニズムの観点からもこうした表現は避けられるようになった。たとえば、

### (3) 「マックさんは元気で面白い人です」

「この本は日本の社会を理解するのに役に立ちます」

といった客観的、中立的な表現に置き換えられている。ただ、いずれにしても中身をともなわない、紋切り型の表現になってしまうことは否めない。



語学教材は教室作業におけるサンプルとしての表現素材と、学習者自ら教室外で体験する表現素材とが、ある緊張した調和をもって意識されることになる。テキストの文脈的な理解が初級段階では副次的になされる実状からも、表現素材の選択設定にあたっては、学習者の異文化理解を意識すべく、より慎重な方法論が求められるのである。最近ではジェンダーに配慮した場面や語彙の導入にも配慮されるようになってきたが、日本語教師、日本語研究者の感性や一般教養、着眼点が一律ではありえないように、素材と文例についての認識も一様ではない<sup>2)</sup>。

さて、その〈場面シラバス〉であるが、タイでの生活を考慮に入れて作成されたテキストでは、とくに対人関係、対人接触の場面において問題が表出するように思われる。例えば、「依頼」や「断り」などの場面では、タイ特有のコミュニケーションの型が予想(あるいは想像)されるわけで、こうした言語生活の事情ないし、習慣を考慮に入れなければ、健全な語学能力の伸長は期待できないのではないかと懸念される。もちろん、使用者が自覚してその場での修正能力をもっていればいいのだが、それでもリスクはつきまとう。

次にあげるのは、タイのバンコクで出されているタイ語テキスト『实用生活タイ語会話』の一場面である(写真(1))。便宜上、タイ語は省略し、日本語訳のみあげる<sup>3)</sup>。

(4) A1: 奥さん、3000 バーツ前借りさせていただけませんか。

B1: 月給払ったばかりじゃないの。

A2: はい、でも、来週娘の学校が始まるので授業料を払わなければならないのです。

B2: まず主人に聞いてみなくちゃね。

(『实用生活タイ語会話』第6課)

Aのタイ人である使用者がBの日本人である雇い主にお金を前借したいという場面である。ここでは「～させていただけませんか」という依頼文、「～したばかりだ」という完了表出文、「～じゃないの」という非難文、「～なければならない」という義務・主張文、「まず、～してみる」という試行文が、それぞれ「文法表現」項目として配置されている。タイ語を省いたが、もちろん、文脈や場面によっては自然な構成であっても、日本語をそのままタイ語に直訳した場合、かなり強い調子になったり違和感をあたえたりすることもあるだろう。ここには執筆者の目論みとは裏腹にある種の文化の誤解が生じないだろうか。なお、日本語の教材ではないが、使用者であるタイ人Aが〈丁寧体〉、雇い主である日本人Bが〈普通体〉を用いている点も、見方によっては強い違和感を与えかねない。

まず、B1の「月給払ったばかりじゃないの」という文は、タイ人は月給が出たばかりでもすぐ前借する傾向があること、お金の出費、管理に関しては計画的でなくルーズな一面があることを、ステレオタイプの暗に提示することになっている。「娘の学校が始まるので授業料を払わなければならない」といった状況は確かに存在しないことはないだろうが、ほかにもお金を借りる場面はあるはずである。作成者側からいえば、これは「前借」の一つの頻出パターンということなのであろう。また、金銭の貸借がタイ社会の日常で頻

繁に行われるという誤認、文化理解の齟齬にもつながりかねない。

次に、Bの2「まず、主人に聞いてみなくちゃね」の文では、「主人」が絶対的な権威（個人差はあるにせよ）として位置付けられている。使用人側からすれば、「奥さん」という個人的な関係を信頼して遠慮しつつ頼もうとしたわけであるが、「主人」に相談すると言われては、面目潰れである。誇り高いタイ人にしてみれば、こうした身近なことでも強い違和感、不信感を感じさせることになるのではないだろうか。

ここで、個人的な体験を述べておきたい。その昔、1970年代に反日感情が高まったころ、タイ国バンコク日本人会で発行された使用人を使う際の会話マニュアル集が、タイ人を侮蔑するものであるという痛烈な批判を招いたことがあった。残念なことにその内容は手元にないので、当地の商工会議所の「年報」や日本人会の「会報」あたりを探すしかないのだが、記憶の限りで言えば、冷蔵庫の中身を常時チェックせよ、出勤と退勤時には手荷物をチェックせよ、鍵は目につくところに置くな、といった内容であった。これが、日本帰りのタイ人留学生を含め、大いに現地タイ人の蟹感を買ったのである。

当時のバンコクの邦人が五千人ぐらい、現在その十倍は下らないだろうから、こうしたマニュアルめいたものは今ではさらに多く見られてもおかしくないだろう。それでも、経済摩擦も異文化衝突も表面化しないのは、やはり経済優先の時代だからであろう。かつての時代の苦い記憶と傷みをもつ者にとっては、上記のような場面は故意に考えた場面ではないにせよ、やはり気にならざるをえない。

このテキストは「タイ語学習に興味を持つ日本人の方々のために作られたもので、日常生活での身近な話題を取り上げ、それに基づいた会話で構成されており、学習者がすぐ実践的に使えるように工夫されている」（序文）という。この場合の学習者とは、内容を見たかぎり、タイ国駐在員の主婦を念頭に置いていることが窺われる。スーパーの店員に「小麦粉の売り場」を聞いたり、「お手伝いさんに料理を頼む」といった場面がそうである。とくに使用人との会話にウエイトが置かれている。買物、食事の誘い、友人の訪問、食堂で、待ち合わせ、お見舞い、など、おしなべて生活上のスキットが用意され、日常生活の活動半径に限ってはコミュニケーションがなされているように見える。だが、一步、そこからタイ社会という、広い異文化社会での日本人のタイ語学力が身につくようには思えない。確かに対個人的な接触が社会、文化理解の一步であるが、対等に話題を交換するといった場面が思いのほか少ないことに気づく。

語彙、文型がほどよく提示されていれば、あとは実践で、ということになるのだろうが、共有される場面内容があつてこそ、それらの要素も意味をもってくる。努力したわりには語学力の伸長が期待できないのは、案外こうした事情理解を軽視した背景があるからではないだろうか。内容の吟味には語学的なセンスとは別の社会的スタンスが要請されるのである。これはまた、大なり小なり作成者である語学教師の体験に裏付けられることになる。

つまり「こうした文型、文例を実際の場面で用いたとしたら、ある種のリスクをとまなうことになるだろう」という予測を常に持つようにしなければ、いくら語学的な表現技術

は磨かれても、双方向のコミュニケーションは形成されにくい。そして、ここでは言語にも「型」があるように、文化にも「型」があることを忘れてはならない。

なお、このテキストでは「奥さん」をタイ語風に発音した/òksan/、子供の名前の「リカちゃん」も/Rikachan/のように日本語として表記している。前者は使用人の間ではタイ語の一部として定着している感さえある<sup>9)</sup>。これに対して「ご主人」はタイ語で/nayháan/（「旦那」の意味）となっている。こうした意識にも、タイ人の日本人に対する固定観念、見方が反映されているように思われる。

ちなみに『实用生活タイ語会話』の各課のタイトルは表1の通りだが、あまりに家庭での対話場面に偏りすぎていて、例えば、地方への探索、異文化体験としてのタイ家族との交流などといった視点が欠けている印象が持たれる。

表1 『实用生活タイ語会話』の場面構成

課	タイトル	課	タイトル
第1課	スーパーマーケットで	第13課	レストランの予約をする
第2課	スーパーのレジで	第14課	洋服売り場で
第3課	包装を頼む	第15課	人に物を借りる
第4課	友達を外食に誘う	第16課	待ち合わせをする
第5課	留守を頼む	第17課	お見舞い
第6課	前借りを申し込まれる	第18課	電話で伝言を頼む
第7課	前借りを申し込まれる (続)	第19課	お使いに行く
第8課	デポジットを返してもらう	第20課	友人を自宅でもてなす
第9課	レストランで注文する	第21課	劇場で座席を探す
第10課	レストランで	第22課	遅刻を詫げる
第11課	故障	第23課	バスに乗る
第12課	修理を頼む	第24課	お手伝いさんに料理を頼む

各課は会話(タイ文字文/国際音標文字文/日本語)、「単語」、「解説」(文法と用例)、関連語彙、練習A(入れ替えドリル)、「練習B」(タイ文日訳)、練習C(日文タイ訳)の順。注意したいのは「単語」「関連単語」は(タイ文字/音標文字/日本語)の構成になっている点、また練習Aはタイ文字、音標文字、日本語の順、練習B、練習Cはタイ文字文、音標文字文、日本語文の順になっている点である。

### 3. 場面—その2—

以上は、日本人向けのタイ語テキストであったが、こんどはタイ人向けの日本語テキストを見てみよう。前述の執筆者はタイ人であったが、こちらは日本人教師とタイ人教師の共同執筆となっている。ただし、本文の内容は日本人が書き下ろしたもののようと思われる<sup>9)</sup>。次に、筆者が気になった箇所をあげてみたい。

- ①太郎：日本の気候に比べたら、タイの気候は単調ですね。半袖の服だけでいいですから、便利ですけど……。ぼくは日本人ですから、やっぱり日本の変化に富ん

だ、複雑な気候のほうが肌にあっているように思います。(第4課)

気候についての好みであるが、タイの気候の「単調さ」と日本の気候の「変化にとんだ」「複雑さ」を比べてどうしようというのだろうか。作者の意図が分かりかねる。

②太郎：日本の男性はほとんど料理を作りませんが、ぼくはちょっと例外で、料理を作るのが好きなんです。(第5課)

これも現代日本人の紹介としては、いささか古典的ではないだろうか。「料理を作るのが好き」なことは「例外」でも何でもないはずである。これは、作者の価値観の反映ではないだろうか。男女の均等意識の強いタイ人社会では、異質な、むしろ遅れた日本社会という強いイメージを植えつけかねない。

③太郎：日本にも皇室がありますが、そんなこと批判をしたら不敬罪で逮捕されることはいっさいありません。タイよりもっと「言論の自由」があるといっているでしょうね。(第8課)

「日本はタイよりも言論の自由がある」と明言するような個所は、事実がそうであっても干渉的すぎることはないだろうか。

④太郎：子供が小さいうちは仕事をやめて、子育てをがんばってもらいたいと思うだろうな。日本の社会では子育てと仕事の両立は難しいと思うからね。(第14課)

男性側からの視点であろうか、ここでも日本社会では男性は外で働き、女性は家を守るという、ステレオタイプの描き方が印象付けられる。

⑤太郎：タイより非行問題はもっとひどいと思うよ。お酒を飲んだりタバコを吸ったりするのは、小学生まで及んでいるし、校内暴力、家庭内暴力は、数え切れないな。万引や窃盗、ひどいになれば、中学生で売春なんて言うケースもあるんだ。(第16課)

「非行」の問題はセンセーショナルに言えばこうした会話もありうるのだろうが、教科書的な性格を考えると、極端な印象を招きかねない。

⑥太郎：日本の学生にとって、大学生活は長い夏休みみたいなものだとも言われている。受験が終わって社会に出るまで、4年間自分のしたいことが出来る時なんだ。一生懸命勉強する人もいれば、クラブ活動に打ち込む人、アルバイトばかりしている人、何もしない人、いろいろな人がいるよ。(第17課)

日本の大学生、学生生活の紹介も、主観的かつ一面的である。学生生活をもう少し活気のある、積極的な希望をもつものとして描く工夫があつてよい。

⑦太郎：でも、日本の女性が弱いと思ったら、大間違いだよ。社会的な地位はタイの女性に及ばないけど、家庭の中では大きな影響力を持っているんだ。家庭をしつかり守ってくれる女性がいるからこそ、男性は安心して仕事ができるんだと思うね。（第19課）

これも④の例と同様、男性側の視点から見た、極端な男女すみわけ論である。こうした内容を教えられたタイ人学生の反応は実際にはどのようなものであったか、関心もたれる。

以上は、気がついた箇所だけをあげてみたのだが、概して日本人である「太郎」が日本の事情を紹介する文脈において、主観的と思われる箇所が多く見受けられた。このテキストは日本人がタイ人とコミュニケーションをとりながら話が進むという点で工夫が凝らされている。そうであるならば、なおさらステレオタイプの表現は考慮されなければならないだろう。学生は語学を通して文化を受容しているのである。

また、これは言語行動の範疇に属することであるが、「おじゃまじゃないですか」「いつも迷惑かけてすみません」「じゃ、お言葉に甘えることにします」「悪いと思いますが」のような言いまわしを直接タイ語に置きかえる場合にも問題があるように思われる。

海外で日本語教育に携わる日本人日本語教師は自ずと教学の現場ではイニシアチブをとる立場に立たされることが少なくない。「書き下ろし教材」の作成については、当該教員に全権を委託されたような状況になるのも珍しいことではない。とくに生の教材を加工して、中上級の学習者に提供する場合、主観的な見地からの教材作成や提供に陥る危険性も決して少なくない。単に語学教師としての語学教育的な力量だけでなく、異文化理解への幅広い洞察力、文化事情の理解が求められる。日本人とタイ人が協同して作製したもので、十分な討議と吟味を経なければ、教材による文化摩擦は多かれ少なかれ、生じる可能性はあることを、こうした教材の〈場面〉は示唆していないだろうか。

ちなみに全21課の構成は表2のようにになっている。

表2 『中級日本語会話』の場面構成（【】は変更可能例）

課	タイトル	課	タイトル
第1課	家族【核家族と高齢化社会】	第12課	宗教【暮らしの中の信仰】
第2課	交通【都会と地方】	第13課	祭り【地域の活性化】
第3課	住居【住環境、地域社会】	第14課	子供の養育【子育ての問題】
第4課	気候【気候変動】	第15課	教育【教育問題、いじめ】
第5課	食べ物【食生活の変化、改善】	第16課	若者たち【若者の関心】
第6課	服装【面接での服装】	第17課	大学生気質【大学は今】
第7課	余暇【趣味と実用】	第18課	仕事【就職と転職事情】
第8課	雑誌【若者の読書】	第19課	女性の地位【男女平等】
第9課	観光【観光ガイド】	第20課	外国人と外国文化【異文化理解】
第10課	結婚【現代人の結婚離婚事情】	第21課	タイと日本【身近な交流とは】
第11課	映画【映画人口の変動】	——	

このほかにも高齢化社会、介護問題事情の比較、現代人のストレス、また謝罪と感謝とい

った場面なども現代社会の比較に欠かせない。双方が共同参画できるテーマの練り出しが必さらに要である。

#### 4. 場面—その3—

次にあげるのは、同じくタイで作製されたタイ人日本語学習者のための初級テキストの中にある、読解文の一節である<sup>5)</sup>。初級レベルでの長文読解は比較的珍しいものであるが、問題はやはり「文化の翻訳」に関する個所である。

「日本での生活」

私はパッターマです。タイの大学を卒業して、1ヶ月前に日本に来ました。日本に来る前にタイで二年間、日本語を勉強してきましたから、日常会話はだいたい通じます。私は毎日日本語の勉強で大変忙しいです。来年、大学院に入って経済について勉強するつもりです。卒業してから日本の会社で働きたいと思っています。

私は練馬駅の近くにある留学生会館に住んでいます。留学生会館には外国人の学生がたくさんいます。私の大学は留学生会館から電車で一時間ぐらいのところにあります。私は毎日7時に留学生会館を出て電車に乗って8時ごろ学校に着きます。ラッシュアワーですから、電車はとても込んでいます。電車に乗っている日本人を見たとき、やはりタイと違うような気がします。本を読んでいる人もウォークマンを聞いている人も、居眠りをしている人もいます。みんなよく時間を利用して感じます。ほかに、日本人とタイ人はいろいろな点で違うと思います。日本人は何でもやるのが速いです。道を歩くのも速いです。階段をのぼるときも速いです。仕事も速いです。

私は日本人が好きで日本人に興味があります。日本人の友達もたくさんできました。日本人と付き合うことによって日本人のものの考え方や生活習慣などがすこしずつ分かってきます。タイへ帰る前に日本語だけではなく、日本の文化や歴史などについてもぜひ知っておきたいと思っています。(下線部分、引用者)

以上が本文であるが、初級の学習項目をほぼ網羅したかのようなボリュームである。筆者はこの文章を見て、思わず、かつてタイで仕事をしていたとき、前任者の仕事ぶりは仕事とはかくあるべきもの、といわんばかりで、日本人の勤勉さの代表を地で行くような猛烈さは、タイ人と実に対照的であったことを懐かしく思い出す。

内容は一見、「無国籍」型のようなようではあるが、後半はタイと日本の生活習慣や文化の創意などに触れている点で、多少中級的なレベルを感じさせる内容になっている。初級という限られた語彙や文型を考慮すれば、上記の文例はよく構成されたものかもしれない。

ここで気になった個所は「日本人の仕事の速さ」であり、「日本人の時間を利用する」習慣である。タイ人一般がそうでないとも言いきれないし、日本人にしても全部が全部そうであるというわけでもない。だが、こうした文脈でタイと日本を比較して学習した結果、どのようなことが起こるだろうか。情報が白紙の学習者にとっては一部の誤解とともに日

本人に対して、額面通りの印象を残すであろうことは想像にかたくない。

語彙表現でみれば、日本語の「やはり」は「以前考えていたように」という表現になっている。日本語の「やはり」のニュアンスとは少し異なる一面があるのではないだろうか。

- ①「やはり」：mǔan yàaŋ thii khəy khít wáy  
 同じ ように REL [経] 考える しておく  
 以前考えたことがあるように

また、日本人がよく「時間を利用する」という個所は次のような表現になっている。

- ②「時間を利用する」：cháy weelaa pen praʔyòot mâak  
 使う 時間 として 有益な たいへん  
 時間を使ってたいへん有効である

タイ人と日本人がさまざまな点で異なる点、似て非なる点があるのは当然のことであるが、この文章の文脈では「速さ」の美德のようなところが強調されており、反対にそうでない習慣を低く評価している向きがそれとなく感じられる。

- ③「日本人は何でもやるのが速いです」  
 :khon-yìpun tham thúk-yàaŋ yàaŋ-rúat-rew.  
 日本人 する 何でも 速く

タイ語では「日本人は何でも速くする」という意味の文になっている。「何でもするのが速い」と内容は同一に見えるが、動詞述語文がいわば行為に焦点をあてて述べる傾向があるので、形容詞述語文のもつ一般的な評価・判断の文とはニュアンスを異にしている。

- ④「日本人と付き合うことによって日本人のものの考え方や生活習慣などが少しずつ分かってきます」  
 : càak kaan-khóp-hāa kàp khon-yìpùn thamhây khôy-khây khâwcaŋ thǔŋ  
 から 交際 と 日本人 CAUS /少しずつ 分かる まで  
 nɛwkhwaam-khít chiiwít-khwaam-pen-yùu khanopʔthamniam-praʔphenii  
 考え方 生活 習慣/  
 léʔ-ùnun- ùun.  
 等々

④の複文はタイ語では原因・手段と結果をつなぐ意味成分として/thamhây/が用いられ、全体としては使役文が原因・帰結の文を構成している。直訳では「日本人と交際することが考え方、生活習慣を次第に分からせる」というのがタイ語文の構造で、「日本人と交際することから考え方、生活習慣などが次第に分かる」という意味なのである。しかし、この接続詞として使われている、本来の助動詞/thamhây/のもつ意味が日本語の趣旨に精確に対

応しているかといえは必ずしもそうとは言えないだろう。/thamhây/はかなり必然性の高い結果を招来するものだが、日本語の前件と後件の結合のありかたは、それほど必然的とはいえない。時と場合によってはそういう機会もあるだろうという期待である。こうしたニュアンスを外国語に置き換える翻訳作業では、より細心の注意を払う必要がある。

## 5. 「言語接触」から「言語協働・共創」へ

多文化多言語が行き交う先端的な場として「職場」が挙げられると思うが、そこでの意思疎通にもさまざま配慮が必要のように思われる。さきにタイ語テキストに見られる配慮表現、語彙のいくつかについて見たが、ここでは日本人、タイ人にも配慮されたタイ語テキストを瞥見してみたい。すなわち前章ではもっぱらタイ在住の日本人主婦のタイ語能力の面から見たが、ここではタイ人、日本人がともに職場で交わす場面である。

取り上げるテキストは『実践！ 職場で使えるタイ語会話』で、タイ人編著者は3名、日本人協力者は1名である。前述の『生活タイ語会話』が日本人に日本語の校閲を得ながらもほぼ一人で書かれたものとは性格を異にしている（写真(2)）<sup>6)</sup>。

同書の構成は表3の通りで、登場人物の配置も配慮されている。まず各課に「目標・場面」があり「会話」（日本語、国際音標文字、タイ文字）、「語彙表現」（会話部分）、「使ってみよう！」（語法解説と例文）、「使えると便利！」（会話文例）、「語彙表現」（例文部分）のパーツに分かれている。語彙表現も人物の上下関係、ビジネス専門語彙なども多く含まれている。中級以上の表現といっている。

表3 『実践！ 職場で使えるタイ語会話』の場面構成

課	タイトル	課	タイトル
第1課	電話の応答	第11課	運転手
第2課	顧客応対	第12課	経費の精算
第3課	ホテル予約の依頼	第13課	医療保険
第4課	取り締まり来訪の準備	第14課	ビザの更新
第5課	空港での出迎え	第15課	職場での事故
第6課	日本への研修	第16課	社員の苦情
第7課	人材採用	第17課	配送間違い
第8課	面接(1)	第18課	緊急対応
第9課	面接(2)	第19課	残業管理
第10課	退職	第20課	生産管理報国

注意したいのは「語彙表現1」では（日本語／音標文字／タイ文字）、「語彙表現2」は（音標文字／タイ文字／日本語）となっており、音標文字を優先している。

前述の『生活タイ語』は、主婦向けのほぼタイ語初級のレベルとは異なっている。

会話文を見て気がつくのは、日本人が普通体、タイ人が丁寧体である点だが、職場における上限関係が明確に意図されている。なお、職場のコミュニケーションのための異文化理解として「ミニ情報」（通訳、意見をあまり言わない、叱責すること、なぜ挨拶して呉



れない、家族と仕事、カレンダー、あまり数字がすぎじゃない／日本人の団体行動)がコラム記事として掲載されているのは有益である。

また、語学書に関連して、クロスカルチャーの視点からタイと日本の文化習慣を開示した読物の提供も、相互理解に欠かせない道具となる。長くタイに滞在し、多くの体験をもつ日本人執筆者と日本語と日本文化に知悉したタイ人教師、翻訳家が協同して開発された『日本・クロスカルチャー・タイ』（バンコク:泰日経済技術振興協会、2008）は、多くのテーマにそって、会話文とその内包する場面、習慣を解説したものである（写真(3)）。

本書は、日本人がタイでの仕事、生活を通じて感じた経験と、タイ人が日本での仕事、生活を通じて感じた経験を基に、アイデアを出し合い、それらの経験を分かりやすく再現すべく、主に、ある日系企業A社での事例という形で場面設定し、会話風にまとめました。（「はじめに」より）

中には、一つの事例をクローズアップし、あるいは焦点化しすぎたきらいもあるが、そうした個人的な体験も互いに修正しながら活用することも可能であろう。日本語とタイ語の見開きになっており、タイ人にも日本人にも活用されることを目的に編まれている。同時に、こうした教材がさらに異文化理解の学習に活用されることを期待したい。

タイ人に対する日本語教育の実践から作成された『タイ人によくある失敗例—どうして間違い？なぜ失礼？あなたの日本語』（パーチャリイ・チンプラセートスック他、2008）は52の誤用例を取り上げ、見開き（左頁：日本語、右頁：タイ語）構成で詳しい解説をほどこした労作である（写真(4)）。その他の例や練習問題、総合問題なども収録しており、対照比較的考察によって随所にタイ人の発想様式にふれているものの、例文の中には注意を要する箇所もないわけではない。短い例文といえども誤解を招く要素が潜んでいるからである。例えば、次のような例文である。

授業中に寝ていたら、先生に頭をたたかれた。（「持ち主の受身」文の例。p.124）

電車の中で、ちかんにお尻をさわられた。（同上。p.125）

a.はタイ人の習慣では頭に手をふれることは禁じられている。b.はタイでも日本でも常態的な場面との誤解を受けるかもしれない。日本人日本語教師とタイ人日本語教師による共同制作だが、こうした例文の選択にあたっては細心の注意が必要ではないだろうか。

一方、タイに滞在する日本人、またタイ訪問の日本人観光客に対して、日本を訪れるタイ人観光客、タイ人日本人滞在者との言語接触も身近になりつつある。ピヤヌット（2016）は日本語とタイ語の対訳がついている教材で、「日本に関する基本情報」「歴史・皇室」をはじめ、「日本の社会・政治・経済・社会問題」、「日本の暮らしと文化」（家庭での日本人、日本の食べ物、日本を旅してみる、日本の伝統、日本の習慣）などを収めており、タイ人日本観光客に対するガイドブック的な体裁となっている。各市地区の自治体では日本語の情報弱者に対する各国語による情報の広報提供が課題となっているが、これらの整

備は「やさしい日本語」の浸透とともに、言語教育に関わる者にとっても関心を払っていかなければならない<sup>7)</sup>。

## 6. おわりに

現在も、たとえばビジネス場面での会話を想定した会話集が組まれているとして、そこには必然的に日系企業の習慣や慣例が注入され、日本人（雇用側）とタイ人（被雇用側）との力関係が現れる可能性がある。そこにはただちに溶け込めない場面もあるにちがいない。グローバル化が進めば進むほど心理的な衝突の発生率も高くなるのではないか。

語学教師は一つの言語を他言語に置き換える際、もっとも近い対訳語を探し出し、相互に整合する文意を組み立てることに意をそそぐ。だが、その一つ一つを検証してみるならば、そこにはこれまで述べてきたように、日本語とタイ語の表現上のレベルがあらわれるという自明な文化的な接点と相違点を、常に認識しておく必要があるだろう。

もっとも、繰り返すように、教科書には「完全」な到達度を求めることはできない。それでも、限られた海外での使用教材となると、その効力は決して小さくないことを常に念頭におきたい。とくに海外で日本語教育に携わる際の、教材の開発、提供にあたっては、異文化理解の視点が欠かせない。

ある日のこと、タイ人交換留学生在がレポート作成の相談にやってきた。研究計画書によれば「タイ人と日本人のストレスの感じ方とその解消の仕方」というものである。これは手に負えないと思い、直ちに中止させた。このレポート作成そのものが学生にとっては、また対応する私にとってもストレスを感じることになるからである。指導する教員も学生の負担、能力をよく考えずに勧めることもある。心理学の専攻でもなくこうしたテーマのもとに研究したとして、表面的な追跡にしかならないのではないか。日本語を学ぶ外国人留学生在は日本語の学習の他に異文化理解の延長にあることから、こうした文化比較論を課題にすることも少なくない。だが、接触場面の少ない学生には過重な負担がかかることはもちろん、調査分析によっては不正確な結果を得ることにもなるのではないだろうか。

語学教育には常に異文化理解が内在していることを認識すべきであり、そこでは一方文化の「強制」から多文化の「共生」、さらに「共創」への営みが指向されていなければならないだろう。そして、その背景には語学教育・研究と並行した言語行動、対照比較的視点が必要なことは言うまでもない。

### 注

- 1) 『しんにほんごのきそⅠ、Ⅱ』(海外技術者研修協会編 スリーエーネットワーク 1990)による。現在の『みんなの日本語』(1998 初版)では本文のような例文の変更が行われている。
- 2) タイで教材開発する上での注意点については、田中(1998)で若干ふれたことがある。
- 3) ウィライ・トーモラクン(1999)『实用生活タイ語会話』第6課、バンコク：泰日経済技術振興協会
- 4) 『中級日本語会話』"Sonthanaa Phaasaa-Yiipun Chanklaang" Culaalonkoon Mahaawitthayaalay

1991 バンコク：チュラーロンコーン大学

5) 田中寛他編『KISO NIHONGO』 バンコク：泰日経済技術振興協会 1997

6) 裏表紙には日本人に対しては日本語で「タイ人をよく知り、タイ人と上手く付き合うための本」と書かれており、またタイ人向けとして「日本人がよくわかる、日本人と仕事をするうえでうまく付き合うのに最適」と書かれている。なお、書名は日本語のタイトルとは別に、タイ語では「タイを知り、日本を理解する」とあるが、「知る」と「理解する」をタイと日本で使い分けている点も興味深い。

7) 日本語弱者への言語的配慮として昨今、庵(2016)などによって「やさしい日本語」が唱導されている。

【参考文献】 (注に挙げたものを除く)

庵功雄 (2016) 『やさしい日本語 多文化共生社会へ』 岩波新書

宇佐美まゆみ (1997) 『言葉は社会を変えられる 21 世紀の多文化共生社会に向けて』 明石書店

青木保 (2001) 『異文化理解』 岩波新書

田中寛(1998)「海外日本語教育における日本語教材の開発—泰日経済技術振興協会の語学事業を例に—」、21 世紀の民族と国家第 8 巻 奥田祥子編『ボーダーレス時代の外国語教育』未来社 pp.205-247

パーチャリー・チンプラセートスック、シリポン・イェムポーンサイ、スニーラット・ニャンジャローン スック、AKIMI.FUKUIKE, CHISATO.YOSHIOKA, MAIKO.KOHNO, YUKIKO.HORIKIRI (2008) 『タイ人によくある失敗例—どうして間違い?なぜ失礼?あなたの日本語—』、バンコク：泰日経済技術振興協会出版会

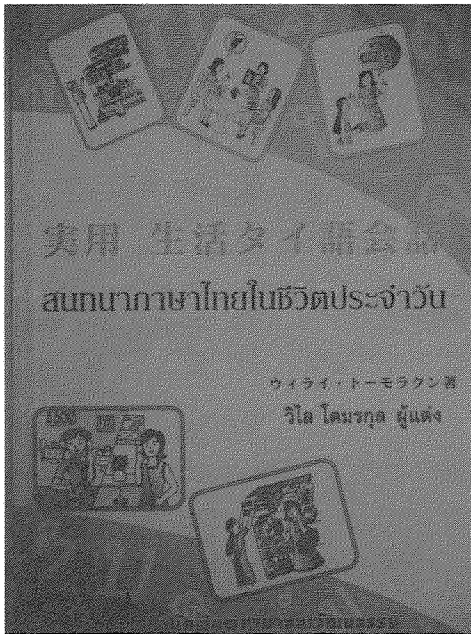
ピヤヌット・ウィリヤナワット (2016) 『日タイ対訳日本紹介 FAQ』 IBC パブリッシング

ウィライ・トーモラクン (1999) 『実用生活タイ語会話』、バンコク：泰日経済技術振興協会出版会

パーチャリー・チンプラセートスック、ペチャラット・クリサポンワニット、スリラック・ダンワニッチャクン、Yoshiyuki Fuji (2008) 『実践! 職場で使えるタイ語会話』、バンコク：泰日経済技術振興協会出版会

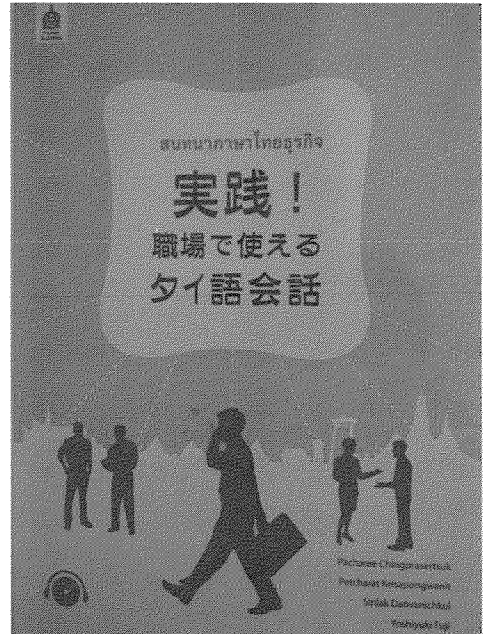
バンディット・ロジャヤナノント、プッサデー・ナバヴィチット、FUMIO.ORIKASA, TADASHI.ONOZAKI, YUKIKO.YABUUCHI (2008) 『日本・クロスカルチャー・タイ』、バンコク：泰日経済技術振興協会出版会、

本章でとりあげたタイの語学・異文化理解教材



㊦ (写真(1)) 『实用生活タイ語会話』

A5版 428p 1999



㊦ (写真(2)) 『実践! 職場で使えるタイ語会話』

B5版 218p 2009



㊦ (写真(3)) 『クロスカルチャー 日本・タイ』

B6版 318p 2008



㊦ (写真(4)) 『タイ人によくある失敗例』

B5版変形 318p 2008

附章 言語文化とその周辺の諸問題〈附章(3)〉

## 中国におけるタイ語学研究的動向

### — 近年における研究と教学の成果から —

#### 1. はじめに

ある高名な中国の言語学者に訊ねてみたことがある。中国で東南アジア語学を研究する人はどういった研究経歴を持つ人なのか。また研究の動機とはどのようなものか、と。

その人曰く、深い意味はなく、英語をはじめ主要言語は競争が激しく自分が入りやすい当面の部署、領域を目指すしかない。本当にその語学をやりたいわけではなく、学術世界に身をおくための一種の手段である。加えて、国家的戦略から、つまり上層部から「オマエ、コレヤレ」式の命令によって取り組むことも大きな背景らしい、というふうに聞き取れた。確かに、学問分野を選択するには「本音」とは別に環境と偶然性がせめぎあう。その一方で、研究を始めてからその面白さに惹きつけられることも少なくないだろう。

冒頭からこうした話をしたのは、筆者自身もそうなのだが、長い研究の途上、研究の発端とその発展に、同業者ながら気にならないわけにはいかないからである。しばしば中国を訪問する機会に、筆者は語学専門の書店にできるだけ足を運ぶことにしているが、一般書店にはない専門書のほかに、東南アジア諸語の研究の最前線を知りたいという目的がある。とりわけ筆者の研究語学であるタイ語について自ずと関心を抱かざるをえない。

かつて、筆者は北京大学出版社から刊行された『泰語基礎教程』について小文をしたためたことがあったが<sup>1)</sup>、当時としては初級から上級レベルにいたる非常に高度なシラバスに基づいて開発されたタイ語教材に驚きをおぼせなかった。翻って日本では当時、タイ語の学習書といえばタイ・バンコクの泰日経済技術振興協会語学学校で編集・刊行された『実用タイ語会話Ⅱ』<sup>2)</sup>しかなく、北京で刊行された三分冊の構成に、立ち遅れた日本のタイ語教学の現状にいささかの疑義を提起した次第であった。これがひとつのきっかけとなって2004年にタイ語研究の成果を上梓する運びとなるのだが<sup>3)</sup>、こうした中国のタイ語研究に背中を押されなければ、筆者のささやかなタイ語研究はほとんど進まなかったかもしれない。以来、中国におけるタイ語研究に少なからぬ関心をいただくようになった。この定点観測はまた、日本におけるタイ語研究の現状を照射することにもなったのである。

別のある高名な言語学者によれば、タイ語は決してマイナーな言語ではないという。むしろ、メジャーな言語で、声調言語をはじめ、統語的にも言語研究のモデルをいくつも有している。マイナーという認識を改める必要がある、と教えられたことが印象的である<sup>4)</sup>。

そして、かつて小文をしたためた時代から二十数年も経た現在、日本でもタイ語を学ぶ機会は以前よりも多くなり、それだけタイ語教育は盛んになっている。数種の検定試験制

度もあり、各種教材も開発されている。にもかかわらず、当時の状況と比較して、依然として停滞している印象をいなめない。背景には東南アジア言語についての共通した出版事情（需要と供給の問題）があるのだろう。批判批評と自己韜晦はこのくらいにして、本題に立ち回り紹介をすすめよう。隣国の現況から学ぶべきものがあれば、と思う。

## 2. タイ語研究の現況（抄録）

まず、ここ数年に見られるタイ語研究について順不同ながら見ておこう。

(1) 『泰語外来語同化現象研究』易朝暉著 世界図書出版公司 2013.4 261p

東南亜細亜研究叢書、解放軍外国語学院博士文庫項目の基金による刊行である。著者は1968年、湖南省長沙生まれ。

表題の通り、タイ語に見られる外来語の由来、主として英語からの転用について音韻学の面と意味的な側面から考察した成果である。タイ語の外来語は、日本人から見ても教学上しばしば気づかされるのが少なくない。たとえば、日本語では「デパート、百貨店」という単語があるが、タイ語にも外来語転用語とタイ語による単語が存在する。

事例1.

	和語・固有語	借用語・外来語
日本語	百貨店	デパート
タイ語	hâaŋsàphasinkháa	diiphâatmensa?təə

事例2.

	和語・固有語	借用語・外来語
日本語	旅券	パスポート
タイ語	nâŋsūur-dəonthaaj	phâatsapòot

一方、タイ語には固有タイ語しか用いられないケースも少なくない。日本語ではラジオはラジオであるが、タイ語では wit?thayú という単語である。また、ホテルなどのシングル（ベッド）もタイ語では tian-diaw という単語であらわす。

タイ語に見られる外来語と近代における科学技術、学術用語の需要とその翻訳の思想についてはこれまでもいくつかの貴重な研究があるが、本書は英語に由来する外来語をタイ語にどのように「変容」させ、受容して来たかを音韻変化の観点から検証したものである。タイ人と接していると日本語にはあまり見られない英語の頻用が観察される。これは日本人が「機会」を「チャンス」といって日常語として頻用するのと逆の関係である。タイ語では「機会」に対応するタイ語は常に oo?kàat なのである。「電話」を純粹タイ語で thoorasàp を使用する一方で、thereefon という単語をややくだけたニュアンスで用いる。「ホテル」も roonreem という代わりに、ある時には hooten という。ときには特殊な意味、ときには揶揄的に、隠語的ニュアンスをも込めて用いる。かと思えば「メッセンジャー」は日本語よりもタイ語の方が日常的な使用頻度は高い。また、日本語における外来語の受容（需要）

と中国語の音訳との比較なども興味を持たれる。ちなみに日本語とタイ語の対照（事例3）をみてみると、タイ語化した表記発音（左表）のほか、タイ語独自のものが日本語よりも頻繁に使われたりするなど、分布が異なっている。

事例3 日本語とタイ語の外来語の対照例

日本語化した英語	タイ語化した英語	日本語化した英語	タイ語独自の語彙
ファイル	fǽm	ボタン	pum
メッセージャー	méet·sen·cǎə	サンプル	(sǐnkháa)Tua-yaan
エレベーター	lip	マネージャー	phúucátkaan
エアコン	ʔɛɛ	リーダー	huaʔnaa(ɲaan)
キャンペーン	(cát) khempeen	レベル	radap
メール(する)	(sǒŋ) (ʔii·)meew	マニュアル	khúu·muuu
コンピューター	khǒm·phíw·tǎə	サービス	kaan·bǔɔrikaan
アパート	ʔa·pháat·mén	プロジェクト	khrooŋ·kaan
ファックスする	fǽk	レベル	raʔdáp
セミナー	sǎm·máʔ·naa	PR (宣伝)	prachaa·sǎmphān
ワークパミット	wǎək·phǎə·mit	ガソリン(代)	(khāa)·náamman
ビザ	wii·sǎa	プレゼント	khǒŋ·khwǎn
ゴルフをする	(tii / len) kǒɔf	トラック	rót·kra·bǎʔ
ネットワーク	nét·wǎək	セット	chút / sét
オペレーター	ʔoo·pǎə·ree·tǎə	インチ	níw
製造ライン	laay/sǎaykaan phaliit	レポート	raay·naan
チェックする	chék	アドバイス(する)	néʔnam
コピーする	kóp·pǐi*1	ベルトコンベアー	sǎay·phaan
シーフード	sii·fúut	システム	ra·bòp
フライト	fláy	スピーチ(する)	(kláaw) pǎət ɲaan
スライド	sa·láy	モデル	rún
ストライキ	sa·tráy	残業する	tham ʔoothii*2
アイデア	aidia	パーティー	ɲaan·liǎŋ
プレーキ	brèek	タイプする	phim
プラスチック	plaasatik/phlaasatik	カメラ	klǒŋ·thàay·rúup

1\*thàay ʔèekkasān 「複写する」というタイ語もある。

2\*thamɲaan lúǎŋ weelaa 「時間超過労働する」というタイ語もある。

3\*レジ袋なども含めビニール製品も総称することがある。

外来語の対照は当該国の事情背景をも投影する。タイは外国人労働者も多いことから「入

国管理局」は日常語の観を呈しており、「イミグレーション」というタイ語化した語彙もあれば、*sǎmnakṅaan/kɔ̃ɔŋ truat khon khâw muang* というタイ語複合語もあり、数語を略語化した *tɔ̃ɔ-mɔ̃ɔ* もあるという具合に、語彙によっては数種の表現もある。

タイは日本と比べて多民族国家で、バンコクを中心とする都市部では西欧人の姿も多く接触する機会も多いことから、とりわけ英語に対する受容度、寛容度は高い。こうした文化社会の背景も外来語受容の影響と、タイ語化する英語の現象と無縁であるはずがない。本書はさまざまな観点から外来語の同化現象に注目し、タイ語の語彙的な特徴、造語性にも多くの示唆をあたえてくれる。

(2) 『泰語語音歴史研究的若干問題』李強著 外語出版社 271 p 2012

中国におけるタイ語研究の発展の背景、土壌には、中国の少数民族語である大タイ語の研究に根差している要素が大きいことは承知の事実であろう。雲南地方一帯で使用される大タイ語（この場合の「泰」は「傣」と表記する）の複数の方言的要素（徳傣語、西傣語）を含む。本書は音韻学の立場から、声母をはじめ中古から現在のタイ語の発展プロセスを考察した労作である。

(3) 『漢泰関係詞的時間層次』龔群虎著 復旦大学出版社 2001 358 p

上海市社会科学博士文庫の一冊。(2)の発展的研究ともいうべき成果で、古代漢語と現在のタイ語の音韻体系の関係、および語と語の結合に見られる構成と音変化の変遷を多くの古籍から考察している。次節でみる中国におけるタイ語研究、学習の根底にこうした音韻学的な素地が、日本とは比較にならない空間的規模、時間的幅で存在することを痛感する。タイ語にも中国語にも関連詞が存在する。これは現代日本語文法でいうところの複合辞とも関連する形態的特徴で、中国語の虚詞、介詞研究の知見が双方に生かされることも期待したい。

(4) 『泰国清莱拉祜族及其語言使用狀況』戴慶厦主編 中国社会科学出版社 2010 482 p

跨境語言研究系列叢書(グローバル言語研究シリーズ)の一冊。中国民族大学”985工程”中国少数民族語言文化教育與边疆史地研究創新基地文庫。タイ国、チェンマイ大学、シーナカリン大学の共同研究の成果である。少数民族の言語は、「失われる言語」調査の一環として各言語に関心が寄せられている。ピジン、クレオールの言語的現象を探る試みでもあるが、学際的、国際的な連携で取り組まれた本研究は、他の少数民族言語の研究においても大いに援用されるべきものである。

(5) 『泰国的三個漢語方言』陳曉錦著 中国広州・暨南大学出版社 2010.6 400 p

華僑、僑生が多く暮らすタイ、とくにバンコクでは中国語ブームにより、中国語研究も進んでいる。一般に聞かれる中国語(*phaasǎa-ciin*)は潮州語のことを指す。これに対して公用語としての中国語は標準中国語として *phaasǎa-ciin-klaaŋ* と称する。*klaaŋ* は中央のといった意味である。または「マンダリン」といって北京語を指すこともある(一方、タイ人



は中華系の血が流れるタイ人も khon-ciin と称するのが一般である)。本書は曼谷（バンコク）の潮州話語音、広府話語音、半山客話語音の三大方言を音声的特徴と語法的特徴を比較したもので、豊富な方言語彙も収録。著者は中国・暨南大学漢語方言研究中心教授。発音人（インフォーマント）は十代から七十代まで各 5, 6, 2 人でバラツキがある。

### 3. タイ語教科書教材の趨勢

タイ語教科書の開発は、中国の経済的発展にともなう東南アジアへの経済進出と歩調をあわせた一面がある。かつて、日本が高度成長期に日本企業が進出するにつれ、日本語教育が盛況を呈したのと同じような状況を呈している。中国語教育の進出と表裏一体の関係である。だが、その内実はそれぞれの言語政策の特徴があり、日本語の場合は戦間期における日本語教育、また戦後の歩み、とりわけ 1970 年代の日本語教育の発展基盤があり、中国とは異なる背景、スタンスをもつことは言うまでもない。とはいえ、タイ語学習書の編集意図から、学ぶべきことは少なくないであろう。以下、2013 年 10 月時点での紹介を試みる。中国の書籍の表記に従い、書名は《》で示し、著者・編者、ページ数、出版社、刊行年月の順とする。なお、印刷の関係で簡体字を使用していない。

#### 3.1 大学本科使用教科書

発音、文法、読解など総合的な段階別教科書として、タイ語の専門家養成を目的とする主要な二大学で開発されたものがある。

##### ・《泰語教程》第一冊～第四冊（北京大学出版社）

初級から上級まで一貫したテキスト。初版は前節で紹介したように、北京大学東方語言文学系教材として、1989 年に刊行された『泰語基礎教程』三分冊である。新版（修訂本）はこれを四分冊に拡大し「国家外語非通用語種本科人材培養基地教材」として 2004 年に刊行された。旧版と同じく全巻、潘德鼎編著。新版は装丁も格段に向上、活字も見やすくなっている。二年間で基礎的な教学を満たすこと、タイ国社会生活の内容を充実させること、閲読教材を広範なジャンルから選択したこと、口語の使用環境に注意し、自然な語法、語用運用を目指すことの四点が改訂の趣旨である。以下、四分冊について略述する。

《泰語教程》第一冊。300 頁。2004.9. 本科一年次第一学期に使用と書かれている。前半の 12 課は語音部分で、あわせて字母の規則を説明し、後半の 10 課では会話部分として実用会話、基本文型の習得を目指す。各課は本文、語法説明、練習、語彙の順である。閲読教材も各所に配置されている。巻末に各課提出語彙の索引（泰中）を付す。

《泰語教程》第二冊。247 頁。2005.9. 本科一年生第二学期使用教材。全 14 課からなり、それぞれ本文、基本文型、注釈、語彙、練習、閲読部分から構成される。本文は短文、故事をベースとし、原文を尊重、タイ語の基本語彙と語法を収録。巻末に各課提出語彙（泰中）の索引を付す。

《泰語教程》第三冊。338 頁。2005.10 本科二年生の第一学期使用教材。全 14 課からなり、それぞれ本文、基本文型、注釈、語彙、練習、閲読部分から構成される。本文は原文

から収録し、必要以外は中国語の説明はない。巻末に各課提出語彙の索引(泰中)を付す。《泰語教程》第四冊。424頁。2005.10. 本科二年生の第二学期使用教材。全14課からなり、同じくそれぞれ本文、基本句型、注釈、語彙、練習、閲読部分から構成される。本文は原文から収録し、必要以外は中国語の説明はない。巻末に各課提出語彙の索引を付す。もとの「基礎」をはずしたのは、総合タイ語の体系を目指したからにほかならない。

なお『泰語教程』修訂版第二版は普通高等教育“十一五”国家級规划教材・普通高等教育精品教材・国家外語非通用語種本科人材培養という監督のもと、次のように刊行された。内容はほぼ上記修訂版にしたがうが、表紙や装丁、紙質はさらに向上した。

《泰語教程(一)》第二版 244p 2012.8.1 《泰語教程(二)》第二版 234p 2011.6.1

《泰語教程(三)》第三版 244p 2012.8.1 《泰語教程(四)》第四版 266p 2012.6.1

・《泰語》第一冊～第四冊(外語教学與研究出版社)

北京大学の《泰語教程》と同じく、これまで四冊のテキストが編纂されている。北京外国語大学で開発、使用されている教科書である。以下、四分冊について概説する。

《泰語》第一冊。邱蘇倫・蘆居正編。283p。1992。二部構成で第一課から第17課までが語音部分、つまり撥音・文字の解説であるが、同時に簡単な会話本文があり、新出語彙、文法語彙注釈、練習、練習の補充単語がついている。第二部は一課から22課まで、それぞれ本文、語彙、注釈、練習問題がある。練習問題の末尾には読解と翻訳の問題がある。

《泰語》第二冊。刑慧如・岑容林編。306p。1992。20課からなり、それぞれ本文、語彙、注釈、練習(読解および翻訳)で構成される。本文はタイ国の紹介で、文化、習慣、社会の広範な領域にわたり多様な語彙の修得をめざす。

《泰語》第三冊。岑容林・刑慧如編。498p。1993。約2000語の新出語彙をふくむ18課からなり、第二冊の内容をさらに高度に深めたもので、小説、評論、随筆など、生の材料をとりいれたもの。

《泰語》第四冊。邱蘇倫・蘆居正編。344p。1995。タイ語による中国の歴史、文化の紹介である。経済、社会の内容もふくむ。チェンマイ師範大学の協力を得て編纂された。10課からなり、ガイド養成を考慮したものである。

なお、《泰語》第三冊(岑容林、刑慧如編著 498p)、《泰語》第四冊(邱蘇倫、蘆居正編著 344p)が2008年に刊行されているが、紙質や装丁のほかは内容に特段の変更はない。

筆者は1998年に北京外国語大学タイ語科のタイ語の授業を参観したことがあるが、レベルは日本のタイ語科とは比較できないほどの内容であったことを思い出す。中国の教科書では(授業でもそうだった)、国際音標文字は一切使用していないことが最大の特徴である。

・《基礎泰語》(1)～(4)(世界図書出版公司)

段階別タイ語教材の第三弾として、最近刊行されたもので、四分冊から成る。基礎とは銘打っても初級から上級までの総合的教科書である。概要は省略する。

《基礎泰語(1)》廖宇夫編、206p 2008.9.1 全20課

《基礎泰語(2)》羅奕原編、266p 2008.9.1 全22課

《基礎泰語（3）》林秀梅編、208 p 2009.9.1 全18課

《基礎泰語（4）》黄進炎、林秀梅編、209 p 2010.4.1

つまり、基礎から上級まで系統的、体系的に学べるタイ語テキストが中国にはすでに三種類が大学で編纂、使用され、市販されているということである。この点は日本の言語研究と教育に照らすならば、タイ語認識において大きく異なる点であると認識したい。

### 3.2 会話書・初級入門書

日本ではタイ語初級の教授においては、国際音標文字による表記が主流である。しかし、タイではタイ文字から導入され、初級教科書でもこの方針は変わらない。こうした会話書の開発の背景には、前述のようにタイ経済の東南アジア進出、北京オリンピックや上海万国博覧会の開催などによる中国の世界的な進出によるところが大きい。

- ・《泰語900句》黎春暁 218 p 広西人民出版社 2009.1
- ・《生活用語必備泰語（中泰英対照）》Thai Essential Phrase Book  
佩里普魯斯編 217 p 人民教育出版社 2007.10
- ・《泰語三百句》傳増有 171 p 上海外語教育出版社 2004.8

新世紀非通用語種口語300句シリーズの一冊。日本語も含め20種言語。タイ語の基礎知識（発音、文字、語法）のあと、全40課の場面ごとの例文、注釈、単語・語句、補充語彙からなる。北京五輪、上海万博をにらんで編集された一冊といえる。この前身は、同じ書名で出された、《泰語三百句》（傳増有、北京大学出版社 286p 1996.11）である。

- ・《基礎泰語》第一冊 蘆居正・邱蘇倫編写 外語教学與研究出版社 198 p 2007.4

第一冊というから初級から上級までの段階積み上げ式のテキストだが、手元には第一冊しかない。総合タイ語、という編集意図である。

- ・《实用泰語教程》黄進炎・林秀梅編著 222 p 世界図書出版公司 2003.4
- ・《泰語会話》邱蘇倫編写 351 p 外語教学與研究出版社 2002.3

タイ語専業二年生使用教材で、初級水準のタイ語を習得した者の自習教材である。全25課で、本文、語彙、注釈からなる。

- ・《泰語新手一学就会》黎安、秋賢編 中国宇航出版社 342 p 2008.1

日本の新書版に相当する携帯用のタイ語会話集。例文、場面も豊富。

- ・《实用泰語初級教程》第三版 黄進炎、林秀梅著 広東世界図書出版公司 222 p 2009.1  
自学培訓教材系列。つまり、自習訓練教材シリーズ。

《零起点轻松說泰語》何瑗、吳玉珍(Sirikhwan Phathairak) 315p 中国宇航出版社 2010  
日本の新書版に相当する携帯用のタイ語会話集。例文、場面も豊富。

### 3.3 文法研究書

- ・《泰語語法新編》裴曉春編著 北京大学出版社 253 p 2001.10

日本ではいまだに現代タイ語の語法を専門に詳述した文法書が存在しない。長年望まれているにもかかわらず、総合タイ語のなかでの記述に終始している。その意味で、中国で

タイ語文法書が不十分ながらも刊行されていることは、文法研究の現在についても考えさせられるところがある。語彙編と語法編とに分かれているが、語彙編では複合語、連語的構成について、また語法では単文のシンタックス、ヴォイスやモダリティ、アスペクトといった文法概念に沿った記述が不十分で、文論にしても複文の従属節に相当する解説が希薄である。日本でも日本語文法との対照比較的観点から、日本人タイ語学習者のためのタイ語文法書が編纂されることを期待したい。

### 3.4 補助教材

読解（閲読）、作文（写作）、聴解（听力）のテキスト。いずれもCD付き。

- ・《泰語閲読教程》岑容林編 143 p 外語教学與研究出版社 1998.12

中上級学習者のための読解教材で、内容な故事、エッセイ、小説などの散文、新聞論説記事など多岐にわたる。ただし、本文のみで語彙や語法の注釈はない。

- ・《大学泰語写作教程》第一版 陳勝良、陳錫爾編著 249 p 重慶大学出版社 2010.10

高等学校泰語專業系列教材の一冊。作文に特化した教材である。

以下も高等学校泰語專業系列教材で、読解、聴解シリーズで上下二冊本。

- ・《大学泰語閲読教程（上）》游輝彩編著 132 p 重慶大学出版社 2009.11

《大学泰語閲読教程（下）》陳艷艷編著 225 p 重慶大学出版社 2011.5

- ・《大学泰語听力教程（上）》秦璞、李興紅編著 140 p 重慶大学出版社 2009.9

《大学泰語听力教程（下）》歐曼編著 141 p 重慶大学出版社 2009.11

### 3.5 辞書、分類用語集など

- ・《泰漢詞典》広州外国語学院編 第一版 838 p 商務印書館 2008.3

見出し語は派生語、複合語をふくめ6万、収録語彙数は10万にのぼる。長く君臨してきた中国唯一のタイ語辞典の修訂版である。

- ・《新漢泰詞典》東南亜国家語言辞書系列。裴曉睿編 680 p 2011.2 広西教育出版社

従来のタイ語辞典を新語も取り入れながら編纂したものである。

- ・《泰漢分類詞彙手冊》雲宝玉主編 433 p 広西教育出版社 2011.4

東南亜国家語言辞書系列の一つ。分類辞典（シソーラス）としては唯一のもの。

- ・《漢泰英—泰漢英政治外交詞典》易朝璋 547 p 外語教学與研究出版社 2010.3

漢泰英部分と泰漢英部分がそれぞれ250頁、その他、附録として国際地区組織、會議、国際条約、中国国家組織機構、中国主要社会団体、タイ国国家組織機能、世界主要国家地区、世界主要通信社を収録。

### 3.6 翻訳理論、その他

翻訳にはタイ語から中国語へ、中国語からタイ語への方法が考えられるが、後者は教程としては作文に相応する。以下ではタイ語から中国語への翻訳技法を解説したものである。

- ・《实用泰漢翻訳教程》譚国安他編 北京語言大学出版社 240 p 2009.2

北京語言大学対外漢語教材研发中心规划項目の一冊。

- ・《实用泰漢翻訳教程》潘遠洋編 広東世界図書出版公司 200 p 2011.2

国家非通用語種本科人材培養系列教材の一冊。「非通用語種」という名称は世界主要言語以外の言語をさすとみてよい。

- ・《泰漢翻訳理論與実践》梁源靈編著 重慶大学出版社 198 p 2009.2

このほか、上級の読物、副読本が数種類見られた。

- ・《泰国報刊選読》潘遠洋編 世界図書出版公司 253 p 2010.3

国家非通用語種本科人材培養系列教材の一冊。新聞、雑誌記事をベースに上級レベルの読解力養成を目指したもの。

- ・《高級泰語》林秀梅、黃進炎編 世界図書出版公司 282 p 2013.1

上記の教材とともに上級向け教材である。本文末に一部の教材、学習書の図版を掲げる

#### 4. おわりに

以上、「馬上花を愛でる」がごとき、ごく表面的な観察に終わったが、中国におけるタイ語研究・学習の一端が窺えたのではないか、と思う。2012年現在を記したので、その後の状況分析についてはいずれ報告することにしたい。言語学習、ことに外国語学習は当然ながらその国の文化観、異文化への価値観や外交認識など、多様な観点をはらむ。中国でみられるタイ語学習文献のほとんど全部が IPA 国際音標文字の併記に頼らず、最初からタイ文字の習得を課していることの意義を日本の学習形態と比較して思うところが多々ある。

冒頭に示唆した中国におけるタイ語研究が非通用言語研究に共通して国家的コンセンサス、プレゼンスによって計画され、構築されていくという独自の言語政策の一端を瞥見したのであるが、これは日本の言語政策における言語研究とはかなり異なった指向性を印象付けられる。以上、ある種、徒勞にも似た収集記述であったが、言語研究の在り方の一端をここからさぐることはできないだろうか。あるいは異言語への関心の所在といってもよい。それはまた当該国の対象国へのスタンスをみる視点をも提供しよう。筆者は書店に並ぶ外国語の専門書のほかにさまざまな学習書に触れる度にそうした印象を抱くのである。言語は異文化の窓である。比較検証することの意味を見出し続けたい。

注 1) 田中寛「潘徳鼎編著『泰語基礎教程』について」『LTI NEWS』October1991 pp.80-94 早稲田大学語学教育研究所

注 2) 会話をベースにした教科書。タイ人研究者と日本人研究者の共同制作による。実践的な内容を15課にまとめている。一部、現行の会話にふさわしくないフレーズも含むが、中級編『实用タイ語会話Ⅱ』とともに、今なおバンコクの当協会主催タイ語講座で使用されているほか、版を重ねている。

注 3) 『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』（ひつじ書房）。日タイ対照研究からみたタイ語の参照文法書ともなっている。

注 4) 学習院大学鷺田清一教授の示唆による。博士論文審査会席上にて（2014年2月）。

[補遺]

## 中国におけるタイ学・タイ語学研究の現状

—2015, 2016 年を中心に—

### 1. はじめに

一国を地域研究の対象とする場合、ともすると傍系に置かれがちなことは、他国での研究状況との比較考察である。日本におけるタイ学・タイ語学の進展はどこで検分されるかといえば、一部の研究者を除けば非常に限られた書誌に依るしかない。大学の紀要をはじめ、『東南アジア研究』（京都大学東南アジア研究所）、『東南アジア 歴史と文化』（山川出版社）、『アジア研究』（アジア政経学会）、『アジア経済』（アジア経済研究所）、『タイ研究』（日本タイ学会）などの学術誌、専門研究誌には近年の研究動向を探ることができるものの、きわめて少数である。主要言語学研究的学術誌にも十年に一本あるかなしかである。学会報告でも同様の現象がいなめない。扱う領域が広範過ぎ、当然知られない個別的な情報も多いといわなければならない。また研究に携わる者も個別研究を優先して、他の領域にまでまたがることは困難で、自然と学問の“蝸壺化”が進行せざるを得ない状況である。

ここでは中国で刊行されている二種類の学術誌に掲載された、いくつかの論考を紹介しながら、近年の中国におけるタイ国、タイ語への関心の動向を探ってみたい。二本とは異なる観点、関心からの取り組みを概観することで、研究の参考に供したい。

### 2. 《東南亜研究》 Southeast Asian Studies

本誌は東南亜研究雑誌社（広州暨南大学第二文科楼六楼）から隔月版（双月刊）で出されている。1959年に創刊されてこれまで223号（2016年四期現在）に至っている、いわば東南アジア研究の総合誌である。A四変型判で毎号120頁前後、東南アジア問題評論、アジア太平洋政治経済観察、華僑人研究、東南アジア社会の歴史と文化、のように分類され、それぞれ2～6本の論文が掲載されている。中国がアジア太平洋、南シナ海に進出する現況下にあつて、中国の対外政策の基本方針をさぐる意味で重要な記事も散見される。コメントを後述するために、論考の前に便宜的に数字をつけた。

#### 【東南アジア問題評論】

- ① 〈従対抗要素聯盟看泰国政治怪圈的形成機構〉劉倩, 翟崑

An Analysis on the Formation of Political Cycle in Thailand

-- From the Perspective of Confrontational Production Factor Alliance

Liu Qian & Zhai Kun

2016 第四期 223号 pp.4-11

- ② 〈21世紀初泰国軍人集團政治回帰的路徑、動因與前景〉周方治

The Path, Causes and Prospect of Political Regression of Thai Military  
Junta in Early 21<sup>ST</sup> Century Zhou Fangye

2016 第四期 223号 pp.12-23

【アジア太平洋政治経済観察】

- ③ 〈泰国对南海争端的態度：表現、成因、趨勢和影響〉 邵建平，劉盈

2015 第三期

- ④ 〈關於泰国司法化的諸種不同觀念〉 [英国] 鄭肯・麥卡戈著，杜浩，楊茜訳

2015 第五期

- ⑤ 〈中泰關係近況與泰国社会厭華情緒〉 張錫鎮

Sino-Thai Relationship Status and Negative Responses towards China  
in Thai Society Zhang Xizhen

2016 第三期 222号 pp.22-27

【東南アジア社会、歴史と文化】

- ⑥ 〈簡析泰国皇家学院在泰国標準語發展中的作用〉 朱蒙

2015 第三期 pp.

- ⑦ 〈泰国仏教介入政治衝突的表現形式及其原因探析〉 李宇晴

The Form of Thai Buddhism Involvement in Political Conflict  
and it's Reason Analysis Li Yuqing

2016 第四期 pp.106-112

さすがに華僑が政治社会のあらゆる階層、領域を広範にしていることから、中国との関係に重点が置かれているし、軍の政治関与については中国側も関心のあるところであろう。

③の「嫌中」ないし「厭中」感情は、日本のそれと比較する上で貴重なデータにもなろう。

⑤はタイの言語文化の考察に欠かせないタイ学院の辞書編集事情を映し出す。

### 3. ≪民族語文≫ MINORITY LANGUAGE OF CHINA

編集は中国社会科学院、中国社会科学院民族学與人類学研究所。社会科学文献社から季刊雑誌として出されている。2016年4月現在220号を数える。A4変形判で平均80-90頁。中国国内の少数民族の言語研究のほか、朝鮮語、蒙古語、ウラルアルタイ語の専門雑誌である。内容は音声学、語法、語彙など多岐にわたっている。複数言語の比較、対照研究の層の厚さは中国の一大特色である。本誌は海外研究者・共同研究者の寄稿・投稿も含め、一定の権威を有している。早期に見られる論考としては、次のものがある。

- ① 〈漢語和泰語的聯綿詞〉 閻立羽、1983 第三期

中泰語に共通してみられる類音疊語現象で、中国語の伝統的な造語構造である「双声」「疊韻」の構成からタイ語との類縁を探る研究であるが、ここにも中国語の祖語研究、系統学研究的背景がうかがわれる。なお、主要参考文献にある蘇提翁・蓬拍奔《基礎泰語》(曼谷1970)、馬迷塔・馬尼塔扎磊《泰文辞典》(曼谷1964)については未見である。

以下、近年に発表された論考を瞥見する。

- ② 〈泰語声調的類型和順時針連移〉 朱曉農, 林晴 [泰] 鈇差樞  
Thai Tones: Tonotypes and Their Clockwise Chain Shift  
Thu Xiaonong Lin Qing and Pratchaya Saengthong  
2015 第四期 pp.3-18
- ③ 〈泰語第一人称称谓系統及其類型意義〉 洪波, 泰曾惠娟, 郭鑫  
First Person Appellation System and it's Typological Significance in Thai Language  
Hong Bo, Then Huijuan and Guo Xin  
2016 第四期 pp.3-14
- ④ 〈泰語量詞的連接作用〉 依常生  
Connective Function of Classifiers in The Thai Language  
2016 第四期 pp.58-66
- ⑤ 〈泰語“弯曲”義詞研究〉 陳孝玲  
A Study on Words Semantically Associated with “DENDING” in Thai  
2017 第二期 pp.94-97

タイ語語法では③の類別詞の用法が注目される。これは中国語の量詞との類型的な関心からであろうが、概論の域を出ていない。⑤は「弯曲」を意味する語彙研究で、研究ノートの類である。侗台語、壮語などの少数言語、印尼語（インドネシア語）との音韻比較などこれも祖語系統への関心が背景にあることがうかがわれる。

このほか、目立ったところでは〈漢泰身体詞同源比較五十詞例〉（鄭張尚芳《民族語文》2014.3）があるが、総じて構文研究は少ないようである。

中国における言語研究は大規模コーパスを用いた研究、方言研究のほかウラルアルタイ諸語の比較研究に、最近は関心が集まっているようである。新しい研究の方向を類型論にもとめるなど、語彙、音韻の変遷を比較言語学的に通時的、共時的手法を用いて検証するなどの手法がとられるが、ここにあげた論考もその成果の一部である。②の著者の一人、朱曉農は中国における音声研究の第一人者で、タイ人研究者との共同研究である。③は特定の少数傣族語の人称代名詞が対象であるが、タイ語の記述も一部含まれていることから紹介した。④も同様に後半では周辺の少数民族語の比較考察にも及んでいる。

少数民族の比較研究は日本語でいえば方言研究を思い浮かべるが、その方法論は諸外国語との対照研究に直接寄与するところはいくつはないにしても、対象の多岐性、研究手法を通じてさらに一般言語学への貢献も指向されているようである。

#### 4. 中タイ対照研究への期待

以上、中国におけるタイ語学研究的を瞥見したが、同時に、タイ国における中国語学研究的にも目を向ける必要がある。中国語学、とりわけ文法語法研究については、管見の限り、



次の一冊しか確認し得ていない。

『基礎漢語語法』 プラピン・マノマイウィブーン著 (写真)

チュラロンコーン大学文学部東洋言語学科中国語専修科 2529 157p

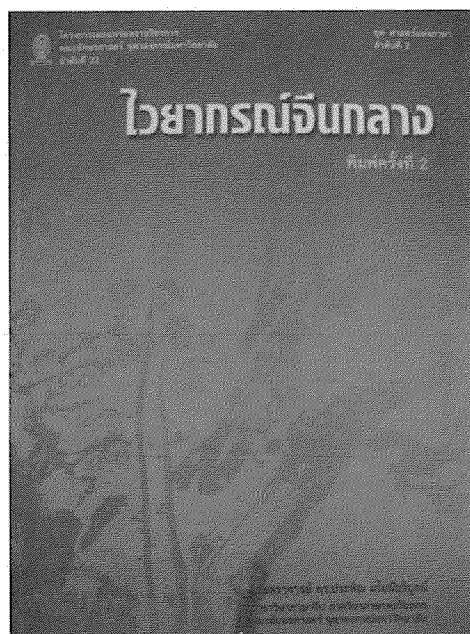
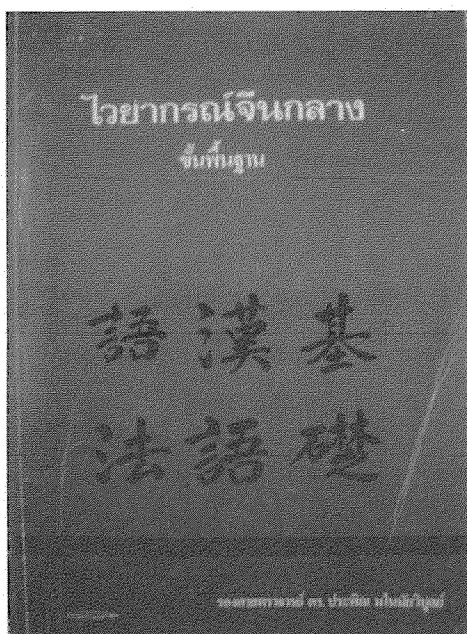
"ไวยากรณ์จีนกลาง ขั้นพื้นฐาน" รองศาสตราจารย์ ดร.ประพิน มโนมัยวิบูลย์

สาขาวิชาภาษาจีน ภาควิชาภาษาตะวันออก คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย ๒๕๒๙

趙元任、王力、朱德熙、丁声樹、馬真らの伝統文法の他、劉月華や潘文娛らの実用文法をも吸収した概説書であるが、《泰漢辞典》などとともに、不十分な記述が多く、刊行後、すでに 30 年近くが経過していることから、今後の本格的な記述の開拓が俟たれる、

今後はタイ国内で高まりつつある中国語学習、研究からの新しい対照研究の視点が生まれてくることを期待したい。その相互活性化が日タイ対照研究への滋雨ともなろう。

加えて、私的なことであるが、筆者のタイ語研究は日本語学との並走のほかに長い中国語学習、研究的知見が大きな背景、素地ともなっている。中国語のいわゆる処置文としての“把”字句とタイ語の“?aw”句との対照、動詞連動句と動詞連続表現、結果補語・可能補語・方向補語と結果構文の対照など、中国語学語法研究からの示唆も少なくない。今後は中国とタイ国との交流の発展から中タイ対照研究の成果が期待されるところである。



左：『基礎漢語語法』（仏暦 2529 年）

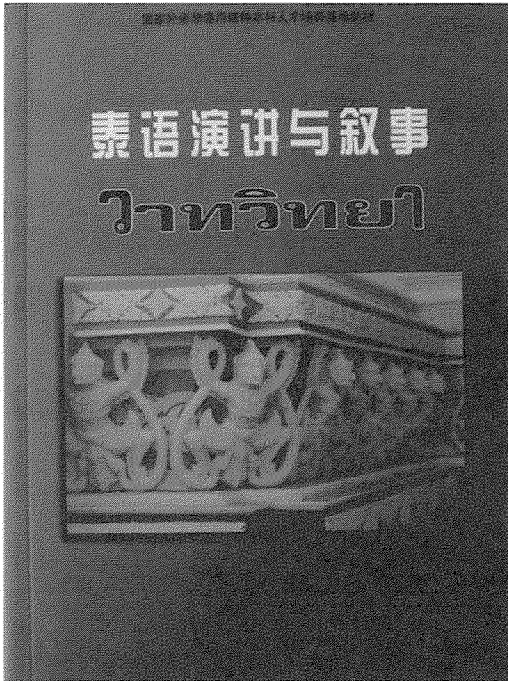
右：同、第二版（仏暦 2545 年）

[余録]

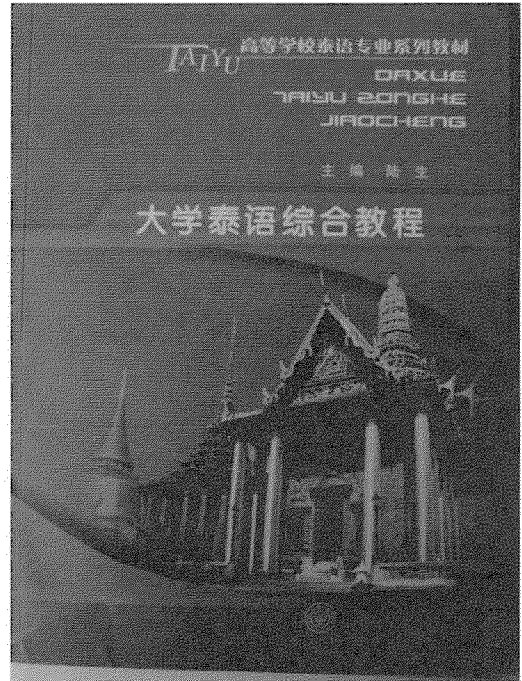
それにしても国家的規模といい、将来への展望といい、日本の言語研究一言語政策の規模と比較して、あらためて中国の言語的研究の巨大成長に気づかされる。全国規模の言語関係の雑誌も、種類、扱う領域にしても「進化」し続けている。日本の出版界事情では購読者数の激減、低迷から言語系学術誌が相次いで終刊、休刊に追い込まれ、先細りの感があるのとは対照的である。外国語教育の多様化とも相まって、目につくものを概観すれば歴史的に長い《語言教学與研究》(月刊、北京語言大学)、《中国語言学報》(中国語言学会)をはじめ、《外語教学與研究》(隔月版、北京外国語大学)、《外語與外語教学》(隔月版、大連外国語大学)、『外語月刊』(黒龍江大学)など、多数出版されており、翻訳研究、文学批評研究等もふくめて、今後ともさまざまな領域での研究が進展していくものと思われる。

ここ数年、中国の世界進出は経済方面に限らず多方面にわたっている。「一带一路」構想(BRI)に基づく国際戦略は当然ながら当面する対象国の経済方面の関心から当諸地域への言語研究にまで延伸する。そこに人が赴く限り、この趨勢は当面は続きそうである。《外語教学與研究》(北京外国語大学)には〈シルクロード経済ベルト沿線国家諸言語系研究〉と銘打った特集「語言文化と国家戦略」(2016年第3期、第4期、第5期)が三回にわたって掲載されるなど、中国の言語政策の現状が見てとれる。AIIB(アジアインフラ投資銀行)の狙いはADB(アジア開発銀行)の戦略に見合ったものであり、本質的に「一带一路」と不可分の関係を結びつつある。インフラ整備の資金供給に絡んだ地勢学的戦略も言語戦略(言語同盟化)も無縁のものではなくなりつつある。実際の研究の動向は定かではないが、一方で中国語の世界進出とも深くかかわる要素をはらんでいるようにも思える。こうした言語に関する「新思考」の趨勢の中で、中国における東南アジア諸語研究のなかで、タイ語の研究と教学がどのような発展をたどっていくのか、今後も注視していかなければならない。と同時に言語接触による新しい言語研究の構図が生まれていくことにも期待したい。

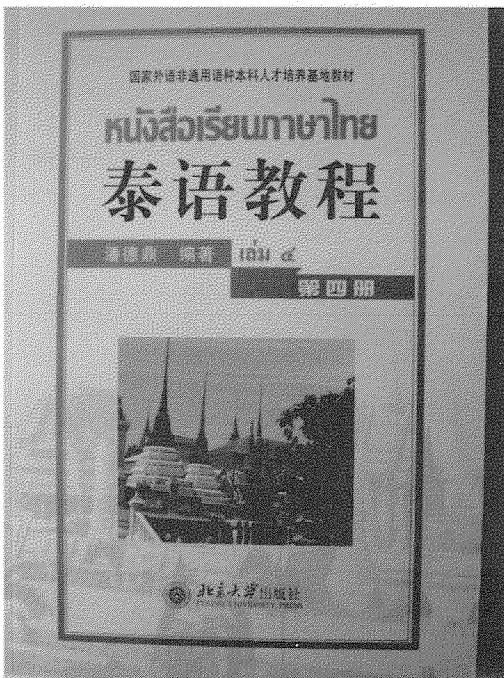
参考：中国におけるタイ語教材（1）



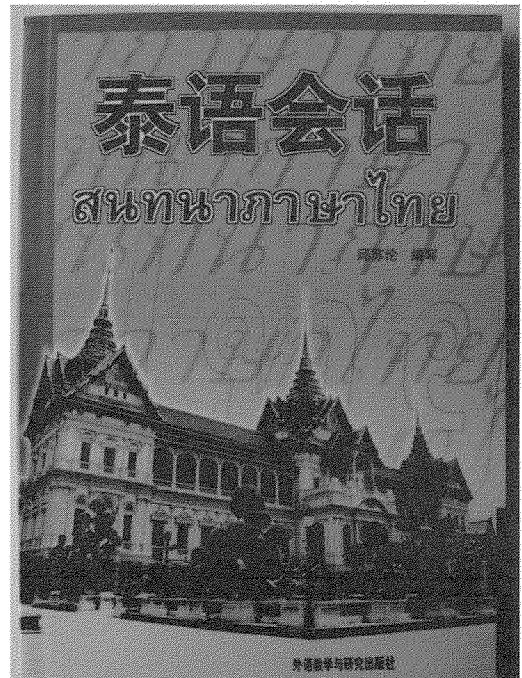
① 任一雄編著 『泰語演講與故事』  
北京大學出版社 2005 A5 判 206p.



② 陳生主編『大學泰語綜合教程』（第一冊）  
重慶大學出版社 2010 B5 變形 140p

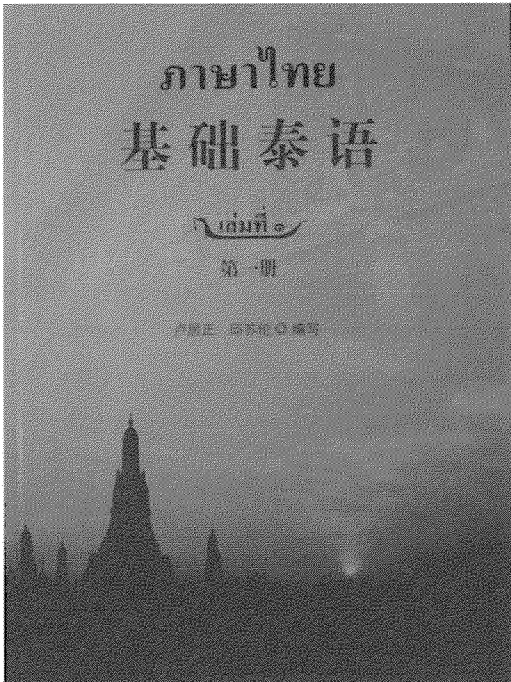


③ 潘德鼎編著『泰語教程』（第四冊）  
北京大學出版社 2005 A5 判 424p

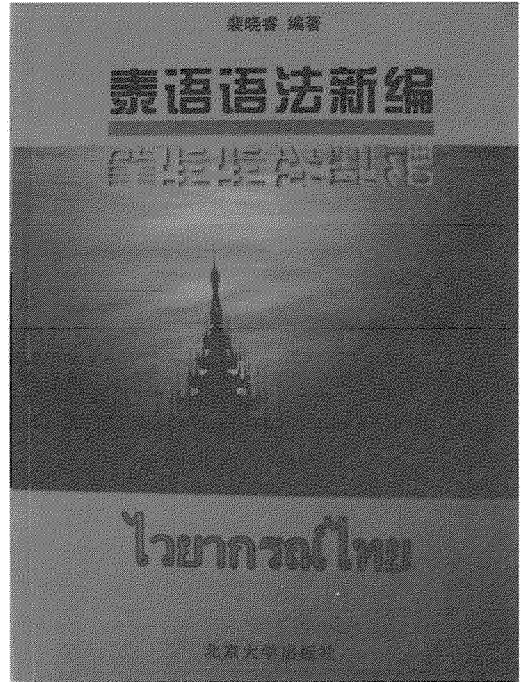


④ 邱蘇倫編寫『泰語會話』  
外語教學與研究出版社 A5 判 351p

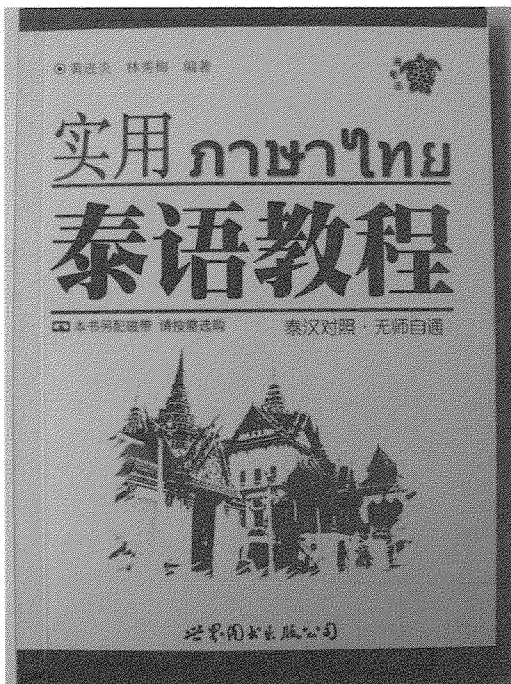
附表：中国におけるタイ語教材（2）



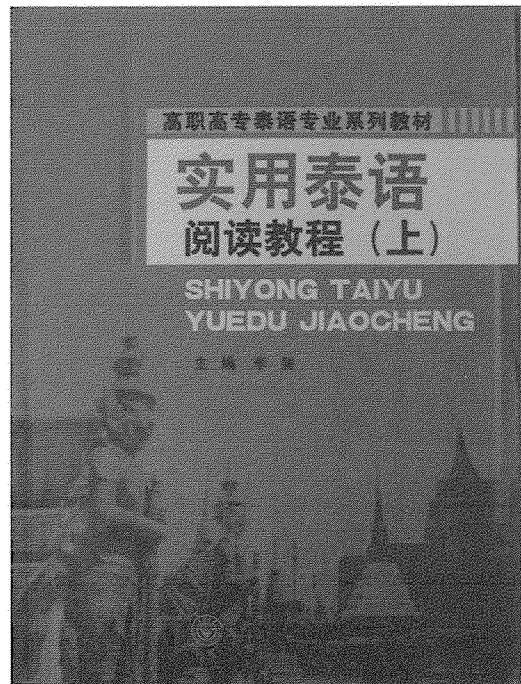
⑤ 盧居正・邱蘇倫編写『基礎泰語』（第一冊）  
外語教學與研究出版社 2007 A5 變形 198p



⑥ 裴曉蓉編著『泰語語法新編』  
北京大學出版社 2001 A5 判 253p



⑦ 黃進炎・林秀梅編著『實用泰語教程』  
世界圖書出版公司 2003 A5 222p



⑧ 李碧主編『實用泰語教閱讀教程』（上冊）  
重慶大學出版社 2010 A5 142p

## [附録] 日タイ対照研究文献目録

主として『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』(田中寛 2004)、『日本語とタイ語の対照研究—2009年度までの動向—』(今井忍編 2011)以後に発表された関連論文を各種学会誌、大学紀要、報告論文集から(A)言語研究、(B)言語教育、(C)言語文化・異文化理解の分類を試み、刊行順に採録した。論文は「題目」、著者名、『掲載雑誌』名、巻号数、刊行年、掲載頁(一部)の順とした。同一執筆者については一括して掲載した。なお、日本語教育史、言語文化接触・文化交流史、言語政策関連の論考については割愛した。紙面と時間的制約のため、遺漏も少なくない。今後も補訂、増補を続けていきたい。(2017年1月15日時点整理)

### (A) 言語研究：

タイ人による日本語、日本人・タイ人によるタイ語研究、日本語とタイ語の対照研究を主とする。最近は多方面の文法領域で研究が進められている。主題文、指示詞、終助詞と終結小辞、アスペクト、助数詞と類別詞、格助詞と前置詞、移動動詞、動詞連続構造、また、複文では名詞句、条件文、理由原因文、モダリティ、また、慣用句等の研究が見られた。認知言語学の視点から味覚、色彩、身体語彙の意味拡張に関する論文も多く見られた。なおこの中には教育文法の視点から(B)と関連する習得研究関係の論文も含まれている。

- ・「日・タイ指示詞の対照研究—「コ・ソ・ア」の誤用分析—」ワーサナー・ウィーラパー スック、『言語文化と日本語教育』水谷信子先生退官記念号、日本言語文化学会、凡人社 1995
- ・「日タイ対照研究—言語表現の傾向—」、吉田玲子、『学習院大学人文科学論集』13 学習院大学大学院人文科学研究科 2004
- ・「日本語とタイ語の現場指示—「コレ」と「annii」の対照的な分析—」サランヤー・ゴン ジット、『日本語と日本文学』第39号 筑波大学国語国文学会 2004.8
- ・「現代タイ語の人称代名詞と呼称詞」パドウンパッターノードム・オンウマ、『外国語学 研究』(5) 156-168 大東文化大学大学院外国語学研究科 2004
- ・「接続詞のように用いられるタイ語の *thamhây* について—「使役」と因果関係—」田中 寛、『指向』第2号 大東文化大学大学院外国語学研究科日本語学専攻 2004
- ・「タイ語条件表現の研究—条件節と時間節における文の叙述—」田中寛、『大東文化大学 紀要(人文科学)』第44号 2006
- ・「タイ語の主題提示機能の諸相—名詞主語句を中心に—」田中寛、『指向』第10号 大東 文化大学大学院外国語学研究科日本語文化学専攻 2013

- ・「タイ語の2種の主題文—日本語の主題文との対照—」 ナッティラー・タップティム、『日本語・』日本文化研究』第15号、大阪外国語大学日本語講座 2005
- ・「日タイ語における条件表現の意味—意義素の内部構造—」 中川サワリー、『名古屋大学言語学論集』第20巻 2005
- ・「条件文における論理構造」 中川サワリー、『名古屋大学言語学論集』第21巻 2006
- ・「日タイ語の談話標識の対照研究—間投助詞「ネ」と[na]の場合」 アサダーユット・チューシー、『タイ国日本研究国際シンポジウム2007論文報告集』、チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座 2008
- ・「タイの日本語教育における助詞「ネ」の伝達機能の指導上の問題点」 アサダーユット・チューシー、『早稲田大学日本語教育学』4 早稲田大学大学院日本語教育研究科 2009
- ・「日本語の助詞「ネ」とタイ語の助詞“NA”の伝達機能—タイ人学習者の日本語の談話における使用傾向」 アサダーユット・チューシー、『日本語／日本語教育研究』2 日本語／日本語教育研究会 2011
- ・「二重主題について」 タップティム・ナッティラー、『日本語・日本文化研究』第18号、大阪大学『日本語・日本文化研究』編集委員会 2008
- ・「タイ人日本語学習者の場所を表す「に：」と「で」の習得」 ダナサーンソムバット・ジャルナン、『日本語・日本文化研究』第18号、大阪大学『日本語・日本文化研究』編集委員会 2008
- ・「タイ語の主題文—日本語との対照—」 カンプンシュー・ラピーパン、『日本語・日本文化研究』第20号、大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2010
- ・「場所格の主題文—タイ語と日本語との比較—」 カンプンシュー・ラピーパン、『日本語・日本文化研究』第21号、大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2011
- ・「「象は鼻が長い」構文とタイ語の「XmiiYZ」構文との対照」、カンプンシュー・ラピーパン、『日本語・日本文化研究』第22号、大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2012
- ・「「～テモラウ」文とそれに対応するタイ語の表現—依頼的な意味を中心に—」 スチワロードム・スィリラック、『指向』第7号 大東文化大学大学院外国語学研究科日本言語文化学専攻誌 2010
- ・「日本語助数詞とタイ語類別詞の対照—文化や範疇化の視点の違いに着目して—」 小林尚

- 美・高田紘央、『東海大学国際教育センター』創刊号 2011
- ・「タイの日本語教育での「タ」」ラッタナセリーウォン・センティアン、『日本語・日本文化研究』第21号、大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2011
  - ・「日タイ両語の継続を表す形式に関する一考察―「テイル」と「kamlaŋ」、「yùu」を中心に―」ラッタナセリーウォン・センティアン、『日本語・日本文化研究』第22号、大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2012
  - ・「タイ語を母語とする日本語学習者の「自動詞の可能形」の誤用に関する一考察―行為の結果の状態の表現を中心に―」パンニー・セーリム、『日本語・日本文化研究』第22号 大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2012
  - ・「タイ語の/ʔɔ̀k/を含む動詞連続構造の一考察」レーオキッティクン・ルンルディー、『言語と文明』第10巻 65-91 麗澤大学大学院言語教育研究科 2012
  - ・「日本語母語話者にみる行為の結果を表す表現の使用傾向―実現可能場面における自動詞と他動詞の可能形―」パンニー・セーリム、『日本語・日本文化研究』第24号、大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2014
  - ・「タイ語を母語とする日本語学習者にみる自動詞と他動詞の使用傾向―実現可能場面における行為の結果の表現を中心に―」パンニー・セーリム、『日本語・日本文化研究』第25号 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2015
  - ・「タイ人日本語学習者によるアスペクト「テイル」の習得」ドゥアンケーオ・パオサタポー、『日本語・日本文化研究』第21号 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2011
  - ・「タイ人日本語学習者のテイルの習得―「結果の状態」に着目して―」ドゥアンケーオ・パオサタポー、『日本語・日本文化研究』第22号 大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2012
  - ・「タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得―「タイ語の影響」に着目して―」ドゥアンケーオ・パオサタポー、『日本語・日本文化研究』第24号、大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2014
  - ・「タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得―「動詞+lɛ̀w」のグループに着目して―」ドゥアンケーオ・パオサタポー、『日本語・』日本文化研究』第25号 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2015
  - ・「タイ語を母語とする日本語学習者の「シ」「チ」「ジ」の生成―語中位置と音環境による難易度―」トラカーンタロンサック・ターンポー、『日本語・日本文化研究』第22号、

大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2012

- ・「タイ人日本語学習者の場所を表す「に」と「で」の使い分け」ホームジット・ソロス、『日本語・日本文化研究』第22号、大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2011
- ・「タイ語と日本語の場所表現の対照—“nai”と「中」、「bon」と「上」を中心に—」ホームジット・ソロス、『日本語・日本文化研究』第22号、大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2012
- ・「タイ語における限定表現『khêe』の意味用法に関する考察—日本語との対照を目指して—」モンコンチャイ・アッカラチャイ、『コーパスに基づく言語学教育研究報告』No.6 東京外国語大学 2011
- ・「タイ語における限定表現『têe』の意味・用法に関する考察」モンコンチャイ・アッカラチャイ、『コーパスに基づく原語学教育研究報告』No.8 東京外国語大学 2012
- ・「日タイ語慣用句の対照的意味分析—《所有・取得》を中心に—」カンタムパン・スントラー、『指向』第10号 大東文化大学大学院外国語学研究所日本言語文化学専攻誌 2013
- ・「タイ語の『sămnuan』の定義について—日本語の『慣用句』との対応から—」チャントラチャムノング・セックサン、『国語国文学』56集 別府大学国語国文学会 2014
- ・「タイ語の「maa」の意味拡張—日本語の「来る／てくる」を手がかりに—」久保田育美、『日本語・日本文化研究』第25号 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻 2015
- ・「タイ語の存在・所有表現—日本語の存在・所有表現との対照から—」新居田純野、『長崎外大論叢』第19号 47-61 2015
- ・「タイ語の石碑文にみられる dây の用法」高橋清子、『神田外語大学紀要』第17号 2005
- ・「タイ語の石碑文にみられる dây の用法(2)—1925年以降の石碑文—」高橋清子、『神田外語大学紀要』第18号 2006
- ・「タイ語の非現実モダリティマーカー」高橋清子、『神田外語大学紀要』第19号, 189-210 2007
- ・「タイ語の否定辞」高橋清子、『神田外語大学紀要』第20号, 335-358 2008
- ・「タイ語の石碑文に見られる hây の用法」高橋清子、『神田外語大学紀要』第21号 2009a
- ・「タイ語の機能語 hây の意味変化の方向性」高橋清子、『日本言語学会第138回大会予稿



集』148-153 2009b

- ・「タイ語における他動性と使役性」高橋清子、西光義弘、ブラシャント・パルデシ〈編〉『自動詞と他動詞の対照』シリーズ言語対照 6 91-142 くろしお出版 2010
- ・「タイ語の石碑文に見られる *m haa* の用法（付記：これまで紀要に掲載したタイ語石碑文コーパスの修正）」高橋清子、『神田外語大学紀要』第 22 号 405-430 2010
- ・「タイ語の他動性に関する先行研究：Kullavanijaya1974 と Thepkanjana1992 の比較」高橋清子、『神田外語大学紀要』第 23 号, 293-313 2012
- ・「タイ語の機能語 *thii* の歴史的変化に関する先行研究」高橋清子、『神田外語大学紀要』第 24 号, 157-179 2012
- ・「タイ語の節接続標識」高橋清子、『神田外語大学紀要』第 25 号, 157-178 2013
- ・「タイ語の関係接続文」高橋清子、長谷川信子編『70 年代生成文法再認識：日本語研究の地平』、開拓社 2014
- ・「タイ語コーパス TNC 利用した談話分析に基づく *khâa-taay*（殺す—死ぬ）事象の考察」高橋清子、『日本認知言語学会論文集』11 2015
- ・「中国語とタイ語の移動事象表現」高橋清子、『神田外語大学紀要』第 27 号, 61-81 2015
- ・「タイ語の Freeze 事象表現—コーパスを使った事例研究—」高橋清子、パルデシ・ブラシャント、桐生和幸、ナロック・ハイコ編『有対動詞の通言語的研究—日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』くろしお出版 2015 205-222
- ・「タイ語の語用論的小辞」高橋清子、『神田外語大学院紀要』第 28 号, 289-309 2016
- ・「タイ語の移動表現」高橋清子、松本曜〈編〉『移動表現の類型論』シリーズ言語対照 7 129-158 くろしお出版 2017
- ・「タイ語の「変化」表現の教え方：コーパスを用いた類義動詞表現の事例研究」高橋清子『神田外語大学院紀要』第 29 号, 343-366 2017
- ・「タイ語の名詞修飾要素の分類：名詞修飾の機能体系に関する一考察」高橋清子、国立国語研究所共同研究プロジェクト名詞修飾表現 平成 29 年度第 2 回研究発表会 富山大学 2017.10.29 <http://www.crosslinguistic.studies.ninjal.ac.jp/noun/ap-content> 2018.1.5
- ・「接続表現をめぐる日タイ対照研究—原因・理由節で用いる接続表現を中心として—」ピヤトーン・ケウワッタナ、『外国語学研究』第 15 号 大東文化大学大学院外国語学研究科 2014a

- ・「原因・理由表現をめぐる日タイ対照研究——日本語の「から・ので」とタイ語における“phrǎʔ”を中心に——」ピヤトーン・ケウワッタナ、『日タイ言語文化研究』第2号 日タイ言語文化研究所 2014b
- ・「原因・理由表現をめぐる日タイ対照研究—原因・理由文の分類について—」ピヤトーン・ケウワッタナ、『国際交流基金バンコクに本文化センター日本語教育紀要』第11号 国際交流基金バンコク日本文化センター 2014c
- ・「事態系の原因・理由表現をめぐる日タイ対照研究—「せいで」「おかげで」に対応するタイ語の原因・理由表現を中心に—」ピヤトーン・ケウワッタナ、『語学教育研究論叢』第32号、大東文化大学語学教育研究所、2015a
- ・「原因・理由文をめぐる日タイ対照研究—タイ語の因果構文を中心として—」ピヤトーン・ケウワッタナ、『外国語学研究』第16号 大東文化大学大学院外国語学研究科 2015b
- ・「原因・理由表現の日タイ語対照研究—タイ語の因果構文の特徴と分類の考察を中心に—」ピヤトーン・ケウワッタナ、『語学教育研究所創設30周年記念フォーラム』、大東文化大学語学教育研究所 2015c
- ・「事態系の原因・理由表現をめぐる日タイ対照研究—「ために」に対応するタイ語の原因・理由表現を中心に—」ピヤトーン・ケウワッタナ、『日タイ言語文化研究』第3号、日タイ言語文化研究所、2015d
- ・「タイ語話し言葉コーパスから見た「語用論的終結小辞」」スニサー・ウィッタヤーパンヤーン（齋藤）、『アジア・アフリカ言語文化研究』94 111-136 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2017
- ・「物語ナラティブにおけるタイ語の関係節の使用——「thü 関係節」「sǔŋ 関係節」「裸の関係節」各関係節の使われ方を中心に——」コーブルアン・ワチャラチャイ、『言語と文明』第15巻 33-59 麗澤大学大学院言語教育研究科 2017
- ・「日本語形容詞「あまい」の意味拡張と広告における多義的使用の分析—英語<sweet>およびタイ語<wǎan>と対照しながら—」チャントラー・チャンティマ、『DYNAMIS: ことばと文化』第3巻、京都大学大学院人間・環境学研究科文化環境基礎論講座 1999
- ・「タイ語における色彩表現の意味的特徴」宮本マラシー、『大阪大学世界言語研究センター論集』第2号 大阪大学 2010a
- ・「タイ語における色彩修飾語の語彙意味の特徴」宮本マラシー、『大阪大学世界言語研究センター論集』第4号 大阪大学 2010b
- ・「タイ語における味覚語の体系関係」宮本マラシー、『大阪大学世界言語研究センター論

集』第5号 大阪大学 2011a

- ・「タイ語における味の評価表現」宮本マラシー、『大阪大学世界言語研究センター論集』第7号 大阪大学 2011b
- ・「味を表すタイ語表現における比喩」宮本マラシー、『言語文化研究』第39号 大阪大学大学院言語文化研究科 2013
- ・「タイ語における視覚語の比喩転用」宮本マラシー、『言語文化研究』第40号 大阪大学大学院言語文化研究科 2014
- ・「タイ語の嗅覚と聴覚を表す表現における比喩的転用」宮本マラシー、『EXORIENTE』Vol.22 大阪大学言語社会学会 2015
- ・「タイ語の触角を表す表現における共感覚的比喩」宮本マラシー、『言語文化研究』41 大阪大学大学院言語文化研究科 2016
- ・「タイ語における視覚動詞「duu 見る」と聴覚動詞「faŋ 聞く」の意味的拡張」宮本マラシー、『言語文化研究』第43号 大阪大学大学院言語文化研究科 2017
- ・「対訳コーパスを使った日本語とタイ語における一人称表現仕様の対照分析—漫画における一人称表現の出現数を中心に—」スィリアチャー・ロイケオ、上原聡 言語処理学会『第22回年次大会発表論文集』 2016
- ・「日本語とタイ語の自称詞の対照研究—認知言語学の視点から見た出現数と種類の差異—」Roykaew,Siriacha (スィリアチャー・ロイケオ)、『国際文化研究』23号 31-44 東北大学国際文化学会 2016
- ・「日本語の敬語とタイ語の敬語」ターゲ・ロッサディー  
<https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/38677/> 2017.10.31 アクセス

タイ語をはじめ東南アジア大陸部諸言語の対照研究では慶応義塾大学言語文化研究所を拠点とする東南アジア諸言語研究会編による報告集に、以下の研究論文が収録されている。

- ・「タイ語の「行く・来る」」峰岸真琴、タッサニー・メータービスイット、  
『東南アジア大陸部諸言語の「行く・来る」』 2003
- ・「タイ語の名詞句構造」峰岸真琴、『東南アジア大陸部諸言語の名詞句構造』 2006
- ・「タイ語の動詞句」峰岸真琴、『東南アジア大陸部諸言語の動詞句構造』 2013
- ・「タイ語の動詞連続」峰岸真琴、『東南アジア大陸部諸言語の動詞連続』 2017

#### B) 言語教育、言語習得、外国語教授法：

日本語教育、タイ語教育、教授法研究を主とする。第二言語習得研究、教材研究、母語話

者教師と非母語話者教師との連携、協働に関する報告、調査研究等が見られた。

- ・「タイ高等教育機関の日本語専攻カリキュラムの開発に関する研究—プリンス・オブ・ソクラー大学を例に—」 エックアリヤスィリ・エックナリン 『日本言語文化研究会論集』第4号 国際交流基金日本語国際センター、国立国語研究所、政策研究大学院大学
- ・「タイにおける日本人教員をめぐる問題から得られる示唆」 牧貴愛 『無差』第15号 87—96 京都外国語大学日本語学科 2008
- ・「海外で働く日本語母語者教員の異文化適応力養成教材の開発—タイを中心に—」 牧貴愛 『無差』第17号 21—31 京都外国語大学日本語学科 2010
- ・「電話における学習者の「聞き返し」戦略の使用について：発話意図と表現形式に注目して」 テンチャロン・モンルタイ 『言語文化と日本語教育』34号 11—19 お茶の水女子大学 2007
- ・「タイ語を母語とする学習者の受身の習得」 サウィットアイヤラム・テーウィット、『言葉と文化』第9号 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 2008
- ・「受身文の談話機能の習得—タイ人日本語学習者を対象に—」 サウィットアイヤラム・テーウィット、『第2言語としての日本語の習得研究』12号 第2言語習得研究会 2009 107—126
- ・「タイにおける日本語教育」 ブッサパ・バンチョンマニー、『日本研究教育年報』13 東京外国語大学 2009
- ・「タイ国ラチャパット大学における教師の仕事上の役割—日本語母語話者教師と非母語話者教師の協働を考える—」 香月裕介・松尾憲暁、『日本語・日本文化研究』第19号 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2009
- ・「受身文の談話機能の習得—タイ人日本語学習者を対象に—」 サウィットアイヤラム・テーウィット、『第二言語としての日本語の習得研究』第12号 お茶の水女子大学 2009
- ・「受身の習得と教材による影響—タイ人学習者を対象に—」 サウィットアイヤラム・テーウィット、『言葉と文化』第11号 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 2010
- ・「M-GTAによるタイ人日本語教師・日本人日本語教師の役割の構造化—タイ国R大学タイ人教師へのインタビュー調査から—」 香月裕介、『日本語・日本文化研究』第20号 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2010
- ・「タイ人学習者を対象としたVT法による発音指導」 大田真也、『拓殖大学日本語紀要』第23号 2012

- ・「タイの中等教育後期課程卒業生へのインタビューから見るタイ・日文化意識—日本の精神文化に対する認識とその背景—」内田陽子、『桜美林言語教育論叢』No.10 桜美林大学言語教育研究所 2014
- ・「日本語学習者の学習意欲に影響を与える要因に関する質的調査—タイ中部 P 大学日本語主専攻者を取り巻く文脈において—」富吉結花、『桜美林言語教育論叢』No.10 桜美林大学言語教育研究所 2014
- ・「タイ人日本語学習者コーパスと日本語母語話者コーパスの比較—テキストマイニングを用いて—」高田紘央・前野文康、『東海大学国際教育センター』第 4 号 2014
- ・「タイ人日本語学習者と日本語母語話者の視座の置き方に関する分析—10 コマ漫画の描写に見られる視点表現を中心に—」ラルアイソング・タナパット、『筑波大学地域研究』第 35 号 2014
- ・「日本語非母語話者教師と母語話者教師による教師間協働の実態調査報告——タイの高校における協働環境と協働内容——」中山英治、門脇薫、高橋雅子、『いわき明星大学人文学部研究紀要』28 19-34 2015
- ・「タイにおける初級日本語学習者の語の獲得——読物教材と単語リストの比較から——」山口ひとみ、『獨協大学日本語教育紀要』第 10 号 獨協大学大学院外国語学研究科日本語教育専攻 2015
- ・「日本人タイ語学習者の発音問題と指導方法に関する一考察」スニサー・ウィッタヤーパシヤーン、『東京外大東南アジア学』20 2015
- ・「外国人のためのタイ語教育」における初級文法の扱い」高橋清子、『神田外語大学紀要』第 26 号 465-488 2014
- ・「音声利用向け発音情報を出力できるタイ語解析器の開発」山崎智弘、宮村祐一、山中紀子 『言語処理学会第 22 回年次大会発表論文集』2016.3
- ・「タイ語音声の音響特徴」大矢健一 『長野工業高等専門学校紀要』第 50 号 1-4 2016
- ・「外国語としての日本語における読解不安・外国語学習不安・読解力の関係—タイ人大学生を対象に—」サグアンシー・タンヤーラット、『言語科学研究』22 神田外語大学大学院紀要 2016
- ・「微笑みの国「タイ」における日本留学事情と日本語教育」俵幸嗣、『ウェブマガジン留学交流』31(10) 1-44 独立行政法人学生支援機構
- ・「タイ主要 4 地域から見る日本語教育機関の ICT 利用状況」吉嶺加奈子、『地球社会統合

科学研究』5 65-75 九州大学大学院地域社会総合科学府

- ・「タイ人日本語学習者のための日本語教育文法—依頼表現の日タイ対照研究及び第二言語習得研究からの再検討—」高木都、日本語教育学講座 M2  
<https://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/0-kyouiku/...> 2017.10.31 アクセス

C) 言語行動、言語文化、異文化理解：

接触場面、言語行動に関する対照研究を主とするが、言語景観、異文化接触、異文化コミュニケーション、ビジネス・コミュニケーションとストラテジーに関する研究などが見られた。

- ・「謝罪ストラテジーの日・タイ対照研究—ディスコース完成テストを通して—」山本さゆみ、『姫路獨協大学日本語教育論集』4 1995.3
- ・「Some Controversial Issues in Thai Transliteration/transcription」ニッター・K、『外国語教育—理論と実践—』天理大学語学教育センター 第28号 2002
- ・「タイ人と日本人との間のビジネス・コミュニケーションの問題に関する研究」チンプラサートスック・パチャリー、『共生時代を生きる日本語教育』、言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集、凡人社 2005
- ・「電子メールにおける依頼の展開構造—日本語母語話者とタイ人日本語学習者の対照研究—」宮崎玲子、『日本語・』日本文化研究』第17号 大阪外国語大学日本語講座 2005
- ・「タイにおける日本語の受容—外国語・外来語としての日本語の姿—」中山英治、『タイ国日本研究国際シンポジウム2007 論文報告集』チューラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座 2008
- ・「遅刻場面における言い訳の使用の日タイ対照分析—意識調査の報告より—」ユピワン・ソーピットウィティウオン、『日本語・日本文化研究』第19号、大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2009
- ・「日本語とタイ語における提案に対する反対意見の対照研究—目上に対する反対意見表明を中心として—」ワヌサー・クンパッタラニラン、『日本語・日本文化研究』第20号 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース 2010
- ・「タイ一日の日本語接触場面における「誘い—断り」の発話行為」タブンティナー・ナツタモン、加藤好崇、『東海大学紀要』第30号 東海大学留学生センター 2010
- ・「タイ人日本語学習者—日本語母語話者の初対面接触場面における話題選択」ジャロンウィットカジョーン・ウィパー、加藤好崇、『東海大学紀要』第30号 東海大学留学生センター 2010

- ・「感謝の場面での謝罪の発話—日本人母語話者とタイ語母語話者の意識と使い分け—」  
スィリラット・サンタヨーパス、『一橋大学国際教育センター紀要』(2) 37-55 2011
- ・「タイ人日本語学習者の「提案に対する断り」表現に対する語用論的転移—タイ語と日本語の発話パターンの比較から—」 ルンティエラ・ワンウィモン、『日本語教育』121号  
46-55 2011
- ・「遅刻場面における言い訳の日タイ対照分析—上位関係の会話に注目して—」 ユピワン・  
ソーピットウィティウォン、『日本語・日本文化研究』第21号、大阪大学言語文化研究  
科言語社会専攻海外連携特別コース 2011.
- ・「「助言」における日・タイ対照研究—問題となる事柄の深刻度の低い場面に着目して—」  
デンスパー・スワッターナー、『日本語・日本文化研究』第22号、大阪大学言語文化研究  
科日本語・日本文化専攻 2012
- ・「不運な経験を語る会話の日・タイ対照研究—深刻度の重い場合—」 トーンハーン・タッ  
サワン、『日本語・日本文化研究』第22号、大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化  
専攻 2012
- ・「ポライトネス・ストラテジーに反映された社会文化的規範—タイ語・ジャワ語・日本語  
の断らない表現に焦点を当てて—」 伊藤恵美子、『国際開発研究フォーラム』41 名古屋  
大学大学院 2012
- ・「携帯メールにおける断りの機能の構成：タイ人日本語学習者と日本語母語話者を比較し  
て」 メグリアングライ・ボンティパー 『言語文化と日本語教育』45号 お茶の水女  
子大学 2013
- ・「タイ語を母語とする日本語学習者の不同意表明における語用論的特徴」 ピナンソッティ  
クン・ポラニー、『言語文化と日本語教育』47号 お茶の水女子大学 2014
- ・「「助言」の会話の日・タイ対照研究—問題となる事柄の深刻度の高い場面に着目して—」  
デンスパー・スワッターナー、『日本語・日本文化研究』第25号 大阪大学大学院言語文  
化研究科日本語・日本文化専攻 2015
- ・「日本語学習者の学習意欲に影響を与える要因はどのように作用するか——タイ中部P大  
学の主専攻者を取り巻くL2Selfから——」 富吉結花、『言語教育研究』第6号 桜美林  
大学大学院言語教育研究科 2016
- ・「集中的に舌打ちを発したタイ人日本語学習者の発話に関する—考察」 萩原孝恵・池谷清  
美、『日本語プロフィエンス研究』4号 凡人社 2016
- ・「感謝場面における日タイ語の言語行動パターンの対照分析—テレビドラマを資料として

一」ウィーチャールルモンコン・サリンラット、上原聡、言語処理学会『第22回年次大会発表論文集』 2016

・「感謝場面における日タイ語の言語行動」サリラット・カウィージャールモンコン、『タイ国に本研究国際シンポジウム2014論文集』チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座 2014

・「ポライトネスの視点から見た感謝場面における日タイ語の言語行動」サリラット・カウィージャールモンコン、『国際文化研究』23号 15-29 東北大学国際文化学会 2016

補遺：各種紀要論文

国際交流基金バンコク日本語センター、バンコク日本文化センター紀要に収録された関連論文一覧（各号の目次）。語法を中心に日本語とタイ語の対照研究関連論文は○濃字で示した。タイ人著者名は原文のアルファベットを原音にできるだけ忠実に片仮名表記とした。

国際交流基金バンコック日本語センター紀要 第1号 1998.3

- ・「タイにおける漢字教育への提言—日本語漢字レベルテスト試案—」亀山稔史
- ・「タイの高等教育機関における日本語教育—チェンマイ大学を例として—」小西広明
- 「タイ語の無意志下方移動表現」高橋清子
- ・実践報告「日本人協力者を招いての「カンチャナブリ模擬ツアー」実践報告」サクシット・パクシー、パッタラスパー・シアンヤイ、星井直子
- ・研究ノート「タイ人学習者の書くひらがなの字形の特徴—集計結果の分析—」吉田裕子
- ・調査・資料「カセサート大学附属中等学校における生徒の日本語科目の選択理由と目的」、ラッタワン・シリサワットポン、
- ・調査・資料「タイ中等学校日本語コースに関するアンケート調査結果」三原龍志、ナツパワン・ボーンソム
- ・調査・資料「日本語学習の理由—泰日経済技術振興協会附属語学学校の場合—」ソムチャイ・セーウン
- ・調査・資料「昭和十年代タイ国日本語教育史年表」ウォラウット・チラソンバット、北村武士

国際交流基金バンコック日本語センター紀要 第2号 1999.3

- 「日タイ語の再帰代名詞の対照研究——「自分」と tua-eeŋ——」、パンセーク・アート



ーントラスック

- ・「タイ人学習者の学習スタイル——よりよい授業のために知っておくべきこと——」、藤田裕子
- ・「上級学習者のための読解生教材のガイドライン試案」小松知子
- ・「新しいカタカナ・ローマ字表の作成と提案」国井精二
- ・「タイのいれずみと日本の入れ墨の比較研究」ナンチャヤ・マハカーン
- 「日本語の「よ」「ね」とタイ語の na の一考察」ソイスダ・ナラノン
- ・研究ノート「ラチャパット大学選択科目用教科書「NIHONGO-SUKISUKI」開発の中間報告」見上直子、田幡美江子
- ・実践報告「ラチャパット大学における日本語カリキュラム改訂の動き」見上直子、石川薫
- ・実践報告「挑戦！一日日本語ガイド—RI アユタヤ校における会話授業の実践報告—」石川薫、
- ・実践報告「ナレースワン大学の日本語教育」三浦多佳史
- ・実践報告「イーサーン日本語教師の会」白鳥文子
- ・実践報告「登場人物（キャラクター）を用いた授業」山口正喜
- ・調査・研究「第二次世界大戦中にタイの新聞に紹介された日本語」北村武士
- ・調査・研究「日本語専攻理由と学習によって獲得される日本語能力の関係」榎田佳子

国際交流基金バンコック日本語センター紀要 第3号 2000.3

- 「日本語・タイ語受動文における動詞の意志性」ブッサパー・バンチョンマニー
- 「日本語・タイ語における「非限定」の連体修飾」ソムキアット・チャウエーンキッワニット
- 「回転移動を表す移動動詞について」高橋清子
- ・「日本語学習者の話しことばにおける<ノダ>の使用の一考察—「納得・発見」「問い返し」の場合—」、塚田智冬
- ・実践報告「ウボンラーチャターニー日本語教師の会」花井慎行
- ・実践報告「プリンス・オブ・ソクラー大学パッタニー校における個性化への取り組み」北川利彦
- ・実践報告「日タイバイリンガル児の生育記録」榎田佳子
- ・実践報告「授業におけるビジターセッションの効用」山口雅代
- ・実践報告「ビジターセッション実践報告」山本さゆみ
- ・研究ノート「現代日本女性の立場・地位—新聞記事での用語・表現を通して—」アチマー・ワチャラポーン

○研究ノート「日本語の「親切」とタイ語の「チャイディ」との違いについて」安田美絵

---

国際交流基金バンコック日本語センター紀要 第4号 2001.3

- ・「タイ国の中等教育機関における日本人日本語教師の現状と課題」花井慎行
- ・「学習者数の多さと能力差にどう対処するか」森恵理香
- ・「教授経験と教授能力の関係」成田高宏
- 「受益文におけるタイ・日本語の対照研究」パッタラワン・ユーエン
- 「終助詞「よ」の研究」ヴィチャヤダ・ガオイアン
- 「日本語の自動性と受身の連続性」ウォラウト・チラソンバット
- ・実践報告「インタビュー活動実践報告」小池誠
- ・実践報告「北部タイ日本語教師の会の現状と課題」佐々木綾、鈴木未恵、山口雅代
- ・実践報告「スコア制自由課題「先生に手紙を書こう」プログラム」園田智子
- ・実践報告「チェンマイ大学におけるリソースの活用」山口雅代
- ・調査・研究資料・データ「パソコンで日本語の文字を使用するための方法」藤原隆祥
- ・調査・研究資料・データ「昭和13年の日本-タイ文化研究所日本語学校の設立について」北村武士、ウォラウト・チラソンバット
- ・調査・研究資料・データ「タイ国日本語教育報国」前田綱紀、濱田帯広、稲葉和江、成田高広、白鳥文子
- ・調査・研究資料・データ「後期中等教育日本語教科書に関するアンケート調査」前田綱紀、今枝亜紀、プラパー・セーントーンスック
- ・調査・研究資料・データ「フィールドワーク：当地日系企業における日本語専攻コース等に関わる調査」宇都野友宏

---

国際交流基金バンコック日本語センター紀要 第5号 2002.3

- 特別寄稿「日本語とタイ語の擬音語・擬態語の研究に向けて」森山卓郎
- ・「タイ人日本語学習者が抱える発音学習上の問題点」千葉真人
- ・「中等教育後期課程におけるカリキュラムの骨組み」稲葉和栄
- ・「タイ国の大学における日本語主専攻開設前後の卒業生動向」片桐準二、椿弘美
- 「タイ語の受身文と日本語の受身文」杉浦優子
- ・「ぼかし言葉」アサダーユット・チューシー
- ・「中級作文におけるタイ人学習者の誤用分析」パッタラユット・ユーエン、山口雅代、太田卓志、吉田直子

○「タ形」の働きと意味」スプラット・テーチャポンストーン

- ・実践報告「ラチャパット日本語教育セミナーの報告」青沼国夫、佐々木史
- ・実践報告「課外授業への取り組み」新聖子
- ・実践報告「初級作文指導の試み」藤井明子
- ・実践報告「北部タイ中等教育機関における日本語教育」稲葉和栄
- ・実践報告「タイで教えるにあたっての問題点」増田俊之、鈴木未恵、常深晁史
- ・実践報告「中等教育課程後期の選択自由科目における学習内容」白鳥文子
- ・調査・研究資料、データ「プリンス・オブ・ソクラー大学パッタニ校日本語主専攻課程第一期卒業生の動向」北川利彦、タナン・ポーンセーン
- ・調査・研究資料・データ「南部タイにおける後期中等教育段階の日本語教育実施状況調査報告」山科健吉
- ・調査・研究資料・データ「日本語教育における地域協力：危機と機会」サワラック・スリヤウオンパイサル

国際交流基金バンコック日本語センター紀要 第6号 2003.3

○「日本人とタイ人の謝罪に関する認識—職場での状況をめぐって—」アンカナ・チラジュランチャイ、因京子

- ・「タイの高等教育機関におけるカリキュラム—ナレースワン大学を例として—」小西広明

○「イベント構造概念化による使役性の分析の試み—タイ語と日本語を例として—」パッタラワン・ユーエン

- ・「談話の「わけ（だ）」パッチャニー・ピヤマワディー
- ・「間投助詞の研究」アサダーユット・チューシー
- ・「「気」を含んでいる慣用句の考察」ナッパシン・プラーンソーン

○「日本語における連体修飾語の談話機能」ソムキエット・チャウエンクワニット

- ・事実文と主張文の読解比較—タイ人のための読解教材作成に向けて—」テーラット・オパンヨー
- ・実践報告「タイ国中等教育用日本語教科書（試用版）の作成」今枝亜紀、プラパー・セントーンスック
- ・調査・研究資料・データ「新しい高等教育機関ウイッタヤーライ・チュムチョンと日本語教育」海老原智治
- ・調査・研究資料・データ「カリキュラム作りのためのニーズ調査」小西広明
- ・調査・研究資料・データ「煌々と大学の日本語教育の連携に関する—資料—学習者の心理に注目したアンケート及び聞き取り調査—」櫛田佳子
- ・調査・研究資料・データ「2002年度在外邦人日本語教師研修報告」タナサーンセーニー美香

国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要  
(以降、雑誌名称変更) 第1号 2004.3 独立行政法人国際交流基金

- 「タイ語母語話者の日本語発音に関する干渉の考察と指導提案」アサダーユット・チューシー
- ・「ビデオ会議システムを利用した遠隔授業の試み」原田明子
  - ・「日本語母語話者のスピーチレベルは学習者に対してどのように変容するか—日本人学生とタイ人留学生の会話分析から—」猪俣公克
  - ・「150時間で初級を教える—チェンマイ大学での取り組み初年度の考察—」ワライポーン・カンチャナカローン
  - ・「初級後半に見られる初級前半の文型の頻出度—「文型」に対する新たな認識を求める手がかりとして—」森康眞
  - ・「タイ人留学生のコード・スイッチングの使用実態—文法的観点に注目して—」シリポーン・イアムポンサイ
  - ・「タイにおける基礎日本語教育の研究」プランニー・ジョンスツジャリタム
  - ・実践報告「観光学科4年生の一日ガイド実践報告」野阪智恵子
  - ・「日本人教師との一対一の会話練習活動」と学習者による評価」関裕子、松原潤
  - ・「観光事業の日本語」セクサン・チャスタラチャムノン
  - ・「日本語教史研究会」ソイスダ・ナラノン
  - ・研究ノート「「にとつて」についての—考察—中級指導の試み—」藤井明子
  - ・研究ノート「日本語教育のためのカタカナ表」宮本雄一郎
  - ・調査・研究資料・データ「タイの学校制度外教育と日本語教育」海老原智治
  - ・調査・研究資料・データ「オリジナル初級日本語教科書の改訂作業における方針・手順・方法」鶴町佳子
  - ・調査・研究資料・データ「高校生日本語学習のニーズ調査(2)」タッサニー・メーターピシット、ナムチップ・メーターセート、ソムキエット・チャウエンキットワニット、スニーラット・ニャンジャローンスック

国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要  
第2号 2005.3 独立行政法人国際交流基金

- 「タイ人日本語学習者の文末「よ」の聞き取り」プロムチット・ニヨムヴァニット  
○「タイ人の caj について—日本語の「気」と比較して—」アラデー・アピウオンガム

- ・「赤と白」が象徴する対象性—『雪国』考— ナンカハヤ・ワハカン
- ・「単純なりピートが発音に与える効果—教室でのリピートはどの程度役に立つのか—」  
千葉真人、佐藤純
- ・実践報告「観光学科の3年生の「カンチャナブリ模擬ツアー」実践報告」大野直子
- ・実践報告「チェンマイ大学ガイド実習「チェンマイ半日ツアー」の試み」吉田直子
- ・実践報告「日本語教育的実践としての「インターネット・ホームページ・イーラーニング」—筆者の試行錯誤的経験に基づいて—」森康眞
- ・実践報告「一般日本人・日本語アシスタントによる「日本語教育活動」の意義—異文化間コミュニケーションと日本語学習支援の立場から—」森康眞
- ・実践報告「ウボンラチャターニ大学教養学部日本語学科開設に向けての動き」池田隆
- ・実践報告「会話授業における個別フィードバックの効果について—学習者自身による会話の文字化を用いて—」関裕子
- ・実践報告「タイの中等教育用日本語教科書作成プロジェクト」ブッサパ・バンチョンマニー、今枝亜紀、プラパー・セーントンスック
- ・研究ノート「タイ人における日本語聴解教育の現状と課題」スガンヤー・トンデノック
- ・研究ノート「流暢さと正確さ—タイの大学での実践を踏まえて—」藤井明子
- ・研究ノート「文化リテラシーを身に付けるための授業雪溪のストラテジーと『あきこと友だち』」プラパー・セーントンスック、八田直美
- ・調査・研究資料・データ「2004年のタイ大学入試と日本語を受験科目に指定した大学専攻」海老原智治
- ・調査・研究資料・データ「タイ国内日本人家庭ホームステイプログラムは関わった人たちにどんな意義があったか—学習者・教師・日本人協力者3者の調査報告—」深澤伸子
- ・調査・研究資料・データ「ビジネスで使う日本語を考える—企業と教育現場の視点から—」タナサーンサーニー美香、高坂千夏子、富山純、中井雅也、深澤伸子

国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要

第3号 2006.3 独立行政法人国際交流基金

- ・「タイ人学習者に対する日本語学習活動の指導提案」ナッパシン・プレーンソーン
- 「日本語とタイ語の発音に関する対照研究」アダダーユット・チューシー
- ・実践・調査報告「日本語コースにおける「学期・中間テスト」の役割と意義について—教師・学習者への双方の有効なフィードバックを求める視点に立って—」森康眞
- ・実践・調査報告「ラチャパットの観光学科のための観光日本語用シラバス作成について」長町聡子、中村照、松原昭、山川紀子
- ・実践・調査報告「コンケン大学における日本の大学との合同プロジェクトの試み」坪井

由香里

- ・実践・調査報告「タイ人学習者はどのようにひらがなを憶えているか」千葉真人
- ・実践・調査報告「思考を言語化する教室活動—「総合活動型日本語教育」のタイでの実践—」松井隆浩
- ・実践・調査報告「日本人協力者を招いた日本語活動—日本語主専攻の学生による観光実習ツアーを例として—」村木佳子
- ・実践・調査報告「仏暦 2545 年〈2002〉タイ義務教育法—日本語全訳—」海老原智治
- ・実践・調査報告「仏暦 2543 年〈1999〉タイ国家教育法及び仏暦 2545 年〈2001〉タイ国家教育法第 2 版」—前半の日本語訳—」海老原智治
- ・実践・調査報告「1939 年バンコック日本語学校発行の「日本語のしをり」—タイ国日本語教育史の資料として—」北村武士
- ・実践・調査報告「中等教育用日本語教科書『あきこと友だち』教師アンケートの結果報告」プラパー・セーンスック、八田直美
- ・実践・調査報告「タイ国日本語教育研究会 18 年の変遷と現在の活動報告」深澤伸子、中井雅也、高橋宏典、大谷世津子
- ・実践・調査報告「バンコク日本文化センター一般講座の変遷と再検討—タイの日本語教育における位置づけと役割—」大竹啓司、球磨の七絵
- ・研究ノート「日本語聴解活動におけるリスニング・ストラテジーについての考察」古川裕子
- 研究ノート「現代における慣用句の研究—タイの学生のための慣用句辞典の作成—」ニダー・ラブシリサワット
- ・研究ノート「タイの衛星放送による日本語授業の利用促進のために」宮岸哲也
- ・研究ノート「日系企業（製造業）における日本語需要調査」池田隆
- ・研究ノート「流暢さを養うための教育活動についての—考察—初級から中級への話す力—」藤井明子

---

国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要

第 4 号 2007.3 独立行政法人国際交流基金

- ・「タイの大学と日本の大学における第二言語としての日本語教育文化比較」ソムポーン・ゴマラテウット
- 「表記上の誤用からタイ人日本語学習者の有声音・無声音の捉え方を考察する—「カ行・ガ行音」「タ行・ダ行音」「バ行・パ行音」を中心に—」宮原三保子
- ・「タイ人学習者向け初級聴解教材開発のための基礎研究〈2〉—聞き取りにくい音素をめぐる指導法—」スガンヤー・トーンデーノック

○「間投助詞「ネ」の機能と使用条件」アサダーユット・チューシー

- ・「タイ人学習者のための初級文法項目の設定—日本語教育文法の視点からの4つの案—」カノックワン・ラオハブラナキット片桐、パッチャポーン・ケークキットサダン、ソムキエット・チャウエンキットワニット、スニーラット・ニャンチャロンスック
- ・実践・調査報告「タイの衛星放送による日本語授業のアンケート調査」宮岸哲也
- ・実践・調査報告「タイにおけるビジネス日本語コースについての考察—Waseda Education(Thailand)での調査報告—」田中敦子
- ・実践・調査報告「1940年のバンコク日本語学校について—資料紹介（日本語学校規則書）—」北村武士、ウォラウット・チラソンバット
- ・実践・調査報告「日本語初級活動『会食授業』—会話能力の向上を目指して—」秋田英嗣
- ・実践・調査報告「北部タイ日本語教師会 2006年度活動報告—地域社会との連携を目指して—」鈴木由美子、海老原智治、川合友妃子、サランヤ・ゴンジット
- ・実践・調査報告「タイ北部中等教育機関におけるプロジェクトワーク実践報告—ユパラートウィッタヤライ校と京都府立宇治高等学校との文化交流プログラムから—」鈴木由美子
- ・実践・調査報告「日本語初級レベルにおける「聴解指導」の在り方について—「聴取」から「聴解」への過程を重視する教室活動—」森康眞
- ・実践・調査報告「ラチャパット大学における日本語学習者の学習リソース活用」池島真弓、松尾憲暁、武蔵祐子
- ・実践・調査報告「仏暦 2542 年（1999）タイ国家教育法及び仏暦 2545 年（2002）タイ国家教育法第 2 版—後半の日本語訳—」海老原智治
- ・実践・調査報告「中級クラスにおける協働学習のアクションリサーチ」大竹啓司
- ・実践・調査報告「教室活動における日本語母語話者の位置づけと組織化についての振り返り—教室内での実践共同体の構築をめざして—」松井孝浩
- ・実践・調査報告「外国語としての日本語読解技能の教授法とその実践の仕方」ナツパシン・プレーンソーン
- ・実践・調査報告「コンケン大学教育学部日本語教育プログラムにおけるカリキュラム」坪井由香里
- ・実践・調査報告「ラオスにおける日本語教師養成・現職教師研修の試み」平田好
- ・実践・調査報告「他者評価と自己評価が学習者に与える影響について—日本語中級クラスにおける実践を通して—」林朝子

国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要

第 5 号 2008.3 独立行政法人国際交流基金

- 「限定を表す日本語のとりたて詞とタイ語の限定表現の対照研究」パニカー・スラルンシクン
  - ・「タイ後期中等教育における選択科目としての日本語教育—高校生を対象とした第二言語不安調査からの一考察—」下村朱有美
  - ・「タイ中等教育機関におけるタイ人日本語教師の良いい日本語教師観—PAC 分析と反構造化面接より—」古別府ひづる
- 「タイ語母語話者における日本語授受動詞の習得研究—「くれる」使用を中心に—」、甲斐田和子
  - ・「日本語教育におけるインターネットの利用」クワンチャイ・アローンウィン
  - ・「初級学習者のためのイメージ図による教授法」水野吉穂
  - ・「タイ東北部中等教育機関における実践報告—ウドンピッタヤヌコーン校での「一分間スピーチ」の取り組み—」吉川景子
  - ・「エクセルとペイントで筆順つき漢字教材を作成する方法」千葉真人
  - ・「コース用教科書「JPN336：観光サービスのための日本語」の作成過程を振り返って—教材の作成前・作成作業・作成後—」森康眞
  - ・「会話クラスにおける他者評価に関する一考察—記述コメントとアンケート結果から—」小浦方理恵
  - ・「コンケン大学教育学部日本語教員養成課程における教育実習の実践報告—教授法クラスの模擬授業と教育実習の体験から—」有本昌代
  - ・「ラオスにおける活動型中級コースの設計と実践」秋山佳世、田淵七海子
  - ・「キングモンクット工科大学ラカバン校日本語専攻コースの読解—問題と期待—」ニダ・ラップシリサワッド
  - ・「タイの新しいアドミッション方式大学入試と日本語を受験科目に指定した大学専攻—2007年の『高等教育機関入学者選抜』（統一入試）の事例を中心に—」海老原智治
  - ・「北部タイ3大学の日本語専攻在籍者に対する日本語既習・未習に関する統計調査—北部タイ日本語教師会による2008年2月の調査結果—」サランヤ・ゴンジット、サラニット・パランパヤー、小浦方理恵、塚本紘子、志摩由美子
  - ・「初級におけるロールプレイ中心の会話の授業—創造的・協働的な活動を促す教室を目指した実践研究—」加藤伸彦
  - ・「タイ国日本語教育小史」齋藤正雄
  - ・「コミュニケーションとしての作文教育—「読み手」を意識するための学習環境のデザインを目指した取り組み—」松尾憲暁
  - ・「タイ国大学入学試験問題（日本語）における読解問題の分析」鈴木由美子、内田陽子



第6号 2009.3 独立行政法人国際交流基金

- 「受動受益的「～テモラウ」文とそれに対応するタイ語の表現」シリラック・スチワタ  
ナロードム
  - ・「日本語学習者の作文産出に対するビリーフとストラテジーの特性—タイの大学生の場合—」石橋玲子
  - ・「複合動詞後項「～たつ」の意味—文法化の観点から—」小浦方理恵
  - ・「タイの高校で求められる日本人日本語教師像—学生とタイ人教師の視点から—」  
中井雅也
- 「日本語談話における助詞「ネ」の「注視要求」の機能」アサダーユット・チューシー
- 「言語の中の文化—タイ人及び日本人の日本語のほめの相違の対照研究—」ブッサパ・  
バンチョンマニー
- 実践・調査報告「タイ人初中級話者の「N1のN2」の使用—発話時に見られる誤用「N1  
のN2」を中心に—」水野吉穂
  - ・実践・調査報告「バンコクにおける鈴木忍と『簡易日泰会話』 齋藤正雄
  - ・実践・調査報告「初級後期・日本語学習者の「助詞」に関する理解と定着度—中間テス  
トにおける解答行動を手掛かりに—」森康眞
  - ・実践・調査報告「ラチャパットの日本語教育を考える会によるラチャパット大学開講科  
目調査」春野愛、東野佳与、花井慎行
- 実践・調査報告「日本人教師が感じているタイ人学習者の発音の問題点とその具体例」  
千葉真人、佐藤純、大田真也
  - ・実践・調査報告「タイにおける旅行会社の日本語広告に見られる漢字の出現頻度—日程・  
費用・条件等を対象として—」千葉真人
  - ・実践・調査報告「日本人と働いたタイ人教師の気持ち—JENESYS 若手日本語教師受入  
担当教師へのインタビュー結果—」内山千尋
  - ・実践・調査報告「タイの初中等教育外国人教員に対する外国人教員免許の保持規定につ  
いて—制度概要と関係法規の日本語訳—」海老原智治
  - ・実践・調査報告「タイの大学の教育学部における日本語教員養成と日本語教育科目のデ  
ザイン」西野藍、タワット・カムトーンチップ、スパラック・クリッサナノン
  - ・実践・調査報告「日本語クラブから創られる教師像—教師志望の動機はどのように現れ  
るのか—」伊牟田翼
  - ・研究ノート「ピア・レスポンスにおける有効なグループ編成—タイ人中級学習者の場合  
—」前野文康、伊牟田翼

第7号 2010.3 独立行政法人国際交流基金

- ・「日本語学習者の作文の誤用への気づきと修正」石橋玲子
- ・「タイの高校における日本語学習者の日本語学習に対するビリーフ—バンコクにある国立高校の日本語学習者を対象に—」スポンパン・ジットパンタオ
- 「談話における「～てくれる」と「～てもらう」の習得—タイ語を母語とする学習者を中心に—」テウイッチ・サウエイタムヤラム
- ・「タイ中等教育における日本語学習動機と学習行動との関係—積極的に学習行動を行う上位部と下位部の比較—」吉川景子
- ・実践・調査報告「タイにおける日本語ガイドに求められるもの—ベテランガイドへのインタビューに基づいて—」千葉真人
- ・実践・調査報告「ピア・ラーニングにおける「ファシリテーターとしての教師」—理論と実践からみる教室内における二つのファシリテーション—」加藤伸彦
- ・実践・調査報告「専門職としての日本語教員養成—タイ・コンケン大学の事例研究—」西野藍、平田真理子
- ・実践・調査報告「タイ日教師間の協働に焦点を当てたワークショップの実践—第15回ラチャセセミナーを通して—」松尾憲暁、香月祐介
- 実践・調査報告「タイ人日本語学習者の発話に見られる標識」水野吉徳
- ・実践・調査報告「コースシラバスから見た「観光日本語」科目の概要・目標・内容—選択必修科目コースを有するタイの大学を事例に—」森康眞
- ・実践・調査報告「日本語学習者のためのディベート活動デザイナー—かみ合った議論をめざして—」大野直子、吉澤明子
- ・実践・調査報告「中等教育機関の日本語選択コース教材作成にあたっての調査結果報告」ブラパー・セーントーンスック、三浦多佳史、渋谷実希
- ・実践・調査報告「タイにおける日本語教育とタイ国日本語教育研究会の歩み—過去20年間の資料編纂を担当して—」齋藤正雄
- ・実践・調査報告「グループワークを取り入れた中条級の作文指導—メディア教材を利用して—」武井啓子
- ・実践・調査報告「海外学習環境における学習リソースについての—考察—タイ・日間を結んだ遠隔授業実践の改善を通じて—」牛窪隆太

国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要

第8号 2011.3 独立行政法人国際交流基金

- 「日本語の助詞「ネ」のイントネーション」アサダーユット・チューシー

- ・「日本語学習者の作文産出に関わる不安要因の関連」石橋玲子
- ・「タイ高等教育の日本語教育協働現場における「成長する教師」の可能性—タイ人教師が経験する協働現場の実態分析からの考察—」片桐準二、カノックワン・ラオハブラナキット片桐、池谷清美、中山英治
- ・「タイ人教師と日本人教師の役割形成から生まれる「つながる」動き—タイ国R大学日本語学科を例に—」香月裕介
- 「「khon」は「ダロウ」か?—翻訳にあらわれる推量表現の考察—」スィラッサナン・キエットコプチャイ
- ・「日本語能力と日本語学習動機づけの関係—タイ人大学生を対象にして—」宇都木孝寿
- ・「タイ中等教育における日本語学習意欲を高める要因と学習行動との関係—日本語教師の日本語指導時の内発的動機付け要因—」吉川景子
- ・実践・調査報告「文字指導における書道活動—タイ人日本語学習者への文字群指導を通して—」林朝子
- ・実践・調査報告「表やグラフに関わる日本語能力の育成を目指して—中級聴解・会話クラスでの実践報告—」松田佳子、田淵七海子
- ・実践・調査報告「タイで求められるホテルビジネス用日本語—日本人観光客へのアンケート調査に基づいて—」中井雅也、千葉真人
- ・実践・調査報告「タイの中等日本語教育と Education Professional Standards—現場の教員の視点から見た意義と問題—」西野藍、太原ゆか、内田陽子
- ・実践・調査報告「多国間ネットワークによる遠隔交流の実践—新たな学習環境作りをめざして—」吉田直子
- ・実践・調査報告「作文での表現力を高めるための副教材の考案—タイの大学生のインタビュー調査から—」鹿目葉子

---

国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要

第9号 2012.3 独立行政法人国際交流基金

- ・「単純動詞と「とり+単純動詞」の意味分析—「とり落とす」と「とり残す」を中心に—」モンスチャ・メースワン
- ・「タイ国高等教育機関におけるタイ人教師と日本人教師の協働間の比較—PAC 分析からの考察—」池谷清美、カノックワン・ラオハブラナキット片桐、片桐準二
- ・「留学経験がないタイ人日本語学習者の語用論的能力の分析—断りメールの構成から—」クルムバ・ウォラスリ
- ・「タイ人日本語学習者の「の」の使用—2年刊の縦断的調査より—」坪根由香里
- ・実践・調査報告「聴解力と会話力に対する日系企業に勤務した卒業生による自己評価」

ティティゾン・セーヌライ

- ・実践・調査報告「ラチャパットの日本語教育を考える会」の10年、活動と展望」花井慎行
- ・実践・調査報告「タイ大学統一入試問題日本語科目と高校生向け日本語教K所の比較」香山恒毅
- ・実践・調査報告「学習者はどう感じたのか—短期交流プログラムへの参加を通して—」ニダ・ラップシリサワット、前野文康
- ・実践・調査報告「タイにおける「体験交流活動型日本語学習」の実践と教師支援」西野藍
- ・実践・調査報告「対外日本語普及を考える—タイにおける仏英独中の対外言語普及活動事例を通して—」山口雅代
- ・実践・調査報告「タイの日本語教育に関する文献情報を提供するWEBコンテンツの改訂—利用者の立場に立った情報提示を模索して—」安田励子、木村祐子、鈴木由美子、内田陽子
- ・実践・調査報告「ティームティーチングにおけるネイティブ教師とノンネイティブ教師の役割分担—チェンマイ大学初級日本語クラスのタイ人学習者の期待—」吉田直子、サランヤ・ゴンシット
- ・研究ノート「タイ人講師による講義での日本語導入—チューラーロンコーン大学の中上級の専門科目の講義のケーススタディから—」アサダーユット・チューシー
- ・研究ノート「タイに於ける読解教材開発の指針—教材と授業の実態調査から見えるもの—」牛窪竜太、中島飛鳥、内畑愛美、武井啓子、秋田美帆、内田陽子、福地秋水、安田励子、中山英治

---

国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要

第10号 2013.3 独立行政法人国際交流基金

- ・「タイで漢字を教えるための教室活動と活動目標」濱川祐紀代
- ・「講義聴解におけるノートテイキングと使用言語—中上級レベルのタイ人日本語学習者を対象とした実験聴解からの考察—」松井育美、萩原孝恵
- ・実践・調査報告「タイ国日本語日本文化教師協会による、タイ人教師のための訪日研修—参加者と実施者の学びに焦点を当てて—」スニーラット・ニャンジャローンスック、八田直美
- ・実践・調査報告「日本留学は日本語学習を保証するか—学習環境の連続性と文壇に関する事例研究—」秋田美帆、安田励子、内田陽子、牛窪隆太
- ・実践・調査報告「短期訪日プログラムが学習者に与える意識の変化—テキストマイニン

- グによる分析」藤本尊之、前野文康
- ・実践・調査報告「在タイ日系企業が求める日本語人材—アンケート調査より—」前野文康、勝田千絵、ニダ・ラップシリサワット
  - ・実践・調査報告「コンケン大学日本語教育ワークショップの成果と課題」長田佳奈子、武井康次郎、ジャランヤ・チュムヤンスム、ワッチャラ・スヤラ
  - ・実践・調査報告「タイ上北部における JF 教師研修会の新たな試み」高塚直子
  - 実践・調査報告「タイ人と日本人の「誘い」と「依頼」への「断り行為の意識」について」トリックティマ・リードキットラック
  - ・実践・調査報告「タイの中等教育後期課程卒業生へのインタビューから見るタイ・日文化認識—日本の伝統文化に対する認識とその背景—」内田陽子
  - ・実践・調査報告「タイ中等教育における日本語学習動機、学習意欲を高める要因—日本語学習行動増加群と減少群の比較—」吉川景子
  - 研究ノート「言語環境とタイ人日本語学習者の「のだ」の私用に関する考察」坪根由香里

『国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要』

第 11 号 2014.3 独立行政法人国際交流基金

- ・「Project-Based Learning と日本語教育」ドゥアンチャイ・チョンタナコーン
- 「日本語及びタイ語類別詞の対照から見るモノの捉え方の違い」伊藤あゆみ
- 「タイ人日本語学習者の終助詞「よね」の使用傾向」ポーニルパ・チャローンシリ、アサダーユット・チーシー
- ・実践・調査報告「日本語国際キャンプ 2013」大谷つかさ、福永達士
- ・実践・調査報告「中上級学習者のスピーチの上達に向けた授業とは—ピア・レスポンスと評価活動を授業に取り入れた試みから—」鹿目葉子
- ・実践・調査報告「タイ大学統一入試問題日本語科目（PAT7.3）の語彙調査—日本語能力試験（JLPT）N4 との比較—」、香山恒毅
- ・実践・調査報告「中等教育機関における「旅行の日本語」コース—(TBLT)Task-Based Language Teaching—の実践」福永達士、福永愛子、スダラット・タカチョート
- 実践・調査報告「タイ・日接触場面における「誘い／依頼—断り」談話における弁明の発話行為の研究」トゥリックティマ・リードキットラック
- ・実践・調査報告「聴覚障害のある生徒への日本点字を用いた日本語教育支援—北部・中部タイ中等教育機関のケースから—」ティラット・ロムスイリ、高塚直子
- ・実践・調査報告「連想によるひらがなの指導」スニーラット・ニャンジャロンスック
- ・実践・調査報告「日本人教師はタイ人教師とともに働くことをどう捉えているか—量的調査と自由記述の分析から見えること—」松尾憲暁、香月裕介、井上智義

- ・実践・調査報告「教史研究における内省活動と教師のフィードバックが及ぼす影響について—タイ人中等学校現職教員日本語教師新規養成講座研修生を対象に—」古内綾子、ナリサラ・トーンメー

○研究ノート「原因・理由文をめぐる日タイ対照研究—原因・理由文の分類について—」ピヤトーン・ケウワッタナ

---

『国際交流基金バンコック日本文化センター日本語教育紀要』

第 12 号 2015.3 独立行政法人国際交流基金

- ・実践・調査報告「タイ人日本語学習者は TBLT アプローチの日本語授業をどのようにうけとめたか—タイ中等教育機関における「旅行の日本語コース 2014」の実践から—」福永達士、福永愛子、スダラット・タカチョート
- ・実践・調査報告「タイ人日本語教師の教師認知—タイ中等教育機関におけるピリーフ調査から—」福永達士
- ・実践・調査報告「サイアム大学教養学部日本語コミュニケーション学科の会話主教材の作成方針、流れおよび内容」千葉真人、ワニタ・ヨムナック
- ・実践・調査報告「在タイ日系企業が求める日本語人材—インタビュー調査より—」前野文康、勝田千絵、ニダ・ラブシリサワット
- ・実践・調査報告「日本語就職用自己 PR 文でタイ・日本の学生は何をどんな語で PR しているのか」香山恒毅
- ・実践・調査報告「タイの高等教育機関における C 大学の SEND プログラムの役割とは—K 大学での日本語指導・指導支援・交流活動の実践から—」鹿目葉子、横田恭一、石崎大地、篠原瑛美、成田ゆに、西田采摘
- ・実践・調査報告「「やさしい日本語」ニュースの「やさしさ」を考える—一般ニュースとの語彙の難易度比較と「難しい」語彙の属性—」近藤めぐみ
- ・実践・調査報告「中等学校の「文化事業」の授業における効果的なティームティーチングとは—新規研修での実践を通して—」中尾有岐、ナリサラ・トーンメー
- ・実践・調査報告「ツアー実習を担当した日本語教師の学び—タイの A 大学で教える神山さんのケーススタディー—」大河内瞳
- ・実践・調査報告「日本のアニメやドラマなどのコンテンツに対する学習者の関心度—タイの大学生を対象とした調査からの考察—」松井夏津紀

---

『国際交流基金日本語教育紀要』収録関連論文目録

■2号 2006

「単一国研修における海外センターと国内の連携—タイ中等学校日本語教師研修の場合—」生田守、北村武士

■4号 2008

「国際交流基金バンコク日本文化センターによるタイ人日本語教師のための水曜研修—ノンネイティブ教師研修における学び合いと研修成果の教育現場での実践—」八田直美

■8号 2012

「ノンネイティブ新人日本語教師にとっての研修の意義—PAC 分析によるタイ人新人日本語教師のビリーフ調査から—」八田直美、小沢伊久美、嶽肩志江、坪根由香里

■9号 2013

「タイの教育現場支援としての JF 日本語教育スタンダード導入—『あきこと友だち Can-do ハンドブック』の作成—」渋谷実希

■10号 2014

「少ない学習時間で学ぶ学習者のための日本語教材開発報告—タイ国中等教育機関の日本語選択コース用教材—」三浦多佳史、プラパー・セーントーンスック

■12号 2016

「21 世紀型スキル形成を目指した学習者体験型教師研修—タイ人中等教育者教師の場合—」中尾有岐

『『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』のあゆみ』佐藤五郎、ナリサラー・トンミー

■13号 2017

[実践報告]「タイ中等教育向け教科書『あきこと友だち』の改訂—コミュニケーション能力の向上を目指して—」中尾有岐、プラパー・セーントーンスック

---

『日タイ言語文化研究』収録関連研究論文目録

■創刊号 2013.3

- 「タイ語における主語の用法についての一考察」田中寛
- 「タイ語の「lɛʔ」と「nɔ̌k-càak-nú」について」タッサワン・チョンペンスクラート
- 「「タ」の使用の制約に関する日・タイのアスペクト表現形式の対照研究」  
ブンナトリー・ムアンシリ
- 「日タイ慣用句の対照的意味分析—《驚き》を中心に—」スタラー・カンタムパン

- 「日本とタイの話者における自称詞と対称詞の使用・不使用の対照研究—初対面の相手の場合—」カノック・ルンキーティクン
- 「タイ語における日本語の借用語と現代のタイ語母語話者の認知度」アサダーユット・チューシー
- 「日タイ両言語における外来語の比較—その(1)現代タイ語の中の外来語—」ウイライラック・タンシリトンチャイ
- 「タイ語の中の日本語—言語普及の視点から—」山口雅代
  - ・「海外の日本人教師が経験する《出会い》と《葛藤》のステージの考察—タイの大学における日本語教育協働現場を対象にして—」中山英治、池谷清美、片桐準二、カノックワン・ラオハブラナキット片桐
  - ・「外国語（日本語）教師に対するタイ人日本語学習者のピリーフ」森康眞
  - ・「VT法とTPRをタイ語教育に応用する方法」ナッチャー・ラートピブーンギット
  - ・「選択必修科目コースにおける「観光日本語」の教材研究—シラバス・教材・教員・学習者を視点として—」森康眞、タワット・カムトンティップ
  - ・「タイにおける1970年代の日本語教育教材について—鈴木忍がタイの日本語教育に与えた影響—」齋藤正雄

■第2号 2014.3

- 「タイ語の主題文に関する一考察」田中寛
- 「事象に伴う参与者の附帯状況を著わす表現—日本語とタイ語の比較—」松井夏津紀
- 「原因・理由表現をめぐる日タイ対照研究—日本語の「から・ので」とタイ語の“phrǎ?”を中心に—」ピヤトーン・ケウワッタナ
- 「タイ語の慣用句の意味分析—《怒り》を中心に—」スタラー・カンタムパン
- 「社会言語学的観点によるタイ語と日本語の人称詞の使用頻度—対訳資料からみた頻度差—」カノック・ルンキーラティクン
  - ・「遠隔地教育サテライトシステムを使ったタイ語教育の一例—バンコクと東京を結んで—」ウイライラック・タンシリトンチャイ
  - ・「タイにおける学生交流の実例—日本語教育における人的リソースの活用の観点から—」齋藤正雄
  - ・「日タイ保険教育手法の比較とタイ人インターン向け保険日本語語彙調査—インターンシップに向けたビジネス日本語教材についての—考察—」木崎泰蔵

■第3号 2015.7

- 「事態系の原因理由表現の日タイ語対照研究—「ために」に対応するタイ語の原因理由表現—」ピヤトーン・ケウワッタナ
- 「日本語とタイ語の慣用句の対照研究—慣用句の構成要素の語順を中心に—」セックサ



ン・チャンタラチャムノン

- 「タイ語の限定表現 *chaphǎʔ* の統語的特徴及び意味的特徴に関する考察」アッカラチャイ・モンコンチャイ
- 「日本語とタイ語における受動表現の働きの分析—翻訳の小説・エッセイに見られる用例の比較を通して—」タナバット・ラルアイソング
- 「日本語の敬語遣いの世代間の比較—多国籍企業に勤める日本人のケーススタディー—」アピチャート・ガータウイー
- 「日本語の擬音語・擬態語の翻訳手法—日本の漫画のタイ語翻訳版に見られる擬音語・擬態語—」チョンニガーン・ニヨムスッティラット
- 「JPOP の歌詞における季節」ラチャニダー・ニヨムウィット

■第4号 2017.3

- ・「留学して日本語で学ぶことの意味——タイ人高校生の日本留学へのニーズと展望——」富田紘央、望月太郎
- ・「タイ人日本語学習者におけるシ・チ・ジ音の生成と知覚」ワニチャー・トンユーン
- ・調査報告「日本学を専攻するタイ人大学院生の言語文化に関わる研究動向——NIDA の大学院生の場合——」後藤寛樹
- ・調査報告「文化交流を通しての初級日本語学習者の学び——交流結果から考える今後の研究テーマ——」井尻史子、高橋亜紀
- 研究ノート「タイ語の重ね言葉と反復形式の用法についてのメモ」田中寛

補足・追加学会論文

■『タイ研究』(The Journal of Thai Studies) 日本タイ学会学会誌 所収関連論文

- ・「タイにおける言語政策としての成人教育：戦前ピブーン期（1938–1944）の成人教育、特に非「タイ語」母語話者を対象として：「特別カリキュラム」を中心に」田中稔穂  
第3号 2003 33–50
- ・「研究ノート：オノマトペにみるタイ語の音象徴——声調に注目して——」隅田敦子、第11号 2011 107–123
- ・「研究ノート：役割語としての新しい人称代名詞 *pǎm*——タイ語役割語研究事始め——」、伊藤雄馬、第15号 2015 21–36

■『認知言語学会論文集』認知言語学会学術誌 所収関連論文

Papers from the National Conference of the Japanese Cognitive Linguistics Association

- ・「日本語とタイ語の出現動詞の文法化」、高橋清子・新里瑠美子、第5巻 2005.9  
197–207

- ・「身体部位「顔」の意味拡張：日本語とタイ語の比較」ラダポーン・サイソンプーン、第6巻 2006.9 12-22
- ・「身体部位を表すタイ語の文化化：「nâa（顔）」を中心に」ラタポーン・サイソンプーン 第7巻 2007.9 294-309
- ・「タイ語の音と移動表現に関する基礎的観察」ガルナーコン・ラチャソク 第7巻 2007.9 624-626
- ・「身体部位「口」の意味拡張：日本語とタイ語の比較を中心に」ラタポーン・サイソンプーン、第8巻 2008.6 12-22
- ・「タイ語の動詞 tɔŋ の歴史的意味変化：義務モーダルの文化化・多機能化に関する事例研究」高橋清子、第8巻 2008.6 612-615
- ・「オノマトペにみるタイ語の音象徴」隅田敦子、第13巻 2013.5 159-169

■『認知言語学会予稿集』 大会予稿集所収関連論文

- ・「日本語助数詞とタイ語類別詞の対照から見るモノの捉え方の違い—日本語助数詞「本」の意味拡張をベースに—」伊藤あゆみ、第14回大会予稿集 2016
- ・「日本語とタイ語の一人称代名詞使用に関する認知言語学的考察—出現数の差に注目したケーススタディー—」ロイケオ・スィリアチャー、上原聡、第17回大会予稿集 2016
- ・「タイ語の授与動詞 hây の意味拡張に関する考察—コーパス分析に基づく構文的アプローチ—」カウィーチャールモンコン・サリンラット、上原聡、第18回大会予稿集 2017
- ・「日タイ語の親族名称の用法に関する認知言語学的考察—親族名称系自称詞に着目したケーススタディー—」ロイケオ・スィリチャー、上原聡、第18回大会予稿集 2017

その他

- ・「タイ華人と中国語教育」玉置充子、『海外事情』2007.9 拓殖大学海外事情研究所——タイの華僑社会における中国語教育の変遷を解説した唯一の考察。
- ・「日本語から見たタイ語—タイ語・中国語・日本語三つ巴の楽しさ—」高橋清子、『日本語学』25-3 明治書院 2006

《海外主要博士論文（一部）》刊行順

- Stine, Phlip Clar (1968) The Instrumental Case in Thai: A Study of syntax and Semantics in a Generative Model 『タイ語における道具格：生成モデルにおけるシンタックスと意味の研究』 Dissertation :The University of Michigan
- Sindhvananda, Kanchana (1970) The verb in Modern Thai 『現代タイ語の動詞』 Dissertation(Language and Literature, Linguistics) :Georgetown University
- Pongsri Lekawatana (1970) Verb Phrases in Thai: A Study in Deep-Case Relationships 『タイ語動詞句：深層関係構造における研究』 The University of Michigan PH.D. Dissertation Doctor of Philosophy (Linguistics)
- Pranee Kullavanijaya (1974) Transitive Verbs in Thai 『タイ語の他動詞』 The University of Hawaii PH.D. Dissertation Doctor of Philosophy in Linguistics
- Bandhmedha, Navavan(1976) Noun Phrase Deletion in Thai 『タイ語の名詞句削除』 Dissertation :University of Washington Doctor of Philosophy
- Salee Sriphen (1982) The Thai Verb Phrase 『タイ語動詞句』 The University of Michigan PH.D. Dissertation Doctor of Philosophy (Linguistics)
- Tasanalai Boonyapatipark(1983) A Study of Aspect in Thai 『タイ語アスペクトの研究』 Dissertation(Doctor of Philosophy) :University of London (SOAS)
- Sereechareonsatit, Tasanee (1984) Conjunct verbs and verbs-in-series in Thai(Serial verbs, Compound verbs) 『タイ語の動詞結合と動詞連続（連動句、複合動詞）』 Dissertation :University of Illinois at Urbama-Champaign
- Thepkanjana,Kingkarn(1986) Serial Verb Constructions in Thai 『タイ語の動詞連続の構造』 Dissertation The University of Michigan PH.D.
- Burusphat, Somsong(1986) The Structure of Thai Narrative Discourse (Thailand) 『タイ語における語りの文脈構造』 Dissertation :The University of Texas at Arlington
- Deephuengton, Phawadee (1992) Politeness in Thai: Strategies of Refusing and Disagreeing 『タイ語のポライトネス—拒絶と同意のストラテジー—』 Dissertation: University of Kansas
- Indrambarya,kitima (1994) Subcategorization of verbs in Thai:A Lexicase Dependency Approach 『タイ語における動詞の下位範疇化—語彙意味論の依存的アプローチ—』 Dissertation University of Hawaii
- Jaturongkachoche, Ketkanda (1995) Semantics of the Thai Classifier System 『タイ語類別詞組成の意味論』 Dissertation :Arizona State University Doctor of Philosophy
- Yumitani, Chutatip Chiraporn(1998) The acquisition of the Causative alternation in Thai 『タイ語における使役交替の習得』 Dissertation :University of Kansas

## タイ語学習書文献目録（刊行順）

書名、著者名 出版社名 刊行年の順。一部研究書\*を含む。

### ○日本国内における刊行物

- 『ゼロから始めるタイ語』 荘司和子 語研 1997
- 『タイ語でタイ化』 下川裕治、双葉文庫 2002
- 『使える・話せる・タイ語単語』 水野潔 語研 2004
- 『間違いだらけのタイ語』 中島マリン、吉田由佳著 赤木攻監修 めこん 2004
- 『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』 宇戸清治監修、三省堂辞書編修所編集 2004
- 『キーワードで覚える！やさしいタイ語会話』（改訂版）山田均 ユニコム 2004
- 『スーパー・ビジュアルすぐに使えるタイ語会話』 ランゲージ・リサーチ・アソシエイツ 編 ユニコム 2004
- 『アジア語楽紀行 旅するタイ語』 山田均監修 日本放送出版協会 2005
- 『中級タイ語総合読本』 三上直光 白水社 2005
- 『タイ語+英語（地球の歩き方トラベル会話〈7〉）』『地球の歩き方』編集室 2005
- 『マリンのタイ語生活（1）挫折しないタイ文字レッスン』 中島マリン、赤木攻監修 めこん 2006
- 『タイ語の覚え方・使い方 単語倍増計画 BOOK〈1〉』 岡滋訓 ボイス 2007
- 『タイ語の使い方 正しくコミュニケーションするために BOOK〈2〉』 岡滋訓 ボイス 2007
- 『タイ語発音教室——基礎からネイティブの音まで』 岡滋訓 ボイス 2008
- 『世界一わかりやすい！ 一夜漬けタイ語』 藤崎ポンパン、早坂修一郎、TLS 出版社 2007
- 『タイ語上級講座 読解と作文』 宮本マラシー めこん 2007.3
- 『パーフェクトフレーズタイ語日常会話』 田中寛監修、アサダーユット・チューシー著 国際語学社 2007
- 『タイ語の基本 初級から中級まで』 吉田英人 三修社 2008
- 『ことば絵ブック タイ』 下川裕治 角川書店 2008
- 『タイ語レッスン初級(1)(2)』 ブッサパー・バンチョンマーニー他 スリーエーネットワーク 2008
- 『たのしいタイ語』 宇戸清治 大学書林 2008
- 『バンコク発 体験的タイ語会話』（改装版）大前智之 ユニコム 2008
- 『やさしいタイ語カタコト会話帳 まずはここから！』 スニサー・ウィッタヤパンヤーノン すばる舎 2008
- 『タイータイ語+日本語・英語（絵を見て話せるタビトモ会話）アジア(5)』 大田垣晴子（画・文）、石川ともこ（イラスト） JTB パブリッシング 2009

- 『JAPAN—タイ語～日本語 (イラスト会話ブック)』 玖保キリコ (漫画)、橋本奈知恵 (イラスト) JTB パブリッシング 2009
- 『タイ語で暮らしたい』 馬場陽子 白水社 2009
- 『タイ語実力テスト初級タイ語検定過去問題集 4 級 5 級』 特定非営利活動法人日タイ言語交流センター編 めこん 2009
- 『タイ語実力テスト上級タイ語検定過去問題集 2 級』 特定非営利活動法人日タイ言語交流センター編 めこん 2009
- 『タイ語実力テスト中級タイ語検定過去問題集 3 級』 特定非営利活動法人日タイ言語交流センター編 めこん 2009
- 『タイ語で出そう! グリーティングカード』 中島マリン めこん 2009
- 『一冊目のタイ語』 宇戸清治 東洋書店 2010
- 『みたことのないタイ言葉 タイ語基礎知識』 峯岸国男 創英社 2010
- 『タイ語 ひとり歩きの会話集 (13)』 JTB パブリッシング 2011
- 『タイ語スピーキング』 吉田英人 三修社 2011
- 『テストに出る順! タイ語検定単語集』 藤崎ボンパン TLS 出版編集部 2011
- 『そのまま使える! タイ語会話表現集』 宇戸清治監修、ウィスット・ボンニミット著 東洋書店 2011
- 『単語絵本とかんたんフレーズ私のタイ語手帖』 内山ワサラ 国際語学社 2011
- 『インフェニシス TALK MORE テレビで覚えるタイ語 DVD 版』 インフェニシス 2011
- 『タイ語の本音』 下川裕治 双葉文庫 2012
- 『これなら覚えられる! タイ語単語帳』 水野潔 NHK出版 2012
- 『聞いて丸暗記! タイ語入門』 吉川敬子監修、佐々木浩士著 有楽出版社 2012
- 『ぱっと引けてすぐに使える! タイ語単語 BOOK』 一宮孝子 国際語学社 2012
- 『ちいさなカタコトタイ語ノート』 伊藤若枝 国際語学社 2012
- 『タイ語のきほんドリル』 富岡裕、平田晶子 国際語学社 2013
- \* 『「もらう」と「～てもらう」の意味・用法—それに対応するタイ語表現の考察—』 スイリラック・スイリマーチャン 詢文社 2013
- 『あなただけのタイ語家庭教師』 小野健一 国際語学社 2014
- 『タイ語 かんたん旅会話 (8)』 カルチャー・プロ編著 昭文社 2014
- 『わがまま歩き旅行会話 マイメロディといっしょ(8)タイ語+英語』 実業之日本社 2014
- 『CDBOOKS 新版はじめてのタイ語』 ワンナポーン・ボンパン 明日香出版 2014
- 『タイ語』 世界の言語シリーズ 宮本マラシー、村上忠良 大阪大学世界言語研究センター 大阪大学出版会 2014
- 『MP3 付 ゼロから始めるタイ語』 吉田秀人 三修社 2014
- 『CD 付 キクタン タイ語 [入門編]』 上原みどりこ アルク 2014
- 『パッと使えるタイ語の日常単語帳』 スニサー・ウィタヤーパイヤーノン KADOKAWA

／中経出版 2014

- 『目指せ！タイ語の達人』スィリラック・スィリマナカン ペーパーパックス 2014  
 『今すぐ話せる！ いちばんはじめのタイ語会話』水野潔 ナガセ 2016  
 『初級タイ語のすべて』宇戸清治 IBC パブリッシング 2016  
 『日タイ対訳・日本紹介 FAQ』ピヤヌット・ウィリヤエナワット IBC パブリッシング  
 2016  
 『表現を身につける初級タイ語』スニサー・ウィタヤーパイヤーノン 三修社 2016  
 『CD付 らくらく話せる！タイ語レッスン』小野健一 ナツメ社 2016  
 『今日からタイ語《CD付》すぐに話せる基本の表現』岡本麻里 白水社 2016  
 『しっかり学ぶ！ タイ語入門』宇戸優美子、大学書林 2016  
 『今すぐ話せる！ いちばんはじめのタイ語単語』水野潔 ナガセ 2017  
 『CDを聞くだけでタイ語が覚えられる本』上原みどりこ KADOKAWA 2017  
 『実用タイ語検定試験過去問題と解答 2015年秋季2016年冬季実施分』日本タイ語検定協会、  
 TLS 出版編集部 2017  
 『プログレッシブタイ語辞典：ローマ字からもタイ文字からも日本語からも引ける』傍土豊  
 小学館 2017  
 『表現を広げる中級へのタイ語』スニサー・ウィタヤーパイヤーノン 三修社 2017  
 『教科書タイ語』柿崎一郎 めこん 2017

#### ○タイ・バンコク（泰日経済技術振興協会）における刊行物（一部）

- 『実用 生活タイ語会話』ウィライ・トーモラクン 泰日経済技術振興協会 1997  
 『こんなときこれが言えたら感心される！』ウィライ・トーモラクン 泰日経済技術振興  
 協会 2004  
 『日タイ翻訳（基礎篇）』ソムキエット・チャウエーンキットワニット 泰日経済技術振興  
 協会 2006 สมเกียรติ ทรายกิจวานิช "แปล คู่มือ-ไทย(เบื้องต้น)" สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม ๒๕๔๙  
 『タイ人によくある失敗例—どうして間違い？なぜ失礼？あなたの日本語—』パーチャーリ  
 ー・チンプラサートスック他 泰日経済技術振興協会 2007  
 『実践！職場で使えるタイ語会話』パッチャリー・チンプラサートスック、ペッチャラッ  
 ト・クリッサボンワニット、スィリラック・ダンワニツチャクン、藤井義行 泰日経済  
 技術振興協会 2008  
 『らくらくタイ語聴き取り練習帳』カノックワン・L・片桐、富岡裕 チュラーロンコーン  
 大学出版会 2011  
 『日・タイ・英 社内通訳用語辞典』ジュリラット・トランラタナチャイ他、泰日経済技  
 術振興協会 2013

## あとがき

21世紀に入り、ヒト、モノ、カネが国境、民族を越えて錯綜するグローバル社会に直面して久しい。英語圏文化を背景としたグローバルスタンダードへの適応が求められている一方で、多様性（個別性）や包摂性が後退する危惧も指摘されている。平和な世界形成には、相互信頼に基づく互恵的交流、対話が欠かせない。多文化共生が根づくには多くの課題があり、その大きな壁は共生の陰に隠された個別性の連繋である。

タイはバンコクに象徴されるように多言語多文化国家である。街頭の看板や駅の表示など複数の言語が表示されている。また、中国系、インド系、イスラム系、ベトナム系など、民族構成も多種多様である。こうした背景から、また、実際にタイで言語教育に携わった者としての実感から、タイ人は複言語使用の感覚が、言語社会、言語接触場面において、日本人のそれと比べて特徴的な言語感性を育み、さらには多様な言語を繋ぐツールとしての英語の運用についても柔軟な対応力、適応力を備えていることがわかる。対照研究の背景として、こうしたタイ人意識・風土にひそむ言語感性についての観察も欠かせない。

異文化理解は多文化理解と切り離せない。幸い、筆者は日本語教育を開始した1974年以来、言語以外にも歴史文化、文学など人文科学、異文化理解の領域にも広い関心を持ちつづけてきた。とりわけ、日本語教育に携わる過程でタイ言語文化に出会い、また多くの研究者との交流も育むことが出来たことは、筆者の言語研究の大きな支えとなっている。

本書は、こうした経緯から、前著『統語構造を中心とする日本語とタイ語の対照研究』（2004）以降の遅々とした日本語とタイ語の対照研究を補完、発展させようとする試みである。筆者は長きにわたって日本語教育、日本語学の領域で研鑽を続ける一方、言語を多文化共生の文脈でとらえ、言語研究のあるべき姿を求め続けてきた。とはいえ、日暮れて道遠し、暗中模索の日々がほとんどであった。ここに浅学、非力を顧みず、将来への研究の蓄積を考え、研究ノートも含め、ささやかな成果を公にすることにした。「諸問題」といえども、扱った領域は一部に過ぎないが、少しでも新しい視点が見いだされれば嬉しく思う。本書のもととなった論文の初出は以下の通りだが、いずれも修訂、加筆をほどこした。

序章 対照研究・対照言語学の目的、方法論の現状と展望  
——日タイ対照研究を例に—— …………… 書き下ろし

### 第I部 タイ語の主題と主語、題目語の諸問題

- 第1章 タイ語の主題提示機能の諸相——名詞主語句を中心に——  
………… 『指向』第8号 大東文化大学大学院外国語学研究所日本語学専攻誌 2011
- 第2章 タイ語における主題と主語についての一考察  
………… 『日タイ言語文化研究』第2号 日タイ言語文化研究所 2013

### 第II部 タイ語動詞構文の諸問題

- 第1章 タイ語の存在、所有、発生・出現文の意味と機能

—/yù/と/mii/の意味と用法— …… 書き下ろし

第2章 タイ語の移動動詞の表現と機能体系

—/pay/と/maa/の意味と用法— …… 書き下ろし

(2017年6月、語学教育研究所研究例会発表原稿)

第Ⅲ部 タイ語におけるヴォイスの諸問題

第1章 タイ語の多機能的助動詞/hây/の用法について

……『語学教育研究論叢』第28号 2012 大東文化大学語学教育研究所

第2章 接続辞のように用いられるタイ語の/thamhây/について

……『指向』第2号 大東文化大学大学院外国語学研究所 2011

第Ⅳ部 タイ語の複文と談話構造の諸問題

第1章 タイ語の条件表現をめぐって—日本語とタイ語の対照研究—

……益岡隆志編『シリーズ言語対照6 条件表現の対照』、くろしお出版 2006

第2章 タイ語の反復表現—実質的な反復と形式的な反復—

……『日タイ言語文化研究』第4号 日タイ言語文化研究所 2017

附章 言語文化とその周辺の諸問題

附章(1) タイ語の身体語彙—「目」に関する慣用句、成句、諺— …… 書き下ろし

附章(1) 外国語教育と異文化理解—あるタイ語・日本語テキストの場面から—

…… 書き下ろし

附章(3) 中国におけるタイ語学研究的動向—近年の研究と教学の成果から—

……『日タイ言語文化研究』第3号 日タイ言語文化研究所 2015

『日タイ言語文化研究』第4号 日タイ言語文化研究所 2016

筆者は2012年に日タイ言語文化研究会を發足させ、学術誌『日タイ言語文化研究』を創刊、また、毎年、東京とタイ・バンコクにおいて研究発表大会を実施するなど、若手研究者の育成にも取り組んできた。今後も引き続き、新しい日タイ間の学術交流に取り組んでいきたい。内外の諸賢各位のご助言をお願いする次第である。

本書にまとめるにあたり、種々の便宜を計っていただいた大東文化大学語学教育研究所中道知子所長、また煩雑な事務をご担当いただいた相場寛隆氏、印刷製本にあたっては、丁寧な作業をお引き受けいただいたモリモト印刷にも心から感謝申し上げたい。

本書の書名、目次のタイ語訳についてはピヤトーン・ケウワッタナ氏(タイ国・チェンマイ大学人文学部日本語学科講師)のご協力を得たことにも深甚の感謝を申し上げる。

なお、本研究は2004年度、2016年度在外研究(英国ロンドン大学 SOAS)の成果の一部をなす。当地で渉獵した文献資料のいくつかは本書に示されている。

およそ40年前に著者にはじめてタイ語をご指導くださったパイリン先生に小書を捧げると同時に、先生のご健勝を心から祈念したい。

2018年2月



田中 寛 Hiroshi TANAKA

東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了。[財]海外技術者研究協会日本語講師、タイ国バンコク泰日経済技術振興協会語学アドバイザー、中国湖南大学外国籍専門家、文教大学助教授を経て、1998年より大東文化大学外国語学部日本語学科教授。博士(文学)。専門は日本語学、対照言語学、日本語教育学(日本語教育史)。北京外国語大学短期研究員(2002年、2008年)、英国ロンドン大学 SOAS 学術訪問員(2004年、2016年)。湖南大学客員教授(2008-2015年)。早稲田大学日本語教育研究センター講師。日タイ言語文化研究会、新世紀人文学研究会主宰。

#### 主要著書

『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』(ひつじ書房 2004)

『日本語複文表現の研究-接続と叙述の構造-』(白帝社 2004)

『複合辞からみた日本語文法の研究』(ひつじ書房 2010)

『タイ語慣用句拾遺 タイ言語文化の世界』(大東文化大学語学教育フォーラム15) 2013)

『戦時期における日本語・日本語教育論の諸相 日本言語文化政策論序説』(ひつじ書房 2015)